嶝 トウ。都鄧切 徑 本燈に作り、又磴に作る。
㊀山に登り下りする道、さかみち、さか。○〔沈約〕「峰—互相拒」。
㊁あふぐ〔仰〕。
〔集韻〕切り立ちたるが如きけはしきさか。○〔水經〕「註」—一孤危。
〔廣韻〕曲がりたるさか。○〔王粲賦〕「連小山而交—」。
〔爾雅〕山に登るみち。○〔蘇軾〕「上山絕—」。

隋 タ、ダ。徒果切 箇
山の狹くして高きもの、又、さがる。○〔詩〕「—山喬嶽」。

嶟 ソン。祖昆切 元 シュン。將倫切 眞
峻しく秀でたる貌にいふ字、そばだつ、ひいづ、又、たかし、さがし。○〔揚雄〕「洪臺崛其獨兮、嶟三北極之—」。

嶠 ケウ、ゲウ。渠廟切 嘯
㊀山の銳くして高きもの、たかやま、一說に、水經えたる陵。○〔王彪之〕「銘」「跡峻—」。
㊁山の遥、やまみち。○〔顏延之〕「山・祗驛」「—路」。

嶠 ケウ、ゲウ。巨嬌切 蕭
喬に通じ用ふ、たかし。

嶡 ケイ、ケ。姑衞切 霽
山の崛起する貌にいふ字、そばだつ。

嶡 ケツ、クワチ。居月切 月

嶢 ケウ、ゲウ。古僚切 蕭
たかし、〔高〕。○〔漢〕「泰山之高嶢—」。
〔廣韻〕高き貌にいふ語。○〔後漢〕「—者昌」。
〔集韻〕前に同じ。○〔曹植〕「登—之高峯」。

嶢 ホウ。正登切 蒸
くづる、崩。

十三畫

嶮 セン。之廉切 鹽
みね〔山・峰〕。

嶮 セン、ゼン。時豔切 豔
さか〔山・阪〕。

嶧 エキ、ヤク。羊益切 陌
連なりつゞきたる山。○〔爾雅〕「屬者—」。

嶨 カク、コク。苦角切 覺
大石の多き山、いしやま。○〔韓愈〕「吟二巴山巒—」。

嶔 イン、オン。於錦切 寢
山の岑の貌にいふ字、一說に、嶔の字の譌。

嶩 ダウ、ノウ。奴刀切 豪
平—は山の名。

嶪 ゲフ、ゴフ。魚怯切 葉
たかし〔高〕。○〔張衡〕「狀鬼峩以岌—」。

嶫 前條に同じ。○〔何晏〕「峨々—」。

嶒 クワイ、エ。古外切 泰
山の貌にいふ字。○〔馬融〕「巖壑—貌」。

嶇 コツ、クチ。苦怒切 月
山の貌にいふ字、又、はげ山。

嶬 ギ。宜崎切 支 魚倚切 紙 一に巍に作る。
けはしさかし。○〔王延壽〕「上崎—而重注」。

嶭 サイ、ザイ。徂賄切 賄
險峻にして齊しからざる貌にいふ字、かたゝがひ、又、さがし、たかし、けはし。○〔沈烱〕「其也則嶔岑—鬼」。
〔廣韻〕けはし、又、けはしくしてかたゝがひなる。○〔張衡〕「上林岑以—」。
〔集韻〕けはしく齊しからざる貌にいふ語。○〔說文〕「天山絕—」。

嶰 ヘウ。甫遙切 蕭
山の峰の出づる貌にいふ字、ひいづ、そばだつ、一說に、嶢に同じ。

嶂 ガツ、ガチ。五罰切 月
崖に同じ。

嶭 ガツ、ガチ。五罰切 月
たかし〔高〕。○〔司馬相如〕「九巖巉—」。
〔廣韻〕たかし。○〔左思〕「抗旗亭之—」。
〔集韻〕前に同じ。○〔後漢〕「參九嶭、而臨—」。

嶽 コ、ク。姑戶切 麌 古胡切 虞
山の名。

嶮 ケン。虛檢切 琰 ゲン。魚檢切 豏
さがし、けはしたかし。○〔郭璞〕「壯二天地之—介」。

嶾 ボウ、モウ。莫紅切 東
山の名。

嶪 ハイ、ヘ。方實切 質
山谷の皃、たにたにあひ、又、たにあひの田。

嶩 カウ、ゲウ。魚教切 效
山の高き貌にいふ字、たかし。

嶩 ウン、チン。王問切 問
大—は、山の名。

嶙 シ。之義切 寘
山の名。

嶜 シフ。側立切 緝 サフ、側洽切 洽 セフ。切
山の名。

嶰 カイ、ゲ。胡買切 蟹 居蟹切 卦
㊀山澗の間、たにはざま、かひ。○〔左思〕「—澗鬱岡」。
㊁谷の名。○〔通鑑綱目〕「取二竹於—溪之谷」。

嶩 ケ。井。羽鬼切 尾
けはし、〔險〕、又、けはしき山。

嶠 カツ、カチ。苦葛切 曷
山に石多くして高峻なる貌にいふ字、たかし、けはし、又、いしやま、たかやま。○〔張衡〕「其山則崆峒—嶫」。
〔集韻〕めぐりかゞまりてたかし。○〔杜甫〕「鑿動般—」。

嶗 セイ、サイ。子計切 霽
山の名。
又井。選委切 紙 一本巋に作る。

嶗 サウ、シヤウ。充爭切 庚
衆くの山の奇怪なる形をなぜるにいふ字。○〔揚雄〕「堵—隿倚」。

嶽 巖に同じ。

十四畫

嶷 ギ。語其切 支
九—は、湖南省にある山の名、舜を祀りたるゆゑに著し。○〔漢〕「祀二虞舜於九—」。

嶷 ギヨク、ゴキ。魚力切 職 本巖に作る。
㊀小兒知多し、さとし。○〔詩〕「克岐克—」。
㊁たかし〔高〕。○〔史〕「其德—」。
〔廣韻〕さとし。○〔他〕「幼而—」。
〔集韻〕すぐれてたかし。○〔他〕「氣質—」。
〔韻會〕高し。○〔左思〕「—」。
〔韻補〕たかし。○〔沈約〕「—」。
〔玉篇〕前に同じ。○〔揚雄〕「勢—」。
〔類篇〕前に同じ。○〔徐幸〕「岱—」。
〔集韻〕前に同じ。○〔徐幸〕「—今清峰」。
〔韻會〕正しく高し。○〔王僧孺〕「天神—」。

嶠 カツ、カチ。苦葛切 曷
山に石多くして高峻なる貌にいふ字、たかし、けはし、又、いしやま、たかやま。○〔張衡〕「其山則崆峒—嶫」。
〔集韻〕めぐりかゞまりてたかし。○〔杜甫〕「鑿動般—」。

嶗 セイ、サイ。子計切 霽
山の名。
又井。選委切 紙 一本巋に作る。

嶗 サウ、シヤウ。充爭切 庚
衆くの山の奇怪なる形をなぜるにいふ字。○〔揚雄〕「堵—隿倚」。

嶗 巖に同じ。

嶗 サウ、シヤウ。充爭切 庚
山の名。

嶗 ヌ井。選委切 紙 一本巋に作る。

嶗 サウ、シヤウ。充爭切 庚
郡の名。

嶗 サウ、シヤウ。充爭切 庚
山の名。

嶗 セイ、サイ。子計切 霽
山の名。

嶗 ヌ井。選委切 紙 一本巋に作る。

嶗 サウ、シヤウ。充爭切 庚
衆くの山の奇怪なる形をなぜるにいふ字。○〔揚雄〕「堵—隿倚」。

巖 巖に同じ。

嶗 サウ、シヤウ。充爭切 庚
郡の名。

嶗 サウ、シヤウ。充爭切 庚
山の名。

嶗 サウ、シヤウ。充爭切 庚
山の名。

嶗 サウ、シヤウ。充爭切 庚
山

巉 リヨ、ロ。良倨切 [砌]
山の名。

巉 カク、ギヤク。鄂格切 [陌]
山の高き貌にいふ字、たかし。○〔木華海賦〕「啓二龍門之窄一—一」。

巉 クワウ。苦謗切 [藻]
山の名。

巉 キウ、ケ。渠弓切 [東]
山の形。

巉 バ、マ。莫波切 [歌]
山の名。

巉 レイ、力制切 [霽] レツ、力蔑切 [屑] ライ。切 [霽] レツ、力蔑切 [屑]
たかし（高）。

巉 ライ、レ。落猥切 [賄] 一に、巉に作る。
山の貌にいふ字、高下ある貌にもいふ字。○〔左思〕「或嵬—而複陸」。
〔劉逵〕高下ある貌にいふ。○〔上林賦〕「巉巖—！」。
〔張揖〕前に同じ。○〔曾潤〕「路拙石—！」。

巉 前條に同じ。

十六畫

巉 ロウ、盧紅切 [東] 魯孔切 [董]
❶おこりふさがる貌にいふ字。○〔楚辭〕「風—寢分石逕」。
❷山の峻しき貌にいふ字。○〔司馬相如〕「崇山蠢々—崔嵬」。

巉 カク、逆各切 [藥] 一本巉に作る。
ギヤク。切 [藥]

巉 キウ、ケ。渠弓切 [東]
山の形。

巉 ヘ、マ。莫波切 [歌]
山の名。

巉 ライ、レ。落猥切 [賄] 一に、巉に作る。
山の貌にいふ字、高下ある貌にもいふ字。○〔左思〕「或嵬—而複陸」。
〔劉逵〕高下ある貌にいふ。○〔上林賦〕「巉巖—！」。
〔張揖〕前に同じ。○〔曾潤〕「路拙石—！」。

巉 前條に同じ。

十七畫

巉 クワウ、カウ。呼宏切 [庚] クワウ、カウ。呼萌切 [庚]
❶山深し、おくふかし、又、山峻し、たかし、けはし。○〔揚雄〕「崟—鱗崎」。
❷石の相摩する聲にいふ字。○〔宋玉〕「礫礫々而相摩兮、—震レ天之礚礚々」。

巉 キ、ギ。許覊切 [支] 一本巉に作り、又巉に作る。
❶山危險なり、あやふし、けはし。○〔張衡〕「巉—屹巉」。
❷すきまなし、ひま。〔嶂障〕。○〔揚雄〕「—可レ抵乎」。

巉 前條に同じ。

十八畫

巉 ハウ、ヒヤウ。比孟切 [敬]
山峻し、たかし、けはし。

巉 カク、コク。巨角切 [覺] 一本靃に作る。
山の名。

巉 デウ、チウ。乃了切 [篠]
山の貌にいふ字。

巉 クワイ、エ。戸乖切 [佳] 一に、巉に作る。
平かならざる貌にも、排べ積む貌にもいふ字。○〔左思〕「縹碧紫玉、隱賑巖—」。

巉 前條に同じ。

巉 クワウ、カウ。呼宏切 [庚] クワウ、カウ。呼萌切 [庚]

巉 キ、ギ。許覊切 [支] 一本巉に作り、又巉に作る。
❶山危險なり、あやふし、けはし。○〔張衡〕「巉—屹巉」。
❷石の相摩する聲にいふ字。○〔宋玉〕「礫礫々而相摩兮、—震レ天之礚礚々」。

巉 センヽ。息淺切 [銑]
大山と連屬せざる小山。

巉 巉に同じ。

巉 キク、コク。居六切 [屋]
山の高き貌にいふ字、たかし。

巉 サン、セン。鉏咸切 [咸] 士檻切 [豏]
きりそぎたるやうに險絶なり、けはし、さがし、又、けはしき山。○〔宋玉〕「登二—廬一而下望兮」。
〔張揖〕山のけはしき貌にいふ。○〔白居易〕「—！—峯玉峰」。
〔張揖〕前に同じ。○〔白居易〕「—！—峯山圖」。

巉 ケン。九輦切 [銑]
風曲す、かゞまる、まがる、又、結びて解けずむすぼる。○〔東方朔〕「望二高山之—巉一」。

巉 ビ、ミ。民卑切 [支] 一に、崇に作る。
山の形。

巉 エイ、ヤウ。於郢切 [梗]
山の貌にいふ字、又、山氣暗し、くらし。○〔左思〕「其山—溟鬱沸」。

巉 キ。丘追切 [支] 苦軌切 [紙]
小さき山の衆くあつまりつらなれるもの、又、高大なる貌にいふ字、たかし、おほいなり。○〔王延壽〕「—鼎峯崇」。

巉 キ。丘愧切 [寘]
山の形。

巉 獨立の貌にいふ字、ひとり、ひとりだつ。○〔莊〕「—然有レ餘」。

巉 巉に同じ。

十八畫

巉 ライ、レ。魯猥切 [賄]
巉に同じ。○〔司馬相如〕「巉巖鬱—！」。

巉 サウ、ザウ。慈郎切 [陽]
巉—は、山の高き貌にいふ語、たかし。

巉 ギ。語章切 [豏]
高く大きなる貌にいふ字、たかし、おほいなり、又、獨立の貌にいふ字。○〔論〕「—！—乎唯天爲レ大」。
〔論語〕「—！—乎唯天爲レ大」。
〔論語〕前に同じ。○〔王延壽〕「—！—巉巉」。
〔論語〕前に同じ。○〔荆居賓〕「山！—西連天勢」。

巉 ショウ、シユ。息勇切 [腫]
山峰のそびえ立てる貌にいふ字、そびゆ。○〔杜甫〕「風御冉以巉—！」。

巉 猫に同じ。

巉 ケン。遠員切 [先] クワン。古玩切 [翰]
山の名。

巉 テウ。丑小切 [篠]
山の貌にいふ字。

巉 ホウ、フ。數遇切 [遇]
山の名。

巉 ソウ。資登切 [蒸]
山の高き貌にいふ字。

巉 イツ、イチ。以日切 [質]
山の高き貌にいふ字。

十九畫

巉 ラ。其何切 [歌] 一に、巉に作る。
山の名。

巉 サン、ザン。徂丸切 [寒]
山のさがしくそびえつらなれる貌にいふ字、又、銳き山。○〔宋玉〕「盤岸——！」。

巉 ラン。落官切 [寒]
❶とがれる小さき山、こやま、又、いたきの圓き處、みね。○〔楚辭〕「登二石—一以遠望兮」。
❷山めぐり〳〵て引き連なる、めぐる。○〔徐悅〕「襟帶靈巖—」。
〔靈運〕いくつもかさなりたる山。○〔成公綏〕「顧因—行營」、「起—」。○〔楊泛〕「—！—枕碧嶺」。
〔張揖〕前に同じ。○〔張協〕「—！—鬱以嶢」。
〔張揖〕をか、小山。○〔張協〕「—！—鬱以嶢」。
〔長揖〕長くつゞきたる山。○〔陸機〕「積雪被—！—」。
〔張揖〕みね。○〔柳宗元〕「日—影下—！—」。

巉 ル井。魯水切 [紙]
山の名。○〔山海經〕「—山其上有レ玉」。

巉 ダ、ナ。囊何切 [歌] 一に、巉に作る。
山の名。

巉 レイ。力制切 [霽] 一に、巉巉に作る。
山のさがしく高き貌にいふ字。

巉 テン。都年切 [先]
山の最も高き處てつぺんみね、いたき。○〔謝惠連〕「縱レ轡萬尋—」。
〔張揖〕山のいたき。○〔李白〕「攝二孰木平—！」。
〔張揖〕みたれ疊えたる山のいたき。○〔曾鞏〕「往事嶮—！—！」。

巉 ビ、ミ。莫彼切 [紙]
山の貌にいふ字。○〔王褒〕「倚二巉巉—！」。

二十畫

巉 ガン、魚咸切 [咸] ゲン、魚枚切 [豏]
❶大いなる石、いはほ、いは。○〔建安記〕「武夷—石悉紅紫望若二朝霞一」。
❷きし、がけ（崖）。○〔後漢〕「壞レ崖破—之水、源自涓々」。
❸いはほにうがてる穴、ほらあな、いはあな、いはや（石窟）。○〔長笛賦〕「昭、窓—、窺」。
❹いはほの積み重なりたる貌にいふ字、又、けはしさ、かし、險、又、たかし（高）。○〔左〕「制—邑也」。
〔張揖〕高くけはしき貌にいふ。○〔杜甫〕「東嶽月窟東—！」。
〔張揖〕前に同じ。○〔李白〕「—！—在公卿」。
〔張揖〕前に同じ。○〔蘇軾〕「險—！—、被草萊」。
〔張揖〕けはしきいはや。○〔公羊〕「蔽之—！—、是攻玉之所歸」、「風雨者也」。
〔張揖〕高き岩。○〔管〕「其居依—！—」。
〔張揖〕興きいはや。○〔管〕「其字—！—」。
〔張揖〕仆れたる岩。○〔陸〕「—！—塞川」。
〔張揖〕高くけはしき岩。○〔管〕「山嶽—！—」。

巉 ケツ、ゲチ。倪結切 [屑]
きりたつやうに高し、けはし、さがし。○〔張衡〕「巉巉巉巉—！」。

巉 ケン。魚軒切 [元] 牛偃切 [阮]
甑に似たる形の山。

巉 ケツ、ゲチ。倪結切 [屑]
きりたつやうに高し、けはし、さがし。○〔張衡〕「巉巉巉巉—！」。

巉 ダウ、ナウ。乃浪切 [漾]
山の隈、くま。

巉 巉に同じ。

廿四畫

巉 リン。離珍切 [眞]
山の名。

巉 レイ、リヤウ。離呈切 [庚]
山の深き貌にいふ字。

廿九畫

巉 ウツ、ウチ。紆勿切 [物]
山に煙霧などのかゝりたる貌にいふ字。

巛 部

巛 川の本字。

巛 古文の坤の字。

巛 災の本字。

巛 ケン。姑泫切 [銑]
❶狀に同じ、うれ。
❷小さき流れの水、こみぞ、廣さ一尺深さ一尺あるもの。

巛 クワイ、ケ。古外切 [泰]
澮に同じ、廣さ二ひろにして深さ二ひろの溝、みぞ。

巛 クワン。呼官切 [寒]
うるほふ、ぬる（潤）。

川 セン。昌緣切 [先]
❶かは。

（い）陸地のくぼみたる處を流るゝ長く大いなる水。○〔周〕「凡天下之地、澮、川、山之間、必有ー焉。」

（ろ）かはの神、水神。○〔山海經〕「倫山有ー祭ー也。」

㊁あな。（竅、坑）。○〔山海經〕「倫山有ー獸、其ー在尾上。」

㊂重々しく遲き貌にいふ字。○〔太元〕「ー大車ー。」

〔三川〕今の河南郡にして河、洛、伊の三つのかはあるより北の名なり。○〔漢〕「新ー守李由。」

〔四川〕今の十八省の「蜀、隴、白、島の四つのかはあるより其の名あり。

〔巨川〕下の例より人民の興論の義に借りいふ語。○〔周〕「防民之ー、甚于防川。」

〔名川〕名高きかは。○〔左〕「名山ー。」

〔宮川〕水流より外かれたる水、えだがは。○〔史〕「名山ー、ー、宮殿周匝。」

〔大川〕流れ長くしてはばひろきかは。○〔參〕「臨山利木、參高山ー。」

〔小川〕流れ短くしてはゞせまきかは。○〔論語〕「大川相順ー。」

〔巡川〕ながれひくかは。○〔李白〕「ー、與流光、競奔不待時。」

〔靈川〕かはづらのはねわたりて遊くまで見ゆるも。○〔靈〕「ー、聚々頃刻樹。」

〔鮮川〕青色すべたるかは。○〔詩〕「新ー、ー、守李由。」

〔鑿川〕地を穿ちて川のながれより水を引くこと。○〔西京雜記〕「鑿ー、ー。」

三畫

巛 レツ、レチ。良薛切 風

水の流るゝ貌にいふ字ながら。

㕣 レツ、力聽切 風 ギツ、魚乙切 ギチ。

前條に同じ。

州 シウ、ス。職流切 尤

㊀水中の陸地、まゝ。○〔說文〕「昔堯遭二洪水一、民居二水中高土一、故曰二九州一。」

㊁土地、場處、ゐどころ。○〔謝朓〕「金陵帝王ー。」

㊂くに、（國）。○〔左〕「白狄及君同ー。」

㊃行政上の區劃、時代により異同あれども郡縣の上にあるもの。○〔後漢〕「刺史大守專ー典郡。」

㊄周時代にては、二千五百戸ある處の稱、轉下て村落、邑里。○〔論〕「言不二忠信一、行不二篤敬一、雖二ー里一、行乎哉。」

㊅あつまる、（聚）。○〔國〕「羣、卒而ー。」

充 クワウ。呼光切 陽

㊀水廣し、ひろし。㊁いたる、（至）。

四畫

巠 ケイ、キヤウ。古靈切 迥

㊀みゝずぢ、（水脈）。

㊁直に平たく流るゝ波。

㊂水冥し、ひろし、くらし。

㬎 イツ、于聿切 質 ケン、ゲン。切 孤犬切 銑

水流る。

巡 シユン、ジユン。松倫切 眞

めぐる、まはる。

（い）視察審行す、みまはる。○〔書〕「五載ー一守。」

（ろ）あまねく徑歷す、ふる。○〔左〕「三ー數之。」

〔巡邏〕あとしざる。○〔漢〕「九藩之時、ー一卒幾、而不敢進。」

〔巡禮〕巡び行く設ける語。○〔後漢〕「ー一歌斬。」

〔ー巡〕躊躇して行く。○〔白帖〕「鼠歸得塊、無二失ー一。」

〔眞巡〕いりかはりめぐる。○〔鮑照〕「除陽ー一。」

八畫

巢 サウ、セウ。鋤交切 肴

㊀す。

（い）鳥のやどり棲む處、特に樹上のもの、（蟲類などにもいふとあり）。○〔詩〕「維鵲有ー、維鳩居ー之。」

（ろ）樹上のすみ家、又枝、柴などを折りて構へたるすみ家。○〔禮〕「先王未ー有二宮室一、夏則居二營窟一、冬則居二橧ー一。」

（は）住處、部落。○〔北〕「傾ー盡ー落、屈膝稽顙。」

㊁すを構ふ、すくふ。○〔莊〕「鷦鷯ー林不過二一枝一。」

㊂つむ、積、又たかし、高。○〔淮〕「譬若二周雲之興一、徒遼一彭濞而爲ー雨。」

㊃樂器の一、大なる笙、其の聲の高きよりいふ。○〔爾〕「大笙謂二之ー一。」

〔巢居〕たかき所にあるすむ。○〔路氏〕「居ー一以鳥巢。」

〔巢巢〕よるすもとのす。○〔晉〕「熊遠何神仙、巢巢ー一。」

〔大巢〕實のちさる蒴苴。〔小巢〕野豆の別名。○陸機、繁詩序「ー一即蒴豆、不實者、ー一生稻畦中、一日野蒴豆。」

〔鼠巢〕鼠徒の居る根地。○〔晉〕「必國ー一。」

〔鼠巢〕前に同じ。○〔蘇軾〕「ー已自巢。」

十畫

巢 サウ、セウ。士稍切 肴

巢の木字。

十二畫

𩫖 ヨク、非ヤ。午逼切 コク、穫北切 ワク。

水流るゝながら。

たな、（棧閣）。

巛 鬱に同じ。

工部

工 コウ、ク。古紅切 東

㊀たくみ。

（い）器物の製作を業とせるもの、諸匠。○〔禮〕「天子之六ー、曰二土ー、金ー、石ー、木ー、獸ー、草ー。」

（ろ）器物製作の業でわざ、巧藝。○〔史〕「天下已定法令出ー一、百姓當ー家力ー農ー。」

（は）できばへの好きこと、たゝなること、物事を善くすること、つたなからざること。○〔韓愈〕「懸難ー如二王之不工好何。」

（に）事に任ること、功力、經營はたらき、こと、いとなみ、さいく、わざ。○〔書〕「天ー、人其代ー之。」

㊁公の職務を帶ぶる者、つかさ、官吏。○〔詩〕「陸ー々臣ー敬ー爾在二公。」

〔射工〕いさを蟲、人に影無を吹きかくるといふ。○〔博物志〕「ー一曲口中有二弩形一、射ー人影一。」

〔百工〕（ろ）百官といふに同じ。もろ〳〵のつかさ。○〔書〕「尤繁ー一。」

（ろ）もろ〳〵の材器を製作するたくみ。○〔周〕「有二六職一、ー一製居二一職。」

〔天工〕自然のたくみ。○〔過孟浦〕「人間巧藝繁、「ー一。」

〔畫工〕圖中に在るあるたくみ。○〔周〕「輪人詢之、「ー一。」

〔賈工〕巷市職人。○〔荀〕「天下之ー一也。」

〔雜工〕いやしき職人。○〔荀〕「天下之ー一也。」

〔雜工〕つたなき職人。○〔孟〕「大匠不爲拙ー一。」

〔砂工〕すぐれたるさいく。○〔李白〕「天人惟ー一。」

〔巧工〕上手なる職人。○〔西京雜記〕「長安ー一、「ー一。」

〔瓦工〕瓦を用ふる職人。○〔後漢〕「雷霆ー一。」

〔陶工〕そめものする職人。○〔北〕「ー一王神歌者、以陶自逸。」

〔織工〕ぬしを織る職人。○〔宋〕「參集ー一。」

〔織工〕錢織のこと。○〔拾遺記〕「夜來夢手ー一。」

〔紫工〕帝を使ふ者。○〔杜甫〕「ー一爭不論。」

二畫

左 サ。子我切 哿

㊀ひだり（みぎの對）。

（い）人の南に向かひて東にあたる手の方。○〔詩〕「源泉在レー、淇水在レ右。」

（ろ）低き地位、いやしきこと、ふも、（支那にては時により右を尚ぶと左を尚ぶとの例あれども多くは右を尚びたるよりいふ。○〔史〕「項王王三語將於近地、而王獨遠居、此、此ー、遷。」

（は）ひだりのもの、ひだりの場所。○〔戰〕「我不能數二子支ー一屈右。」

㊁たゝへ置く、下すだふとばす。○〔史〕「ー賢右レ戚。」

㊂理に戻りたること、宜しきに適はざること、よこしま。○〔禮〕「以二ー道一以亂レ政。」

㊃もとる、（戾、又たがふ、（差）。○〔朱松〕「未レ覺風ー心ー。」

㊄助けす、疎くす。○〔左〕「天子所有、寡君亦右之所レー亦ー之。」

㊅物事のたがひなきこと、明かにする、ふるし、證據。○〔漢〕「ー驗明白。」

㊆ひだり、（行く、ひだりす。○〔史〕「欲レ一ー一。」

〔嗣左〕長者に陪して車に乘るときの嗣、車にてはひだりの方を尚ぶ。○〔禮〕「鮮車ー一。」

〔尚左〕四御を除く以外に手を飾くにひた巻の手を下にすること。○〔禮〕「孔子與門人侍立而曰右二三子亦尚右、孔子曰、我則有師之喪故也二三子ー一。」

〔宴左〕上賓なるべき次言を書き了はりたる証白、別紙なり。○〔後漢〕「上書、宴左、言ー一。」

〔表左〕前に同じ。○〔後漢〕「國條宜施行、七事ー一。」

〔如左〕上奏、手簡なるべき証白別紙なるべに事を認めあるとき前の次言にて知らするときに用ふる語。○〔後漢〕「陛下封奏ー一。」

〔如左〕ふるし、西據。○〔漢〕「召ふ會東長、遠、補ー一。」

〔疑左〕前に同に。○〔漢〕「ー一不存。」

〔道左〕ゆくみちのひだりはた。○〔漢〕「乃相率拜于ー一。」

〔闕左〕里門の左手にあたる者。○〔漢〕「ー一之孟江之上、後向かひて左の方即ち江南のも。○〔漢〕「家世多才、稱於ー一。」

〔蓋左〕蓋東のこと。○〔宋〕「日過蓋、紙、ー一推、縫。」

事を作すに拙からざること。○〔老〕「大ー、若レ拙大辯者レ訥。」

（に）こはべのみを飾ること、眞ならざること、いつはり虛僞。○〔詩〕「ー、目如レ賓顏之厚矣。」

（ほ）善きこと、好ましきこと。○〔詩〕「ー、笑倩兮。」

〔左右〕借り飾りて法の如くせざること。○〔禮〕「毋ー、作ー貨ー一、「ー、「ー、上心。」

〔機巧〕機械のたくみ。○〔後漢〕「細善ー一。」

〔奴巧〕かざり偽る。○〔後漢〕「人倫ー一。」

〔機巧〕すばやくたくみなること。○〔晉〕「有大智者、不可責以ー一。」

〔天巧〕自然のたくみ。○〔王逸〕「玉花鄂無出ー、「ー、「ー、」

〔技巧〕前に同じ。○〔史〕「上、簡厚、下ー一。」

〔巧巧〕前に同じ。○〔新語〕「ー一者近上。」

〔鎮巧〕前に同じ。○〔史〕「直謂ー一。」

〔智巧〕前に同じ。○〔史〕「譏、人、動敏而ー一。」

〔智巧〕わるたくみ。○〔晉書〕「ー一盡繁。」

〔智巧〕めづらしきたくみ。○〔劉邕〕「詩、極ー一。」

〔巧巧〕前に同じ。○〔晉〕「詩、極ー一。」

〔浮巧〕實用にならぬたくみ。○〔後漢〕「今、然、奢侈、無ー作ー一之物。」

〔浮巧〕よこしまなること。○〔後漢〕「昭ー一之言。」

〔浮巧〕前に同じ。○〔左〕「凝、爲ー入ー一。」

〔伎巧〕たくみの技術。○〔後漢〕「ー一、皆手事之。」

〔偽巧〕かざり偽ること。○〔晉〕「晉臣ー一以求新。」

〔名巧〕上手。○〔漢〕「馬先生、天下之ー一也。」

〔詐巧〕いつはりのまわざ。○〔晉〕「且當ー一、不可力爭也。」

〔巧巧〕細說のたくみなること。○〔晉〕「ー一之交、可悅。」

〔巧巧〕はりかざること。○〔鹽鐵論〕「本不自ー一。」

〔僞巧〕俗惡を飾れてたくみなること。○〔顏氏家訓〕「何遜詩實錄ー一。」

〔惡巧〕惡國にてたくみなること。○〔甘誓〕「御政ー一。」

〔姦巧〕うつくしくたくみなること。○〔國語〕「竹樹無、能、省、知ー一。」

〔繁巧〕たくみ多きこと。○〔何承天〕「ー一以興事。」

〔機巧〕たくみに惑りつくること。○〔晉書〕「ー一、今、粗識。」

〔機巧〕こまかくたくみなること。○〔楊元忠〕「ー一、「ー一。」

〔機巧〕ちひさきたくみ。○〔右崇府新編序〕「北宋ー一、而不一眠。」

〔僞巧〕いつはりかざること。○〔元稹〕「未俗ー一。」

三畫

巨 キヨ、ゴ。其呂切 語

㊀おほいなり、（大）。○〔孟〕「爲ー一室。」

㊁おほし、（多）。○〔史〕「京師之錢累ー一萬。」

㊂詛に同じ、なんぞ、又、あに。○〔漢〕「公ー能入乎。」

巨 キヨ、コ。求於切 魚

なかばならず（未央）。

三畫

巩 鞏に同じ。

四畫

巩 キヨウ、居悚切 腫 一に拳に作る。

ク。

いだく、擁。

巫 ブ、ム。武夫切 虞

神を齋き祀り、樂、又、舞などして神おろしを行ふ者、又、單に、舞樂もて神に事ふるを業とする者、かんなぎ、特に其の女子、かんなぎ、みこ。

○〔史〕「荊ー桐、掌下ー。」

〔巫系〕くマせのみこ。○〔後漢〕「ー一敢擊之事也。」

〔巫覡〕よきみこ。○〔易林〕「ー一、再歸。」

〔男巫〕男のみこと女のみこと。○〔後漢〕「在前、ー、在女目ー。」

〔巫男〕みたりなるみこ。○〔後漢〕「ー一、事祝、鼓舞。」

七畫

差 サ、シヤ。初加切 麻

❶だがふらふらふら

（尖也）さきのとがりたるぬぐひ。○（五）又部参。
（錦也）おたのの絹物。○（後）「紅紫—…」。
（天也）無かけ。○（後）「紫—、駿柴、市童之間、
謂之—…」。
（後也）婚人の首にかくるおれ、ひれ。○（後）「席被
謂之—…」。
（領也）前に同じ。○（晉）「気七般」「宿生妻鄉」「—
…」。
（手也）手拭。○（世）「取—…」「鼻聊」「拭
面」。
（帥也）僧侶のかうぶるぬぐひ。○（後）「山—侯」。
（帽也）前に同じ。○
（蘇）「僧似—…」
白」。
（帽也）學者のかう
ぶるぬぐひ。○（林
景）「電傳臨」「鶴背
—…」。

（図之巾頭）

市 フツ、ホチ。分勿切 物

帯に通ず作る。膝前を蔽ふきぬ、ひざかけ。〈だれ。○（説文）「韠也、上古衣蔽レ前而已、—以象レ之」。

市 サフ、ソフ。作答切 合

あまれし。〈編〉又、めぐる、めぐり、周。○（孫鉉）「日一日行一度、一歲往反而周—也」。

二畫

市 シ、ジ。時止切 紙

一いち。
（一）数多人あつまりて物の賣り買ひをなすこと。○（易）「日中爲レ—、致二天下之民一、聚二天下之貨一」。
（ろ）あつまりて物の賣り買ひをなす場處。○（漢）「庶人誘二千道、商旅議二于—」。
（は）人家あつまりてあきなひ賑はしき地、まち、都邑。○（後漢）「未嘗入二城—」。
二賣り買ひすると、利を圖ると、あきなひ、又、あきなひをなすこと。○（論）「沽酒—脯」。
三彼れを取り此れを遣る、交換すること。○（戰）「不レ如下留レ之以—→地」。
四物の價れだん、さうば。○（周）「以二政令一禁二物価一而均レ—」。○（互市）たがひに物をかよはすこと、交易。○（後漢）「袁時—…」。
（關市）せきしまとりいちと、郎ち、甘物及び多人數の通ひ又、あつまる處。○（宋）「—…」。
（朝市）（い）午前に立つ市。○（周）「—…朝時而市、商賈趨」。
（ろ）官府と市場と。○（周）「掌二禁令一、—…」且、三十輌、而鄭往之、心未始去市也」。
（酒市）さけ賣るいち。○（晉荘）「—…多酒客」。
（燈市）燈籠を賣るいち。○（蘇軾）「—…暗後月」。
（花市）はなのいち。○（陸游）「八鮮—…暗後月」。
（蠶市）かひこのまゆをうりかひするいち。○（蘇軾）「—…既」。
（海市）海上の蜃気樓の反射により陸上の人物家屋などの見るものを謂ふ。○（陳師道書）「此—…蜃機比耳、豈長久耶」。
（夜市）よるなりいち。○（東京夢華録）「中秋節—…—、靜謐至二頂曉」。
（都市）みやこ、まち。○（國）「日暮—…」。
（交市）かへあふ。○（後漢）「—…於海中」。
（貿市）前に同じ。○（宋）「蔵増—…」。
（闤市）品風のまちのこと。○（蘇陽修）「天涯—…」。
（廛市）やしろ、又、非理の利を圖ること。○（周）「白宗
（坊市）まち。○（社陽新編）「—…東京」。

帆 キ、ギ。渠伊切 支

伊—は、姓。

帙 ケン、コン。許偃切 阮

轎に同じ、くるまのとばり（車・轎）。

帆 ハン、ホン。符廢切 霰 扶泛切 豏

一船の上に樹てたる柱に揚げ張りて風を受くる幔、郎ち、風の力によりて船の進行をたすくるもの、ほ。○馬融「張二雲—一施二霓—、轎二」。
二ほを揚げ張る、ほをかく、ほをあぐ。○（韓愈）「無因」—二江水一」。
（書）舟の速きより帆の密間に見ゆるをいふ。
（沈約書）「帆々現—…」。
（市）凶のはてて作りたる舟上のほ。○（皮日休）「—…」「蔵」。
（錦）にしきの織物にて作りたるほ。○（謝河色）「—…通歳看間十里」。
（風）風を孕みたるほ。○（温庭筠）「—…」「片水輕似葉」。
（蒲）がまをくさにて織りたるほ。○（李白）「江湖」。
（落）ほをまきさがるる。○（孟方生）「—…」。
（飛）ほをとく。○（社甫）「—…蔵云森」。
（巻）ほを卷く。○（賀敬）「孤舟—…泊」。
（掛）車帆に同じ、帆をあぐるる。○（蘇）「—…」。
（乘）乘船。
（行）遠方にゆく舟のほ。○（何遜）「離々—…」。
（征）前に同じ。○（孟浩然）「日暮—…泊」。
（疾）とく走る舟のほ。○（何遜）「解條—…流」。
（晚）日暮れて行く舟のほ。○（除嶠）「天際—…」。
（隙）前に同じ。○（孟浩然）「—…何鳥宿」。
（石）（樹）いはひほの一名。○（左思）「—…水松」。

杉 サン。蘇甘切 覃

衫の破れたる貌にいふ字。

書 デフ、チフ。尼瓢切 質

手足の運び敏捷なり、はやし、すばやし。

四畫

帋 カフ、コフ。古詹切 合

蒲席もてまつらへ穀を蔵むるもの、たはら、一説に、車に藉くもの、くるまじき。

帉 フン、ホン。撫文切 文

物を拭ふに用ふる巾、ふきん、てぬぐひ。

帑 前條に同じ。

帔 ヒ、ピ。房肥切 支

ぬの、布。

帔 ヒ、ピ。符鄙切 紙 一に帔に作る。

帙 テン。丑琰切 琰

帛裂く又、きぬぎれ。

帙 ヂ。甫無切 虞

下を護りて浴するときに用ふる巾、ゆまき。

帙 フ。

袂に同じ、衣の前襟、まへえり。

帀 ハ、ヘ。普駕切 禡

一二はじの帛。
二頭をつゝむ巾、かしらづゝみ、はちまき。○（蘇軾）「絳—蒙レ頭讀二道書一」。
三衣類をつゝむ巾、ふろしき。
四とばり（帳）。○（西京雜記）「表以二牙籤一、覆以二錦—一」。

帀 ハ。披巴切 麻

きぬぎれ（殘・帛）。

帟 カイ、ケ。居拜切 卦

かしらづゝみ、づきん（幘）。

帕 ダイ、ナイ。奴對切 隊

旆の垂るゝ貌にいふ字。

帙 ケツ、ケチ。古穴切 屑

てぬぐひ（帨）。

希 キ、ケ。香衣切 微

一多からぬこと、まばからぬこと、まれすくなしまれなり、あらく、あらし。○（老）「知レ我者—則我貴」。○（論）「鼓レ瑟—鏗爾舍レ」。
二求むこひねがふ、のぞむ（望）。○（後漢）「海内—世之流」。
四聲なきこと、まづか。○（左）「無聲謂之—一」。「鉛謂二之—一」。
五やすり（摩・鉋）。○（揚雄）「無膏—擢」。
（羅）なきに近し。○（呂）「北紆羅界人相近也世之—一」。
（稀）すくなしまれなり。○（嵇書）「蔡北所産、
（疑）（稀）いはひほの一名。○左思）「—一水松」。

帛 ヒ。車履切 紙

裂け殘りたる帛きぬぎれ。○（荀）「—…嶸藁藁不レ直錢」。

布 ホ、フ。博故切 遇

一あさからむしくずなどの纖絲を織りたる物、ぬの。○（論）「毋レ墓レ—」。
二織物の總稱、たんもの、おりもの。○（詩）「抱レ—貿レ絲」。
三まく。
（い）のぶ（延）。○（釋名）「與物而作謂二之與一、敷—其義一謂二之賦一」。
（ろ）ほどこす（施）。○（後漢）「未レ見下仁德有所二施—一」。
（は）ならぶ（陳）。○（書）「諸侯入二應門一、右皆—二乘黄一、朱一」。
（に）ちる、ちらす（散）。○（左）「昏自レ朝—路而羅」。
四支那古代の錢貨の稱、其のあまれくさき行はるゝよりいふ。○（周）「邦—之入出」。
五あまれくさき及ぼす書面即ち官府の命令。傳達書の類ふれ。○（唐）「常清於二幕下一潛作二檄—一」。
六星を祭ること、ほしまつり。○（爾）「祭レ星曰レ—」。
七草の名。○（爾）「—似レ布、帛似レ帛華山有レ之」。

（布巻之）

（昆布）（巻）こんぶ、一名綸布、海草の一。○本草綱目「—…赤名綸布、生海底、葉如手大、背有蔓紫赤色」。
（金布）官府の命令に關する命令をかるしたるもの。○（國）「—…今年」。
（錢布）（い）巻狀の貨をなさゞるもの。○（後漢）「乃—…上書」。
（ろ）銭に勝ちたる幅知、銭巻、かちふれ。○（晉）「陶—…賦三三輪兩軍定、省錢—…臣實監之」。
（錢布）きめのあらぬぬの。○（國）「學記其—…巾部八巻」。
（段布）刀形の銭。○（史）「—…馬下輪」。
（福布）きめのあらくして厚き布の名、又、答布ともいふ。○（史）「—…皮革千石」。
（袋布）銭を納してふ。○（後漢）「行至七—…」。
（場布）たき、鬼殺。○（後漢）「袁紹書—…」。
（陳布）汎くろく。○（晉）「袁七般」「西鎮書—…」。
（隙布）ふきなもふ。○（宋）「—…騎士手例左有」。
（毛布）けおりもの。○（詩）「荘」「—…也」。
（錦布）黒色のぬの。○（機）「錦綾之—…」。
（賢布）賢くのべる。○（國）「朝—…進其書、謂」。
（征布）市場より取り立てたる稅布。○（國）「家以市之—…」「敢市之不有貨之物、物之後之取市之稅布。○（國）「凡無職者出—…」。
（夫布）周の法にて商業のなき人物の後より取りたつる稅布。○（國）「凡無職者出—…」。
（歌布）周の法にて商店より取る稅布。○（國）「—…」。
（廛布）市場の規則を犯したるものより罰として取り立つる布、例制に出づ。
（廛布）貨物庫倉より取り立つる稅布、例制に出づ。
（廛布）陳列するる。○（史）「秦作臣歌—…之」。
（糸布）わかれも書をもよ。○（鎮寛荘）「—…如」。
（賢布）賢時代の銭の名、略して遠所の貨。○（國）「當六小錢」、改作—…」。
（用布）めやすりなもよ。○（後漢）「竹木—…」。
（織布）あらにて織りたるぬの。○（周書）「北俗少
（織布）織、織—…」。

（線布）ねりたるぬの。○（史）「乃與—…」「—…」。
（錦布）ならふ。○（成帝書）「萬錦—…」。
（帥布）前に同じ。○（樂）「鞭—…」。
（遠布）遠方はるまでとゞく。○（宋）「北名酸—…如此」。
（題布）前に同じ。○（横）「酸然—…」。
（著布）さ石の如くにならふ。○（書）「列紐—…」。
（帥布）つたはりとゞく。○（書）「一時—…」。
（鹽布）鹽黒のぬの。○（宋）「出而見客則以—…」。
（遍布）あまねくとゞく。○（宋）「氣氣—…」。
（教布）のべとゞく。○（禮名）「—…其義謂之敷」。
（錯布）（絵）こんぶ。○（宋書）「—…名昆布」。
（敷布）ちりぢりになる。○（韓愈）「—…忽無」。
（昭布）明かにとゞく。○（張鷟）「撃德—…」。
（鎮布）うろこの如くならふ。○（胡思）「玄軍—…」。
（火浴布）火の中に入るこも燒けぬぬの、名。○（鶴）「西域童謡歌—…—…」。

三畫

帄 ジン、而振切 震 ジツ、入質切 質

まくらかけ、（枕・巾）又、てぬぐひ、ふきん（巾）。

帄 テウ。都了切 蕭

かしらづゝみ（編・頭）。

帆 ハイ、ベ。步昧切 隊

おほぬの、ふとぬの（大・布）。

帘 クワウ、呼光切 ハウ、モウ。莫郎切 陽

一きれ（巾）。二たび（機）。三とばり（帳）。

帀 カン。居案切 翰

ぬのぶくろ（布・袋）。

目の細き綿。

帉 サウ、セウ。側巧切 巧 かしらづゝみ。

帢 ケン、ゴン。巨淹切 鹽 きぬ（帛）。

帎 タン、トン。丁紺切 勘 冠をつけて前に垂す、ふさ。

帟 アウ、オウ。烏浩切 豪 年貢に出だす織物（征巾）。

第五畫

帤 トウ、ヅ。徒冬切 冬 ふきん。

帠 エン、チン。於袁切 元 前條に同上。

帥 ホ、フ。普故切 遇 てぬぐひ、ふきん。

帣 チヨ。展呂切 語 ―に豬又は、幬に作る。

帑 ド、ヌ。農都切 虞 ―孥に通じ用ふ。妻子、つまこ。○〔左〕「秦人送其―」。 ―鳥尾、とりのを。○〔左〕「以害鳥」。

帑 タウ。他期切 豪 通用貨幣を納め置く家、かねぐら、くら。○〔唐〕「供天子私―」。

帕 サウ、セウ。側巧切 巧 ―所。〔前漢〕「―帑之費」。〔後漢〕「―帑」。〔倉語〕「―」。〔公羊〕「官のかねぐら。○〔史〕「有中使者、―帑」。〔禁語〕「宮中のかねぐら。○〔史〕「―庫」。〔禁語〕「其、以―事機」。

帕 ケン、ゴン。巨淹切 鹽 きぬ（帛）。

帕 タン、トン。丁紺切 勘 冠をつけて前に垂す、ふす。

帟 アウ、オウ。烏浩切 豪 年貢に出だす織物（征巾）。

帕 ヒツ、ビチ。薄必切 質 たれぬの、まく、とばり（幔）。

帊 テウ。疑宵切 蕭 細き絲ほそいと。

帉 セイ、シヤウ。諸盈切 庚 ―正に通じ作る。 まさ（射的）。

帟 フツ、ホチ。數勿切 物 髮をつゝむに用ふる巾、かみづゝみ。

帠 タイ、ダイ。徒耐切 隊 囊の類、ふくろ。

帙 バツ、莫撥切 曷 ―マチ。 バツ、莫轄切 黠 ―メチ。 ―づきん、巾で、又、はちまき、（髮頭）、―に轉に作る。 ―おび、（帶）。 ―たび（足衣）。

帚 シ。將支切 支 布の名、錦布の允も精好なるもの。○〔急就篇〕「服――輸―與」（繒連）。

帚 シ。唯氏切 紙 てぬぐひ、ふきん。

帔 ヒ。披義切 寘 敷繒切 支 ―もすそ、すそ、（裙）。○〔揚雄〕「霜陳、魏之間謂之―」。 ―兩袖なきはおり、そてなしばおり、（褙子）。○〔南〕「昉子四、華冬月著」―裙裏」。

帠 コウ、ク。恪侯切 尤 ゆがけ（指套射決）。

帠 ク、ク。檔俱切 虞 くつさきのかざりいと、くつかざり、（繦繩）絢。

帕 バツ、メチ。莫轄切 黠 布もて頭のはちを卷くもの、はちまき、（抹額）。○〔韓愈〕「以錦纏―股、以紅―首」。

帕 ハ、普駕切 禡 ―へ。 バク、ミヤク。切 莫白 陌 人の腹に卷く帶、はらおび、はらまき、（腹帯）。

帖 デフ、デフ。他協切 葉 ―帖に字を書きまるしたるもの、又、紙、きれ地などに字を書きまるしたるもの。○〔宋〕「筆法遵親書」―之出」。 ―張り札、びら、付箋。○〔南〕「百姓那得家々題門―」。 ―賣お宅。 ―牀の前に垂るゝとばり。○〔釋名〕「―牀前帷曰―」。 ―てがた、わりふ（券）。○〔李存義〕「省符郡―一朝下」。 ―進士に題を與へて試驗すると。○〔唐〕「三言、講者二千餘言」。 ―さだまる（定）。○〔稿簡贅筆〕「多採方言用―之釋」。 ―つく（著）。○〔歐陽修〕「將―乎萬方」。

（帖）（上）ゆったりとして定まる感じ。○（社）「―字官」。 （帖）「―字官」。 （帖）「―字官」。 （帖

（論語）比喪者之世世之（左）「喪—一」。○（呂氏春秋）「喪—一」。
（論語）始喪之初始喪之（左）「喪—一」。
（論語）其喪之日（禮記）「喪—一」。
（論語）其喪之日（禮記）「喪—一」。

【帷】 ケン。居偃切　匣　古曉切

【幠】 幾員切　匹

【帠】 トウ。他貢切　匣

外國の天服。ちがうのきもの。

【帜】 コウ。苟公切　匣

幟の類。はたぢるしはた。

【帑】 ナ。ニョ。女余切　匣

❶ふきんてぬぐひ。又ぶしらつゝみ。○（論語）「一大巾也」。
❷馬をつゝまふるだけに用ふる材。堅。○（周）「馬人厚圭一」即木材。

【帔】 セイ。サイ。北內切　匣

ふきんてぬぐひ。

【帥】 シュツ。シュ。所律切　匣

❶ひつゝる。
「いつ逆へ領ぶ。さとなり統率す。○（周）「將軍身一」。益州之衆一以出三秦川」
❷先だつて行ふ。○（論）「子一以正」。敢不正」。

（はたらひて）。○（周）「天下一」。親哭者。赤知之」。「一」。參者以直」。
❶まだがふ。びぬ。○（禮）「命婦問不ン一」。
❷「灌」。灌以寬。厚清靜。爲天下一」。○（論語）「一」。今陰閉。
❸のつゝまる。○（論語）「一」。今陰閉。
「曾」。曾然嘆曰」。
❹歷にさゝまる。ぬ。「佩」也。
（孟子）ひかるる。○（定）「一」。要束。以束手。
（孟子）つゝまれたる。○（周）「一」。天手」。
（孟子）さゝひかるる。○（周）「以一」。力。「束」。
（孟子）さゝひかるる。○（周）「以一」。力。「束」。

【帥】 ス。所銳切　匣

一群のものをすべひきゐる人。たゝ。
しらを將軍。頭領。○（禮）「十國以爲一」。
連々有一」。
（元稹）冬の雨連々さゝひきゐる人。○（周）「公國」。
（孟子）「一」。
（孟子）「一」。
（孟子）「一

〔幕帽〕くまおりのさばり。○〔帽〕說文若木絲一—土冢語。〔繁帽〕毛髮のとばり。○〔鉤高帽〕「—」陰地臭。〔帽帽〕戶口を記載したる帳簿。○〔墓〕北二祭。〔胡帽〕弄のぬひのあるとばり。○切周相如「—高張」。〔登帽〕陣營の基、又、屋根、陣營の幕に用ゆ。○〔宋〕「蹲」破其—」。〔牙帽〕牙營のとばり。○〔鄭駙〕「—」連接臣家。〔給帽〕にしきのとばり。○〔李白〕「—」鄭官鄭。〔錦帽〕あやぎぬのとばり。○〔謝靈〕「百味芬—」。〔繪帽〕前に同上。○〔張載〕「明—之彩」。〔草帽〕みどりのとばり。○〔謝靈〕「明—」。〔鮑帽〕うつくしきとばり。○〔江淹〕「—」充庭。〔綠帽〕いろぎぬのとばり。○〔沈約〕「翠帽—」「—」。〔紫帽〕紫色。〔姬帽〕可形に高く作りたる幕。○〔摩登〕「—」赤「—」。〔紫帽〕羅紗のとばり。○〔李賀〕「紫—」。

帘 ショウ、シュ。諸容切 冬

一、ふたおびぶんざし。
二、ふみづゝみ(帙)。

帙 ジョウ、シュ。且勇切 腫

前條の一に同上。

帔 ケン。ゲン。胡田切 先

布の名。

帞 サツ(所八切)　ザン(財干切) 寒

セン。私箭切 霰

一、もすそ(裙)。二、ひとはゞぎれ(帙)。三、婦人の骨衣、むなかけ。

帳 セン。將先切 先

一、小兒に結かす巾、ちごの赤きもの、ふゝめし。二、幡に同上、ふたぐら。○〔晉〕「軍人爭割流蘇武帳」爲二馬—」。

帳 セン。子淺切 銑

一、むつぎ(襁)。二、せまし(狹)。○〔周〕「以」博爲」—」。

帳 サン。思盱切 翰

先の韻の一に同上。

帳 サイ、セ。所戒切 卦

よぎ(被)。

帳 セン。變玷切 琰

もすそ(裙)。

帙 セン。處占切 豔

車のとばり。

帕 カフ、ケフ。苦洽切 洽

緋の幟きぬのかぶりもの、かしらづゝみ。○〔晉〕「哀帝改用」素白—」。

帑 タフ、トフ。他合切 合

帳の上の覆ひ、とばりのおほひ。

幅 カン、ゴン。胡愍切 慶

耳を覆ぐ巾、みゝふさぎ。

帩 ワン。一丸切 寒　エン、チン。於寰切 元

裁ち餘りの巾、たちあまり、きれ。

帶 タイ。當蓋切 泰

一、おび。
（い）衣服を裝束するに腰の上部のまはりに卷くもの。○〔禮〕「凡—有」率無「箴功」。
（ろ）おびの如く物のまはりをまけるもの。○〔五〕「赤道者天之紘—也」。
二、おび。
（い）おびを結ぶ、おびする。○〔世說〕「驚遽而起衣不」及—履出迎」。
（ろ）腰に下ぐ、おびに掛く、隨へ行くの義にもいふとあり。○〔漢〕「冠」太冠「—」長劍」。
（は）おびの如くにまはりに卷く、おびとなす、めぐらす。○〔丘遲〕「貫」郡控「—」山海」利藜「水陸」。
（に）含み有つ。○〔杜甫〕「頰」「憔悴」色」。
三、おびの如くにまはりを卷く、おびとなる、めぐる。○〔左思〕「虹蜺廻」「—」雪館」。
四、蟲の名、へび。○〔莊〕「蝍蛆甘」「—」。
五、帶に同上、へたれ。○〔蘇軾〕「西池秋水尙濫」空、舞瀾搖吹」待」「—」。
六、細く長く通りたるとすぢ。○〔元稹〕「門臨溪」「—」。

〔雲帶〕かはのおび。○〔鳥〕「戒」鶴之」「—」。〔銀帶〕黑色のきぬおび。○〔魏〕「—」素帶。〔冠帶〕（い）かうぶりとおび。○〔魏〕「—」紹和。〔民間〕織。
（ろ）かんむりを卷けおびを結ぶと、威儀をとゝのふる。○〔孝思〕「百寮「—」悉來庭。
（は）節士、社會。○〔夏侯湛〕「是以尋接「—」之來、充爭士大夫之列」。
〔冠帶〕前條の（ろ）に同上。○〔魏〕「宗室「—」立於朝」「可」使「與」賓客言」。〔革帶〕かはのおび、無位の士のおびるもの。○〔魏〕「布衣「—」之士」。

〔博帶〕はゞのひろきおび。○〔魏〕「布衣「—」」。〔綬帶〕おびをゆるくむすべ、開略垂らさる形狀にいふ語。○〔魏志〕「—」敬矣、藝「—」。〔紛帶〕（い）ながをおびと。○〔晉〕「「—」之形、即長袖」也」。
（ろ）山七びとたえりに要よべく自から裝束をなすにいふ語。○〔魏志〕「管天、驗之「—」」。〔鮮帶〕前に同上。○〔魏〕「朝州刺史」「—」。〔紳帶〕おはおび、古官位あるもの、前にさがしもの。○〔後漢〕「乘「—」」。〔玉帶〕たなびにかりあるおび。○〔魏〕「謂二人偶方「—」」。〔鈴帶〕またがりおび。○〔何承天〕「今、「—」」。〔鋼帶〕おびをとゞく、衣をぬく。○〔後漢書〕「日夜「—」」。〔紐帶〕めぐる、又、めぐらす。○〔晉、夫人〕「或「—」」。〔紫帶〕紫帶に同上。○〔杜〕「—」衣「—」。〔蓋帶〕おび。○〔吳都賦〕「—」。〔鐵帶〕うつろひめぐる、又、うつろひよくむ。○〔金載之〕「有「時」「以」「—」左右」。〔流帶〕ながれめぐる。○〔郭璞〕「川「流」「—」」。〔紅帶〕わたりめぐる。○〔孫綽〕「「—」「論八荒、「—」」。〔續帶〕腰にさゞ、おび。○〔說苑〕「金鎖「—」」。

常 ジャウ、ジャウ。市羊切 陽

一、つね。
（い）久しきに亙りてたがはざると、定まりて變はらざると、さこ。○〔易〕「後得「主而有」」。
（ろ）人生に不變なる理義、國民のそむくべからざる法、のり、みち「國法人倫」。○〔左〕「欲廢「國「—」」。
（は）變事なき時、日頃のありさま、ふだん、平生。○〔韓愈〕「就」戮時顏色不「亂」陽々如「平「—」」。
（に）なみ〳〵なると、普通なると、なみ。○〔晉〕「「皇「守「平之世」、而欲」建「殊「—之勳」」。

一、神の名。○〔荀〕「兌爲「—」、四方之神也」。
二、物に日と月との象あるもの、即ち天子の用ふるもの。○〔詩〕「載「是「—服」」。
四、尋を倍にしたる長さ、一丈六尺。○〔史〕「布帛尋「—」庸人不」釋」。
五、車上にて持つ戟、長さ一丈六尺あるよりいふ。○〔釋名〕「車戟曰」「—」。
六、木の名、こうめにはうめ。○〔詩〕「彼爾維何維「—之華」。
七、裳に同上、すそ、もすそ、下裳。
八、何れの時にもふだんに、平生に、久しく、つねに、さこしへに、さこしなへに。○〔韓愈〕「千「里馬「有」而伯樂不「—有」」。

（大常(ハ)之圖）

〔裳常〕（い）常に法るべき物。○〔象〕「常「山」「—」」。〔五常〕（い）父は義に、母は慈に、兄は友に、弟は恭に、子は孝の五つの法るべき數のことにて五典ともいふ。○〔象〕「抑「海「—」」。
（ろ）「仁、義、禮、智、信」の五つをいふ。○〔白虎通〕「「—者何、謂「仁、義、禮、智、信」也」。〔天常〕天のきまりたる道。○〔左〕「帥「彼「—」」。〔天常〕（い）月の象を畫きたる天子の旗、ひは象。
（ろ）宗廟の祭儀、典式に關する事を讀る役所。○〔後漢書〕「「—」」。
二、旗に同上、宗廟の祭儀。○〔周〕「「—」」。

〔冒常〕周の時代にて天子の旅を讀る役の名。○〔周〕「「—」」。〔幕常〕（い）八尺と一丈六尺とのことにて強かばかりたゆをいふ。○〔左〕「「—」」。「以「無「—」」。
（ろ）常なみ。○〔張衡〕「始「—」」。

帽 ボウ、モウ。莫報切 號

一、ぼうし。○〔晉〕「「—」」。〔無帽〕さたなりなきぼう。○〔後〕「變「化「—」」。〔平帽〕平生にいふに同上。○〔後〕「「—」」。〔逢帽〕命なるの綱。○〔周〕「「—」」。〔冒帽〕人のはたらきの長所を使ふも。○〔後〕「因「施」而使之」。〔非帽〕常なみならぬこと。○〔指月錄〕「此兒骨相「—」」。〔鑑帽〕つね。○〔後〕「必立「—」」。〔陰帽〕普通に比なること。○〔後〕「皆以「聽言不」「—」」。〔事帽〕「—」也。〔殊帽〕優れたること。○〔後〕「而欲「殊「—」」。〔綱帽〕前に同上。○〔後〕「「—」」。〔綱帽〕三綱五常の道をいふ。○〔後〕「正「—」」。〔三帽〕天と地との常の形狀と人間の常の禮法とをいふ。○〔後〕「天有常象、地有常形、人有常禮」。「以」「此」「—」」。
〔易帽〕法を變ずること、又、天の忽然として清明の色を變ずることもいふ。○〔後〕「不「知」治者、必曰「法「變」」。

啓 ケン。輕甸切 霰

槩に係くる巾、ほこぎぬ。

帷 エフ。於劫切 業

かしらづゝみ、ぼちまき(幘頭)。○揚雄「幘頭趙魏之間、或謂「之」「—」」。

帷 アン、オン。烏含切 覃

ふくろ、囊。

帽 クワン。沽丸切 寒

髮を束くもの、かうぶり、かしらづゝみ。

帷 ヰ。有悲切 支

横に引き張りて圍みとなすたれぎぬ、まく、ひきまく、びらさばり。○〔周〕「幕人掌「—幕幄帟綬之事」」。

〔敵帽〕今あれたる幕。○〔後〕「「—」不「無「餘」」。「「中」」。〔幕帽〕紐を結びたれぬの。○〔後〕「夫人在「—」」。〔綠帽〕赤き色の幕。○〔後〕「「—」」。〔紫帽〕みどり色の幕。○〔周書相如〕「張「—」」。〔建利帽〕「—」。〔清帽〕うすき地の幕。○〔後漢〕「「—」」。〔綠帽〕紐ぬの、幕。○〔後〕「「—」」。〔羅帽〕あやぎぬの幕。○〔沈約〕「中「婦結「—」」。〔紫帽〕弁のあやあるたれぬの、天子殿王の召すもの。○〔李義〕「金「環「—」」。〔綠帽〕前に同上。○〔後漢〕「結「—」」。〔紫帽〕すたれぬの。○〔後〕「結「出「—」」。〔紫帽〕たれぬの。○〔後〕「坐「出「侍「—」」。〔帷帽〕ゐはひ高きたれぬの。○〔梅堯臣〕「「帽「—」」。〔羅帽〕「—」家。〔羅帽〕「羅」といふに同上。○〔貴部表〕「「臣列」。

幕 キ、ギ。渠之切 支

きれふきん(巾)。

幕 キ、ギ。渠記切 寘

つなぐ、繫。

幞 サフ、セフ。色甲切 洽

面に施す衣、かぶづゝみ、ほゝかぶり。

幞 セフ。七接切 葉

ぼちまき、かしらづゝみ(幘頭)。

九畫

幽 シュ、山樞切 ユ。容朱切 虞

端の裂けたる紬、やれぎぬ。

幽 トウ、ヅ。徒侯切 尤

稚に同上。

幟 シュ、ス。色句切 遇

一、裁ち殘りの帛、又、紬の端、きぬぎれ。
二、紺の采色、きぬのいろどり。

幟 バウ、モウ。莫報切 號

古昔支那にては、冠を著くる下地に用ひたるかしらづゝみより轉じて、其の高さを高くし爵位ある者の燕居、又は、奥に乘る時に用ひ、庶民は、常に用ひたるかぶり物、轉下して、すべてのかぶり物、かしらづゝみ、ぼし、づきん。○〔隋〕「「自天子「下及「庶人」通冠之」。

〔冠帽〕冠を著くる。○〔後〕「「—」」。〔冠帽〕帽子を著ぬ。○〔後〕「「以下」「—」」。〔冠帽〕黑色の帽子。○〔北齊〕「鄭仲密「—」」。〔紗帽〕ぬひある帽子。○〔晉〕「「明帝「著「—」」。〔紗帽〕うす紗の帽子。○〔後〕「「著「高「—」」。〔紗帽〕帽子をかぶりてゐる。○〔後〕「「鄭「著「—」」。〔紙帽〕毛紙の帽子。○〔宋〕「「孫「著「—」」。〔紙帽〕紙の四隅なき帽子にて士たる身分の者のかぶるもの。○〔後〕「時「減「冠「—」」。「以「見「貴者」」。〔紙帽〕紙をよせて袋にはれかをかぶせて作りたる帽子。○〔後〕「逢「給「食「紙「—」」。〔紙帽〕本たるべき帽子と。○〔後〕「止「著「—」」。「如」。家人之「帽「冠」。〔紙帽〕にしき紙の帽子。○〔後〕「「紙「著「—」」。〔紙帽〕初相國。〔冠帽〕かぶり。○〔後〕「「屋「著「帽」「始」「立「—」」。〔綠帽〕あや紙の帽子。○〔北〕「「四「—」」。「及「校」」。〔綠帽〕うす紙の帽子。○〔後〕「「珍「珠「—」」。〔彩帽〕黑き帽子。○〔李商隱〕「—」「鳴人」。〔紙帽〕たけひくき帽子。○〔白居易〕「炬「—」」。白「茶「紙」。

幟 セン、セン。則前切 先

はた(幡)。

幟 トウ、ヅ。當古切 麌

はたゝ、旗、又、はたに物をまるしたる處。はたおるし。○〔荀〕「幠」・絲紫縷」。

幅 ベン、メン。彌兗切 銑 まく、〔幕〕。

帑 セウ。子了切 篠 かしらづゝみ、はちまき、〔鞏頭〕又、凶事ありたるときのかしら飾。

幞 キ。居謀切 紙 はかま、〔衣裙〕。

帿 コウ、ク。胡講切 尤 春の饗のときに射るまと。

幀 タウ、チヤウ。猪孟切 敬 畫のある繒を張るはる。

幍 シ、ジ。承紙切 紙 きれ、ふきん、〔巾〕。

幁 シユ、ス。思于切 虞 かしらづゝみ。

帽 チユン。陟倫切 シユン。測倫切 眞 トン。徒損切 阮 米をいるゝふくろ、布の巾にてしつらへたるもの。

幕 ベキ、ミヤク。莫狄切 錫 幕に同じ、おほふ、おほひ。○〔儀〕「尊幕」―賓至徹レ之。

〔幕幕〕おほひ。○〔儀〕「賓有ニ―一」。〔幕々〕おほひ。○〔後漢〕「花蘂輕―」。

幖 ヒウ、ヒヤウ。莫狄切 錫 女の衣をつゝむ巾。

幃 カク、ギヤク。五伯切 麻 ぬふ、紋。

輝 コン。古渾切 元 一に、親に作る。陰部腰下を蔽ふに用ふる巾、ふどし、ふんどし、こしまき、ゆもじ、〔襲衣〕。○〔宋〕「暑月露レ―上」。

〔幃幃〕うらつきの上をしめもに。○〔資治通鑑〕「帳無ニ―一且著」。

帑 ボク、モク。莫卜切 屋 ブ、ム。亡遇切 遇 莫胡切 虞 ボウ、モウ。切 尤 ○うるしぬの〔髹布〕。○かみかけ、〔髹巾〕。○車の衡の上の衣、おほひ。

帑 ボウ、莫候切 宥 キヨク、コク。切 沃 車を覆ふ染めたる布、一戰に、車を覆ふ漆布、くるまかけ。

幣 幣に同じ。

幙 エイ、ヤウ。於驚切 庚 鮮明なる貌にいふ字、あざやか。

記 ハ、博下切 禡 ヘ、博下切 禡 セウ。市昭切 蕭 手をかへしうつ、〔推擊〕。

幢 チヨウ、ヂユ。柱勇切 腫 おほひ、〔幕〕。

幃 井。雨非切 キ。許歸切 微 ○香を盛りいるゝ、囊、にほひぶくろ、小さき、囊、きんちやく。○〔風俗通〕「蘇二囊、壞、以爲レ兮、謂二申、椒其不芳」。○ひとへ、張りの帷、とばり、たれぎぬ。○〔南〕「日垂レ―痛飲而已」。

〔幃幃〕帷にてとしら、たるたれぎぬ。○〔風俗〕「親子―一」。

〔書幃〕書を入れおく袋のたれぎぬ。○〔周邦彥〕「書幃」。

〔幃幃〕ついたてとばり、帷にて、室内の帷。○〔後漢書〕「帷幕弗絕、不絕―一」。

〔低幃〕丈ひくきたれぎぬ。○〔曹植〕「對―一而高歌」。

〔孤幃〕ひとり居る閨のたれぎぬ。○〔曹植〕「對―一而高歌」。

〔朱幃〕あかきいろのとばり。○〔陶潛〕「愛―一而正坐」。

〔蓋幃〕かさなりたるとばり。○〔孟浩然〕「就枕臥、錦幃」。

〔錦幃〕にしきのとばり。○〔李商隱〕「―一和春卿夫人」。

〔風幃〕かぜをふくるとばり。○〔後漢〕「疾透―一」。

幄 アク、オク。於角切 覺 ○四方に引き廻はす帳、ひきまく、まく、とばり、たれぬの。○〔周〕「幕人掌二帷幕―帟綬之事」。○軍中專用の帳。○〔左〕「子產以二―一幕九張」行」。

〔幕幄〕神を祭る時に用ふるたれぬの。○〔儀〕「瓶―一」。

〔定幄〕虎の飾りのつきたる幕。○〔左〕「幣儀幕―一」。

〔帟幄〕たれぬの帳にて作る翅翼、高處、秘密の會議。

〔幕幄〕はでやかなるたれぬの。○〔孫文哲〕「合、衆向―一」。

〔幕幄〕はたをつらねたてたる幕。○〔劉天遠事〕「解、結四周、留之―一」。

〔帟幄〕幕のもと。○〔王徒〕「蛇書―一」。

〔幕幄〕いろとりあるうつくしき幕。○〔劉敬〕「―一衛軍」。

〔帟幄〕親密を謀せる部を設するに用ふ。○〔後漢〕「時―一」。

〔幕幄〕水くさの羅あるたれぬの。○〔宋徽宗〕「―一、春禊改不幟」。

〔岡幄〕宮殿のたれぬの。○〔後漢〕「勇々―一」。

〔宴幄〕書室のたれぬの。○〔崔元旦〕「書幃西鄙幽。―一」。

幅 フク、ホク。方六切 屋 ○布帛などの廣狹、ひろさ、よこはゞ、はゞ。○〔詩〕「―一隕既長」。○布帛又、はゞあるもの、帙、へり、ふち。○〔左〕「富如二布帛之有レ―」。○布帛又、きれ地。○〔孫樵〕「鏤二文錦、―、雲、綃霧、穀」。

〔通幅〕ものゝはしくれとひとより細末なるみえの義に用ふ。○〔後漢〕「反修―一」。

〔半幅〕半分のはゞはんぶん。○〔魏〕「獻歌、天下衣冠之心、惟有二詩書紙―一」。

〔壁幅〕はゞの廣き均しきえ。○〔魏〕「布巾―一、不貫、綿廣二尺」。

〔壁幅〕壁はゞのきれ。○〔魏〕「男女皆以―一、方、貫、綿廣二尺」。

〔全幅〕はゞ一ぱい、又、縫くるとなきはゞ。○〔後漢〕「―一裝飾」。

〔巾幅〕はゞ。

〔袋幅〕きぬ地。○〔韓愈〕「新詩雲―一」。

〔書幅〕きれはゞ、全幅。○〔白居易〕「―一、風生秋」。

〔帽幅〕とばり。○〔後漢〕「―一如春雲」。

幅 ヒヨク、（フク）筆力切 職 ヒキ。腰に下げて裙の上に垂るゝ巾、むかばき、〔行縢〕。○〔左〕「帶裳―鞶」。

〔帟幅〕邪めに足にとゝのへばき。○〔左〕「―一在下」。

〔後幅〕ひたのあるおかばき。○〔子華子〕「帶衣而直幅」。

幅 エイ。於例切 霽 直き幹、えり。

幅 カイ。丘蓋切 泰 時ならずして葬る。

幣 ラツ、ラチ。盧達切 曷 はらふ、ぬぐふ、〔刷〕。

幏 トク、ドク。徒沃切 沃 羽蓐、はたぼこ。

帙 シウ、シユ。側救切 宥 衣伸びすちじむ、ちゞむ、又、ちゞみ、ちわ。

十畫

幌 クワイ、エ。姑回切 灰 キ。矩偉切 尾 いろどり、綵。

帶 エイ、ヤウ。於營切 庚 ○おほふ、〔覆〕。○收め、〔鞏〕、まとふ。

幟 サイ、セ。師廢切 霽 幟―は、衣破る、やる、やぶる、又、ぼろぎれ、つゞれ。

幡 カフ、胡腦切 皓 ゴフ。切 合 アイ。於蓋切 泰 火を吹くに用ふるもの、ひふき。

幏 ハウ、バウ。蒲浪切 漾 ふだ、かきもの、〔書帖〕。

幠 テイ、杜奚切 ダイ。切 テイ、天黎切 ダイ。切 ケイ、カイ。呼雞切 齊 シ。相支切 支 ○幪―は、赤き色の紙、あかがみ。○たれぎぬ、〔帷〕。○なば、〔繩、索〕。

幡 レン。力驅切 齊 戶外に施すたれぬの、のれん。○〔荀〕「承塵戶―」。

幡 リン。黎針切 侵 羽毛の貌にいふ字。

幀 コウ、ク。古紅切 東 衣をつゝむ巾、ふろしき、ころもづゝみ。

幣 ハン。薄官切 寒 ○衣を覆ふに用ふる大いなる巾、おほぶろしき、ころもづゝみ。○はちまき、〔首鞏〕。○ふきん、〔巾〕。

幏 ボウ、モウ。莫紅切 東 莫弄切 送 ころもづゝみ、〔衣巾〕、又、おほひ、〔覆〕、又、大巾、おほぶろしき。又、かぶりもの。

幌 クワウ。胡廣切 養 ○とばり、たれぎぬ、〔帷幔〕。○〔梁簡文帝〕「卷レ―通二河・色一、開レ窗引二月輝一」。○物の屋とする被巾、おほひ、〔ほろ〕。○〔陸龜蒙〕「小爐低―還掩遮」。○髮の上を覆ひて形貌の飾りとなすもの、かみかざり、かしらづゝみ。○〔釋名〕「蘭恢也恢郭覆二髮上也、齊人謂レ―」。

〔書幌〕讀書室のたれぎぬ。○〔北戶錄〕「特設―一、令讀書絳紗」。

〔珠幌〕たまのかざりあるたれぎぬ。○〔拾遺記〕「起二―一之角」。

〔鮫幌〕かをるたれぎぬ。○〔拾遺記〕「起二―一之角」。

〔翠幌〕たれぎぬ。○〔方回〕「繡鮫開―一」。

〔紅幌〕高く張りたるたれぎぬ。○〔後漢〕「紅―一、紫明燭」。

幡 タウ、トウ。他刀切 豪 ○巾にてこしらへたる袂。○條に同じ、うちひも。

幎 ベキ、ミヤク。莫狄切 錫 ○とばり、〔帷、又、すだれ〕、〔簾〕。○おほふ、〔覆〕。○〔儀〕「―レ目用レ綿」。○均しくいたす貌にいふ字。○〔周〕「望而眂二其輪、欲二其一爾而下迎一也」。

幎 ベン、メン。民堅切 先 前條の○に同じ。

滕 トウ、ヅ。徒登切 蒸 帶ぶる小き囊、きんちやく、又、にほひぶくろ。

幏 カ、ケ。古詳切 嘯 蠻國より貢する布、えびすのぬの。○左思二賓―積墻。

幗 ヘイ、邊迷切 齊 ヒ、頻脂切 支 ハイ。切 ○車のとばり。○とばり、〔帷〕のれん、〔簾〕。

幘 コウ、ク。居候切 尤 ひとへ、〔きぬ、ひと〕、〔もの、ひとへ、〔單衣〕。

〔文幘〕あやあるたれぎぬ。○〔賓客〕「―一嚕、嚕鼎」。

〔紫幘〕たれぎぬ又、はた。○〔後漢書〕「田、朱、紫、而紫坐、國―一以單座」。

〔青幘〕あをいろのたれぎぬ。○〔王粲〕「鈴―一、紫紙朱韋」。

〔紫幘〕かをるたれぎぬ、かや。○〔元稹〕「―一雨來稍」。

〔綠幘〕ねやのたれぎぬ。○〔後漢〕「―一、綠背盤」。

〔綠幘〕ちりのつもれるたれぎぬ。○〔高適〕「徐來國―一」。

幅 ヤウ。安古切 麌 ○ぬぐひ、てふき、〔手巾〕。

帥 絅に同じ。

十一畫

幣 セイ、サイ。所例切 霽 帛の殘餘、のこりぎれ、きぬぎれ。

幣 セツ、セチ。先列切 屑 ○前條に同じ、又、裂けたる帛、やれぎぬ。○〔荀〕「帀―囊不レ直錢」。○絹を剪りて製したる花、つくりばな。

幅 桐に同じ。

幅 帥に同じ。

微 キ。許歸切 微 はた、〔幡、まるし〕、のぼり、はたおるし、さしもの、〔幟〕。

幣 リ。陵之切 支 斷ちたる絹、きぬぎれ。

幅 帳に同じ。

幅 ホウ、フ。扶用切 宋 ○てぬぐひ、ふきん、〔巾〕。○かでうがき、〔歌書〕。

幣 セイ、輪芮切 霽 ゼイ。切 シ。指利切 霽 禮儀に用ふる巾、ふきん、てぬぐひ。

幣 セイ、セイ。旋芮切 霽

ぬのぎれ、布巾、てぬぐひ、麈布。

幓 シン、硅幣 **陵** サン、所感 **感** ソン、切 **陵** ソン、切

巻に同じ。衣裳、又は、毛羽の垂るゝ貌にいふ字。○〔揚雄〕「蠖、略裟・綴襭・序—・纜」。

嵾 セン。師炎切 **鹽**

旌旗の正幅、其の日月、又は、龍蛇などの儀を畫きある處、即ち、はたなるしのある部分、はたのみ。

嵾 サン、セン。師銜切 **咸**

はたの身に付屬して垂れ下がりたるもの、はたあし、旒。○〔司馬相如〕「垂三旬始一以爲レ分」。

斬 サン、ソン。子感切 **咸**

未だへりぬひせざる繒。

幔 バン、マン。莫半切 **諫**

連られ綴りて張る帳、ひきまく、まく、ひらとばり、又、覆ひ巾、おほひ。○〔拾遺記〕「周穆・王有二鳳章錦・一」。

〔紬幔〕あぶを張りたる幕。○〔史〕「守者取以—」。〔字〕。

〔羅幔〕うつくしき朋のまく。○〔武寶記〕「—・—屏」。

〔錦幔〕たれぬのとまくと。○〔後漢〕「盛陳—」。

〔帳幔〕とばりまくと。○〔市肆記〕「—・—苫蓆」。

〔綾幔〕赤き色のまく。○〔梁元帝〕「—・—修南伝」。

〔雜幔〕毛織のまく。○〔唐〕「下詔—」。

幕 バク、マク。莫各切 **鐸**

一外表に連られ絡ひて覆ひさなす帳、とばり、たれぬの。○〔左〕「楚・子登巢車一以望二晉軍一・伯州・犂侍二于王後一・王曰、張—矣曰、虔二卜于先・君一也、徹レ—矣曰、將レ發レ命也」。

二物の覆ひに用ふる巾、おほひ、おほひぎれ。○〔唐〕「鄭宗賜公・主墓—」。

三兵具の一臂、又は、脛にまとふもの、こてすれあて。○〔史〕「當レ敵則斬二堅・甲鐵・—一」。

四おほふ、覆。○〔易〕「井收勿レ—」。

五まとふ、絡。○〔爾〕「絡二—草・上一」。

六將軍の政事を行ふ處、其の出でゝ征伐する時には將軍となり征伐果てゝぬれば其の職を已むるゆゑ別に其の廳舍を設けずにまくを張りて府署となしたるよりいふ。○〔摭言〕「同佐・鄭少・師宣州—」。

七砂礦の廣野、すなはち、砂漠。○〔漢〕「衛・青將二六將軍一絕レ—」。

八くらし、暮。○〔爾・註〕「—・然暮・夜」。

〔六墓〕六合のとに借りいふ時、おほふの義より來たる。○〔漢〕「狩・伝—・—浮大海」。

〔宿墓〕こてすれあて。○〔雜名〕「—・—鄭州所名、大和・年・號者也」。

〔布墓〕ぬのゝまく、又、まくを張る。○〔漢〕「管人」。

〔紬墓〕たれぬのとまくと。○〔周・註〕「在旁曰—、在上曰—」。

〔題墓〕くろがれの臂あてと肩あてと。○〔史〕「晉敵則斬・堅・甲—・—」。

〔銷墓〕上を張よまく。○〔蜀都賦〕「張—・—、會」。

〔紬墓〕紬帛のまく。○〔後漢〕「—・—、浜施」。

〔雪墓〕雪を覆ふまく。○〔西京雜記〕「成帝設・雪帳—・—于甘泉宮殿」。

〔紬雪紬〕—・—于甘泉宮殿」。

〔綾墓〕綾帳。○〔杜牧〕「綾帳・—・—千旅雨」。

〔墓墓〕つゝむ、とりまくと上聞ひいふ時。○〔梁武帝〕「—・—書起」。

〔立墓〕黑色が中に赤きを含む色のまく。○〔後漢〕「—・—黑・黍・領」。

〔錦墓〕うつくしき錦繡のまく。○〔梁簡文帝〕「—・—風」。

〔錦墓〕風のまくを吹きあぐるも。○〔白居易〕「春多—」。

幕 バク、マク。莫各切 **鐸**

錦の背の面平かにして文なき處、ぬめ、なめ。○〔漢〕「鋼・賓・國、錦爲二騎・馬一、—爲二人・面一」。

幖 ヘウ。卑遙切 **蕭**

一頭上にたつる幟、又、小さき幟、こばた、又、はたなるし、まるし、又、木を立てゝ綵を其の上に繫ぎて物のまるしとなすもの。○〔宋・濂〕「洞三五・綿一、貫三八・—一」。

二はたなるしの翻る貌にいふ字。○〔杜牧〕「旌・竿—・—旗燦・々」。

樓 ロウ、ル。耶侯切 **尤**

—蛇は、馬に飲ふに用ふる囊、うまかひかご、うまぶくろ、ふくろ。

槽 サウ、ソウ。作曹切 **豪**

小兒の繈、おきもの、おもめし。

鳩 テウ。都了切 **蕭**

きぬ、さりぎぬ、絹。

幗 クワク、キャク。古對切 **隊** 古外切 **泰**

一婦人の髪の上を覆ふに用ふるもの、かみづゝみ、かみかけ、かみかざり、首飾。○〔晉〕「紺—・紺—」。

二婦人が喪の中に著くる冠。○〔晉〕「這・帝巾・—・婦人之飾」。

〔靈帽〕かみかざり、かみづゝみ。○〔漢〕「—」。

〔靈帽〕狀如—・—」。

幘 サク、シャク。側革切 **陌**

一頭上に覆ひ結びて頭髮を整ふる巾、古昔のは、其の制甚だ粗遣にして、卑賤者又は元服せざる者の外は用ひざりしが、漢以後貴顯の人も長大の人もこれを用ふるに至りて、裝飾を加ふるもとゝなれり、かんむり、かしらづつみ。○〔後漢〕「古者有レ冠無レ—」。

二肉冠、とさか。○〔梅堯臣〕「全如二雞・—丹」。

三鶴に通じ用ふ、もろば。○〔左〕「皆—而衣二裡製一」。

〔分幘〕耳の長きかしもろづゝみ、主祀文官の用ふるもの。○〔晉〕「朱衣・—・」。

〔綠幘〕赤き色のかしらづつみ。○〔漢〕「—・—御・輦・馬」。

〔綠幘〕未だ元服せざる者のつくるかしらづつみ。○〔漢〕「今未・冠・笄者、皆・—・—」。

〔巾幘〕かしらづつみ。○〔玉篇〕「去・—・—・—」。

〔黑幘〕たかの尾にて作りたるかんむり。○〔晉〕「—・—」。

〔綠幘〕寢中はつくるかしらづつみ。○〔後漢〕「—・—」。

〔半裙幘〕頭上のあけてあるかんむり。○〔後漢〕「—・—」。

〔密頭幘〕前に同じ。○〔後漢〕「—・—」。

〔平上幘〕上のたひらかにして耳の辺をかんむり、主に、武官の用ふるもの。○〔晉〕「賀・—・—」。

（介幘之圖）

幘 サク、シャク。側革切 **陌**

一頭上に覆ひ結びて頭髮を整ふる巾、

帶二綬・飄・加レ—入二昭・陽殿・前至二席位・拂去レ—」。

幡 クワ、ケ。苦瓦切 **馬**

きぬごろも、帛衣。

幒 シヤウ、ザウ。四亮切 **漾**

未だ笄せざる婦人の首飾、かみかざり。

幢 クワク。忽蓼切 **屋**

帛を裂く聲にいふ字。

幦 レウ。憐蕭切 **蕭** 一—撩に通じ作る。

きぬがさのおほれ、蓋弓。

幝 セン、セン。齒善切 **銑** 稱延切 **先**

タン。他丹切 **寒**

車の弊れたる貌にいふ字。○〔詩〕「檀・車—・—」。

幝 セン。足戰切 **霰**

くるまのおほひ、ほろ、車・衣。

幟 サイ、セ。取外切 **泰**

—・項は、かしらづゝみ、古代に用ひしものとい へり。

幬 幀に同じ。

嶠 ケウ。口妖切 **蕭** カウ、丘祇切 **豪** コウ。切

はかまのひも、袴・紐。

幡 セウ。子小切レウ。則鳥切 **篠**

一に衣に从ひ襦に作る。

ぬぐふ、拭。

幞 ホク、ボク。房玉切 **沃**

一かしらづゝみ、づきん、かみづゝみ、はちまき、帕。○〔晉・史〕「必用二篦・子二入—」。

二つゝむ、裹。○〔廣韻〕「裁・幟・巾・出二四・脚一以—レ頭」。

幞 ホク、ボク。博木切 **屋** 或は、襆に作る。

裳の幅を削りたるもの。

幟 シ。昌志切 **寘**

一旌旗の屬はたの、ぼり、其の徽號標識あるもの。○〔史〕「旗—皆赤」。

二めゝるし、まるし、はたなるし、記號、目標。○〔後漢〕「以二采・縷・繼二其幅一爲レ—」。

〔幟幟〕はたなるし。○〔後漢〕「立二赤・—」。

〔旅幟〕前に同じ。○〔後漢〕「賀・從・後・旅・旗・赤・眉・—」。

〔旗幟〕なるしをつけたるはた、又はたなるし。○〔漢〕「殊・—・—、異・幟・制」。

〔標幟〕めなるし。○〔後漢〕「省・海・軍・中・爲・—」。

〔旌幟〕敵兵をまねきはすべめに立つる旗。○〔宋〕「赤・仙・依・山・幅・—」。

〔旗幟〕軍兵の在らざるに敵をたばかりて立つる旗。○〔後漢〕「即・建・鎮人、・利・—」。

〔彩幟〕いろどりを施したる旗。○〔爾雅・物〕「銀・題・—・—・旗・上・注」。

幟 ヂ。昌志切 **寘**

一旌旗の屬はたの、ぼり、其の徽號標識あるもの。○〔史〕「旗—皆赤」。

二めゝるし、まるし、はたなるし、記號、目標。○〔後漢〕「以二采・縷・繼二其幅一爲レ—」。

〔幟幟〕はたなるし。○〔後漢〕「立二赤・—」。

〔旅幟〕前に同じ。○〔後漢〕「賀・從・後・旅・旗・赤・眉・—」。

〔旗幟〕なるしをつけたるはた、又はたなるし。○〔漢〕「殊・—・—、異・幟・制」。

〔標幟〕めなるし。○〔後漢〕「省・海・軍・中・爲・—」。

〔旌幟〕敵兵をまねきはすべめに立つる旗。○〔宋〕「赤・仙・依・山・幅・—」。

〔旗幟〕軍兵の在らざるに敵をたばかりて立つる旗。○〔後漢〕「即・建・鎮人、・利・—」。

〔彩幟〕いろどりを施したる旗。○〔爾雅・物〕「銀・題・—・—・旗・上・注」。

幟 サン。蘇旱切 **旱**

きぬがさ、かさ、蓋。○〔書〕「功・曹・吏・—・扇騎・從」。

幟 シュ、ス。詞趨切 **虞**

れがけのきぬぎれ、紳・頭。

〔紳幟〕結びたる紳の根に結ぶされ、ねがは。○〔宋書〕「布・帽・—・用・勝・紳・麻布一・條・長八・寸、以・束・根・西・要・北・綠・紳・後・—」。

幟 シ、ニ。而至切 **寘** ゲ、女利 **霽**

かざり、飾。

幡 ハン、ヘン。孚袁切 **刪**

一字を書く旗を拭ふ布、ふだぶきん。○〔徐鉉〕「觚八・稜木・於上・學書・已以布拭之・今俗呼二・—布一」。

二はたのぼり、幟。○〔漢〕「博・士弟子王・成・舉二・大・學下・曰、欲レ・敎・鮑・司・隸・者・會二此下一」。

三翻に通じ用ふ、ひるがへる、とぶ。○〔孟〕「既而—・然改」。

〔信幡〕祭祀のあるはた。○〔晉〕「—・—古之・祭・號・也、所以題・表・官・號、以・爲・符・信」。

〔三幡〕色色・祭・祀の三幡のこと。○〔孫綽〕「鳳色・密・以・今・號、・即・有・雨・骨・女・輕・三・名之・間・出、・猶・二・無・殺・—・—」。

〔種々〕〔史〕「疾・飛・殺・殺・以・上・語。○〔註〕「種々・—・—・謀・欲・語・言」。

〔ろ〕かるがへる。○〔註〕「廣・雅・—・—」。

〔錦幡〕前に同じ。○〔司馬相如〕「日・旬・—・—」。

〔花幡〕はなのはた。○〔三國・志〕「有・道・人、・轉・三・尺・—・—」。

〔紙幡〕めゝるはた。○〔陳・燭・賦〕「—・—・飛・蹄・雖」。

〔小幡〕ちひさきはた。○〔蘇・軾〕「神・幡・—・—・雁・正・—」。

幣 ヘイ、ハイ。毗祭切 **霽**

一神にさゝげ、君にみつぎ、又、賓客に

幡 ハン、ヘン。孚袁切 **刪**

一字を書く旗を拭ふ布、ふだぶきん。○〔徐鉉〕「觚八・稜木・於上・學書・已以布拭之・今俗呼二・—布一」。

二はたのぼり、幟。○〔漢〕「博・士弟子王・成・舉二・大・學下・曰、欲レ・敎・鮑・司・隸・者・會二此下一」。

三翻に通じ用ふ、ひるがへる、とぶ。○〔孟〕「既而—・然改」。

〔信幡〕祭祀のあるはた。○〔晉〕「—・—古之・祭・號・也、所以題・表・官・號、以・爲・符・信」。

〔三幡〕色色・祭・祀の三幡のこと。○〔孫綽〕「鳳色・密・以・今・號、・即・有・雨・骨・女・輕・三・名之・間・出、・猶・二・無・殺・—・—」。

〔種々〕〔史〕「疾・飛・殺・殺・以・上・語。○〔註〕「種々・—・—・謀・欲・語・言」。

〔ろ〕かるがへる。○〔註〕「廣・雅・—・—」。

〔錦幡〕前に同じ。○〔司馬相如〕「日・旬・—・—」。

〔花幡〕はなのはた。○〔三國・志〕「有・道・人、・轉・三・尺・—・—」。

〔紙幡〕めゝるはた。○〔陳・燭・賦〕「—・—・飛・蹄・雖」。

〔小幡〕ちひさきはた。○〔蘇・軾〕「神・幡・—・—・雁・正・—」。

幣 ヘイ、ハイ。毗祭切 **霽**

一神にさゝげ、君にみつぎ、又、賓客に

幟 ダウ、ドウ。宅江切 **江**

一儀衛又は、指麾に用ふる旌旗の屬、はたぼこ。○〔漢・建〕「—・柴・植・羽・葆」。

（幟之圖）

二支ふるもの、つゝひばしら。○〔觀元量論經〕「七・寶金・—・擎・三・宿・鳴・地」。

三たれぎぬ、とばり、幕。○〔張仲素〕「蕭然・山・下・碧・油・—」。

四露され蔽はれたる貌にいふ字。○〔元眞〕「殘・燈・無・焰・影・—・—」。

〔牙幟〕大將の立つるはたぼこ。○〔三〕「遂乃・錄・錄・—・—」。

〔戰幟〕はたぼこ。○〔梅堯臣〕「鼎・笑・新・—・—」。

〔高幟〕たけたかきはたぼこ。○〔朱・彝〕「鳴・鏡・鑾・—・—」。

〔鑾幟〕風風のかたち、金・鈴きたるはたぼこ。○〔顧・況〕「即・新・擊・鑾・旗・—・—」。

幢 ダウ、ドウ。直降切 **絳**

一婦人の乘る車蓋に飾り下げたるたれぎぬ、ほろ。○〔韓愈〕「青・—紫・蓋立・童童」。

幢 トウ、ヅ。徒東切 **東**

羽毛、布帛などの垂れ下がれる貌にいふ字。○〔張衡〕「樹・羽・—・—」。

幣 ヘイ、ハイ。毗祭切 **霽**

一神にさゝげ、君にみつぎ、又、賓客に

おくるなどの帛、ぬさ、にぎて、みつぎもの、つかひもの、禮物。○〔莊〕一進。所レ持―而扶翼」。

㊀價ある物。たから、財物。○〔横退理窟〕「一者金玉錦革泉布之雜名」。

㊁通用の錢貨。ぜに、かね、さつ。○〔漢〕「改レ一以約レ之」。

〔新書〕つかひもの、きぬ。○〔孟子〕「親―一非―」。

〔論衡〕前に同じ。○〔後漢〕「宦官傳序」「時進―」。

〔風俗〕宗廟を祭る國にきぬを敷する時。○〔禮〕「玉曰事玉、幣曰―」。

〔皮幣〕かはときぬと、又、皮にて作りたるつぼにもいふ。○〔史〕「帝之以―」。

〔魏書〕周の時代官の名にて官府都鄙の幣を取扱ふを掌る。○〔周〕「―」。上士二人、中士四人。

〔正幣〕きまりたる幣物。○〔禮〕「若土地無―」。

〔周禮〕土中にうづむるにて。○〔儀〕「―必讀」。

〔重幣〕手厚きつかひもの、又、おもき貨幣。〔郭子〕「鐵錢在。」○〔周〕「民患―」。

〔道幣〕貨幣をつくること。○〔史〕「天子親―公卿」。

〔夏錦〕「―」以聞用。

〔編幣〕貨幣をいて作る。○〔管〕「器以―莊山之金」。

〔貨幣〕世間に流通する金銀。○〔後漢〕「初王莽竟亂後―」。

〔幣帛〕めづらしき財物。○〔史〕「武帝出―」。

〔幣帛〕幣に。○〔史〕「有詔改―」。

〔幣帛〕前に同じ。○〔宋〕「今―所」。

〔幣〕「人主」。

〔幣〕米麻に潤る定めの品物。○〔宋〕「―」。

〔幣〕紙にて作りたるさつ。○〔方言〕「明」。

〔方幣〕「―」。

〔方幣〕刀の形をなしたる錢。○〔管〕「黃金―」。

十三畫

幕 幕に同じ。

ケウ。古了切　古弔切

幟 車の覆蓋ですりかけ、まきみおほひ。○〔禮〕「君蒲―虎幄」。

キヤク。詰歷切

幣 車に張る幕をたれ蓋。○〔周〕「侍女直乘―」。

〔深幣〕車に張る幕をたれ蓋。○〔周〕「侍女直乘―」。

幔 車の四旁に垂れ下がれる巾、くるまのたれぎぬ。○〔歐陽修〕「擁レ蓋垂」。

㊁牀の前に用ふる帷、とばりたれぬの。○〔東官舊事〕「有二綠石綺組一裏牀」。

㊂たつ、〔絕〕。○〔周〕「筋之所―由」。

〔彤幔〕車にかくる赤きたれぬの。○〔沈佺期〕「―向野敍」。

〔車幔〕くるまにかくるたれぬの。○〔周〕「莊」。

〔錦幔〕車又舟などの中にかくる赤きたれぬの。○〔史〕「齊蓋―」。

幔 車の覆蓋ですりかけ、まきみおほひ。○〔禮〕「君蒲―虎幄」。

セウ。七遙切　サウ、ソウ。七刀切

幡 一に〔綃幡〕に作る。

セン。盡古切

幡 鬢を覆ふ巾、頭に卷く巾、もとどりおほひ。かしらづゝみ。ばちまき。○〔揚雄〕「自レ河以北趙魏之間、曰―頭」。或謂二之帕一。

セン。呂豔切

幡 旗。

サツ、セチ。山愛切

幡 車にかくる赤きたれぬの。○〔沈佺期〕「―」。

〔車幡〕くるまにかくるたれぬの。○〔周〕「莊」。

〔錦幡〕車又舟などの中にかくる赤きたれぬの。○〔史〕「齊蓋―」。

幡 旗。

セン。呂豔切

幡 旗。

サツ、セチ。山愛切

幡 衣を束ねすはだぬぐ、おびさく。

ケウ。古了切　古弔切

幅 俗の幅の字。

幕 幕に同じ。

幕 幕に同じ。

幕 幕に同じ

（ろ）直く伸びひろがりたること。○〔虛照隣〕「闕—雲萬里—」。
（は）面の滑かなること。○〔丁謂〕「緻理肌—」。
（に）危からざること、けはしからざること。○〔柳貫〕「雲梯忽斷山—」。
（ほ）同等なること、均しきこと、かたおちなきこと、又、ひとし。○〔史〕「國賦大—民富而府庫實」。
（へ）眞直なること、正しきこと、よこしまならざること。○〔論〕「心—體正持」。
（と）治まりて安きこと、おだやかにして無事なること、靜和なること。○〔路史〕「陶唐氏不レ施二智力一、而萬國—」。
（ち）爲し難からざること、むつかしからざること、煩はしからざること、又、易し。○〔史〕「—易近民」。
（り）滿足すること、うれしく思ふこと。○〔賈島〕「誰有二不レ—事一」。
二 ひろくしてたひらかなる地、大なる野、廣原、たひら、ひら。○〔韓愈〕「沙、篆印二迴—一」。
三 普通なること、奇ならざること、異ならざること、つれ、なみ。○〔指月錄〕「如何是道、泉曰—常心是道」。
四 たひらぐ。
（い）騷亂治まる、寇賊滅ぶ、伏從す。○〔魏〕「歷世連誅—、朝而—」。
（ろ）怨解けてよしみ結ばる、和睦成る。○〔左〕「始—于齊—也」。
（は）騷亂を鎭む、寇賊を除く、時ち從ふ。○〔進〕「—夷狄之亂」。
（に）怨を解きよしみを結ぶ、和睦す。○〔春秋〕「宋人及二楚人一—」。
五 たひらかにす。

（い）たかひくなほす、なだらかにすならすなめらかにす。○〔周、註〕「摩レ之」。
（ろ）均しくす、正す、調ふ、治む。○〔史〕「將三以教民一—二好惡二」。
六 法を司る官、其の事を行ふにたひらかならざるべからざる義。○〔史〕「廷尉天下之—也」。
七 穀類一年にふたゝび登ること。○〔漢〕「再登曰レ—」。
（あ）十二月の異名。○〔史〕「正名曲曰—」。
（い）めでたき樹木の名、世の治まる時に生ずといふ。○〔張衡〕「瑞——於春園」。
（う）やはらぎおだやかなり。○〔魏〕「桑蓬—」。
（え）たゞし。○〔史〕「論語—」。
（お）寡然にして正し。○〔史〕「禪中禪—北—」。
（か）一に、太平に作る、國家の總て善く治まること。○〔後漢〕「政隙—」。
（き）國家の治まりて無事なること。○〔漢〕「既入之功、恕於小過、以致—」。
（く）前に同じ。○〔漢〕「今宮世—」。
（け）一に、昇平に作る、隣前に同じ。○宋之問「相興樂—」。
（こ）前に同じ。○〔漢〕「海內—」。
（さ）明らかに正し。○〔漢〕「既釋—」。
（し）平凡なること。○〔後漢〕「所言—」。
（す）きまらかに治まる。○〔後漢〕「有—」。
（せ）「天下之心」。
（そ）といしの如く極めて平らかなること。○〔韓都賦〕「長庭—」。
（た）均平にひとしく正し。○〔徐陵〕「朝昇夕夜朋—」。
（ち）四方高遠なくたひらかなること。○〔魏〕「地—」。
（つ）同平。
（て）切りたひらぐ。○〔魏〕「故華顛—」。
（と）「表、—、—」和衍。
（な）〔公羊〕おだやかに正しく私曲なきこと。○〔史〕「三目、—」可觀。
（に）〔管〕ゆるやかに正しく。○〔史〕「治以—」。
（ぬ）〔舜〕ひとしきこと。○王觀之「前後—」。
（ね）〔俎〕高低なくたひらかなること。○〔劉禹〕「塹路新修圖—」。

（の）〔後漢〕前に同じ。○〔晉〕「木繁陰—」。
（は）〔天孝〕天然のよはひ。○〔國〕「事稍節、以國—」。
（ひ）〔生孝〕此の世に生れ出でたること。○〔後漢〕「稱—」以裘不聞天下有紛亂」。
（ふ）〔孟孝〕國年をいふ。○〔魏〕「昭以京都有—」。
（へ）〔孟孝〕之餘、種修一年之運」。
（ほ）〔孟孝〕死期に近かづきたること。○〔宋〕「—事佛法精」。
（ま）〔機孝〕前に同じ。○〔高適〕「—學勤學」。
（み）〔孟孝〕年をわすること。○〔魏〕「因給—」。
（む）〔孟孝〕天然のよはひを終ること。○〔莊〕「可以全生」。
（め）〔孟孝〕さかりの年。○〔晉神獸〕「懇—」之說。
（も）〔孟孝〕二十歲前後の年。○〔孝經〕「—事愛敬」。
（や）〔孟孝〕年老いたること。○〔社甫〕「寫報各—」。
（ゆ）〔孟孝〕あまりの年、又、其の餘食。○〔韓愈〕「貴誓、表行、惟—」。
（よ）〔孟孝〕年を經ること。○〔魏〕「—」長久。
（ら）〔孟孝〕すえの年。○〔左〕「—乃三百歲」。
（り）〔紀孝〕世紀年月。○〔左〕「臣小人愚不知—」。
（る）〔孟孝〕其の年。○〔蘇軾〕「周行華次記—」。
（れ）〔孟孝〕幾年月をかさねること。○〔後漢〕「所屬之官、歸—不法」。
（ろ）〔孟孝〕前に同じ。○〔後漢〕「輔—朝先帝、出自」。
（わ）〔孟孝〕去り行く年月。○〔後漢〕「—已既」。
（か）〔孟孝〕前に同じ。○〔社甫〕「野—屋」。
（よ）〔孟孝〕十年のこと。○〔魏〕「佚之—」、「留官民安」。
（た）〔孟孝〕久しき年月。○〔後漢〕「皆——歷歲、乃能克敵」。
（れ）〔孟孝〕若年といふに同じ。○〔管〕「可以養—」。
（そ）〔孟孝〕年をかさねること。○〔魏〕「—八吉」。
（つ）〔孟孝〕年より年につゞく。○〔後漢〕「秋雨—」。
（な）〔孟孝〕二十五歲壯といふよりいまだ壯年にもなる時をいふ。○〔史〕「—使有帝世禮」。
（ね）〔孟孝〕まこと一年。○〔後漢〕「—孤、呂」。
（ら）〔孟孝〕わかき年のときに少年に同じ。○〔後漢〕「減—」。
（む）〔孟孝〕年月のこと。○〔後漢〕「多歷—」。
（う）〔孟孝〕女子二十歲のこと。○〔宋〕「—、字、老」。

（ゐ）〔孟孝〕前に同じ。○〔史〕「木繁陰—」。
（の）〔孟孝〕天然のよはひ。○〔後漢〕「事稍節、以國—」。
（お）〔孟孝〕此の世に生れ出でたること。○〔後漢〕「稱—」以裘不聞天下有紛亂」。
（く）〔孟孝〕國年をいふ。○〔後漢〕「昭以京都有—」。
（や）〔孟孝〕之餘、種修一年之運」。
（ま）〔孟孝〕死期に近かづきたること。○〔宋〕「—事佛法精」。
（け）〔孟孝〕前に同じ。○〔高適〕「—學勤學」。
（ふ）〔孟孝〕年をわすること。○〔魏〕「因給—」。
（こ）〔孟孝〕天然のよはひを終ること。○〔莊〕「可以全生」。
（え）〔孟孝〕さかりの年。○〔晉神獸〕「懇—」之說。
（て）〔孟孝〕二十歲前後の年。○〔孝經〕「—事愛敬」。
（あ）〔孟孝〕年老いたること。○〔社甫〕「寫報各—」。
（さ）〔孟孝〕あまりの年、又、其の餘食。○〔韓愈〕「貴誓、表行、惟—」。
（き）〔孟孝〕年を經ること。○〔魏〕「—」長久。
（ゆ）〔孟孝〕すえの年。○〔左〕「—乃三百歲」。
（め）〔孟孝〕世紀年月。○〔左〕「臣小人愚不知—」。
（み）〔孟孝〕其の年。○〔蘇軾〕「周行華次記—」。
（し）〔孟孝〕幾年月をかさねること。○〔後漢〕「所屬之官、歸—不法」。
（ゑ）〔孟孝〕前に同じ。○〔後漢〕「輔—朝先帝、出自」。
（ひ）〔孟孝〕去り行く年月。○〔後漢〕「—已既」。
（も）〔孟孝〕前に同じ。○〔社甫〕「野—屋」。
（す）〔孟孝〕十年のこと。○〔魏〕「佚之—」、「留官民安」。
（ん）〔孟孝〕久しき年月。○〔後漢〕「皆——歷歲、乃能克敵」。
（ゑ）〔孟孝〕若年といふに同じ。○〔管〕「可以養—」。
（ひ）〔孟孝〕年をかさねること。○〔魏〕「—八吉」。
（も）〔孟孝〕年より年につゞく。○〔後漢〕「秋雨—」。
（す）〔孟孝〕二十五歲壯といふよりいまだ壯年にもなる時をいふ。○〔史〕「—使有帝世禮」。
（ん）〔孟孝〕まこと一年。○〔後漢〕「—孤、呂」。
（ゑ）〔孟孝〕わかき年のときに少年に同じ。○〔後漢〕「減—」。
（ひ）〔孟孝〕年月のこと。○〔後漢〕「多歷—」。
（も）〔孟孝〕女子二十歲のこと。○〔宋〕「—、字、老」。

平　ヘイ、ヒヤウ　皮命切　敬

辨（ろ）ち治めて偏頗なし、ひとし。○〔書〕「無レ黨無レ偏王道—」。

三畫

年　デン、チン。　奴顯切　先

（い）五穀熟すると、みのり。○〔左〕「大有レ—」。
（ろ）陽曆にては、地球の軌道を運行して太陽の周圍を一周する時間、陰曆にては、月の軌道を運行して地球の周圍を十二周する時間、其の間に五穀の一たびみのる義。○〔周〕「正歲—」以序レ事。
（は）人の斯の世に生息する時間、曆の改まるをも一段となして數ふ、よはひ、〔餘壽〕。○〔左〕「五、叔無レ官、曷尙レ哉」。
（に）時時代。○〔司馬遷〕「當—不レ能レ究二其禮一」。
（ほ）五穀のよく熟すること。○〔春秋〕「桓公三年」。
（へ）前に同じ、又、其のとし。○〔范成大〕「—四海皆豐稔」。
（と）一萬歲のこと、永きよはひのこと、長壽を祝するにいふ語。○〔魏〕「天子—」。
（ち）春秋の如く年月により編年、歷史の體をいふ。○〔魏〕「部君士燮傳序」「長不記—」而傳列傳」。
（り）年わかき時、又、其の時。○〔史〕「僕臨厚中」。
（ぬ）年老いてのこと。○〔後漢〕「—」。
（る）年老いてのこと。○〔後漢〕「—」。
（を）年老いたる者。○〔後漢〕「前—」。
（わ）年老けたる者。○〔後漢〕「—」。
（か）〔高孝〕「右之道也」。

（よ）〔長孝〕前に同じ。○〔史〕「木繁陰—」。
（た）〔天孝〕天然のよはひ。○〔後漢〕「事稍節、以國—」。
（れ）〔生孝〕此の世に生れ出でたること。○〔後漢〕「稱—」以裘不聞天下有紛亂」。
（そ）〔孟孝〕國年をいふ。○〔後漢〕「昭以京都有—」。
（つ）〔孟孝〕之餘、種修一年之運」。
（な）〔孟孝〕死期に近かづきたること。○〔宋〕「—事佛法精」。
（ね）〔孟孝〕前に同じ。○〔高適〕「—學勤學」。
（ら）〔孟孝〕年をわすること。○〔魏〕「因給—」。
（む）〔孟孝〕天然のよはひを終ること。○〔莊〕「可以全生」。
（う）〔孟孝〕さかりの年。○〔晉神獸〕「懇—」之說。
（ゐ）〔孟孝〕二十歲前後の年。○〔孝經〕「—事愛敬」。
（の）〔孟孝〕年老いたること。○〔社甫〕「寫報各—」。
（お）〔孟孝〕あまりの年、又、其の餘食。○〔韓愈〕「貴誓、表行、惟—」。
（く）〔孟孝〕年を經ること。○〔魏〕「—」長久。
（や）〔孟孝〕すえの年。○〔左〕「—乃三百歲」。
（ま）〔孟孝〕世紀年月。○〔左〕「臣小人愚不知—」。
（け）〔孟孝〕其の年。○〔蘇軾〕「周行華次記—」。
（ふ）〔孟孝〕幾年月をかさねること。○〔後漢〕「所屬之官、歸—不法」。
（こ）〔孟孝〕前に同じ。○〔後漢〕「輔—朝先帝、出自」。
（え）〔孟孝〕去り行く年月。○〔後漢〕「—已既」。
（て）〔孟孝〕前に同じ。○〔社甫〕「野—屋」。
（あ）〔孟孝〕十年のこと。○〔魏〕「佚之—」、「留官民安」。
（さ）〔孟孝〕久しき年月。○〔後漢〕「皆——歷歲、乃能克敵」。
（き）〔孟孝〕若年といふに同じ。○〔管〕「可以養—」。
（ゆ）〔孟孝〕年をかさねること。○〔魏〕「—八吉」。
（め）〔孟孝〕年より年につゞく。○〔後漢〕「秋雨—」。
（み）〔孟孝〕二十五歲壯といふよりいまだ壯年にもなる時をいふ。○〔史〕「—使有帝世禮」。
（し）〔孟孝〕まこと一年。○〔後漢〕「—孤、呂」。
（ゑ）〔孟孝〕わかき年のときに少年に同じ。○〔後漢〕「減—」。
（ひ）〔孟孝〕年月のこと。○〔後漢〕「多歷—」。
（も）〔孟孝〕女子二十歲のこと。○〔宋〕「—、字、老」。

〔羅孝〕前に同じ。○〔參同契〕「—、—、—、

跪二梁乎井一之上一。

（ろ）前項の形をなせるもの。○〔漢〕「武帝立二井一樓一高五十丈」。

幹 管に同じ、あづかる、つかさどる。○〔漢〕「石顯一二尚書一」。

彙 ケン。古典切 銑

小さく束ぬ、つかぬ、又、束ねくゝりたるもの。たば、又、禾十把の稱、いれたば、とたば。○〔氾勝之書〕「藝レ麻之法、一欲レ小」。

幷 ヘイ、ビヤウ。旁經切 耕

一たばら、板。二ふご、畚。三たけのうつは、竹器。

幺 部

幺 エウ。於堯切 蕭

一ちひさし、小。○〔陸機〕「猶二蚊一而徹急」。二なさなし、いとけなし、幼。○〔班彪〕「一一廢尚不レ及二數子一」。

（新名）ちひさし。○〔新唐書〕「嘉之一一」。

一 畫

幻 クヮン、胡甸切 霰 ゲン。胡辨切 諫

一詐惑す、まどはす、いつはる、あざむく、くらます。○〔書〕「民無二或胥一」。

二變化す、かふ、かはる。○〔王光遷〕「神三五一色于變一一」。

三物象の假りにあらはれ見えて間もなく化ばり消ゆると、まぼろし。○〔蘇軾〕「此生如レ一耳」。

四人目かくらます術、てじな、まほふ、妖術。○〔法苑珠林〕「秘一一奇伎」。

（夢幻）ゆめまぼろし。○〔金剛經〕「一一泡影」。

（鏡幻）てじな、まほふ。○〔北〕「鏡幻一一」。

（見幻）とりとめなく信ずべからず。○〔西山真誥〕「太一天尊靈神經」「浮花一一」。

（浮幻）とりとめなし。○〔梁昭明太子〕「誠云一一、何都不了識實之中見此一一」。

（虛幻）いつはり。○〔鏡寶〕「一一無實」。

（幻幻）前に同じ。○〔元好問〕「一一若無實」。

幼 イウ、ユ。伊謬切 幼

一年齡少し、なさなし、いとけなし。○〔儀〕「樂二爾一志」。

二なさなき者、いとけなき人、こども。○〔戰〕「民扶レ老携一一」。

三なさなき者を慈愛す。○〔孟〕「一二我幼一以及二人之幼一」。

四漢の王莽の時の錢の名。○〔漢〕「徑八寸重五銖、曰二一錢一直二十」。

（童幼）こども。○〔史〕「機一一、分帶書」。

（雅幼）前に同じ。○〔後漢〕「百歲仍一一」。

（嬰幼）おさなかにしていとけなし。○〔漢〕「無有一一不育之嗣」。

（稚幼）前に同じ。○〔孟〕「孟訓一一」。

（孩幼）ちのみご。○〔陸龜蒙〕「殷室弊一一」。

幼 エウ。一筴切 嘯

精微ぐはしこまやかいみじ。○〔司馬相如〕「聲一妙而復揚」。

幼 袖に通じ用ふ、たび。

劣 幼に同じ。○〔皇甫君碑〕「一挺二嘯龍之采」。

二 畫

幼 イウ、ユ。（エウ）。伊謬切 幼

幽 イウ、ユ。於虬切 尤

三 畫

幽 イウ、ユ。於虬切 尤

一かくる、隱。○〔易〕「一一人貞吉」。

二くらし、闇。○〔書〕「豐三昏一明」。

三深微、かすか。○〔史〕「極レ而不レ隱」。

四深遠、おくふかし。○〔詩〕「一一南一山」。

五無形。○〔易〕「一一明之故」。

六陰。○〔史〕「一一明雌雄也」。

七雌。○〔史〕「一一明雌雄也」。

八夜。○〔王延壽〕「一星之纏連」。

九冥界、よみぢ。○〔管〕「一一明之間」。

十鬼神、かみ。○〔北〕「至順感レ」。

十一黑色、くろ。○〔詩〕「其葉有レ一」。

十二あらはれざる方處、明かならざる場所。○〔後漢〕「光一照六一一」。

十三とらふ、らとはる囚。○〔揚惺〕「身一一北闕」。

十四暗處に閉置して醫醉せしむ、れかす。○〔說文〕「配一レ赤」。

（幽囚）囚を閉かに。○〔易〕「幽人一一」。

（幽幽）きよらかはしておくゝかし。○〔孝經〕「幽一一」。

（幽幽）（ゆ）おくゝかし。○〔後漢紀〕「元之一一」。

（ろくらし）。○〔雜詩外傳〕「天一一」。

（はるものさびし）。○〔梁書〕「蘭臺一一」。

（幽幽）かたるなか。○〔玉篇〕「一一閒皮韵」。

幽 ハウ、ヒヤウ。悲萌切 庚

すみ繩をあてがひて物を直くす。

幽 ハウ、ヒヤウ。悲萌切 庚

妙に通じ用ふ。

紗 エウ。切笑 嘯 於喬切 蕭

小さき貌にいふ字、ほそし。

紗 エウ。切笑 嘯 於喬切 蕭

紗 エウ。於喬切 蕭 一笑切 嘯

急しく戻る、もどる。

紗 エウ。一兆切 篠

絲のより急にもどる、もどる。

四 畫

幾 キ、ケ。居依切 微

一あやふし、危。○〔詩〕「維其一矣」。

二發動の微、きざし。○〔易〕「一者動之微吉之先見者也」。

三發動の因もと。○〔揚雄〕「爲レ政有一一」。

四とき、期。○〔詩〕「如レ一如レ式」。

五こひねがふ、願。○〔史〕「毋レ爲レ爲君」。

六みる、察。○〔周〕「一二出入不物」。

七ちかし、近。○〔易〕「月一一望」。

八ほとんど、殆。○〔史〕「一敗二乃公之事」。

九期待する意を表はす字、なにとぞ、おほかた、ちかくは。○〔漢〕「子孫一及二君時」。顏立二產業基趾一」。

十器具の沂驅、へり、ふち。○〔禮〕「丹漆雕一一之美」。

十一訖盡す、つゞく、なはる。○〔莊〕「適得而一矣」。

幾 キ、ケ。居依切 微

一量又は程の不定なるにいふ字、なにほど、どれほど、いくゝ、いかばかり、いくばく。○〔史〕「上問車中一馬」。

二豈に通じ用ふ、あに。○〔荀〕「一爲レ知計哉」。

幾 キ、ケ。其既切 未

未だ已まず。

嬉 エイ。於鬼切 霽

成し遂げずして急ぎ戻る、もどる。

十一 畫

徯 シ。斯氏切 紙 セイ、千禮切 齊

すこし、小。

𢧵 纖に同じ、つぐ。○〔莊〕「得レ水則爲レ一」。

𢧵 古文の絶の字、たつ。○〔路溫舒〕「一者不レ可二復屬一」。

十三 畫

𢧵 キツ、ゴチ。具迄切 質

一ちかし、近。二あやふし、危。三せまる、切。

广 部

广 ゲン。疑檢切 琰

一厰に依りて構へたる家、いはや。○〔黃彥〕「裁覆二崖一架二窒洪一」。

一棟の頭、むなぎ。○〔韓愈〕「剖竹走二泉源一、開二廊架一崖一一」。

（草广）ゆねをなおおにしたるいはや。○〔袁桷〕「一一如一神」。

二 畫

庀 ヒ。普餌切 紙

一そなふ、具。○〔左〕「官一一其司」。二なさむ、治。○〔左〕「楚子木使レ一賦」。

庀 ヒ。必至切 寘

庭に通じ用ふ、おほふ、かげ。○〔周〕「一二其委積一」。

庁 テイ、チヤウ。丁切 青

一たひらか、平。二砺に通じ用ふ、いしぶみのいし。

庋 ショク、（ソク）。阻力切 職

赤一は、漢の時の錢の名。○〔漢〕「令二京師鑄官一赤一一當レ五、其後二十錢赤一一錢賤、民不レ便又廢」。

三 畫

庐 古文の宅の字。

庐 古文の度の字。

庁 サ、セ。所嫁切 禡

一母屋の側にはりいだして設けたる家、なれさしき、つのや、旁屋。二いやし、賤。

庆 ゲン。魚掩切 琰

齊一は、いやし、又、ひとし。

庆 ヒ。必至切 寘

一おほふ。（い）助け護る、かばふ。○〔國〕「周恭王能一一照穆之闕」。（ろ）被らす、かくす。○〔令狐楚〕「綿々葛藟下一一其根」。

二寄る、たよる。○〔呂氏春秋〕「則民知レ所一一炎」。

三かげ。（い）助け、たより。○〔中說〕「生民有一一」。（ろ）覆ひ。○〔許敬宗〕「欣一託棄之有一一」。

（犬庇）いたくかばふ。○〔左〕「一一民乎」。

（依庇）たよる、かばふ。○〔後漢〕「明德有所一一、死復何恨」。

（由庇）從無依頼してかばふ。○〔史〕「納二軍師一一之」。

（保庇）かばふ。○〔史〕「助力爲一一以及詩」。

（蔭庇）魚の保護によるとゝかばふ。○〔平〕「魚」「以一一之地、水爲子孫之計」。

（影庇）前に同じ。○〔別所元色〕「宮戸城攻名詩勢後、以求一一」。

（天庇）君上の加護。○〔陳琳出官後自叙表〕「臣有二歌功、實由一一」。

（援庇）助け。○〔元稹〕「無一親當路託一一」。

（給庇）よる、たより。○〔歐陽修〕「一一餘、過手非庶」。

庇 キン、コン。巨今切 侵

人の名。

庇 トン、ドン。杜本切 阮

一二階のかべ、欄牆。二屯案する處、たむろ。三室內の物を置く處、くら、なんど。

庇 トン、ドン。徒孫切 元

一すまひ、すみか、居。二火の盛んにおこる貌にいふ字、さかんなり。○〔爾〕「風與レ火爲レ一」。

庇 トン、ドン。徒困切 願

いへ、舍。

床 俗の牀の字。

灰 奮に同じ。

灰 ス井。尸類切 賄

屋深し、ふかし、又、おくまりたるいへ。

庋 キ。過委切 紙

一木、廠に作る。

一物を載せ置く棚。おきだな、ぜんだな。書籍だな。○〔世說〕「傾レ筐倒レ」。
二棚にのす又、おく。○〔唐〕「前後賜予緘——不敢用」。

庌 カ、ゲ。語下切 馬 五駕切 碼

一正しく大いなる家、いへ、又、まんどころ。〔禮〕又、ひさし、ひよけ、おほひ。〔廡〕。○〔六書故〕「廊廡四達之謂レ」。
二おほひを設く、おほひをなす、おほふ。○〔周〕「夏—レ馬」。

庌 カ、ゲ。牛加切 麻

庌——はひさしからざるにいふ語、かたゝがひ。

庂 カイ、ケ。居拜切 卦

一に、榥に作る。
ぜん棚の板、たないた。○〔六書故〕「—度版、令レ足三流レ水以受二滌瀝一、今人設之於廚」。

庠 ス井、ズ井。徐醉切 寘

灰を集めおく小屋はひごや。

庄 ヅン、ニン。如林切 侵

ふも、ふたもと。〔下〕。

庇 タン、ドン。徒含切 覃

かげ〔陰〕。

戾 クヲン、ゲン。胡關切 刪

一屋を葺くに下に据うる瓦、下のかばち、ひめがはら、牝瓦〔上覆ひの牡瓦に對していふ〕。
二おほづな〔維綱〕。

序 ショ、ゾ。象呂切 語

一堂の東西にある牆、かき、内外を區別する爲めに設けたるもの。○〔爾〕「東西牆謂二之—一」。
二廂ひさし。○〔書〕「四—東廂」。
三學問藝術を教へ學ばしむる處、まなびどころ、學校。○〔禮〕「家有塾黨有レ庠、術有レ—」。
四上下の階段、前後の次第ついで。○〔孟〕「長幼有レ—」。
五ついで。
（い）ついでを分け定む。○〔禮〕「官—二貴賤」。
（ろ）整ふ、列す ○〔北〕「禮備樂—」。
（は）後を承くつぐ、かはる。○〔屈平〕「春興レ秋其代—」。
（に）内部、うち。○〔李華玉〕「眼—桃花酒牛醴」。
（ほ）下方、ふも。○〔琴操〕「千家肘—看」。
六とゞこほる、〔滯〕、とゞまる、〔止〕。○〔左〕「勿レ使レ有レ所—痛閉滯」。
七文書のふたがき、草稿。○〔春明退朝錄〕「公家文書稿中書謂之草、樞密院謂之—」。
八疑ひ問ふさきに用ふる字、なんぞ、なんの、〔何〕。○〔韓愈〕「有二忙時不二肯來一」。
九底に通ず、いたる、〔至〕。○〔詩〕「—所二止一」。○〔禮〕「—底」。
十紙に通ず用ふ、さいし。○〔禮〕「磨墨供—」。
十一そこに、そこを、そこなどいふ。○〔郎倉記〕「施水—供漑」。
〔序部〕東西。〔廣韻〕「風—」。〔爾雅〕前民同上。○〔周〕「千丈水—」。〔詩〕「—」。〔孟〕前民同上。○〔白居易〕「朝野分—」。〔禮〕前民同上。○〔陸機〕「鄉老賓之—」。〔禮〕後を承けつぐ、つゞく。○〔禮〕「禮系以紀世族—」。〔右部〕助けつゞく。○〔詩〕「賈—有風」。〔爾雅〕曾聞尊典のついで、禮儀。○〔後漢〕「周室東遷—」。〔州部〕州立の學校。○〔周〕「以禮會民而射于—之背」。〔庠部〕學校。○〔孟〕「勝—之教、中之以學術之義」。〔庭部〕かくしきの次第。○〔禮〕「凡文武—、官同者先爵」。〔紀部〕政術のついで。○〔史〕「天下有道則不「失」—」。〔宰部〕ついでなどをもとる。○〔周〕「以水鐸「警」—」。〔糸部〕糸かちついで。○〔文心雕龍〕「子長體老—」。〔常部〕定まれる次第。○〔易繫辭〕「卦爻有—」。〔冠部〕はしがき。○〔史〕「又讀—」。〔上許之〕。〔禮部〕つれのついで。○〔江淹〕「宜擢二官以後—」。〔師部〕時節のついで。○〔社甫〕「春花隨—」。〔位部〕位地といふに同じ。○〔王僧孺〕「宜—春—」。〔校部〕學校。○〔孔部〕「列—于鄉黨」。

底 シ。照里切 紙

底に同じ。

底 シ。照里切 紙

山の名。○〔山海經〕「鈴山之西曰二陽之山一」。

底 テイ、タイ。典禮切 霽

一そこ。
（い）器の行きづまりたる處、極處、奥。○〔晉〕「且吾投老扣二鑿—智」足三以刺之一」。
（ろ）物の凹みの止まりきられたる處。○〔淮〕「窺二井—一雖遠視一不能レ視二其睛一」。
（は）器具の臀。○〔詩箋〕「無レ—曰レ藥有レ—曰レ藥」。
（に）内部、うち。○〔李華玉〕「眼—桃花酒牛醴」。
（ほ）下方、ふも。○〔琴操〕「千家肘—看」。
二とゞこほる、〔滯〕、とゞまる、〔止〕。○〔左〕「勿レ使レ有レ所—痛閉滯」。
三文書のふたがき、草稿。○〔春明退朝錄〕「公家文書稿中書謂之草、樞密院謂之—」。
四疑ひ問ふさきに用ふる字、なんぞ、なんの、〔何〕。○〔韓愈〕「有二忙時不二肯來一」。
五底に通ず、いたる、〔至〕。○〔詩〕「—所二止一」。○〔禮〕「—底」。
六紙に通ず用ふ、さいし。○〔禮〕「磨墨供—」。
〔序部〕東西。〔廣韻〕「風—」。〔爾雅〕前民同上。○〔周〕「千丈水—」。〔詩〕「—」。〔孟〕前民同上。○〔白居易〕「朝野分—」。〔禮〕前民同上。○〔陸機〕「鄉老賓之—」。〔禮〕後を承けつゞく、つゞく。○〔禮〕「禮系以紀世族—」。〔右部〕助けつゞく。○〔詩〕「賈—有風」。〔禮部〕曾聞尊典のついで、禮儀。○〔後漢〕「周室東遷—」。〔州部〕州立の學校。○〔周〕「以禮會民而射于—之背」。〔庠部〕學校。○〔孟〕「勝—之教、中之以學術之義」。〔庭部〕かくしきの次第。○〔禮〕「凡文武—、官同者先爵」。〔紀部〕政術のついで。○〔史〕「天下有道則不「失」—」。〔宰部〕ついでなどをもとる。○〔周〕「以水鐸「警」—」。〔糸部〕糸かちついで。○〔文心雕龍〕「子長體老—」。〔常部〕定まれる次第。○〔易繫辭〕「卦爻有—」。〔冠部〕はしがき。○〔史〕「又讀—」。〔上許之〕。〔禮部〕つれのついで。○〔江淹〕「宜擢二官以後—」。〔師部〕時節のついで。○〔社甫〕「春花隨—」。〔位部〕位地といふに同じ。○〔王僧孺〕「宜—春—」。〔校部〕學校。○〔孔部〕「列—于鄉黨」。

一住處卑しいやし、ひくし。
二すまひ、すみか、〔居處〕。三すむ、〔住〕。

庖 ハウ、ベウ。蒲交切 肴

一食物を料理する處、くりや、くり、だい處、炊事場。○〔詩〕「大—不盈」。
二料理人。○〔史〕「伊尹爲レ—」。
三料理物。○〔宋〕「專主二—膳一」。
四伏羲氏の稱、一に庖犧といふ。○〔漢〕「河圖命レ—」。
〔庖部〕上手なる料理人。○〔莊〕「—丁解レ牛」。〔庖部〕多くの料理人。○〔莊〕「—月更二刀折也」。〔庖部〕美しき膳のくりや。○〔蘇軾〕「—有珍羞」。〔同部〕めづらかなる料理。○〔後漢〕「夫人〔同部〕後と共に一つ品物を食もよ。○〔禮〕「夫人〔後部〕「—、中士一人」。〔庖部〕くりやを掌る役の名。○〔禮〕「後周有—」。〔宮部〕寢たる料理。○〔孟〕「九思」「—入殺牲」。〔膳部〕くりやに釣り下や。○〔後漢〕「騎蟲藻」。〔廚部〕料理。○〔長孫佐輔詩〕「客來殺—」。

店 テン。都念切 豔

物品を並べ置きてひさぐ場處、あきなふ家、たな、みせ。○〔舊唐〕「鹽—新—」。
規レ利。
〔野店〕のなかの物賣る所。○〔杜甫〕「—引山森」。〔小店〕こみせ。○〔王安石〕「—無無秋前門」。〔茶店〕くさぶきのはたや。○〔呉錄〕「—月物冷」。今まの中なる物賣る所。○〔廣韻〕「監視—」。〔瓜店〕ひとつやのみせ。○〔元稹〕「畑火燃弱—」。〔飯店〕やさや。○〔項斯〕「—開御早」。〔行店〕はたや。○〔後魏〕「服々狙—」。〔坊店〕たな。○〔酉陽〕「近村—賣新酒」。

庫 テン。子余切 魚 シ。七賜切 寘

物品を並べ置きてひさぐ場處、あきなふ家、たな、みせ。○〔舊唐〕「鹽—新—」。
規レ利。
〔野店〕のなかの物賣る所。○〔杜甫〕「—引山森」。〔小店〕こみせ。○〔王安石〕「—無無秋前門」。〔茶店〕くさぶきのはたや。○〔呉錄〕「—月物冷」。今まの中なる物賣る所。○〔廣韻〕「監視—」。〔瓜店〕ひとつやのみせ。○〔元稹〕「畑火燃弱—」。〔飯店〕やさや。○〔項斯〕「—開御早」。〔行店〕はたや。○〔後魏〕「服々狙—」。〔坊店〕たな。○〔酉陽〕「近村—賣新酒」。〔茶店〕あれてさびしき物賣るみせ。○〔蘇軾〕「千山不レ—」。〔酒店〕酒し場にあるみせ。○〔高適〕「南岐鳴—」。

庫 サ、セ。仕下切 馬

いへ〔家屋〕。

庫 サ、セ。鋤加切 麻

庫は、ひさしからざるにいふ語、そろはず、かたゝがひ。

庋 ヒ、ビ。扶宜切 支

まく〔餉〕。

庶 ホ、フ。普故切 遇

つらぬ、つらなる〔布列〕。

庖 ダフ、ネフ。昵洽切 洽

庫——は、隘きにいふ語、せばし。

庫 アフ、エフ。烏甲切 洽

一屋壞れんとす、やぶれかゝる。
二廏の字を見よ。
三ぶたごや〔家屋〕。

庙 ハツ、バチ。蒲撥切 曷

俗の廟の字。

庋 ハツ、バチ。蒲撥切 曷

一くさや、わらや〔草舍〕。
二やごや〔舍〕。三ひくし〔下〕。

庚 カウ、キヤウ。古行切 庚

一丈さの一つ、十干の七つ目、かのえ、方位にては四の方。○〔參同契〕「金—木甲——相賓爲レ用」。
二堅く強き紙にいふ字、かたし、こはし。○〔說文〕「秋時象二萬物一——有二實」。
三更に同じ。
（い）かはる、かふ。○〔易〕「先レ—三日、後レ—三日吉」。
（ろ）さらに。○〔列〕「從口之所レ言—無利害」。
四よはひ、とし、年齡。○〔癸辛雜識〕「張神、鑒晉而驟每レ談一命則旁引二同—者數十、皆歷々可レ驗」。
五物の横たはる紙にいふ字、よこたはる。○〔漢〕「大横—」。
六つくのふ、〔實〕。○〔禮〕「請—レ之」。
七みち、〔道〕。○〔左〕「塞二夾—一」。
〔光部〕〔後漢〕命令をかふるとき、命令をかふるとき、は、旌行期日の三日前に發布して、又、刑罰を行ふに、は、旌行期日より三日後より始むるの例なり、引例の、旦、期より出づ。○〔易〕「—レ三日、—レ三日吉」。
〔長部〕〔後漢〕よひの明星。○〔詩〕「東有啓明、西有—」。〔倉部〕うぐひす。○〔禮〕「春日鶯鳴、有鳥—」。
〔面部〕前に同じ。○〔陸機〕「書倉一名—」。
〔鬼部〕（い）呉と蜀との往來に切要なる道。○〔左〕「被北地、以當—」。
（ろ）氣物の出りて出でる常の道。○〔果部〕「磨々—」。
（は）車を載せ置く處。○〔王機〕「—赤入」。
〔和部〕音律の名。○〔禮〕「爽則一部二十七律、一日—」。
〔畜部〕（い）獸の名、其の形豚の如しとか。○〔嚴關〕「且—」。

庇 シ。子余切 魚 シ。七賜切 寘

人相依寄すゝよる。

宜 タン。得案切 翰

ちひさきいへ、こや〔小舍〕、一說に、小さき杯。

庇 エイ。以制切 霽

ぜんだな〔庋〕。

庇 シ。七賜切 寘 才支切 支

又、廢藥に作る。
耒の下の前に曲がりて鋤に接するところすきの柄の下にある岐木、また、ぎ。○〔周〕「車人爲二耒—長尺有一寸」。

府 フ。匪父切 麌

一あつまる〔聚〕、又、あつまる處。○〔素問〕「脉者血之—也」。
二宮禁、官廷の文書、寶玉、財貨などのたまる處、くら、ふみぐら、かれぐら。○〔禮〕「在—言レ—、在レ庫言レ庫」。
三財貨を司どる官吏。○〔漢〕「太公爲レ周立九—圜法」。
四文書を司どる官吏。○〔周〕「—掌二官契一以治藏」。
五官吏、役人、つかさ。○〔漢〕「明—素著二威名一」。
六官吏のあつまる處、官廳、役處。○〔蜀〕「開レ—治レ事」。
七人家多く物貨あつまる處、都邑、みやこ。○〔後漢〕「居二峴山之南一、未二嘗入二城一」。
八古昔、都邑に郭を設けたるより、かぎり、へだての義にいふ字。○〔宋〕「遇人不レ設二城一」。
九行政上の區劃。○〔唐〕「州—三百五十八」。
十嚢に通ず用ふ、ばらわた。○〔周禮〕「六—胃小腸大腸膀胱膽三焦」。
十一俯に通ず用ふ、かがむ。○〔列〕「王—而視レ之」。

〔大庇〕宮殿と政府との間に供すべき倉庫を總て謂ふ。○〔周〕|—|—掌=九貢九斂九功之入。〔玉庇〕王の從用する財貨なる金銀を總て謂ふ。○〔周〕|—|—掌=王之金玉珠好兵器凡賓貨助之鑄。〔外庇〕政府の使用する財貨を總て謂ふ。○〔周〕|—|—掌=邦布有入出、以共百物、而待邦之用。〔勝庇〕應急の用に供する物を藏る處。○〔後漢〕|—|—玉鐘|—|。〔糶庇〕市の稅を取り立つるを掌る役所。○〔周〕|—|—士士四人。〔天庇〕（ハ）祖先の祭祀に供する物品を藏め置く庫。○〔周〕|—|—掌=祭廟之守藏。（ホ）地位卑賤にして物産の豐富なる地にいふ語。○〔魏〕此所謂|—|、天下之城府也。（ヘ）地の險要にして天然の堅めとなるにいふ語。○〔史〕關中所謂金城千里、|—|之國也。〔官庇〕政府の役所。○〔周〕以治|—|、以紀萬民。〔內庇〕諸侯の朝覲したるときに獻じたるもの、又は、諸侯に國から贈よこす物品を藏め置く庫。○〔周〕掌受九貢九斂九功之貨助。〔懲庇〕うらみのあつまる所となるにいふ語。○〔左〕「君不鑑|—|—」。〔藏庇〕書を庫。○〔周〕若使掌司寇|—|、史掌=「勤在|—|」。〔量庇〕穀物を計量するふみを藏め置く庫。○〔後漢〕掌=勤在|—|。〔少庇〕天子より私に人に賜ふべき物品を藏め置く庫。○〔史〕「帝宜留|—|」。〔軍庇〕將軍の役所。○〔漢〕「不勝=刀斗、自衛、|—|—皆文書」。〔紀庇〕記錄せる文書を藏め置く庫。○〔史〕「乃書而藏之|—|」。〔御庇〕天子の供御の物品を藏め置く庫。○〔史〕出=|—|—禁藏、以賜之。〔藏庇〕ひめ置く物品を藏め置く庫。○〔史〕「藏=於|—|」。〔相庇〕宰相の役所。○〔魏書〕「以=列侯主爵、居|—|」。〔水庇〕（ハ）風の名。○〔史〕井西南四星曰|—|、主=水之官也。（ホ）水御の居處。○〔晉合〕「振=殺人|—|」。〔學庇〕學術社會の主宰、卽ち、それに關係するすべてのもの、こゝにいふ語。○〔周〕「掌=|—|—」。

〔圃庇〕園藝、なぶしび、心。○〔莊〕「心有入於|—|」。〔心庇〕前に同じ。○〔魏〕「鄰=|—|」。〔林庇〕物の多く集まるところ。○〔隋書〕「國家之|—|」。〔鎮庇〕災難の集まるところ。○〔劉禹錄〕「國家之|—|」。〔人庇〕（ハ）天火、火災、人、土、穀の六つ。○〔管〕「地平天成|—|、三者九治」。（ホ）星の名、文昌宮。○〔管〕「文昌六星、在北斗魁前、天之|—|也」。（ヘ）大つの役所。○〔魏〕「天子之|—|、曰=司土、司木、司水、司穀、司器、司貨」。〔庶庇〕もろ〳〵のつかさ。○〔魏〕「百司|—|」。〔置庇〕宮中に設けある役所。○〔史〕「有=後園於|—|」。〔公庇〕おほやけの役所。○〔魏〕「並入|—|」。〔長庇〕（ハ）役所の名。○〔史〕「公居于|—|」。（ロ）風の名。○〔魏〕「春人居|—|」。〔私庇〕諸侯又、人民の財貨を藏め置く所。○〔魏〕「遊=|—|長」。〔家庇〕宰相の役所。○〔秦書〕「臣自在|—|」。〔四庇〕後漢の時代にて太尉司徒司空の役所。○〔後漢〕「宜令|—|九卿各詣=敎衛駕人」。〔朝庇〕心。○〔管〕「挾聞入|—|」。〔樞庇〕樞密院。○〔蘇軾〕「位在|—|、才踐=文、政庇」おほやけの役所。○〔史〕「其在|—|、要=|—|」。〔諸庇〕諸侯の役所、又、諸侯の役所。○〔聞見前錄〕「歷遍|—|」。〔學庇〕役所。○〔漢〕「|—|—謂=職藏之器」。〔藝庇〕文藝の集まれるところ。○〔史〕「生徒|—|」。

（ニ）廟に同じ、いへのひゞき。

廂 古文の扁の字。

庇 古文の鬼の字。○元倉子「|—|神問篇」。

六畫

庑 シン。所近切 [沁]

屋斜になる、ゆがむ、かたむく。

庈 カフ、コフ。渴合切 [合]

（一）いち（市）。（二）おす（壓）。

庌 アフ、エフ。乙洽切 [洽]

低下すゝだすゝだる。

庠 シヤウ、ザウ。徐羊切 [陽]

學問藝術を諸生に敎へ授くる所、支那の古昔には、長幼の序を明かにする爲め、官より民間の宿老を養養する場處に用ひたり、まなびどころ、學校。○〔禮〕「黨有|—|」。〔上庠〕身分ある者の就きて習ふ學校。○〔禮〕「有虞氏養=老于|—|」。〔下庠〕いやしき者の就きて習ふ學校。○〔禮〕「養=於|—|」。〔周庠〕古昔、周の時代に設けたる學校。○〔禮〕「下=日|—|」。〔序庠〕鄉里に設けたる學校。○〔漢〕「|—|—使=子弟」。〔國庠〕國都に設けたる學校。○〔唐會要〕「置有|—|—遂無|—|」。

庫 テウ、デウ。直紹切 [篠]

貴族卑しいやし、ひくし。

庋 カン、ゲン。下間切 [刪]

門戸のまぎみ、まぎみ（閾）。

庉 トウ、ヅ。徒東切 [東]

いへのひゞき（舍響）。

庖 ケン。火犬切 [銑]

屋に同じ。

庸 ケン。火犬切 [銑]

あな（穴）。

庶 イ、エ。於豈切 [尾] 一に、庶に作る。

（一）たちもさほる、徘徊。（二）かくす、なさむ（藏）。

庶 セキ、シヤク。昌石切 [陌]

シヤ。充夜切 [禡]

（一）屋を卻く、まりぞく。（二）さす（指）。（三）まれ（稀）。（四）おほいなり（大）。（五）うかがふ（候）。（六）とほざく（疎、遠）。（七）みつ（充、滿）。（八）用ひずすつ。

座 チツ。陟栗切 [質]

（一）さゝふ（蹉）、とゞむ（止）。○（枚乘）「發怒=沓」。（二）水の岸に曲がり入りたる處、くま。○〔寰宇記〕「山曲曰|—|、繁水曲曰|—|」。

庭 テウ、デウ。田聊切 [蕭]

（一）滿たざる貌にいふ字、又かく（缺）。○〔漢〕「旁有|—|碁」。（二）すゞ（過）。○〔漢注〕「鄭氏曰|—|過也」。

庚 シ。七賜切 [寘]

ひくきいへ、（下屋）、かたびさしのいへ、（偏—）。

庤 チ、ヂ。直里切 [紙] 又、畤、峙に作る。

たくはふ、儲、そなふ、具。○〔詩〕「命=我衆人、|—|乃錢鎛」。

庥 キウ、ク。虛尤切 [尤] 又休に作る。

おほふ、むらす、蔭。○〔爾〕「庇蔭也」。

庨 庇、又庨に同じ。○〔唐〕「軍|—|翼掩|—之」。

度

ト、ヅ。徒故切 [遇]

（一）法則、道理、のり。○〔左〕「|—不|可|改」。（二）程。○〔國〕「用|物過|—|財」財。（三）長さ、たはかる具、ものさし、さし。○〔漢〕「|—者分寸丈尺引也」。（四）刻。○〔禮〕「百|—|得|數」。（五）ものさしを刻みたる戈。○〔周〕「胥執|—|鞭」。（六）日月星辰の運行をはかる爲めに假りに體の全周を三百六十五に分ちたると、又、其の分たれたるものの一つ。○〔素問〕「故天有|—宿」。（七）器能、才略。○〔漢〕「常有|—大|—」。（八）風采、やうす。○〔唐〕「風|—能若|—九齡|—乎」。（九）年代。○〔風平〕「皇覽|—授予於初|—|—」。（十）同數、たび。○〔北〕「前後六|—銜|—命」。

（十一）のりを爲す、のりに從ふ、のッとる。○〔左〕「進退可|—|周旋可則」。（十二）制す、限る。○〔釋名〕「號令所|—限|—」。（十三）渡に通じ用ふ、わたる、わたす。○〔漢〕「猶|—|江河」。（十四）維摩上。○佛家にて生死の迷ひを海にたとへ煩惱に迷ふを此岸といひ、證果を得るを彼岸といふより、證果を得さすることにいふ。○〔金剛經註〕「凡聖一如、豈有二衆生可|—|」。（十五）俗人を僧とせんと、官より僧となる者に牒を與ふること。○〔唐〕「|—|僧以資=福事」。（十六）佛門に入り出家受戒すること、菩提心を發すること。○〔傳法正宗記〕「是爲二得|—|比丘」。

〔制度〕定められたるのり。○〔易〕「節以|—|、|—|、不|—財不害民」。〔法度〕のり。○〔論〕「聽=|—|、|—|」。〔百度〕すべてののり。○〔論〕「聽=|—|、|—|」。〔王度〕君の設けられたるのり。○〔史〕「|—|」。〔大度〕大いなる器量。○〔史〕「常有=|—|、不|—|」。〔家人生產作業〕。〔前度〕先時に設けたる法度。○〔史〕「|—|—未|—」。〔玄度〕若子莊問の虛無恬淡の道。○〔列仙傳〕「仰|—|—」。〔常度〕慎惱を脫せしめ菩提を得さすること、人間の迷ひを救ふこと、佛家の語。○〔魏〕「|—|—難」。〔傳度〕はかりとさしと。○〔宋書〕「任當|—|—」。〔禮度〕禮儀といふに同じ。○〔宋書〕「|—|—必以|—|—」。〔錄度〕（ハ）のり、はと。○〔左〕「師是|—財用之|—|—也」。（ロ）韓と、衛國。○〔史〕「秦|—|—|—|—」。〔錄度〕身ののりを守が充。○〔左〕「〔魏〕「卽|—|—事|—|—」。〔錄度〕身をす、今うす。○〔論〕「字說|—|、字|—|—命」。

〔紀度〕きそく、のり。○〔史〕「省|—|—」、「和安敎|—」。〔正度〕（ハ）のりをたゞしくす。○〔史〕「立=|—和之官、明時」。（ホ）たゞしきのり。○〔論語〕「合=|—生之|—」。〔星度〕星の運行の度。○〔晉書〕「推=|—」。〔宮度〕のり、きそく。○〔史〕「|—|—管明易|—則也」。〔用度〕入り出、へ。○〔後漢〕「唯有師=|—未|—」。「不|—」。〔期度〕程。○〔國〕「蓋夜出入長樂宮殿中、之|—|—」。〔性度〕性質、さが。○〔史〕「|—|—」。〔貪度〕正しきのり。○〔後漢〕「|—|—」。〔歌度〕天文ののり。○〔後漢〕「|—|—」。〔遠度〕凡人よりかけはなれたる器能。○〔字說〕「雅有|—|、志=|—|、|—|、好古」。〔局度〕度量に同じ。○〔後漢〕「紹外官論有|—|」。〔器度〕前に同じ。○〔史〕「以|—|、見|—」。〔才度〕智慧器量。○〔史〕「宰說|—|、有|—數」。「|—|—文」。〔識度〕前に同じ。○〔晉〕「弘雅有|—|、「好|—|、雅志度」。〔志度〕ころ、さだ。○〔史〕「|—少有|—|、「|—|—」。〔雅度〕（ハ）正しきのり。○〔晉書〕「若行之無|—、終|—|—」。（ホ）度量の廣さ。○〔孫綽〕「|—|—恢廓」。〔明度〕さとくあきらかなる才能。○〔晉〕「若之|—|、性靈介、意邪」。〔尺度〕さし。○〔史〕「後漢至魏|—|—雜長於|—」。〔思度〕思慮分別。○〔史〕「|—|—」。〔徳度〕はかりとさしと。○〔魏〕「同數玉|—|—」。〔興度〕團をそりて傾斜に入るも。○〔管〕「|—|—」。〔度度〕まなかりめ。○〔晉書〕「|—|—不同、各明=|—」。〔庇度〕のり。○〔史〕「|—|—有|—、見者敬|—」。〔雅度〕前に同じ。○〔史〕「言動有|—|—」。〔度度〕前に同じ。○〔晉書〕「|—|—」。〔飲度〕どの中。○〔史〕「後|—|—物|—|—」。〔節度〕節、身をす、今うす。○〔論〕「字說|—|、字|—|—」。〔品度〕高なる品位。○〔史〕「|—|—」。〔等度〕たゞしはかる。○〔參同契〕「|—|—」。〔制度〕前に同じ。○〔柳宗元〕「|—|—」。〔雅度〕前に同じ。○〔柳宗元〕「|—|—」。〔原度〕たゞしはかる。○〔柳宗元〕「|—|—」。〔雅度〕前に同じ。○〔柳宗元〕「|—|—」。〔殺度〕前に同じ。○〔柳宗元〕「|—|—」。

〔殺度〕殺屬に同じ。〔李吉甫「卽來自|—|—之後」。〔限度〕限に越ゆ。○〔管〕「悅=|—|—」。〔隱度〕隱の廣さと。○〔宋書〕「|—|—」。

度 タク、ヅク。徒落切 [藥]

（一）はかる。（二）考へ、慮る。○〔國〕「謀|—而行」。（三）相談す。○〔詩〕「周爰咨」。（四）程をみつもる。○〔禮〕「|—」。（五）土を版に投ずなぐ。○〔詩〕「|—|之薨薨」。

〔居民〕。

〔計度〕はかる。○〔國〕「|—|—」。〔度度〕はかる。○〔管〕「|—|—」。〔度度〕はかる。○〔管〕「|—|—」。〔度度〕はかる。○〔詩〕「|—|—」。〔度度〕はかる。○〔詩〕「|—|—」。〔度度〕はかる。○〔詩

盾 ゲン、ゴン。五犯切 豳
たかし、又げはし（峻）。

盾 廌に同じ、かたぶく。

危 キ。居爲切 圖
やぶる、そこなふ、こぼつ（毀）。

七畫

座 サ、ザ。徂臥切 圖
●すわる場處、ゐどころ。○〔傳殺〕「陳二茵席一而設一」。
●すわるに敷く具、ふきもの。○〔評製〕「痛一夜間猶占臥」。
●集會、又其の場處。○〔晉〕「談咲竟レ一」。
●する處、ゐる處。○〔元二立三碑〕「十有一」。
〔後漢〕（ル）正しきるところ。○〔魏〕「雷霆鼓動之一」。
（ろ）教ののりを說く處。○〔王羲〕「文事乃升一」。
〔晉〕官のいなしるところ。○〔後漢〕「家是犯一」。
〔宋書〕宜星のいなしるところ。○〔史記〕「光明、則天子居天地之一」。
〔天書〕大角星のこと。○〔莊子〕「寓言無光」。
〔晉書〕（ル）北の星座に列らなれるすべての星。○〔全唐詩話〕「如鏡在言一」。
（ろ）其の場處にあるよれみつ。○〔論語〕「綠竹猗猗」。
〔晉書〕席をこぞりて言にいふ語。○〔韓愈〕「一」。
〔後漢〕席をこぞりて心を寄せし村。○〔社甫〕「一」。
〔宋書〕はしの宿り場。○〔史〕「一有身」。
〔後漢〕安樂に心ゐきなくすわる人。○〔晉〕「坐一一四海」。
〔晉書〕北の人の坐のみあるべて北の人ゐるべる。○〔史〕「宮殿即位一一」。
〔後漢〕北の星に列らなれるもの、中にて第一位にあること。○〔晉〕「年齡、殊勝常時一一」。
〔後漢〕おはやけの集會、多人數の場處。○〔史〕「客一一一」。

庠 ショウ。五犯切 豳
ものいみの地、場。○〔史〕「昨子一一一見北書」。
〔神書〕神殿のいなしるところ。○〔後〕「安一一林墓」。
〔高書〕高く設けある場。○〔社甫〕「鞍馬一一上參天」。
〔晉書〕いなしるところの敬禮。○〔後漢文書〕「萬々歲、盛二一一一」。
〔後漢〕天子のいなしるところ。○〔後漢〕「居一一一、行日無一一」。
〔前書〕朝廷の場。○〔史文書〕「東宮一一」。
〔晉書〕はちす花の上のむしろ、即ち、佛體の蓮華の上に安坐するところ。○〔王勃〕「一一五會枝」。
〔花書〕前に同じ。○〔論語〕「三公の一」。
〔後書〕三公の場。○〔韓愈〕「一一方直」。
〔後書〕佛教の教を修行する場。○〔白居易〕「前後論一一」。
〔晉書〕佛教の教を修行する場。○〔白居易〕「前後論一一」。
〔晉書〕其を編みつくりたるむしろ、即ち飾らざる席。○〔白居易〕「一一留山月」。○〔李白〕「客一一」。
〔後書〕佛又は佛家のすわる場。○〔後漢〕「一一」。
〔宋書〕衆人の席次にあること。○〔晉書〕「小朝一一一朝」。
〔後書〕衆多のもの、席。○〔後書〕「日一一句」。
〔晉書〕さまざまの席。○〔子長〕「歌一一一」。
〔後書〕たなのむしろ、即ち、敷物なる場。○〔晉書〕「一一」。
〔後書〕天子の朝廷。○〔後書〕「春論表、一一朝」。
〔晉書〕第一の席にあること、又佛家の坐位。○〔後書〕「一一一」。
〔名論集〕三一一一一、其有論席」。○〔史〕「一一一」。
〔晉書〕佛又は、佛家のすわる場。○〔史〕「一一一」。
〔中台書〕宰相のすわる場。○〔王羲〕「八一一一」。
〔三台書〕前に同じ。○〔後漢〕「此一一之一」。
〔後書〕使刑錄居之。
〔凡枝書〕老いたる者を優待する場。○〔後漢〕「一一一之一」。

庠 リョウ、ロ。雨擧切 圖
●深く空しき貌にいふ字、ふかし。○〔馬融〕「一一窮巧老」。

庠 リョウ、ロ。雨擧切 圖
●もろ〳〵（衆）。●人の名。

廏 コン。苦閑切 顧
こめぐら、くら（倉）廩。

廏 ラウ。盧當切 陽
●だかし（高）。●うつは（器）。

奈 ト、ヅ。同都切 虞
●いへ（家）。●廊の字を見よ。

庭 サウ。作郎切 陽
壯に立つ貌にいふ字、たつ。

球 キウ、ク。渠尤切 尤
かたよりたるいへ（偏廈）

庭 トウ、ヅ。徒候切 宥
●器の名。●神佛を祭る所。●くりや（廚房）。

廏 キ。過委切 紙 一に鼓に作る。
●度の本字、ものおき。
●一縣は山の祭り。

庫 コ、ク。苦故切 遇
くら。
（い）車馬兵甲を藏め置く處、ぶきぐら。○〔淮〕「七月宮レ一」。
（ろ）穀物、財寶、器具などを貯へ置く處。○〔蕭唐〕「開一倉一一以賑二窮乏一」。

庫 ホ、フ。博孤切 虞
一一庫は屋の平かならざるにいふ語。たひらかならずなるめ。

廏 ホ、フ。博孤切 虞
廏の本字、本廏に作る。

庫 カフ、ゲフ。轄甲切 洽
虎の搏つを習ふ貌にいふ字、うつ。

庫 廌に同じ。

庭 古文の親の字。

八畫

屏 ヘイ、必郎切 梗 又、屏、屏に作る。
ヒヤウ、切
●かくす（藏）、おほふ（蔽）、又、かくし、おほひ。●うすし（薄）。

屏 ヘイ、ヒヤウ。毗正切 敬 蒲徑切 徑
かくし、ところ、みかくし（隱蔽）、かはや（厠）。

廋 ソウ、ス。作董切 董
屋の中の舍。

廌 タイ、デ。都回切 灰 一に、隊に作る。又、廃、廢、廢にも作る。
屋上より下に傾く、かたぶく。

廐 タ、ダ。直加切 麻 タク、チヤク。陟格切 陌 或は、秅、稅に作る。
屋を開き張る、ひろぐ、はる、ひらく。

廊 ケイ、キヤウ。居卿切 庚
こめぐら、くら（倉）。

廐 アイ、エ。倚蟹切 蟹 イ。
隱倚切 紙 或は、緊に作る。
●ぜんだな（廚）。
●坐して倚りかゝる貌にいふ字、よる。

廐 チヨウ、丑拯切 迥
丑升切 リヨウ。力膺切 蒸
亭の名、吳の孫權が虎を射し處。○〔吳〕「孫權乘レ馬射二虎於一一亭一」。

廐 キヤウ、カウ。驅羊切 豐
空しき谷の貌にいふ字、むなし。

廐 ライ。郎才切 灰
いへ（舍）。

廐 イ。西字切 霽
よこしま（邪）、又、なゝめ（斜）。

廐 シ。思移切 支
一一祁は地の名。

廐 ヒ、ビ。便俾切 紙
屋車し、びくし、又、びくきいへ（伏舍）。
○〔左〕「宮室卑一一」。
〔待書〕びくし。○〔前〕「敗歌一一以觀其樂」。

〔天書〕星の名。○〔史〕「勢南宮星曰一一一」。
〔前書〕貨財器具を藏め置くこと。○〔紀〕「李寒國一一一出、明月」。
〔武書〕おさめる。○〔史〕「唯臨有一一一」。
〔晉書〕おさめる。○〔史〕「唯臨有一一一」。
〔晉書〕おさめを藏め置くこと。○〔後漢〕「國家中科時期一一一」。
〔晉書〕おさめを申乙丙丁の四部にわかちて藏めおくこと、所ちあはたの書籍の宜しい上聞。○〔王羲〕「一一日聞一一一」。
〔宜書〕五種の器具を藏めおくこと、即ち、車馬、兵器、祭器、樂器、容器等をいふ。○〔穀〕「李寒之月、「一一」。
〔後書〕穀物をくら。○〔史〕「實北一一一」「以待二天」。
〔晉書〕祭祀の料に供する物品を藏めおくこと。○〔後〕「一一一失火燒二刑所」。
〔香書〕官室の物品を藏めおくこと。○〔司馬光〕「長京秋夢錄」「藏品、官」。
〔前書〕個樹の用に供する物品をしめおくこと。○〔北〕「一一朱樓」。
〔後書〕貸財を藏めおくこと。○〔史〕「聞倉家子」。
〔晉書〕たからを藏めおくこと。○三輔黃圖「長安城中一一藏子一一一」。
〔兵書〕おさめる。○〔吳越春秋〕「設二宇宙、貯二奇庫、拾一一一」。

庶 ケフ。古洽切 葉
かべ（壁）。

庠 カウ、ケウ。虛交切 肴
●宮室の高き貌にいふ字、たかし。○〔柳宗元〕「反二宇臨三呀一一」。

庶 ボウ、モウ。母總切 董
峡に同じ。

庶 ボウ、モウ。母總切 董
物事の混沌として未だ分かれざる時の貌にいふ字。○〔李經援神契〕「天度一一演孳萌」。

庵 バウ、モウ。亡江切 江
●ゆたか、（豐）又あつし、厚。○〔漢〕「一一恩一一洪」。
●まとる、まざる、雜。○〔書〕「不レ和政一一若朝鮮」。
〔晉書〕ものゆの馬白相とはれるる。○〔王羲〕「一一百一一」。
〔晉書〕ゆたかにしてあつし。○〔方言〕「又、有無、多

〔新書〕もっぱらなるこなにはれるこ。○〔方言〕「一一、修人耳新」。
〔前書〕さまれたにはる。○〔雅樂〕「一一鼎方一一」。

庵 バウ、モウ。亡項切 講
おほいなり（大）又、すぐる。○〔詩〕「爲二下國駿一一」。
〔晉書〕おほいなるこ。○〔孫子〕「勝必勝北一一一事者」。

庸 ソウ。蹙玉切 沃 一に廟に通ト用ふ。
いほり、又、いへ（舍）。

廢 ス井、ズ井。作惟切 支
すがた（姿）。

庫 ロウ、ル。力口切 箇
わらやゝ、くさや（草室）。

庭 テイ、チヤウ。唐丁切 霽
●には。
（い）堂の階の前、又は、門屏内のあき地。○〔周〕「掌レ掃二門一一」。
（ろ）天廣間、おもて座敷。○〔列〕「賓一客在一一者」。
（は）人民を呼び出す處、人民に接して政を執る場。○〔魏〕「爭レ之不レ決、訟二於郡一一長年」。
（に）朝廷。○〔東京賦〕「龍幹充レ一」。
（ほ）宮中。○〔列〕「妖靡盈レ一、忠良在レ朝」。
（へ）家内。○〔晉〕「一一訓益峻」。
（と）場處。○〔李騭〕「宜レ昇二著作之一一並踐中記官之地」。
●なほし。
（い）君王の政治に從服す。○〔書〕「四征弗一一」。

〔武梁〕たかきとひくきと。○〔説文〕「營丘臨之小大一…」。〔篇海〕ひくし。○〔古居易〕「麻樹得一…」。

庳 ヒ。賓彌切 支

一ひくし。

（い）下りてあり　○揚雄「一則儀秦」。

（ろ）身の丈短しみじかし。○〔周〕「其民豐肉而一」。

二鶴の牝の名。○〔爾〕「鶴鶴其雄牡牝一」。

三毗に通ト用ふたすく。○〔荷〕「天子是一」。

庰 庫に同ト。

㢈 デフ、ヲフ。諾叶切 葉

おす。〔壓〕。

廎 古文の鷹の字。

廋 セフ、ゼフ。疾葉切 葉

人の名。

庢 ス井。綴醉切 霽

さかしま、かたぶく。〔顚〕。

戔 サン、セン。仕諫切 諫

のきいた屋宇。

廖 シ。尺氏切 紙 或は「彥」に作る。

廣く大いなり、ひろし、又、分けて廣くす。ひろむ。一説に、勞より擊つ、うつ。○〔國〕「夾溝而一」我」。

庵 アン、烏含切 覃 一に、菴に作る。

草木を結びて造れる粗末なる家、小さき草舍。又、圍き屋、いほり、いへ。

〔蘇軾〕「一…間、臥洞霄宮」。

〔篇海〕いほりをつくらふ。○〔説文〕「圜一…不成禮」。〔篇海〕くさむすびてをつくらふ。〔玉篇〕「蔡一…」。〔字彙〕ちがやもてをつくらふ。〔廣韻〕「蔡一…」。〔字彙〕「蔡」。〔廣韻〕「蔡」。〔廣韻〕よもぎのしげり生ずるいけり。いかせきい。〔篇海〕いはりのこと。○〔通鑑註〕「相期結一…」。〔篇海〕いはりのこと。○〔通鑑註〕「相期結一…」。

庵 アフ、オフ。烏合切 合

一ひくし。〔低〕。二ぶたこや。家屋。

廠 ソウ、ス。七倫切 尤

物の崩るゝ聲にいふ字。

廂 漏に同ト。

庶 ショ、ソ。商署切 御

一衆多、おほし、もろ〳〵。○〔詩〕「我事孔一」。

二こゆ。〔肥〕。○〔詩〕「爲豆孔一」。

三こひねがふ。こひねがはくは。〔幾〕。○〔詩〕「見素冠兮、一也」。○〔論〕「同也其一乎」。

四殆ど及ばんとすちかし。

五妾腹の子、めかけばら。○〔左〕「其一子爲三公、行」。

六支族。○〔史〕「其澤流三枝一…」。

七衆民、たみぐさ、たみ。○〔後漢〕「青徐士一逃黃巾之難」。

〔正韻〕えるものもの。○〔書〕「惟敎一…」。〔女篇〕えたはのちすち。○〔説苑〕「一…分祿」。〔殆篇〕はとゞちかし。○〔家語〕「顏氏之子、尤一乎」。

庶 ショ、ソ。賞呂切 語

鳥獸を去る、のぞく、さる。○〔周〕「凡一…」蠻之事」。

庶 セキ、シャク。之石切 陌

ひろふ。〔摭〕。

廟 ボウ。方登切 蒸

くづる。崩。

康 カウ。苦岡切 陽

一たのしむ。〔樂〕。○〔詩〕「迄用一年」。

二やすし、やすんず。安。○〔書〕「庶事一哉」。

三やはらぐ。〔和〕。○〔史〕「而民一樂」。

四往來多き五方に達りたる大路、轉ト

〔篇海〕もろ〳〵のたみぐさ。○〔説文〕「一…歌樂」。〔篇海〕ちすちのいやしきもの。○〔沈約〕「補遺論」。〔篇海〕あをひとぐさ、即ち、たみ。○〔説文〕「衆一…」。〔篇海〕「衆」。〔人篇〕前に同ト。○〔後漢〕「風俗形敝一…巧」。〔民篇〕前に同ト。○〔書說〕「一…附心而興起」。〔民篇〕たみぐさ、人民。○〔後漢〕「卓市以一…」。〔品篇〕たみぐさ中病。〔野篇〕前に同ト。○〔後漢〕「一…以聽下孤父」。〔車篇〕前に同ト。○〔史〕「自此以遂成一…」。〔貨篇〕財に同ト。○〔史〕「自此以遂成一…」。〔宮篇〕財に豐かなるもろ〳〵。○〔論語〕「四海日一…」。〔鑑篇〕えひくしておはし。○〔史〕「百口一…之歲」。〔長篇〕妾腹の長子。○〔世說〕「羅石後司空齊之」。〔凡篇〕つねなみの人。○〔書說〕「權均匹夫、勢等一…」。〔兆篇〕前に同ト。○〔沈約〕「天下朝歸一…亭」。〔僕篇〕前に同ト。○〔蘇軾〕「厚々一…」。

庶 ショ、ソ。賞呂切 語

もろ〳〵のたみぐさ。○〔詩〕「一…歌樂」。

庶 セキ、シャク。之石切 陌

ひろふ。〔摭〕。

廟 ボウ。方登切 蒸

くづる。崩。

康 カウ。苦岡切 陽

一たのしむ。〔樂〕。○〔詩〕「迄用一年」。

二やすし、やすんず。安。○〔書〕「庶事一哉」。

三やはらぐ。〔和〕。○〔史〕「而民一樂」。

四往來多き五方に達りたる大路、轉ト

て往來多き大路。○〔史〕「爲三列第一…莊之衢」。

五ほむ。〔褒大〕。○〔禮〕「一周公」。

六美名。○〔易〕「一侯用錫馬蕃庶」。

七漢に通ト用ふ、むなし。○〔詩〕「酌彼一…」。

八糠に通ト用ふぬか。

〔本篇〕たのしみにしてやすし。○〔書〕「一…正直」。〔本篇〕ながくやすんず。○〔書〕「一…弗良」。〔本篇〕はなはだやすし、太平に同ト。○〔魏明帝樂府〕「百姓謳吟聚一…」。〔凱篇〕和樂たのしむ。○〔神女賦〕「心一…以樂」。〔歌篇〕よろこびたのしむ。○〔宋京賦〕「君臣一…」。〔樂篇〕たのしみやすんず。○〔魏文帝〕「和會同一…」。〔桃篇〕神の名。○〔宋庭內長經〕「男女同九有」。〔康篇〕思慮を鎮しやすんず。○〔書〕「一…小良」。〔勝篇〕命ながくしてやすし。○〔賈誼書〕「不強勝一…」。〔安篇〕平かにしてやすんず。○〔易〕「一…社稷」。〔康篇〕大いにやすし。○〔宋樂府〕「大一…馬鳴」。〔文篇〕をさめやすんず。○〔蘇陽修〕「一…馬鳴」。〔悅篇〕よろこびたのしむ。○〔韓文公〕「大一…綠」。

〔康篇〕やすし。○〔易經〕「王一…」。〔治篇〕をさまりてやすし。○〔蘇陽修〕「傳來帝又、以謂一…」。

康 カウ。苦沅切 潸

あゞ。〔元〕。○〔禮〕「崇一坫」。

庸 ヨウ、ユ。余封切 冬

一もちふ。〔用〕。○〔莊〕「爲是不一用、而寓諸一」。

二つね。

（い）變はらざること、ときは。○〔書〕「自一我五禮有一哉」。

（ろ）勝れざること、なみ。○〔漢〕「人謂二魏勃勇、安一人耳何能爲乎」。

〔篇海〕功勞をあらはし知らしむ。○〔説文〕「部一…」。〔集韻〕笛の音の一名。○〔象道周鑑註〕「蓋日一…」。

〔は〕物事の正當のほどに適中すること、和。○〔蔡邕〕「鑑務一中一…」。

三いさなし、いさなし。功。○〔書〕「有三能奮一熙帝之載」。

四いたはる。〔勞〕。○〔詩〕「我生之初尚一…」。

五あに。〔豈〕。○〔左〕「一非貳乎」。

六賦課の法、國中の丁年以上の男子を日數を期してえだちに使用するに、其のえだちに應ずる能はざるものは其の日數に應ト て定めの長さの布帛を上納すること。○〔唐〕「取之以三租一調之法」。

七溝の水をとゞめ、又、流すの用に設けたる溝の門、ひ。○〔禮〕「祭三坊與三水一一事也」。

八埔に通ト用ふ、かき、こトろ。○〔詩〕「因三是謝人一以作一爾一」。

九鄙に通ト用ふ、やさふ、やさはれ、やとひ人。○〔漢〕「窮困實一於齊」。

十鑄に通ト用ふ大いなるつり鐘。○〔詩〕「一…鼓有一斁」。

〔篇海〕あゆ用ひらる、又、あゆ用ふ。○〔論語〕「譬一…」。

〔篇海〕「居高位」。

〔篇海〕「不能五十且一…」。

〔篇海〕「居高位」。

〔篇海〕「不能五十且一…」。

〔篇海〕「居高位」。

〔篇海〕「居高位」。

〔篇海〕「居高位

無二一人間—一」。

〔上廟〕かはやに入る。○〔韓田巻〕「神息公—」—聞小聞」。

〔天廟〕星の名。○〔史〕「霍別南有二陽星一日—」。

〔宋廟〕まとる。○〔史〕「宋鍾甞言徐陽相—」—」。

〔雑廟〕前に同じ。○〔王充〕「春秋—」、何世無有」。

〔朋廟〕前に同じ。○〔晉〕「宗室子爲、替無一人」—」。

〔同廟〕前に同じ。○〔孔叢子〕「—」—西海」。

〔廟廟〕かはや。○〔晉林道恵〕「元鎮十—以高勝」—」之。

〔廟廟〕前に同じ。○〔通鑑〕「大小—」—」無」不」—」。

〔廟廟〕前に同じ。○〔晉書〕「—」—翠羽」。

〔廟足〕。

廁 ショク、シキ。察色切 職

そばだつ（側）。○〔莊〕「—レ足而望レ之」。

廂 トウ、度候切 尤 ユ。容朱切 虞

一 廠に通じ作る。かはや。

二 きぶね（木槽）。

廂 庚に通じ用ふくら。

庫 クン、コン。擊滋切 吻

つむ、積。

廐 寓に同じ。

廏 古文の鑑の字。

廏 古文の廐の字。

廁 ラツ、ラチ。郎達切 圓 又廁に作る。

いほり（庵）、一説に、ひとや（獄室）。

廑 イン、オン。於今切 侵

廟 シヤウ、サウ。思將切 陽

正殿の東と西とにある序、ひさし、わたどの（ほそどの）（廊）。○〔史〕「呂后側二耳於東—」—」廟。

〔廟廟〕堂の東にあるわたどの。○〔儀禮〕「—」—」。

〔廟廟〕前に同じ。○〔宋、註〕「—」—」直作」。

〔廟廟〕四方のわたどの。○〔宋〕「於是—」—」金石絲竹」。

〔廟廟〕玉斝に同じ、玉をちりばめたひさし。○〔說文〕「斝」—」—」而一圓号」。

廉 カン、胡南切 覃

庇に同じ。

廉 木の花實の垂るゝ貌にいふ字。

廉 影に同じ。

廉 タイ、デ。徒回切 灰

垂れさがれる貌にいふ字、さなる。

十一畫

廡 ス井。息奏切 支

屋ゆがむ、又、ゆがむ。

廬 アフ、乙盍切 カフ、ゴフ。切 轄 合

山のわきにある穴、ほらあな、又、くら、（蔵）。○〔揚雄〕「其鈌」。

廬 バ、メ。莫駕切 碼

いほり（庵）。

廆 クワイ、ゲ。胡罪切 賄

かき（籬）。○〔上林賦〕「巖磈嵬—丘、虛嶇崎—」。

廆 クワイ、ゲ。姑回切 灰

山の名。○〔山海經〕「中山西有二—山」其陰多璆、琈於之玉」。

廏 チ、ゲ。丈爾切 紙

のり（鱗）。

〔廏〕一に國者に作る、獸の名なり、形細正しければ出づ、いひ、又、羊に似て一角あり能く非者を知りて觸るといふ。○〔司馬相如〕「弊—」—」。

〔廏〕之 獬

廏 リウ、力救切 宥 一に霤に作る。

いへの中央の房室、なかのま。○〔劉向〕「劉」「諫」「賊於中—」兮」。

〔廏〕うつはも、又、大いなる貌。○〔智〕「—」—」國之廏」。

廏 カ、ゲ。亥雅切 圓

一 ひさし（廉）。○〔西京賦〕「大—耿々」。

二 いへ（屋）、一説に、大いなるいへ。○〔唐〕「所レ欣成大—」。

〔廏〕おほいなる家屋。○〔後漢〕「—」—」成而厚木」。

〔廏〕たかく大いなる貌。○〔鮑照〕「崢々—」—」而長」。

〔廏〕前に同じ。○〔陸機〕「崢々—」—」。

〔廏〕前に同じ。○〔張協〕「—」—」鎮」。

廉 レン。力驗切 豔

一 かど。

（いさぎよく出でたる處。○〔詩傳〕「棘稜—也」。

（ろ）側邊、ほとり、又、側隅、すみ。○〔機〕「設席於堂—東上」。○〔禮〕「砥三礪—隅」。

二 名利を貪らず、我慾少しきよし、いさぎよし（潔）。○〔大戴禮〕「潔—而切—直」。

三 少し、やすし。○〔韓愈〕「其實人也詳—其待」已」。

四 さし（利）。○〔禮〕「其器—而深」。

五 あきらかにす、みる（察）。○〔後漢〕「使二仁—恕據肥親往—レ之」。

〔立廉〕いさぎよき心をたつること、みさを、立つること。○〔傳〕「曾子—レ不飲盜泉」。

〔孝廉〕一郡の中にて管内の民と交際をより明瞭に孝廉せたる者。前代、隋代の孝士の名稱。○〔見註〕「稱、管者、今、準—」。

〔廉廉〕いさぎよきを愛するもの。○〔禮〕「敢—」。

〔廉廉〕一に鷁、鷁名づけ鳥の頭鳥の全身なる鳥食にして能く風波を知りて鳴するもの、又、風の神ともいふ。○〔史〕「起—」、「勢御者」。「秋風」。

〔清廉〕いさぎよし。○〔史〕「王莽—」、「西轅者宜」。

〔廉廉〕前に同じ。○〔晉書〕「所」、「以」—」、「爭勝」。

〔分廉〕曲がりかど。○〔史〕「蘇子、千知人即水北」—」上」。

〔大廉〕はなはだいさぎよきもの。○〔史〕「—」—」不」。

〔廉廉〕おかしの側邊の名。○〔晉書〕「—」—」鮮食防」同」。

〔堂廉〕堂の側邊のもの。○〔史安石〕「事判在」—」。

〔廉廉〕ものごとをかどにして且ついさぎよきもの。○〔說苑〕「—」—」鮮」。

〔特廉〕いさぎよき操をたもつ。○〔史〕「—」、「泥」死」。

〔廉廉〕いさぎよきものすくなきもの。○〔史〕「—」—」。

〔貪廉〕きびしくいさぎよきもの。○〔史〕「—」—」即」。

〔貪廉〕たやすくいさぎよきもの。○〔史〕「夫」—」之士、未必能」、「廉」世」者」。

〔廉廉〕たかがらをしてものいさぎよきもの。○〔史〕「—」—」不」。

〔廉廉〕つゝしみ慎く且いさぎよきもの。○〔晉〕「世」—」—」。

〔方廉〕正直にしていさぎよきもの。○〔宋、註、他〕「—」

〔質廉〕やすし。○〔呉師道〕「晉南開陽酒」—」。

廊 ラウ。虚當切 陽

殿の母屋につゞきたるひさしの下、即ち行き通ひする處、ほそどの、わたどの、ひさし。○〔揚雄〕「—」殿門」、「開限以二藥界」—」。

〔廊廊〕（ひ）殿下に構へたる小さき屋。○〔史〕「鄧禹」—」—」之上、乘拔無貨而天下太平」。

（ろ）高く敞しくわたせるわたどの。○〔晉〕「今拔白干」—」—」。

〔廊廊〕ながくわたせるわたどの。○〔西京賦〕「—」。

〔廊廊〕前に同じ。○〔西京雜記〕「車閣」—」、「行之移」。

〔宮廊〕殿中のわたどの。○〔晉庭賦〕「華宮鮮麗過」。

〔廊廊〕めぐらしわたせるわたどの。○〔洗寒賦〕「—」—」、「曲廊」。

〔高廊〕たかきわたどの。○〔魏〕「—」—」四注、重」坐」。

〔宮廊〕かさなりわたせるひさし。○〔說苑周考〕「事」、「—」—」。

〔沙廊〕わたどの、えんがは。○〔鈴鹿出〕「竹馬考」—」—」。

〔廊廊〕わたどもしくわたせるわたどの。○〔社牧〕「—」—」。

〔廊廊〕なゝめなるわたどの。○〔蕃太史〕「—」—」。

〔廊廊〕長廊をわたどの。○〔李賢〕「—」—」。

〔廊廊〕ひさし。○〔陶弘景〕「—」—」側宴、可以安」身」。

〔廊廊〕前に同じ。○〔陶見〕「—」—」明」野色」。

〔廊廊〕長もてかざれるわたどの。○〔張庭芳〕「—」—」無」國無」—」—」。

廈 シヤ、シュ。疎鳩切 尤

一 かくす、かくる（匿）。○〔論〕「人焉—哉」。

二 もとむ、さがす（索）、一説に、室内をさがす。○〔漢〕「—」、「索私屠沽」。

三 くま（隈）。

廈 ソウ、ス。蘇后切 有

前條の一の解に同じ。○〔國〕「有三秦客」—」〔辭於朝〕」。

廣 廣に同じ。

廢 廢に同じ。

廢 キ。許規切 支

發—はすがた。

廷 ツ井、ヅ井。池偽切 寘

舍つぶる、つぶる。

麻 歷に同じ。

十二畫

廣 ケイ、キャウ。窺營切 庚

いへのかたはら（屋側）。

廣 ケイ、キャウ。大頴切 梗 棄挺切 迥

ちひさきいへ（小堂）。

廣 ケイ、キャウ。傾覺切 敬

うりごや（瓜屋）。

廣 廣の本字。

廣 シン、ソン。式禁切 沁

一 おく深く大いなる屋。二 屋の深奥なる貌にいふ字、おくふかし。

廣 サ、セ。鉏加切 麻

屋壞れんとする貌にいふ字、やぶれかゝる。○〔淮〕「—」屋之下、不」可レ坐也」。

廏 キウ、ク。居又切 宥

馬を畜ひ置く家、うまや（馬舍）。○〔詩〕「乘馬在—」。

廐 イ。於其切 支

すみやかなり、又、いそぐ（急）。

廐 ガウ、ゴウ。五牢切 豪 俗に、廐に作る。

米穀をいれおく倉、こめぐら、くら。

廓 クワク。苦郭切 藥

一 おほいなり（大）。○〔吳〕「性度恢」—」。

〔外廓〕宮外のうまや。○〔魏〕「時代貴族必置之」—」—」。

〔廓廓〕うまや。○〔國〕「廐以爲」—」—」。

〔廓廓〕うまやに馬を繋ぐる、或し之れを綱取にする後めといふ。○〔周〕「春秋、僖」—」始牧」。

〔廓廓〕長くつゞきたるうまや。○〔名〕「春新作」—」—」。

〔宮廓〕王宮のうまや。○〔白居易〕「省」—」之吹」。

〔名廓〕宮者のうまや。○〔公羊〕「馬出之」—」、「廐之外廐」智」。

〔中廓〕前に同じ。○〔穀梁〕「廐之」—」、「而廐之」外廐也」。

〔龍廓〕天子のうまや。○〔後〕「輯」—」上馬」。

〔外廓〕前に同じ。○〔常表〕「調龍」—」於于」—」。

〔廓廓〕王のうまやを掌る役の名。○〔周〕「故」—」廐」—」。

〔廓廓〕立派なるうまや。○〔顧廷之〕「文」—」列子」—」日」—」。

廐 キン、ゴン。渠斤切 文 奇斬切 問

俗の廐の字。

廛 一 小さき屋、ふせや、こや、こい。

二 あまり、あまる（餘）。

三 ほゞ能くわづかに、幾。○〔漢〕「其次」—」得二舍人」」。

四 動に通ず用ふつとむ。○〔揚雄〕「其」—」至矣」。

廣 バク マク。末各切 藥

むなし（空）。

廣 イ。於其切 支

すみやかなり、又、いそぐ（急）。

廣 ガウ、ゴウ。五牢切 豪 俗に、廐に作る。

米穀をいれおく倉、こめぐら、くら。

廓 クワク。苦郭切 藥

一 おほいなり（大）。○〔吳〕「性度恢」—」。

二 むなし（空）。○〔漢〕「魁然無徒」—」、然獨居」。

三 大いならしむ、ひらく（開）。○〔揚雄〕「張レ小使レ大謂二之—」」。

四 劒の削さや。○〔揚雄〕「劒削自」關而東或謂二之—」」。

〔廓廓〕よとりひらく。○〔史〕「—」、「六合」。

〔廓廓〕はなはだしくして大いなるもの、即ち、おほきもの」いと」。○〔史〕「上」—」西無」天」。

〔大廓〕おほきくおほし。○〔史〕「—」、「廣」之」。

〔廓廓〕ひろくおほし。○〔史〕「—」、「廣」。

〔廓廓〕ひらく、大なり。○〔史〕「陛下」—」、「即」。

〔廓廓〕むなしく大いなり。○〔白居易〕「—」、「了」如」空」。

〔廓廓〕空虛なる貌にいふ字。○〔史〕「天下」—」、「無」。

〔廓廓〕空しくひろきと、即ち、おほきものにいふ字。○〔傳、休奇〕「必」、「虹」、「雖」、「手」—」。

〔廓廓〕たかくしておほいなり。○〔冷齋記、他〕「—」、「詩門」、「詩」、「賀」、「原之」、「遠」。

〔賀廓〕ひろくおほし。○〔賀〕「省」、「詩」、「失」、「地之」、「主」、「—」之」、「遠」。

〔廓廓〕ひろくおほいなり。○〔宋、廓〕「鼠」、「之」、「西」。

〔安廓〕ひろくおほいなり。○〔祈、廓〕「即」、「偏」—」、「。

〔懷廓〕こゝろおほいなり。○〔陸、廓〕「—」、「客」、「廓」。

〔天字廓〕そもひろし。○〔史、秋、廓〕「解」、「日」—」、「。

廣 ロウ、郎侯切 尤 リュ、龍珠切 虞

一 日光を延かん爲めに屋又は壁に穿てる孔、あかりまど、まど、窗。

二 せすぢ、せ（脊）。

三 種子を蒔くに用ふる具、たねまきだうぐ（種）。

廕 イン、オン。於禁切 沁 又、蔭に作る。

おほふ、おほひ、かげ。○〔戰〕「席」、「雖」、「而」、「庇桑陰」」。

廖 レウ。憐蕭切 蕭 力弔切 嘯

チウ、チユ。丑鳩切 リウ、ル。力求切 尤

人の名、又姓。

廖 リウ、ル。力救切 宥

國の名。

廗 タイ。當蓋切 泰

屋ゆがむ。

廬 ロク。盧谷切 屋

こめぐら、くら（倉）。

廟 廟に同ト。

廟 廟に同ト、すき。

廢 シ。色倚切 紙

義闕けり。

廱 サイ、セ。祖猥切 賄

物の垂るゝ、貌にいふ字。

廳 ヘイ、ビヤウ。蒲征切 庚

隱れかたよりて人無き處、かたかげ、又かたぶき（側）。

廢 シヤク、サク。尸灼切 藥

病を治す、いやす。

廢 廢に同ト。

十二畫

廣 ハン。鋪官切 寒

一そばだてるへ（峙屋）。
二たくはふ（儲）。

廢 ヨク、イキ。逸織切 職

古文の秩の字。

又氏に作る。

廣 イ。羊吏切 置

持ちあるくことを得る構造のいへ、やたい（行屋）。

廚 チユ、ヂユ。重株切 虞

一に厨に作る。

つゝしむ、うやゝしし（恭・敬）。

一食物の料理場、くりや、庖屋。○〔孟〕「是以君子遠二庖一也」。
二財をもて人を救ふ者又あるト（主）。○〔後漢〕「度尚張逸王孝劉儒胡母班秦周蕃趙王章爲二八一」。
三たんす、ひつ、はこ、櫃。○〔晉〕「愷之嘗以二一一畫二寄二桓玄一」。

〔家語〕上ばた。○〔禮〕「醴公—一也」。
〔御覽〕帝王の料に供えるみくりや。○〔社甫〕「—一幕珍八珍」。
〔天官〕屋の名。○〔禮〕「榮宮東北雉外六屋曰—一、主管膳」。
〔角部〕屋の名。○〔禮〕「榮宮西南角外三屋曰—一、主六宮之肴飲食」。
〔外部〕屋の名。○〔禮〕「柳南六屋曰—一」。
〔行部〕轉宮、わりた。○〔社甫〕「竹葉—一洗玉盤」。
〔飢部〕かんぢしばた。○〔南華〕「以—一子鬻」。
〔坊部〕以て—一子鬻。○〔徐陵〕「廚中のくりや。○〔白居易〕「—一酒保」。
〔宿部〕食物の貯（なかりや）。○〔皮日休〕「見鹽餘病滿—一」。
〔膳部〕料理のくりや、やりなたのくり。○〔紙部〕「—伯愛—一法皮書」。
〔食部〕珍味のきくりや。○〔賈客〕「—一珍羞」。
〔鼎部〕かたく鼎ぎしたるよばた。○〔鼎部之〕「參日—一失參鼎」。

廣 タイ、テ。徒回切 灰

下り重なる、おる。

廐 井。王委切 紙

よし、うるはし（美）。

廠 廠に同ト。

廛 テン 澄延切 先

鄽・壥・塵・廛、などに作る。

一住居の區域、やしき、すみか、すまひ、住處。○〔周〕「夫一—一田百畮」。
二物をあきなふ處、みせ、店鋪。○〔唐〕「晟用兵市不レ易レ」。

〔一部〕一夫のすまひ。○〔名〕「顧受—一而鬻」。
〔邑部〕町はづれのやしき。○〔社都賦〕「松根銘—一」。
〔宮部〕あるなかや。○〔韓愈宮〕「松根銘—一」。
〔市部〕まちまちや。○〔文選〕「愛—此逸—一」。
〔列部〕ならべるみせ、又、みせをなるよ。○〔路史〕「—一於鹽」。
〔豚部〕商店。○〔漢書〕「—一管庶」。

廣 ト、ツ。同都切 虞

一に渚に作る。

一廐は、わらや、いほり。
二屋の平なるにいふ字。

廣 フン、ボン。符分切 文

くづる、（崩）。

廗 シン、ソン。所錦切 寢

ばらふ（のぞく）（除）。

廝 シ。相支切 支

又廝・撕・澌に作る。

他に使はるゝ賤しき人、賤役者、めしつかひ、こもの。○〔揚雄〕「官・婢女—一謂之廝」。

廢 キン、コン。盧金切 侵

つちぬ、ならぶ、のぶ（陳）。○〔周〕「—レ裘飾二皮車一」。
二おこす（興）。○〔周〕「—二其樂器一」。

廢 ギン、ゴン。牛錦切 寢

一前條の解に同ト。
二怒る貌にいふ字。○〔揚雄〕「虎虎振—一」。
三泥ふさがる。○〔唐〕「滄州無棟梁久—塞大鼎浸治」。

廢 カン、ケン。丘銜切 咸

山險し、さがし。

廟 ベウ、メウ。眉召切 嘯

一祖先の尊像、又神主か安置ぜる堂宇、轉ト一て祖先の靈を祭りこめたる場處、たまや、みたまや。○〔詩〕「於穆清—一、肅雝顯—相」。
二鬼神、聖賢などを祭りこめたる堂舍、やしろ。○〔史〕「是作二渭陽五帝一」。
三尊像、又神主、かたしろ。○〔荀〕「負二三王之—一而辟於陳蔡之間一」。
四王宮の正殿、帝王百官の政事を行ふ處、朝廷、おもてごてん。○〔吳〕「不上二堂—一而天下治也」。
五東四に廂ある室、前堂、まんどころ。○〔禮〕「寢—必備」。
六かりもがりしたる場處、殯宮。○〔大戴記〕「從王三子—一」。

〔大戴〕君王の祖先のたまや。○〔管〕「子入—一」。
〔解部〕廟に同。
〔組部〕先代のたまや。○〔禮〕「春秋修—一」。
〔七部〕天子のたまや、即ち三廟と三昭と太祖の廟とを合はせていふ。○〔禮〕「天子—一」。

〔宣部〕諸侯のたまや、即ち二廟と二昭と太祖の廟とを合はせていふ。○〔周〕「諸侯—一」。
〔三部〕大夫のたまや、一廟と一昭と太祖の廟とを合はせていふ。○〔三輔黃圖〕「九府—一十二門九市」。
〔鼎部〕おもてごてん。○〔史〕「賢人滯—一鼎」。
〔宋部〕己が家の祖先のたまや。○〔禮〕「見者羅敬如—在—一」。
〔官部〕たまや、やしろ。○〔周〕「—一、敵時使—一鑑先」。
〔宗部〕祖先のたまや。○〔禮〕「君子將營宮室、—一鑑先」。
〔部部〕血統のとばくれる先代のたまや。○〔禮〕「—一、設祧」。
〔一部〕さふらひのたまや。○〔禮〕「士—一、庶人祭於寢」。
〔寢部〕高祖と曾祖と祖と父とのたまや。○〔禮〕「以其祖配之、而立—一」。
〔祝部〕百廟に祝詞。○〔周〕「宣聞明王制禮立—一」。
〔祭部〕父のたまや。○〔禮〕「凡行事必用鬼神、爲—一」。
〔祀部〕妻のたまや、夫婦は合はせ祭るを例とすれども、妾は之に配祀するを得ざる例にたまやを設く。○〔公羊、註〕「妾—世夫、妻—以夫人、稱—一」。
〔天部〕星の名。○〔漢〕「張衡十四皇曰—一」。
〔高部〕高祖のたまや。○〔史〕「高寢衣冠月出游—一」。
〔糸部〕遠主を祭るたまや。○〔國〕「魯孫宮、遠—一」。
〔鐘部〕みたまや。○〔禮〕「乃迎—一以休祿」。
〔裏部〕人の祭るものなきやしろ。○〔王作〕「新之「新—一枚、城」。
〔鼓部〕上るきやしろ。○〔論語〕「因北—一、曷西」。

廠 シヤウ。徵兩切 養

尺亮切 漾

かこひなき舍、壁なき屋、あばらや、露舍。○〔韓偓〕「枳籬茅—一共桑麻」。

〔漢書〕あばらやさしかけ。○〔周、註〕「猶有—一」。

廡 ブ、ム。罔甫切 麌

一堂下の周屋、廊廂、ほそどの、ひさし。○〔漢〕「陳二鳴金廊—一下」。

廢 ハイ、ヘ。方肺切 隊

草木の盛んなる貌にいふ字。○〔書〕「庶草蕃—一」。

一行はれず、用ひられず、弛みおとろふ、壞る、疲る、やむ、すたる。○〔老〕「大道—有二仁義一」。
二行はず、用ひず、放置す、退かす、やむ、すつ。○〔周〕「—一置以馭二其民一」。
三おとす、おつ、〔落〕。○〔左〕「狂子自投二於牀一」。
四癈に通ト用ふ。○〔左〕「國二一疾一」。
五おこる、〔快〕。○〔詩〕「爲二殘賊一」。
六殘忍。○〔詩〕「爲二殘賊一」。
七敗壞。○〔周〕「—一置以馭二其民一」。
八敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
九敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
十敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
十一敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
十二敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
十三敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
十四敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
十五敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
十六敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
十七敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
十八敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
十九敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
二十敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
二十一敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
二十二敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
二十三敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
二十四敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
二十五敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
二十六敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
二十七敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
二十八敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
二十九敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
三十敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
三十一敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
三十二敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
三十三敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
三十四敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
三十五敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
三十六敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
三十七敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
三十八敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
三十九敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
四十敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
四十一敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
四十二敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
四十三敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
四十四敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
四十五敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
四十六敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
四十七敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
四十八敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
四十九敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
五十敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
五十一敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
五十二敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
五十三敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
五十四敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
五十五敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
五十六敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
五十七敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
五十八敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
五十九敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
六十敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
六十一敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
六十二敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
六十三敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
六十四敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
六十五敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
六十六敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
六十七敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
六十八敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
六十九敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
七十敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
七十一敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
七十二敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
七十三敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
七十四敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
七十五敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
七十六敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
七十七敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
七十八敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
七十九敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
八十敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
八十一敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
八十二敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
八十三敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
八十四敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
八十五敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
八十六敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
八十七敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
八十八敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
八十九敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
九十敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
九十一敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
九十二敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
九十三敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
九十四敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
九十五敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
九十六敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
九十七敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
九十八敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
九十九敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。
百敗壞。○〔荀〕「—一置以馭二其民一」。

廣 クワウ。古晃切 養

一ひろし。
二面積多し、かぎり遠し。○〔詩〕「誰謂河—一、葦杭レ之」。
三行き亘れり、普し。○〔呂氏春秋〕「其人事則不レ—一」。
四は打ちくつろげり、安くしてさはりなし。○〔禮〕「心—體胖」。
五に綏し。○〔論〕「則容レ衆」。
六ひろくなす、ひろむ、ひろぐ。○〔史〕「乃爲二賦以自—一」。
七ひろくなる、ひろがる。○〔後漢〕「齊民增闢二土世一」。

〔草部〕たひらにひろし。○〔時、賦〕「眉上—一」。
〔高部〕たかさとひろさと。○〔陸神經〕「其—一、寒寺樓等」。
〔弘部〕ひろし。○〔劉表〕「二者既敵—一」。
〔溢部〕前に同ト。○〔郭銘部〕「復淵度—一」。
〔增部〕ひろし。○〔東哲〕「—一、寡人之業、以謂西沈之田」。

廣 クワウ。古曠切 漾

一よこ、〔橫〕。〔周〕「周知二九州之地域、—一、輪之數一」。
二戰に用ふる車の名、よこに陳ぬるもの。○〔周〕「—一、車之華」。
三ゆたか、〔泰〕。○〔荀〕「人主胡不レ—一」。
四曠に通ト用ふ。○〔漢〕「師出過時之謂レ—一」。

廣 ケウ。丘召切 嘯

高き屋たかどの。

廣 鼻に同ト、人の名。○〔戰〕「所用者樓—一、輩強也」。

廩 シヨ、ソ。賞呂切 圖
いへ〈倉。

廩 タン。驚旱切 旱
かたひさしのいへ〈偏倉。

廟 倉に同じ。わづかに。○〔禮〕「醴—有二存者一」。

倉 クワイ、ケ。古外切 泰
〔名〕穀を積み置く處くさや。○〔急就篇〕「盤—廐庫東廂。」「淺レ渠。
〔名〕くら〈倉。○〔唐〕「類發二官—一庸レ民。」〔倉〕くらさ倉。○〔詩〕「緜—一而中山郭。」〔天〕星の名。○〔管〕「天—黃道、皇在二其南一、二日。」〔雜〕共倉をいれおく倉。○〔管〕「倉廩—一。」〔物〕くら。○〔國語〕「倉廩—一。」〔倉〕穀物を入れおくくら。○〔管〕「倉廩—一。」〔倉〕官等級—一。〔紫〕高大な倉。○〔周禮〕「庾物—一。」

廣 ロ、ル。耶古切 麌 龍都切 麌 一に廣に作る。
〔廣〕ひさし〈廣。〔二〕くら〈府。〔三〕いほり、〈庵。

廣 セン、セン。祀兗切 銑
大いなる室、おほいへ、ひろま。

廢 ヘキ、ヒヤク。必歷切 錫 匹辟切 陌
〔一〕いへ〈室屋。〔二〕かき〈牆。

廚 シヤウ、ザウ。慈良切 陽

一に省きて、廣に作る。
〔一〕牆に同じ、かき。○〔戰〕「趙昔以—蔽、
〔二〕商に通じ用ふ、こもの、小臣。○〔戰〕「—夫空。」

廨 カイ、ケ。居隘切 卦
官人の職務を執り行ふ所、やくしよ。
○〔通鑑〕「以爲二官—一」。

廠 ユ。羊朱切 虞 イウ、ユ。以周切 尤 或は廠又、輸に作る。

廢 ケン。魚欠切 豏
邪—には、手を屢げて相弄ぶなぶる。

廞 カン、コン。丘凡切 豏
小さき貌にいふ字、又、すこし。

廞 キン、コン。火禁切 沁
ひつ〈櫃。

廞 キン、コン。火禁切 沁
意櫃ふはやる。

廩 エウ。餘昭切 嘯
ねどころ〈座。

廩 リン。力錦切 寢
〔一〕米を藏むる倉、こめぐら、くら。○〔詩〕「亦有二高—一萬億及秭。」
〔二〕俸祿、ふち、ちぎやう。○〔後漢〕「恐人稍受レ—、往來煩劇。」
〔三〕懷に通じ用ふ、あやふし。○〔漢〕「可三以爲レ富安二天下一、而直爲二此—一。」
〔倉〕こめぐら。○〔禮〕「季春之月、命二有司一、發二倉—一。」

〔米〕前に同じ、略して、有國氏の學校の稱。○〔國〕「—、竹、國氏之稱也。」
〔部〕租稅の收納に供せんとして官王の現ら納して得たる穀物を藏めおくくら。○〔米〕「秋八月、壬申、—、—、民。」
〔官〕人民に救助米を與へ。○〔後漢〕「開倉—、三十、線穀。」
〔官〕政府の所有する米くら。○〔史〕「九月、丁丑、發—、—、漢、關、雍州水災。」
〔月〕月々にあてがふ扶持米。○〔文〕「紀子、況、郊、人、倉、廩、受—、—。」
〔官〕穀物米倉に藏つ。○〔後漢〕「糴、地以用、失、重、—、—、以、穀、糴、師。」
〔給〕扶持米をあてがふ。○〔史〕「開倉—、—、使之。」
〔米〕扶持米。○〔史〕「前不中、經費、減、—、—。」
〔倉〕兵士に給與する米穀のくら。○〔周〕「自、是、雜、南、盟、防、—、充、足。」
〔州〕二千五百家を有する區域の邑里に設けたる米倉。○〔魏〕「米、穀、不、受、—、—、廩、籍。」
〔司〕唐の時代に米倉を掌る官の稱。○〔後〕「—、—、可、唐、谷、一、人、正、九、品。」
〔官〕布帛米穀を入るゝくら。○〔後〕「所、部、—、、皆、可、支、數、歲、—。」
〔米〕穀助米を賜めおくくら。○〔後〕「鄭、鶴、—、—、—。」
〔私〕自己の所有せるくら。○〔史〕「蘇、秦、有、出、—、—、藏、黃、金、百、斤、。」
〔倉〕米穀を貯へおくくら。○〔史〕「覆、鍋、、、

〔外部〕外朝に同じ表むきの役所。○〔管〕「今上居野、表ー」。

延 エン。以然切 先

一ひく。
（い）長く引く。○〔左恩〕「ー閑九字。」
（ろ）道く、進む。○〔儁〕「接者ーレ之日升。」
（は）まざる、〔却〕。○〔張衡〕「遷ー邪。」
（に）いる〔納〕。○〔漢〕「以ー賢人。」
二のぶのばす。
（い）長ず。○〔陸機〕「迎ー朱夏ー而自」
（ろ）布く。○〔國〕「ー君譽於四方。」
（は）とどこほる、とどこほらす、〔淹〕。○〔左〕「謂三之遷ー之役。」
（に）つとく〔連〕。○〔陶侃〕「尚可ー小」
（ほ）およぶ、およぼす〔及〕。○〔書〕「賞ー于世。」
三長し。○〔班固〕「歷十二之ー前。」
四遠し。○〔史〕「ー袤萬餘里。」
〔後漢〕めぐりかやまる動にいふ語。○〔張衡〕「顧ー眄」「後ー」。
〔後漢〕躍くのふ。○〔後漢〕天子玉衣、十有二綴、前
〔後漢〕（ら）すこはる敬、又、つゝく敬。○〔後漢〕
〔前漢〕ものこ。○〔左、昭〕「ー」。○〔後漢〕「ー」。
〔前漢〕いはひて長年せしめる。○〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕ながくつゝく。○〔後漢光殿賦〕「叶ー之」。
〔後漢〕はびこる。○〔前漢〕「ー」。
〔後漢〕敬。○〔文選〕「前時大事中、敵不、ー」。
〔後漢〕ものこ。○〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕すゝめ勧る。○〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕あるいくひき勧る。○〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕人もまにのびわたる。○〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕歳月。○〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕遊び勧る。○〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕庶作す。○〔後漢〕「ー」。

建 ケン、コン。紀偃切 阮

くつがへす〔覆〕。○〔史〕「殲ー居高屋之上」。○〔後漢〕「ー」。

建 ケン。以然切 先

一たつ。
（い）律を設く。○〔書〕「ー用三皇・極」。
（ろ）置く。○〔易〕「先王以ー萬國」。
（は）竪立す。○〔禮〕「杖而朝、見レ君ー」。
（に）成す。○〔戰〕「可レ」ー大功」。
二北斗星の北にある星の名。○〔禮〕「仲春之月、且ー星中」。
〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕あらかじめたつ。○〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕かゝを多くたつ。○〔後漢〕「其若ー」。
〔後漢〕あたらしくたつ。○〔後漢〕「時時都ー」。
〔後漢〕おこしたつ。○〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕はじめおこす。○〔後漢〕「ー」。

建 ケン。居萬切 願

一たつ。
（い）律を設く。○〔書〕「ー用三皇・極」。
（ろ）置く。○〔易〕「先王以ー萬國」。
（は）竪立す。○〔禮〕「杖而朝、見レ君ー」。
（に）成す。○〔戰〕「可レ」ー大功」。
二北斗星の北にある星の名。○〔禮〕「仲春之月、且ー星中」。
〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕あらかじめたつ。○〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕かゝを多くたつ。○〔後漢〕「其若ー」。
〔後漢〕あたらしくたつ。○〔後漢〕「時時都ー」。
〔後漢〕おこしたつ。○〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕はじめおこす。○〔後漢〕「ー」。

廴 部（二畫—三畫）

廷 エン。以然切 先

冕の上部の覆ひ、おほひ。○〔禮〕「天子、玉藻十有二旒前後邃ー」。

廷 エン。以淺切 銑

〔後漢〕つらなりつゝく。○〔後漢〕「ー不可勝」。
〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「ー」。
〔後漢〕設くつらなる。○〔西京賦〕「車騎雲ー」。
相ー」。
〔後漢〕永かに及ぶ。○〔後漢〕「名譽ー」。

廻 回に同じ。○〔史〕「ー車」。

廏 タウ、ヂヤウ。丈梗切 梗

つく、又、つくす〔盡〕。

廴 部

廾 キョウ、グ。居懷切 灰

相順み視て行くゆく。

廾 部

廾 ジフ、ニフ。人汁切 緝

十の二つならびたるもの、二十。○〔顏之推〕「中山何夥有レ子百ー」。

弁 ヘン、ベン。皮變切 霰

一種の冠冕の屬、かんむり。○〔儀〕「周ー殷冕夏收。」○〔禮〕「ー行刻々起」。
二なをゝく〔戰〕。○〔禮〕「ー」。○〔漢〕「更皆殷ー」。
四やまし〔疾〕。○〔漢〕「予甚ー」。
五手摸、うちあひ、くみうち。○〔漢〕「試レ爲二期門ー」。
〔後漢〕周代の冠、〔詩〕「弁」とも。ふ、四ふ八寸長さ一尺二寸ありて爵の如し。○〔後漢〕立ち朕内之内に作りたる弁。〔周〕弁冕、諸侯王之玉藻王之ー」。
〔後漢〕王赤色の皮弁。○〔後漢〕凡兵事ー服。
〔後漢〕武人のかゝる冠、轉じて武人の役。○〔後漢光殿賦〕「ー朝の爭臣」。
〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「ー生綿帛」。
〔後漢〕一に皮弁ともいふ、二種の冠。○〔後漢〕「ー」。入ー朝」。

弁 殺に同じ、たのしむ。○〔詩〕「彼驚斯。」

昇 弁に同じ。○〔左〕是ー」陳也。

弁 古文の輿の字。

弁 キ。渠追切 支

奮の持つところ、にぎり〔拊〕。

弄 ロウ、ル。盧貢切 送

一もてあそぶ。
（い）持ちて慰み物となす。○〔漢〕「高祖持二御史大夫印ー」之」。

昇 カン。古南切 覃

おほふ〔蓋〕。

弈 エキ、ヤク。羊益切 陌

一つひゆ、つひやす。
（い）つかる、つからす〔罷、くるしむ〕。○〔後漢〕「軍士疲ー」。

弊 ヘイ、ハイ。毗祭切 霽

〔困〕。

弊 部（四畫—十一畫）

（ろ）好みて慰みとす。○〔梁簡文帝〕「方追二山・壑ー永二林・泉ー」。
二たはむる、たはむれ、〔戲〕。○〔左〕「爽、吾弱不レ好ー」。
三あなどる、あなどり〔侮〕。○〔漢〕「皆散ー無ー所ー爲ー風」。
四音樂の曲、ふしべ、ふし。○〔嵇康〕「改ー調易調奇ー乃發」。
五音樂を奏す、しらぶ。○〔晉〕「爲作二三調ー舉便上車去」。
六ちまた、〔巷〕。
〔晉書〕もてあそぶ。○〔後漢〕「ー」。
〔晉書〕前に同じ。○〔後漢〕「ー」。
〔晉書〕たはむれもてあそぶ。○〔後漢〕「ー」。
〔晉書〕ものこ。○〔後漢〕「ー」。
〔晉書〕前に同じ。○〔後漢〕「ー」。
〔晉書〕音樂のふし。○〔後漢〕「琴操ー」。「音合乎
歌」。
〔晉書〕うたひしらべ。○〔後漢〕「琴操ー」。「琴
〔晉書〕ぬすみもてあそぶ。○〔後漢〕「故使陛下赤
子ー」。「陛下之兵子、陛下中ー」。
〔晉書〕魔にして取りあつかふ。○〔後漢〕「ー」。
〔晉書〕前に同じ。○〔後漢〕「ー」。「明權」。
〔晉書〕前に同じ。○〔後漢〕「ー」。「琴動」。
〔晉書〕もてあそぶ。○〔後漢〕「ー」。「明月光」。
〔晉書〕ゆえたる音樂のふし。○〔後漢〕「ー」。「琴
歌」。
〔晉書〕「即弦」。「ー」。
〔晉書〕「ー」。「即管」。
〔晉書〕「ー」。「琴操」。
〔晉書〕「ー」。「乃歌」。
〔晉書〕「ー」。「乃歌」。
〔晉書〕「ー」。「終日夕」。
〔晉書〕「ー」。「明月」。
〔晉書〕「ー」。「琴」。
〔晉書〕「ー」。「琴」。
〔晉書〕「ー」。「琴

「不興」。
〔弁物〕官吏の弊害。○〔賢〕官を非命之費、以教。
〔弁物〕そなつにして立ちやみれたるもの。○〔他〕「—」。
〔弁物〕上るくやみれたるもの。○〔他〕衣被—。
〔弁物〕前に同じ。○〔他〕又所服者牢料—。
〔弁物〕やみる。○〔元〕「之服」。
〔弁物〕やぶれ上。○〔他〕「申—之服、謂獄訟
〔弁物〕あかつきやよりと、火、北のもの。○〔他〕「復
常衣—」。
〔弁物〕つかれおとろふ。○〔元〕「厚位—」。
〔弁物〕喜のしげきに堪えてあしきと。○〔元〕「鍾、鍾
三青銅—」。
〔弁物〕ゑしき所をあるためかと。○〔新論〕「敵立
〔弁物〕以—」。
〔弁物〕つみかさなれるあしき事。○〔他〕「伐日
〔弁物〕そこれやある。○〔他〕「—」。
〔弁物〕くるる。○〔他〕「山石—」。
〔弁物〕きたなくしてやみれたるもの。○〔藝文〕「衣
敝—」。
〔弁物〕衰え。○〔他〕「相指鄙」「百姓—」。
〔弁物〕むかしよりのこりたるあしき事。○〔他〕「書起
〔弁物〕「讀雜六論之一」。
〔弁物〕あさかきる弊害。○〔周氏家訓〕「皆有—
—」。○〔他〕「—」。
〔弁物〕よしとしなるとも。○〔新書〕「論誹」。
〔弁物〕みたれやある。○〔王勃〕「衣冠—」。
〔弁物〕あれ衰え。○〔呂覽〕「—切獄訟」。

弊 ヘツ、ヘチ。筆別切 屑

雜揉す、まとふ、まとる。○〔淮〕「不興」物—、擾—。

十三畫

弊 エキ、ヤク。全益切 屑

一たしまへす、〔給〕。
二擇に同じ、えらぶ。

弊 セン。且然切 先

高きに升る、あがる、のぼる。

彝 擊に同じ。

十九畫

弋部

弋 ヨク、イキ。與職切 屑

一糸を矢に結びて射ること、いぐるみ。○〔詩〕「—鳧與雁」。
二さる、取。○〔書〕「非三我小國敢」「命」。
三くひ、樁。○〔禮〕「雜樣於—爲」「樣」。
四黒色、くろ。○〔漢〕「身衣—紺」。
五杙に通じ用ふ。○〔漢〕「孝武鉤—趙倢伃」。
〔殺さ〕いぐるみ。○〔他〕「高高殺以擊—之
書」。
〔文氏〕北斗の第八星の形を表はせる旋の名。
○〔後漢〕「蔡—」「樹根」。
〔驗氏〕蔡をはせていぐるみをして射る。○〔他〕「復出
〔驗氏〕蔡を細の間く染めたるもの。○〔韓田〕「—
—不—即寸樣御」。

弐 古文の一の字。

二畫

弐 古文の二の字。

三畫

弐 古文の三の字。

式 ショク、シキ。賞職切 屑

一のり。
（い）法制、おきて。○〔漢〕「樞機周密、
品—備具」。
（ろ）程度、ほど。○〔周〕「以三九—」、
均二節財用」。
（は）模範、てほん。○〔書〕「萬邦爲
（に）形樣、かた。○〔北〕「鎮禮衡度、
量二頒于天下、其不依新—」
者悉追二停之」。
二のりと爲す、のッとる。○〔詩〕「古訓
是—」。
三もちふ、用。○〔詩〕「維此良人、作
爲—殺」。
四車の前にある横木、車上にありて敬
禮するとき憑りかゝるもの。○〔周
「輿人爲車參二分其隧、一在前、
二在後、以揉其—」。
五つゝしむ。
（い）車の前の横木によりかゝりて敬
禮す。○〔書〕「—商容閭」。
（ろ）恭しくなす。○〔管〕「中心必—」。
六語を發するときに用ふる字、それ。
○〔詩〕「—微—微」。
七杙に通じ用ふ。○〔史〕「旋—正—基」。
八拭に同じ。○〔荀〕「濡巾三—止」。
〔藝式〕法度。○〔他〕「者有—」。
〔法式〕前に同じ。○〔新論〕「官付事、動新錄」。
〔典式〕前に同じ。○〔周〕「爲—典」。
〔矜式〕つゝしみのッとる。○〔後漢〕「使諸大夫賢人
皆有所—」。
〔敬式〕前に同じ。○〔文心雕龍〕「歌—」。
〔敬式〕前に同じ。○〔他〕「—」。
〔表式〕前に同じ。○〔他〕「人倫—」。
〔飲式〕前に同じ。○〔文心雕龍〕「俠人之—也」。
〔酒式〕飲酒のこと。○〔他〕「以—」。
〔常式〕つねのこと。○〔他〕「未聞—」。
〔復式〕前に同じ。○〔他〕「仍編入今以爲—」。
〔經式〕前に同じ。○〔他〕「此以眞有之—」。
〔式式〕前に同じ。○〔他〕「—」。
〔式式〕恭敬の意に用ふ。○〔他〕「—朝—」。
〔貫式〕善良なるのり。○〔他〕「此先世之—」。
〔貫式〕のこりたるのり。○〔管〕「—鮮用中以發
項伯衣袖之—」。
〔禁式〕のり。○〔管〕「—國—」。
〔禁式〕のり、又、のッとる。○〔他〕「事勢時事法、
觀錄—」。
〔法式〕のり。○〔水經注〕「宜—帝—」。

式 トク。惕德切 屑

あし、〔惡〕。○〔詩〕「勿」從—」。

式 チョク、チキ。蓄力切 屑

有凶を占ひたる文、うらなひぶみ。○〔書
經〕「古者大出師則太師主抱—」。

四畫

弑 サツ。茲郎切 陽

船を繋ぐ大弋、ふなぐひ、くひ〔杙〕。

十畫

弑 テツ、チキ。徒結切 屑

さし、〔利〕。

五畫

弑 トウ、ヅ。徒弄切 送 徒紅切 東

船の左右にたて纜を繋ぐ大木。

九畫

弑 シ。式吏切 寘

臣として君を殺す、子として親を殺す、
下として上を殺す、ころす、まいす。
○〔公羊〕「與—公也」。

十一畫

弑 カ。古餓切 歌

船を繋ぐ杙、ふなぐひ。

弓部

弓 キウ、ク。居戎切 東

一釣長き材の兩端に弦を繋けたるもの、多くは矢を放つに用ふる武器さす、ゆみ。○〔山海經〕「少—鯨生、般、是始—レ」。
二車蓋の橈、かさぼね。○〔周〕「—鑿廣
三六尺〔射侯の距離にいふ。○〔儀〕「侯、
道五十—」。
四八尺〔土地の丈量にいふ。○〔「度地論
四、射爲二—」。
五肱に通じ用ふ。○〔公羊〕「黑—以レ
〔夢弓〕土地の測量に用ふるけんさを。○〔鄭世子
〔夢弓〕「—」。
〔夢弓〕射糜、かゆ。○〔荀子〕「—」。
〔夢弓〕「—」。
〔夢弓〕「—」。
〔夢弓

㊀大いにす、ひろむ又、大いになる、ひろまる。○〔論〕人能—レ道。
〔廣弘〕ひろし、ひろむ、ひろまる。○〔後漢〕—ニ—
〔廣弘〕前に同じ。○〔管子七法〕—ニ—天上。
〔宏弘〕前に同じ。○〔易〕〔卦字〕—ニ—。
〔宏弘〕右に同じ。○〔易〕〔荀〕—ニ—大化。
〔弘弘〕前に同じ。○〔詩〕—ニ—玉敦。
〔弘弘〕ひろきひろく。○〔陸機〕—ニ—弈賦。
〔弘弘〕ゆたかにす。○〔辛允〕—ニ—陵師。
〔弘弘〕おはいなること。○〔任昉〕〔啓〕—ニ—。

三畫

汗 チ、哀都切 コ、空胡切 ク、切 虞

㊀はる、〔張〕。
㊁さしまねく、〔麾〕。㊂もつ、〔持〕。

汗 カン。侯肝切 翰

弓にて拒ぐ、ふせぐ。

弘 彈に同ト。

弘 彈の本字。

弓 テキ、チヤク。都狄切 錫

㊀いる、〔射〕。㊁まと、〔的〕。

弔 タイ、デ。徒回切 灰

困しみ窮まる貌にいふ字、一説に、遥れ伏す貌にいふ字。○〔荘〕因以爲ニ—廉一因以爲ニ波流一。

弛 シ。施是切 紙

㊀ゆるぶ。
（い）釋くはづす、はづる。（特に弓の弦にいふ字。）○〔舊〕不レ勝者執ニ—弓。
（ろ）舍く、息む。○〔周〕四日—レ力。
（は）緩くす、おさろへ易はる。○〔唐〕使ニ我力解勢—一。
㊁やぶる、〔壞〕。○〔史〕延道—分離ニ常流一。
㊂法度にまたがはざるを、ほしいまゝ。○〔漢〕泛駕之馬跅—之士。
〔弛弛〕ゆるぶ。○〔後〕紀顔—ニ—。
〔弛弛〕前に同じ。○〔後〕禪顔—ニ—。
〔弛弛〕前に同じ。○〔後〕旨有所—ニ—。
〔弛弛〕ほしいまゝ。○〔後〕〔嵇〕—ニ—。
〔弛弛〕裏よ。○〔王〕〔成俗〕—ニ—。
〔弛弛〕のがれはづす。○〔張武〕〔飲酒〕—ニ—。
〔弛弛〕身を解た〔免〕をゆるぶ。○〔任昉〕〔近停其見北〕—ニ—。
〔弛弛〕おこたりてゆるぶ。○〔子〕〔未書有〕—ニ—。
〔弛弛〕すたれゆるぶ。○〔呉〕〔原功者〕—ニ—。

弛 チ 丑豸切 紙

おつ、おとす、落。○〔淮〕有レ時而—ニ。

弛 施に通ト用ふ、ほどこす。○〔禮〕—ニ其文德一。

弓 キヤウ、ガウ。其兩切 養

渠良切 陽 キ。邪移切 支

弓の力彊き貌にいふ字つよし。○〔華陽國志〕秦襄王時、白虎爲害於レ是夷作白竹弩、射殺白虎〔世說〕—白虎復夷二日板楯蠻今所謂—頭虎子者也。

弛 キン、ゴン。居銀切 眞

ゆみのはず、ゆはず、弦。

四畫

弛 ヘ、ヘ。必駕切 碼

弓を手に執る處、にぎり、ゆづか。○〔王維〕玉—角弓珠勒馬。
〔弛弛〕つるぎのつか。○〔李賀〕—ニ—脳裏劍。

弛 ケツ、ケチ。古穴切 屑

弓を張るときに手に繫けて弦を持つ具、ゆがけ。

弛 イン。余忍切 シン。式忍切 軫

相好をくづさずして笑ふ、ゑむ、わらふ。○〔宋〕〔孫叔未〕進優孟見ニ—。

弟 テイ、徒禮切 ダイ、特計切 霽

（い）おとうと。
（ろ）からの中にて後に生まれる男子。○〔左〕寡人有レ—不レ能ニ和協一。
（ろ）秀位にあるもの。○〔世說〕季方雖レ爲レ兄元方雖レ爲レ—。
㊁次序、ついで。○〔釋名〕—第也相次第而上也。
㊂悌に同ト、兄長に順なること。○〔禮〕僚友稱ニ其—一也。
㊃やすし、〔易〕。○〔詩〕〔君子豈—〕。
〔兄弟〕あにとおとうとと、同胞はらから。○〔老〕〔惟孝友于—〕。
〔昆弟〕前に同じ。○〔後〕〔賈誼有有兄—〕。
〔子弟〕おとうとおとうと、又、父兄に對して年若き者の義にいふ語。○〔後〕〔凡國之貴族—〕。
〔外弟〕親の姉妹にて生みたる己より年若き男子をいふ。○〔左〕〔解伯以社—〕爲大夫。
〔賢弟〕いつくしみ愛するおとうと。○〔左〕〔況君之—〕。
〔愛弟〕前に同じ。○〔元稹〕〔閑君到—〕。
〔昆弟〕同胞のおとうと。○〔左〕〔公—〕。
〔令弟〕君のおとうと。○〔後〕〔令之家族—〕。
〔舍弟〕むこのおとうと。○〔後〕〔舍之家族—〕。
〔弟弟〕おとうと。○〔史〕〔秦紀年〕〔賢弟〕〔知〕おとうとおとうと、又、他人の弟を敬ひ稱する語。○〔史〕〔秦紀年〕〔賢弟〕〔知〕
〔令弟〕年わかきおとうと。○〔後〕〔書〕〔下〕〔令弟〕—ニ—。
〔小弟〕前に同じ。○〔後〕〔雜〕〔相〕—ニ—〔嵇〕〔叔〕〔兄〕。
〔令弟〕天子のおとうと。○〔後〕〔信〕〔承〕〔家〕—ニ—。
〔友弟〕兄弟のなかよきこと。○〔史〕〔以〕—ニ—〔即名〕。
〔賢弟〕おろかなるおとうと。○〔後〕〔山〕〔詩〕〔參〕〔宣〕有—ニ—。
〔令弟〕他人のおとうとの敬稱。○〔皇〕〔老〕〔聞〕〔今〕〔別〕
〔家弟〕美稱なるおとうと。○〔後〕〔文〕〔志〕〔於〕〔仙〕—ニ—。
〔舍弟〕おとうと。○〔社〕〔正〕〔傳〕—ニ—〔子〕。
〔愛弟〕すぐれたるおとうと。○〔陸〕〔機〕〔伊〕〔羽〕—ニ—。
〔遠弟〕さからはざるも。○〔陸〕〔機〕〔行〕〔難〕—ニ—。
〔家弟〕大弟のこと。○〔漢〕〔信〕〔天〕〔子〕—ニ—。
〔兩兩兄弟〕他人は互にまたしみ親つまじくすれば同胞の情はおのづから深し。○〔後〕〔上〕—ニ—也。
〔吾次兄弟〕うたがめ、あるひめなの五氏將軍とはるからの義を結びたる者。○〔敎坊〕〔記〕〔坊〕〔中〕〔歌〕〔者〕以ゝ、別相切ゝ、約〔弟〕—ニ—。
〔弟弟〕むこのおとうと。○〔後〕〔書〕之家族—ニ—。

弟 ヨ。以諸切 魚

ゆみ、〔弓〕。

五畫

弦 コ、ク。空胡切 虞

こゆみ、〔小弓〕。

弦 弛に同ト。

弦 ダウ、トウ。土刀切 豪

㊀弓ないれ置く衣、ゆみぶくろ。○〔左〕「中レ項伏—」。
㊁旌ないれをさむる嚢、はたぶくろ。○〔左〕「內—旌於—中一」。

弧 フ、ブ。芳武切 麌

弓の手もてにぎる處、ゆづか、にぎり。

弧 テイ、タイ。都禮切 齊

漆を施し又は、ほりものなどしてあるゆみ。○〔孟〕〔琴〕〔朕〕—朕。

弧 トン、ドン。都昆切 元

惇に同ト。

弧 ピン ミン。彌鄰切 眞

はた、〔旗〕又、はたのはりゆみ、〔旗弧〕。

弦 ゲン。戸田切 先

㊀弓に繫け張る糸、ゆみづる。○〔儀〕「左執レ弭右執レ—而授レ弓」。
㊁陰曆にて七八日の頃と二十二三日の頃との半圓形の月影、ゆみはりづき。○〔漢〕〔嘗〕〔朔〕—望〕。
㊂脈うつ數の多きこと。○〔史〕脈長而—ニ—。
㊃絃に同ト。○〔禮〕「舞作三五—ニ之琴」。
㊄勾股に對する長き邊。○〔晉〕以ニ勾股求レ—法一入レ之。
〔上弦〕陰曆の七日頃のゆみはりづき。○〔蘇〕〔單角月〕—ニ—。
〔弱弦〕前に同じ。〔漢書〕〔下〕〔下〕〔弦〕陰曆の二十二三日の頃のゆみはりづき。○〔王〕〔下〕〔弦〕〔今〕〔弱〕〔六〕—ニ—。
〔弓弦〕ゆみづる。○〔越絕書〕〔復〕〔嚴〕以爲—ニ—。
〔故弦〕ゆみづるをひきはなつ。〔後〕〔荀〕〔彘〕以爲〔指〕〔利〕—ニ—。
〔發弦〕ゆみづるをひきはなす。○〔後〕〔陶〕〔侃〕—し弗—〔知〕〔病〕。
〔弦弦〕矢を番へ、をして、喉、ゆみづるの音のみをなすよ。○〔後〕〔淮〕〔自〕〔矢〕〔食〕〔身〕〔付〕〔夜〕〔食〕〔胸〕〔知〕〔業〕〔題〕—ニ—。
〔無弦〕住賢の後なるより自ら弧なりにいふ語。○〔後〕〔謝安〕〔子〕〔心〕〔故〕—ニ—自慰。

弧 シ。之引切 軫

弓強し、つよし。

弦 ヒ、ヒ。平義切 寘

琴を張る、はる、又、絲又は皮にて弓を飾ろ、かざる、一説にまがりたる弓。

弧 コ、ク。戸吳切 虞

㊀木の弓、ゆみ、きゆみ。○〔易〕〔弦〕〔木爲レ—〕。
㊁旗を張るに用ふる弓、はり。○〔禮〕「乘二大・輅一載二—輪・旂一」。
㊂星の名。○〔史〕〔狼・下四・星曰レ—〕。
㊃うまし、〔馬〕。○〔後漢〕〔辰・韓國名レ馬爲レ—〕。
〔弧弧〕旗の名。○〔左〕〔順考叔取鄭伯之旗—〕。
〔木弧〕きのゆみ。○〔史〕〔弦—〕。
〔桑弧〕くはの木もてまこらたるゆみ。○〔禮〕〔射人以ニ—・蓬矢六・射天・地四方〕。
〔桃弧〕もゝの木もて作りたるゆみ、災を除ふに用ふるもの。○〔左〕〔唯〕是—〔桃弧〕〔棘〕矢、以共禦王事〕。
〔桑弧〕桑の名、いさゝむし。○〔禮〕〔蟻〕在〔水〕〔涯〕〔蟻〕〔射人〕〔南方〕〔諸〕之—ニ—。

弧 チ、ウ。汪胡切 虞

まがる、〔曲〕。○〔周〕〔凡〕〔採〕レ〔轉〕欲三其〔通〕而無二—深一。

弧 セウ。尺招切 蕭 〔紹〕 〔嘯〕

弓の反り弛ぶ貌にいふ字、そる、ゆるぶ。○〔詩〕〔彤〕〔弓〕—。

弩 ド、ヌ。奴古切 麌

箭を遠きに放ちやる機巧を設けたる弓、手にてひき張るものと脚にて蹶み張るものとあり、又、石を遠きに放ちやるにも用ふ、おほゆみ、いしゆみ。○〔史〕〔萬〕—夾レ路而發〕。
〔彊弩〕はりのつよきいしゆみ。○〔史〕〔弊〕〔前〕〔同〕。
〔水弩〕〔戰〕〔船〕〔名〕。
〔水弩〕〔船〕〔名〕。
〔連弩〕番置なる石もて飛れるみたゆみ、又、矢を連ねるもの。○〔後漢〕〔大〕〔徐〕〔庶〕〔有〕—ニ—十二人〕。
〔神弩〕はやきゆみ。○〔史〕〔信〕〔以〕—ニ—二十張〕。
〔強弩〕いしゆみをひく。○〔史〕〔上〕—ニ—自射也〕。
〔豆弩〕おはなるいしゆみ。○〔史〕〔蜀州〕〔舊〕〔有〕—ニ—〔敢百〕。
〔衆弩〕くるまのとこに備へたるいしゆみ。○〔東京賦〕〔車〕〔挽〕〔衆〕〔弩〕〔當〕〔道〕—ニ—。

六畫

弛 シン。止忍切 軫

弓強し、つよし。

弛 ビ、ミ。毋婢切 紙

㊀兩頭を角骨にて飾りたる弓、つのゆみ。○〔爾雅〕〔註〕〔無〕〔緣者謂〕ニ之—一、今之角弓也〕。
㊁弓末、ゆはず。○〔詩〕〔象〕—魚服〕。
㊂やむ、〔息〕。○〔左〕〔自〕今以往兵其少—矣〕。
㊃とどむ、〔接〕。○〔風〕〔平〕〔吾命ニ義和—ニ節分〕。
㊄わする、〔忘〕。○〔詩〕〔心之憂矣不レ可ニ—忘一〕。
㊅やすんず、やすし、〔安〕。○〔史〕〔治〕國・家一而ニ人民一者〕。
㊆たる、〔低〕。○〔司馬相如〕—レ節裴・回〕。
〔弭弭〕とゞまる。○〔後漢〕〔書〕〔馮〕〔衍〕—ニ—時〕〔炭〕。
〔弭弭〕やすらかなる。○〔後〕〔漢〕〔書〕〔馮〕〔衍〕—ニ—。

弩 ケン。丘圓切 先

いしゆみ、おほゆみ、弩。○〔漢〕〔張〕ニ空—一〕貫百・刃一〕。

弩 ケン。古倦切 霰

㊀前條に同ト。
㊁卷に通ト用ふ、まき。
㊂券に通ト用ふたすき、〔縛〕〔轡〕〔繩〕。
㊃弄に通ト用ふ、にぎりめし、〔摶〕〔飯〕。

洞 ドウ、ヅ。徒紅切 東

象牙のゆはず、又弓の飾。

弛 クフ。迄業切 葉

㊀弓強し、つよし。
㊁ゆがけ、〔射決〕。

弭 ヤウ。余章切 陽

弓の曲がり。

七畫

弱 シユン。シユン。私閏切 寘

ゆはず。

弱 サウ、セウ。所交切 肴

㊀弓に箭をあつつがふ。
㊁弓の末ゆはず。

弱 ジヤク、ニヤク。而勺切 藥

㊀よわし。
（い）強からず、堅からず、勢力少し。○〔老〕〔六・極・六日—〕。
（ろ）さからひ戻るとなし。○〔老〕—者道之用〕。
（は）かぼそくしきとなし、ものやわ。○〔四京雜記〕〔體輕腰—善ニ行・步進・退一〕。

㊀年齢未だ壯ならず、わかし、いとけなし。○〔左〕有レ寵而―。
㊁二十の年齢はたち、又、はたち前後。○〔禮〕二十曰レ―冠。
㊂年少き者又はたち前後の者。○〔孟〕「老―一輩」平溝壑」。
㊃衰ふ、よわる。○〔左〕姜―矣、而嬀將二始昌一。
㊄よわくす、よわむ。○〔戰〕「坐而割レ地自―以強レ秦」。
㊅やぶる、敗。○〔左〕「韻遇二王子一―焉」。
㊆うしなふ、喪。○〔左〕「又―二一介」。
〔字彙〕大弓の名。〔記書〕弧に作る。○〔左〕封父之

〔弧〕（字彙）弧（弓弦）。○（韓愈）「形勢――」。
〔虞弧〕青竹なしくしてよわし。○〔荀〕是時京師
―――。
〔和弧〕やはらぎてよわし。○〔荀〕「淮陰侯傳」―――、
「西南壁明有弱狀」。
〔凡弧〕劣りてよわし。○〔後〕「以義宣―――易可」。
〔廣弧〕前に同じ。○〔後〕「顧代―――」。
〔驚弧〕前に同じ。○〔後〕「劉史傳―――」。
〔文弧〕みなしくしよわし。○〔後〕「士龍篤人、
―――可愛」。

弭 ケン。許緣切 先
㊀つのゆみ（角弓）。㊁ゆみづる（弦）。

弭 エン。烏懸切 先
弓の勢。

㢊 シン。矢忽切 齒
ながし（長）。

弧 ケン、ゲヌン。許元切 元
弓の曲がれる貌にいふ字。

𢦏 ヘン、ベン。扶弦切 先
うかぶ（浮）。

八畫

弭 エン。烏宣切 先
弓のうれり曲がりたる處。

弦 ケン、ゲン。戶田切 先
ゆみ（弓）。

號 コ、ゲ。戶吳切 虞
ゆみ（弓）。

弩 サウ、シヤウ。側迸切 敬
弓を開く、ひく。

弩 ド井。女慮切 ―ド井。
而睡切 井。于僞切 寘
弓を張る、はる、弓曲がる、まがる、一說に弩をはる。

弨 ハウ、ヒヤウ。披耕切 庚
絃を張る、はる。

弹 トン（都昆切）デウ（都聊切）
みのかざりあるゆみ（畫弓）。

張 チヤウ。陟良切 陽
㊀はる。
（い）弦を掛く。○〔儀〕「勝者執―」。
（ろ）弦を開く。○〔易〕「先―之弧」。
（は）延ぶ、延ばす、ひろぐ、ひろがる、開く。○〔老〕「將欲レ翕之必故―レ之」。
（に）ふとらす、ふとる。○〔詩〕「孔修且―」。
（ほ）つよむ、さかんにす、つよし、さかんなり。○〔左〕「臣欲レ―公室」。
（へ）施す。○〔史〕「―羽旗」設―供具」。以祀神君」。
（と）設く。○〔戰〕「―レ樂設レ飲」。
（ち）わな、あみなどにて鳥獸を取る。○〔後漢〕「瞿有二鯉魚飛來舉レ網―レ之、但得二一雙鳥」焉」。
㊁ゆみ、とばり、まくなど、すべてはり用ふるものゝ數にいふ字、はり。○〔左〕「子產以繩幕九―一行」。
㊂星宿の名。○〔史〕「四至三于―」。

〔弟弧〕（字彙）弟（弓弦）。○〔周禮〕「弟―」。
〔弧弧〕（字彙）弧（弓弦）。○〔後〕「民無減者―――」。
〔弧弧〕わな、あみ、鳥獸を取るにはるもの。○〔周

張 チヤウ。知亮切 漾
㊀はる。
（い）施す、設く。○〔漢〕「供―如法」。
（ろ）自ら修る、ほこる。○〔左〕「國―必塞二小國一」。
（は）眼に進ト用ふ、ふくる、はりみつ。○〔左〕「晉侯將レ食―如レ厠」。
㊁帳に進ト用ふ、とばり。○〔史〕「復留止―飲三日」。

弥 キヤウ、ガウ。其亮切 漾
習を道に設く、はる、はりて鳥獸を捕らふ、鳥獸をわなにかく。

弼 キヨク、ゴク。渠玉切 沃
勇む貌にいふ字、いさましく。

强 キヤウ、ガウ。巨良切 陽
㊀つよし。
（い）弓の力多し、弦はり易からず。○〔後漢〕「引レ―持レ滿」。
（ろ）挽まず、屈せず、息まず、ひろまず、

（弟弧）戻る。○〔周禮〕「弟―」。
〔弧弧〕さかをおとる、威力を振ふ。○〔戰〕「大―――、
――、遂以滅燕」。
〔閑弧〕はやらず。○〔後〕「―――形勢」。
〔嚴弧〕陳して弩を踏みて張る。○〔後〕「以射士
――――、他高手―――項羽」。
〔驚弧〕手にて弩を張る。○〔後〕「以手張者
曰―――」。
〔主弧〕おもにはる。○〔元稹〕「不有―――」。
〔廣弧〕のべはる。○〔天心賦〕「項羽―――手
――」。
〔舒弧〕のびしひらく、のびはる。○〔後漢〕「――
――」。
〔肥弧〕こえふとる。○〔後漢〕「――――」。
〔開弧〕めぐらしはる。○〔後〕「――――」。
〔骨弧〕ます。○〔後漢〕「減射――――」。
〔美弧〕みの如くはりかる。○〔北〕「――――面」。

恐れず、勇ましく、破れ易からず、剛し、堅し。○〔史〕「雖―柔必―」。
（は）筋肉の力多し。○〔詩〕「侯―侯以」。
（に）勢盛んなり、力勝れり。○〔孟〕「天下固恐齊之―」。
（ほ）亂暴なり、剛愎なり。○〔荀〕「―足二以反レ是獨立一」。
㊁つよきもの。○〔史〕「課―組豪―」。
㊂四十の年齢よそち、又、其の前後の稱、卽ち、精神體力共につよき時の義。○〔禮〕「四十曰レ―而仕」。
㊃つよくす、つよむ、又、つよくなる、つよる。○〔戰〕「欲レ―レ兵者務富二其民一」。
㊄數の尙ほ殘餘あるを表はすに用ふる字。○〔木蘭詩〕「賞賜百―千―」。
㊅蠅の類。○〔爾〕「―醜將」。

〔繼弧〕つよし。○〔後〕「惟同盟與二鄰國一」。
〔至弧〕ことなくつよし。○〔史〕「以怖驚左輔、
〔備弧〕すこやかなりつよし。○〔後〕「以二老馬後
雄―――」。
〔康弧〕すこやかなり。○〔後〕「其身―――」。

强 キヤウ、ガウ。其兩切 養
㊀力を盡くして行ふ、つとむ、勉。○〔中〕「或勉―而行レ之」。
㊁つとめ行はしむ、すゝむ。○〔周〕「正二其行一而一二之道藝一」。
㊂無理になす、嬉めおさふ、ゴト附く、ふふ。○〔荀〕「率二群臣百吏一而相與―レ君擒二君」。
㊃强に通ト用ふ、兒を負ふ衣、むつき。○〔史〕「成王少在二襁褓之中一」。

〔繼弧〕つよし。○〔後〕「惟同盟與二鄰國一」。
〔至弧〕ことなくつよし。○〔史〕「以怖驚左輔、
〔備弧〕すこやかなりつよし。○〔後〕「以二老馬後
雄―――」。
〔康弧〕すこやかなり。○〔後〕「其身―――」。

强 キヤウ、ガウ。其亮切 漾
やはらぎ順はす、自ら是とす、もさる。○〔後〕「乃欲レ以二新・造未レ集之越一風中―――於此」。
〔木弧〕やはらぎ順はする貌にいふ字。○〔後〕「周
昌―――人也」。

弼 ヘウ、ヒヤウ。父耕切 庚
ヒヨウ。悲陵切 蒸
㊀弓の强き貌にいふ字、つよし。○〔庾信〕「弓如二明月一對―」。
㊁みつ、〔弼〕。○〔揚雄〕「―レ中而彪外」。
㊂―彊は、とばりの起る貌にも、又、風のとばりを吹く聲にもいふ字。○〔揚雄〕「惟―――彊其拂泊兮」。

〔繼弧〕つよし。○〔後〕「惟同盟與二鄰國一」。
〔至弧〕ことなくつよし。○〔史〕「以怖驚左輔、
〔備弧〕すこやかなりつよし。○〔後〕「以二老馬後
雄―――」。
〔康弧〕すこやかなり。○〔後〕「其身―――」。

强 強に同じ。

弼 弼に同じ。

弼 ヒツ、ビチ。房密切 質
㊀弓をなほすに用ふる器、ゆみだめ。○〔荀註〕「―所以輔二正弓一者也」。
㊁輔佐すたすく。○〔書〕「明二于五刑一以―二五教一」。
㊂輔佐の人、たすけ。○〔國〕「憎レ輔選」。
㊃もとる（戾）。○〔漢〕「君・臣故―」。
㊄かさぬ、かさなる（重）。○〔爾註〕「輔―所三以爲二重疊一也」。
㊅たかし。○〔揚雄〕「高也」。

〔繼弧〕つよし。○〔後〕「惟同盟與二鄰國一」。
〔至弧〕ことなくつよし。○〔史〕「以怖驚左輔、
〔備弧〕すこやかなりつよし。○〔後〕「以二老馬後
雄―――」。
〔康弧〕すこやかなり。○〔後〕「其身―――」。

强 強に同じ。

弼 弼に同じ。

弼 ヒツ、ビチ。房密切 質
㊀弓をなほすに用ふる器、ゆみだめ。○〔荀註〕「―所以輔二正弓一者也」。
㊁輔佐すたすく。○〔書〕「明二于五刑一以―二五教一」。
㊂輔佐の人、たすけ。○〔國〕「憎レ輔選」。
㊃もとる（戾）。○〔漢〕「君・臣故―」。
㊄かさぬ、かさなる（重）。○〔爾註〕「輔―所三以爲二重疊一也」。
㊅たかし。○〔揚雄〕「高也」。

〔賈弼〕よるたすけ。○〔後〕「事帝寮手―――」。
〔舊弼〕てゐつくたすく。○〔後〕「惟命曰汝受命
―――」。
〔谷弼〕たすく、又、たすけ。○〔史〕「以怖驚左輔、
〔家弼〕前條に同じ。○〔後漢〕「―――」。
〔編弼〕前に同じ。○〔後漢〕「生石之民宜居―」。
〔作弼〕宰相。○〔史〕「蕭・曹兩朝、寄升―――」。
〔家弼〕主なるたすけ。○〔蘇〕「孟侯之國藩輔
―――」。
〔正弼〕たゞしたすく。○〔後漢〕「獻忠・靜節―」。
〔保弼〕保護したすく、又、其の人。○〔周〕「出・納朝、弘益―――」。
〔輔弼〕たすけしたすく。○〔北〕「當日金・玉―――」。
〔元弼〕大いなるたすけ。○〔後〕「長・樂・朝・忠以―
―」。「條・案不・貴・光・準・諸」。

弼 ヒツ、ビチ。房密切 質
弱に同じ。

九畫

弼 ヒツ、ビチ。房密切 質
弱に同じ。

弼 ヒツ、ビチ。房密切 質
㊀弓をなほすに用ふる器、ゆみだめ。○〔荀註〕「―所以輔二正弓一者也」。
㊁輔佐すたすく。○〔書〕「明二于五刑一以―二五教一」。
㊂輔佐の人、たすけ。○〔國〕「憎レ輔選」。
㊃もとる（戾）。○〔漢〕「君・臣故―」。
㊄かさぬ、かさなる（重）。○〔爾註〕「輔―所三以爲二重疊一也」。
㊅たかし。○〔揚雄〕「高也」。

〔賈弼〕よるたすけ。○〔後〕「事帝寮手―――」。
〔舊弼〕てゐつくたすく。○〔後〕「惟命曰汝受命
―――」。
〔谷弼〕たすく、又、たすけ。○〔史〕「以怖驚左輔、
〔家弼〕前條に同じ。○〔後漢〕「―――」。
〔編弼〕前に同じ。○〔後漢〕「生石之民宜居―」。
〔作弼〕宰相。○〔史〕「蕭・曹兩朝、寄升―――」。
〔家弼〕主なるたすけ。○〔蘇〕「孟侯之國藩輔
―――」。
〔正弼〕たゞしたすく。○〔後漢〕「獻忠・靜節―」。
〔保弼〕保護したすく、又、其の人。○〔周〕「出・納朝、弘益―――」。
〔輔弼〕たすけしたすく。○〔北〕「當日金・玉―――」。
〔元弼〕大いなるたすけ。○〔後〕「長・樂・朝・忠以―
―」。「條・案不・貴・光・準・諸」。

き程合、れらひ、やごろ。○〔孟〕「羿之教二人射一必志二於一―一。」

〔後漢〕かたくりを施し弓を張るも、朝にて、人の智慧をめぐらして機に投ぜんとなくむとにいふ。○〔詩〕「招箭二一箭」〔毛〕「弓弦曰―一」。

十一畫

彈 ヒツ　ヒチ。壁吉切　質

いる〔射〕一説に、ゆみづる〔弦〕。○〔楚辭〕「羿焉―レ日」。

彌 ボウ。北謎切　靈

ゆみ〔弓〕。

彄 コウ、ク。恪侯切　尤

一弓弩の端、ゆはず。○〔禮記〕「曾衛侯朝於天子、周行人問二其名一、曰二辟―一、行人還レ之曰啓―一」。

二環の屬、わだまき。○〔西京雜記〕「戚夫人以二百錬金一爲二―環一、照二見指骨一」。

〔引詩〕「ゆがけ。○〔周〕「挾讀―レ―一」。

十二畫

彆 ヘツ、ヘチ。方結切　屑

ヘイ、ベイ。必鐵切　屑

弓そりかへる、そる、もどる。○〔詩〕「「弭弓反末―者以二象骨一爲レ之」。

彈 キヨ、ゴ。巨魚切　魚

ゆはず〔弓〕。

彈 セウ。蘇刀切　蕭

ゆはず〔弓〕。

彈 サウ、シヤウ。鋤耕切　庚

彈 サン。徂感切　感　祖含切　覃

弓弦の聲、つるおと。

一弓強し。二ゆみづる〔弓弦〕。三弦を張る、はる。

彈 ケウ。去堯切　蕭

弓を引く、ひく。

彈 タン、ダン。杜晏切　翰

一丸をはトき行る器、はトきゆみ。○〔李尤〕「昔之遊レ―起二意弦一水一」。

二はトき弓にて行る丸、はトきだま。○〔花果錄〕「其實小如レ―」。

〔鬼語〕「器氣中のもの。○〔水經註〕「其作有鞭、中木則折、中人則死、名曰―一」。

〔川語〕「雞眼肉の異名。○〔本草〕「雞頭一名―一子」。

〔塚語〕「たまにて拳ずりたるはじき弓。○〔後漢〕「―一彈擊鳥」。

〔彈語〕「とびゆくはじきの丸。○〔戰國有〕「光陰等」。

彈 タン、ダン。徒干切　寒

一〔ち〕はトき弓にてはトき丸を放つ。○〔左〕「晉靈公從二臺上一―レ人」。

二〔ろ〕屈めてはね返へす。○五燈會元〕「即―指應之」。

〔は〕指をそらして打つ、つまはトきす。○〔屈平〕「新沐者必―レ冠」。

三絃をかき鳴らす、ひく。○〔史〕「舜―二五絃之琴一」。

三擊つ。○〔史〕「―二其劍一而歌」。

四たゞす〔勁〕。○〔後漢〕「不二敢―糾一」。

五ふるふ、〔掉〕。○〔周〕「欲レ無レ―」。

〔讀語〕「そもりたゞすも。○〔晉紀〕「保晉好人、―其文」。

彊 キヤウ、ガウ。巨良切　陽

一陽の韻の強に同じ。

二疆に通ト用ふ。○〔賈誼〕「晉衛侯朝於天子、周行人問二其名一、曰二辟―一、行人還レ之曰啓―一」。

三相隨ひ飛ぶ貌にいふ字。○〔詩〕「鶴之―一」。

四たふる、〔强〕。○〔廣韻〕「―屈勁硬」。

〔後語〕「勢つかりそつよし。○〔史〕「同前―レ步遠密度」。

〔朝語〕「あるゝにして且聞かなり。〔後〕「前扇―レ高二其鋒一」。

〔公語〕「私ならずしてつよし。○〔後〕「郡國―レ居―一」。

〔武語〕「強くしてつよし。○〔後〕「郡國―レ―」。

〔婦語〕「前に同じ。○〔後〕「即―其陀語最―レ―」。

〔後語〕「飾らずしてつよし。〔後〕「天性―レ―レ樂已効」。

彊 養の韻の強に同ト。

〔自語〕「己れとはゆみつよむ。○〔史〕「上德―其―」。

〔方語〕「ちかをなして丸ひつく、又つよむ、すゝむ。○〔後〕「不―レ―一面數」。

彊 濃の韻の強に同ト。

〔蘭語〕「柔和なるを。○〔後語〕「下江諸州、強―一少說、故者強宮」。

彆 槃に同ト。

彊 カウ、キヤウ。戶盲切　庚　コ。洪孤切　虞

彈の字の三を見よ。

彈 キヤウ、ガウ。巨良切　陽

すぢ、さき、つるさき〔筋頭〕。

十四畫

彌 ビ、ミ。武移切　支

一あまねし〔遍〕。○〔周〕「―記二社稷一」。

二なふ、をはる〔終〕。○〔詩〕「―厥二月一」。

三みつ〔滿〕。○〔漢〕「馬嘗―山」。

四おほふ〔覆〕。○〔張衡〕「跨レ谷―レ旱」。

五わたる〔竟〕。○〔史〕「讀レ日―レ久」。

六のぶ〔延〕。○〔孫綽〕「結レ根―二于華岱一」。

七盡くす〔極む〕。○〔張衡〕「憧末之技、態八補ひ合はすゝつどる、つくろふ。○〔左〕「―一縫二」。

九さほし〔遠〕。○〔左〕「以二肥之得一―一縫二」。

十ながし〔長、ひさし〔久〕〕。○〔陶潛〕「我―其之一、欣二」。

十一其のうへに、なほさらにますゝ、いやいよく。○〔論〕「仰レ之―高鑽之―堅」。

十二少しづゝ、やゝ。○〔漢〕「―一其失」。○〔周〕「眡―掌二十燋之法一、七日―」。

〔後語〕「然却にてまゆみなり、まゆみなり、そのいろどもいと、鈔高と謂す、佛說に山の謂めて高きものにて大海の中にあり、日月も機に回り諸天之に依るといふ。○〔雜摩經〕「以―一之高廣、一月亦子中一而不能擊」。

〔沙語〕「弗門に入り陳髮せる者の稱。○〔後世語〕「僧侶の徒稱―一―」。

彌 ベイ、メイ。綿批切　齊

擊一は、嬰兒、みどりこ。

彌 ビ、ミ。毋婢切　紙

とどむ、やむ〔止〕。○〔周〕「―一爽二兵」。

十五畫

彉 彉に同ト。

彉 ヘン、ホン。符寰切　元　井ク、チク。

余六切　屋

生を養ふ、やしなふ。

彉 シユク、ソク。之六切　屋

卑謙の貌にいふ字、へりくだる。

十七畫

彉 ヤヤウ、ニヤウ。汝兩切　養

弓の曲がりたる處、そり。

十八畫

彉 ケン、ゴン。巨圓切　先

弓の曲がりたる處、そり。

彉 キウ、ク。巨救切　宥

弓強し、つよし。

彎 ワン。烏還切　刪

一矢を弓につがひて弦を引く、ひく、はる。○〔王褒〕「逢門子―二烏號一」。

二ひきたる弓の形をなすまがる。○〔沈遼〕「強來爲レ吏腰少―一」。

〔月語〕「つきの形ゆみをひきはりたるが如くなるを。○〔後語〕「倏々秋―一」。

〔蘭語〕「めぐり曲がる。○〔王安石〕「大江秋正清、島淑相―一」。

〔直語〕「徒に弓をひきはる。○〔結實毛〕「際羽性」。

〔後語〕「前に同じ。○〔白居易〕「安知レ不レ―一」。

〔高語〕「たかきに向かひて弓をひきはる。○〔孟子〕「―一條九鼎」。

彏 クワク、キヤク。許縛切　藥

弓を引きふぼる、はる、ひく。○〔揚雄〕「―二天、猥之威、弧一」。

彑部（ヨ）

彑 ケイ。居例切　霽　本丑に作る。

はりねずみのかしら〔兼頭〕。

彑 彑に同ト。

三畫

彑 ヨク、エキ。於棘切　職

おさふ〔按〕。

四畫

彖 カ、ゲ。何加切　麻

ぬのこ、ぶたぬ〔豕〕。

五畫

彖 イ。羊至切　寘　テイ、ダイ。ケ。

特計切　霽　テイ、ダイ。田黎切　齊

一たぬきのこ、ぬのこ、ぶた〔豬〕。二ぬのこ、ぶた。

六畫

彖 タン。通貫切　翰

一豕走る、はしる。

二易經の一卦の義を統べ說きたる辭の稱。○〔史〕「序二―繫象說卦文言一」。

〔文象〕「易のうらかたのことば。○〔册府元龜〕「―以稱數爲」。

彖 シ　賞氏切　紙

豕の屬。

彖 ロク　盧谷切　屋

一木を刻む。二もと〔木〕。

八畫

彗 セイ。ゼイ。祥歲切　霽

ス井。徐醉切　寘

一あくたをはらふに用ふる具、はゝき、ほうき。○〔禮〕「國中以二―一掃一邦」。

勿驅レ塵不出軌。

二一種の星はゝきぼし、其の星の尾に光氣ありて形のはゝきに似たるよりいふ、古は、此の星のあらはるゝは、災禍ある兆とて、一名を、わざはひぼしともいへり。○〔九歌〕「登二九天一撫二―星一」。

〔後語〕「はゝ、ゝ。○〔後〕「―其形―如―一―」。

〔蘭語〕「はゝ、ゝ基の一種。○〔史〕「欲二基之―一」。

〔蘭語〕「雨霽天後天後―雄―一」。○〔晉書〕「以二―四炎一也」。

〔武語〕「はゝ、ゝ晨わざはひ記。○〔後〕「―星一日―、二日―」。

〔後語〕「前に同じ。○〔後〕「―一―掃彼」。

〔後語〕「掃ひゆくはゝ、ゝ基。○〔後〕「―一―之」。

〔後語〕「はゝ、ゝ草。○〔後〕「不―如―一―」。

彗 エイ。于歲切　霽

日中に暴かに明るくなるを。○〔太公兵法〕「日中不レ―、是謂レ失レ時」。

彗 慧に通ト用ふ。○〔史〕「―有二日一辨」。

九畫

彘 テイ、ダイ　直例切　霽

一ぬのこ〔豬〕。○〔禮〕「孟夏之月、天子乃以レ―嘗レ麥」。

二水にすむ一種の蛇。○〔史〕「澤中千―〔野彘〕」。ぬのこ。○〔史〕「賈誼如レ―一―入」。

〔蘭語〕「而負〔彘〕」。○〔後〕「以二―白一」。

〔後語〕「―乃以―浴而抒―一―」。

彘 コツ、コチ。呼骨切　月

豕の屬。

十畫

彙 セイ。市昭切　蕭

うつ、擊。

彙 井。于貴切　未

一一に朝に作る、はりねずみ。○〔晉〕「―毛―」。

㊀たぐひ、類。○〔易〕「拔レ茅茹、以其
㊁雰に同ト。
〔篇海〕たぐひ。○〔餘象〕非常鼎凡介之一…
匹偶也。
〔篇海〕今俗の弁髦。○〔集〕「厚道撰綜、一…類
〔集海〕もろ〳〵のたぐひ、又、たみの教にいふ。○
〔集〕「功勝一…」。○〔集〕「一…類比。
〔部海〕たぐひ、弁髦。
〔篇海〕魚類、うろくづ。○〔孫經〕「一…類鮮、甲
產無方。

十三畫

𢍰 シ。息利切 寘

㊀豕の屬。㊁ねのこの聲。㊂鼠の名。

十五畫

彝 イ。以脂切 支

㊀宗廟に平常供へ置く器、即ち鐘・鼎
など。○〔左〕「以
作二器」。
㊁一種の酒尊。さ
かだる。○〔周〕
「舞三六一之名」。
㊂物に、法。○〔周〕
「司一尊」。

（彝㊁之圖）

㊃のり、規。
㊄つれ、常。○〔書〕「一…倫攸叙」。
〔篇海〕かなへ。○〔書〕「奢功一…」。
〔玉篇〕人のとりかぶるべきみち。○〔柳貫〕「下以聞
一…」。
〔篇海〕くにののり。○〔禮〕「度…守一…」。
〔篇海〕きみののり。○〔江賦〕「一…有文」。
〔典彝〕のり。○〔曾鞏〕「相…一…」。

廿三畫

𩁹 ヲク。憂縛切 屋 ／ クヲク。胡麥切 陌

のり、度。○〔馬融〕「挑二載本末一、規
摹一矩」。

彡 部

彡 サン、所銜切 咸 ／ セン。所廉切 鹽

㊀毛の飾、けざり、かみかざり。
㊁毛長しながし。

一畫

彣 シン。之忍切 軫

鳥羽はえて始めて飛ぶ、とびそむ。

四畫

形 ケイ、ギヤウ。乎經切 青

㊀かたち。
（い）かたち。㊁に同ト。
（ろ）容姿。○〔書〕「俾三以一旁求一天下」。
（は）真體。
○〔莊〕「無勞二汝一「無レ
搖二汝精一」。
（に）狀態。○〔史〕「秦一勝之國。
（ほ）あらはれたるもの。○〔禮〕「樂
㊂かた。
（い）物の外面にあらはれたるありさ
ま。○〔易〕「品物流レ
（ろ）模樣。○〔爾註〕「鼎・文畫、斧一…」。
（は）かたどりたるもの。○〔遼〕「爲二
人一…一譬レ之」。
㊃あらはる。
（い）出現する。○〔大〕「此謂下誠於中上」
（ろ）骨見はる。○〔禮〕「毀瘠不レ一」。
㊄出現せしむ、あらはす。○〔國〕「天・地
一レ之」。
「有二一レ形者」。
㊅かたちを作る、かたちづくる。○〔列
㊆かたちを寫す、かたどなす、かたど
る。○〔李純甫〕「千・奇萬・狀難一…」。
「土一…」。
㊇うつす、〔器〕。○〔史〕「飯二土塯一、啜二
〔篇海〕かたちを寫す、又、畫かれたるかたち。○〔史〕
「自一國興一以來、小巷小街、面一…立者蔽多
矣」。
〔篇海〕かたちを病ふ。○〔國〕「女子欲一貞不足」。
〔篇海〕かたちをかくす。○〔史〕「又問一…腰形」。
〔篇海〕のりのさま。○〔史〕「一…風德」。
〔篇海〕仙家の法にてからだをねり無病になりしわ
るも。○〔史〕「因授一…養元之訣」。
〔篇海〕からだをつかもす。○〔後〕「一…而不明」。
〔篇海〕からだをわかる。○〔後〕「攻養志者一…
〔篇海〕前に同じ。○〔後〕「一…去智」。
〔篇海〕からだをやしなふ。○〔文子〕「太上養一…
〔篇海〕かたち、又、かたどる、又、字體の名。○〔史〕
「如二鼓之一…一響之聲」。
〔地形〕土地のなり。○〔史〕「間二北一…與二北兵
〔苦形〕かたちをくるしむ。○〔呂子〕「天下之賢主、
豈必一…態盧敖」。
〔篇形〕心とかたちと。○〔後〕「一…俟鬼」。
〔心形〕前に同じ。○〔後〕「不能保然一…俟鬼」。
〔稱形〕はたかた。○〔後〕「一…在二鼎
中一」。
〔狀形〕もろ〳〵のかたち。○〔後〕「狀一…難一…而
〔奇形〕めづらしきかたち。○〔後〕「一…異狀」。
〔詭形〕前に同じ。○〔後〕「一…異狀」。
〔細形〕ちひさきかたち。○〔論衡〕「以七尺之一
一、謂二長夫之大軀一」。
〔常形〕きまりたるかた。○〔史〕「兵無一…」。
〔異形〕ちがひたるかた。○〔史〕「王敬塗有一
一」。
〔物形〕ものかたち。○〔後〕「無一…」。
〔變形〕かたちを作る。○〔右書品題〕「成・彩一…」。
〔說形〕すがた。○〔鍾會〕「屬於自然之一…」。
〔說形〕かはりたきかたち。○〔王愛〕「將骨一…」。
〔殊形〕かはりたるかたち。○〔鄭宗元〕「一…」。
「一…」。
〔異人形〕てくくやつ。○〔後〕「俟・鳥獸・蟲如
〔異之無形〕推測の明あるも、先見の明あるも、又、
推理するも、先見するも。○〔莊〕「一…」。「通
之無跡」。

五畫

彤 トウ、ヅ。徒冬切 冬

丹色の飾、朱塗あか。○〔詩〕「貽二我一
管一」。
〔丹形〕あか。〔王勃〕「雄以一…」。
〔朱形〕前に同じ。○〔王禹偁〕「椽桷一…」。

彥 ゲン、モン。無分切 文

青と赤とまじりたること。

六畫

彥 ゲン。魚變切 霰

美德ある者、すぐれたる士、又、男子の
美稱、ひこ。○〔詩〕「邦之一兮」。
〔彥士〕すぐれたる士。○〔後〕「旁求一…」。
〔彥士〕前に同じ。○〔後〕「拔一…」。「拔俊士」。
〔彥士〕前に同じ。○〔後〕「清一…」。「拔俊之倫
也」。
〔彥士〕前に同じ。○〔後〕「一…」。「拔俊士」。
〔彥士〕前に同じ。○〔後〕「一…尊德」。
〔彥士〕前に同じ。○〔後〕「衣冠尊賢」。「一…如林」。
〔彥士〕前に同じ。○〔後〕「尊賢」。「一…如林」。
〔彥士〕前に同じ。○〔後〕「耳聰」。「一…」。「不尊賢」。
〔才士〕前に同じ。○〔後〕「明・能・賢」。「一…」。
〔俊士〕前に同じ。○〔後〕「俊傑物」。「明・能・賢」。
〔俊士〕前に同じ。○〔後〕「俊傑物」。「明・能・賢」。
〔俊士〕前に同じ。○〔後〕「結・英・賢・才」。「賢・英・士之一

彫 ヨウ、ユ。餘封切 図
㊀重なる影、かげ。㊁かたち、形。

彯 シ。所綺切 紙
毛の垂るゝ貌にいふ字、たる。

十二畫

影 エイ、ヤウ。於景切 梗
かげ。
（い）光によりてうつり出でたる形。○〔莊〕「形之於レ—、聲之於レ響。」
（ろ）實體の鏡、水などにうつり見ゆるもの。○〔後漢〕「引レ鏡窺レ—、何施二眉目一。」
（は）形容、すがた、かたち。○〔張協〕「絕二乎大荒之遐阻一。」
（に）ひかり、うつり。○〔杜甫〕「燈—照無無寐。」
（ほ）日晷ひかげ。○〔潘岳〕「情有二邇延一、日無餘—。」
（へ）儛。○〔南〕「與二楚王廟神一交歡至三一酣、每酹祀靈歡極醉、神—亦有三酒色一。」
（と）蔽はるゝ、かばゝるゝ。○〔前府元龜〕「設名於勢要以求二—庇一。」

〔影形〕鬼の異名。○〔詩疏〕「鬼一名—。」
〔影響〕水にうつるかげ。○〔論衡〕「—響、炎燃。」
〔影形〕夕陽の日かげ。○〔後漢〕「願—一面伏紅。」
〔影形〕めでたき日かげ。○〔論衡〕「—一服、手有二光耀一。」
〔影形〕あわてかけたるとき、はかなきに譬へいふ語。○〔金剛經〕「如夢幻—。」
〔影形〕きえやすかなるかげ。○〔杜甫〕「月林散—。」
〔影形〕ともしびのかげ。○〔杜甫〕「半屋開—。」
〔影形〕かゞみにうつるかげ。○〔後漢書〕「—、表面—、裏雜而玄。」
〔影形〕星の名。○〔李商隱〕「女星弱—、小星名。」
〔影形〕かげをつゝ絵。○〔陶弘景〕「頃畫—。」
〔影形〕なゝめなるかげ。○〔王僧孺〕「草枝結—。」
〔影形〕島のかげ。○〔陳後主〕「—、響門隱。」
〔影形〕めづらしきかげ。○〔張正見〕「白雪多—。」
〔影形〕あけぼのゝ日かげ。○〔宋祁〕「—、初分。」
〔影形〕よたつのかげ。○〔崔文宦〕「半月無—。」
〔弦形〕ゆみはりのかげ。○〔李賀〕「匡月寫—。」
〔眞形〕まことのすがた。○〔呂温〕「—、來現。」
〔死形〕月のこと。○〔李密〕「—、高懸。」
〔魂形〕前に同じ。○〔論語〕「學敏編、遺—、歸。」
〔玉形〕前に同じ。○〔論語〕「—、魂自死。」
〔鏡形〕うつくしきすがた。○〔徐陵〕「晚鏡—、」
〔影形〕きえるきかれ、又、月のこと。○〔曹植〕「—、光輝。」
〔金沙射影〕小人の陰險なる手段にて害をなすことにいふ語。○〔白居易〕「—、人人、疑、病人不知。」
〔孫臏加影〕如何に勞するも其の効なきにいふ語。○〔後〕「孫臏如—、—、—、終不可見。」
〔弗中蛇影〕疑心暗鬼にいふ語。○〔晉書〕「有二親客一、小酒不復來、廣問其故、答曰、前在坐蛇、蛇中有蛇、蛇影如弓、杯中有蛇、蛇影如弓、杯中有蛇、蛇影如弓、杯

〔往〕ワウ。於放切 漾

歸向す、むかふ。○〔史〕「雖レ不レ能レ至、然心鄉二之一」。

〔径〕ヒ。貴悲切 支

走る貌にいふ字はしる。

〔徙〕ジ。七余切 紙

行く貌にいふ字、ゆく。

〔征〕セイ、シヤウ。諸盈切 庚

一ゆく（行）。○〔詩〕「之子于一」。二上より下を伐つ。罪ある者を攻む、うつ。○〔易〕「王用出一」。三租稅かゝり物。○〔周〕「二日一薄レ」。四かゝり物を収む、とる（取）。○〔禮〕「關譏而不レ一」。

〔旦征〕什物で敵を伐つ、又ゆく。○〔書〕「惟時有苗弗率、汝一」。

〔船征〕水運物の稅。○〔周〕「澤一！！入ニ于玉府」。

〔遠征〕遠方の人を伐つ。○〔左〕「不和不可以一」。

〔戰征〕帝王の自ら征伐すること。○〔書〕「乃一之」。

〔出征〕いでゝ敵を伐つこと。○〔禮〕「天子一！！以佐ニ天子」。

〔地征〕土地の稅。○〔周〕「輔ニ天下之一！！」。

〔賣征〕土地の賣價によりて稅を取りあつまること。○〔周〕「相地而一！！」。

〔廢征〕廢おちものを定めること。御ちゝ鳥獸をいふ。○〔後漢〕「請置四野之一！！」。

〔市征〕市場より取りあつる稅。○〔後漢〕「凱遷左帝、興、宜大名一！！」。

〔關征〕關所にて取りあつる稅。○〔後漢〕「免諸部鎮輸米及一！！」。

〔藩征〕たゝの異名。○〔陸機〕「率諸侯奔人間之一！！」。

〔徒征〕つゞけ出でゆく。○〔趙岳〕「嗟雖來且用讀書一！！」。

〔長征〕久しきをへたりたる征伐のこと。○〔郭元振〕「一！！用不足」。

〔輸征〕稅納のこと。○〔後漢〕「輸黃金一！！」。

〔祖〕ソ。昨故切 遇

ゆく。

（い）行く。○〔詩〕「我一東山一」。

（ろ）去る。○〔陶潛〕「日一月流」。

（は）死ぬ、みまかる。○〔史〕「呼嗟一分」。

六畫

〔徊〕トウ、ヅ。徒孔切 董

徜一は、直に行く、ゆく。

〔咎〕カク、キヤク。古伯切 陌

一來たる。○〔揚雄〕「一來也、周鄭之郊、齊魯之間、或謂レ曰レ蹙」。二いたる、至。○〔揚雄〕「假一、至也、邠唐篇兌之間曰レ假、或曰レ一」。三のぼる、登。○〔揚雄〕「登也、梁益之間曰レ假、或曰レ一」。

〔待〕タイ、ダイ。徒在切 隊

まつ。

（い）物事の到來を迎へ受く。○〔易〕「君子藏ニ器於身一レ時而動」。

（ろ）備ふ。○〔國〕「其何以一レ之」。

（は）恃む。○〔呂氏春秋〕「不レ窮奚一」。

（に）須ふ。○〔史〕「不レ一告」。

（ど）取りあつかふ、もてなす、あひしらふ。○〔論〕「以ニ季孟之間一一レ之」。

〔接待〕あしらふもてなす。○〔晉〕「侍ニ於左右、甚見一！！」。

〔風待〕前に同じ。○〔後漢〕「輙相一！！」。

〔見待〕前に同じ。○〔呉〕「一！！甚厚」。

〔有待〕時節をまつことをいふ。○〔禮〕「愛其死、以一！！也」。

〔客待〕まれびととしてあひしらふ。○〔公羊、莊〕「一！！之而不因也」。

〔賓待〕前に同じ。○〔禮〕「一！！甚厚」。

〔寄待〕貴びてあひしらふ。○〔公羊、莊〕「諸沐邑無以一！！時能、而共其費也」。

〔僧待〕止住まりてまち受ること。○〔史、莊〕「事略云、陰一！！也」。

〔善待〕よくあひしらふ。○〔史〕「齊一！！之」。

〔優待〕前に同じ。○〔史〕「以見一！！」。

〔厚待〕前に同じ。○〔史〕「齊客一！！之」。

〔敬待〕前に同じ。○〔後漢〕「酒家知北賓厚一！！之」。

〔請待〕前に同じ。○〔宋、士燮〕「繼次義以客一！！」。

〔寵待〕めであひしらふ。○〔晉〕「甚見一！！」。

〔欲待〕よろこびてあひしらふ。○〔後漢〕「拂館來一！！」。

〔歡待〕前に同じ。○〔後漢〕「一！！雖無道」。

〔可知足待〕あしらひのまたべ、まつべし、或る事情の者ちの間にかなる到來するとにいふ語。○〔史〕「當供博食、而以客禮遇、百日後之故、言、百日後之然、口一！！一而一」。

〔刑目待〕目をすりあざやかにしてまつ、往目して後の結果如何をまつ。○〔呉〕「張曰、士別三日即當一！！相一」。

〔徂〕ソ。昨故切 遇

行く貌にいふ字、ゆく。

〔徇〕ジュン、ジュン。須閏切 圓

一とし（疾）。○〔史〕「幼而一齊」。二めぐる、巡。○〔山海經〕「槐江之山神招ニ英司之一一手周行一」。三略取す、かすめとる。○〔漢〕「陳勝使ニ周市一一魏地一」。四あまねく示す、となふ。○〔書〕「以ニ木鐸一一手路一」。五自らほこり示すてらふ。○〔宋〕「奢一四境一」。六殉に同じ、ほこらふ。○〔史〕「貪夫一レ財烈士一レ名」。

〔狥〕私欲に打ちまかす。○〔郭他〕「率復賞一！！」。

〔徇後〕ためらふ。○〔呉書〕「張社無一！！」。

〔徇後〕時機にまかす。○〔禮〕「動不ニ敢擅一一！！」。

〔徇〕シュン、ス。職救切 宥

行く、ありく。

〔洒〕セイ、サイ。息芳切 齊

行く。

〔徇〕シュン、ジュン。松倫切 圓

一あまねし（編）。○〔墨〕「身體強一耳、思慮一通」。二いとなむ（營）。○〔史〕「而一其私」。三つかふ（使）。○〔莊〕「夫一耳目一內通而外一於心知一」。

〔很〕コン、ゴン。胡懇切 阮

俗に狠に作る。

〔徙〕シン。所蹲切 軫

俗に同じ、往來する貌にいふ字。

〔徙〕シウ、シュ、息弓切 東

人の姓。

七畫

〔徑〕テイ、チヤウ。丑郢切 レイ、リヤウ。里郢切 梗

一徑を行く、ゆく。二雨ふりて後のこみち。

一聽き從はず、もとる、たがふ、違。○〔國〕「今王將一レ天而伐レ齊」。二靜ひ訟ふ、いさかひす、せめぐ、あらそふ。○〔禮〕「一毋レ求レ勝」。

〔違〕にくみもとる。○〔書〕「遠一ニ心一！！」。

〔違〕みなり戻る。○〔左〕「一！！離上」。

〔違〕いさかひす。○〔論〕「好ニ勇一！！以意父母」。

〔違〕かつての如くもとる。○〔呉、惟善〕「俱言一！！」。

〔徉〕ヤウ。余章切 陽

さまよふ、たちもとほる、すゝまず。一說に、ほしいまゝ、又、彷徨、徜徉の字の略を見よ。○〔楚辭〕「彷一無所倚廣大無所極」。

〔徊〕クワイ、エ。胡隈切 灰

さまよふ、たちもとほる、すゝまず。○〔史〕「徘一往來」。

〔徙〕さまよふ、たちもとほる。○〔白居易〕「雁步一！！」。

〔徙〕イ。延知切 支

平かにして行き易きこと、たひらか。

〔律〕リツ、リチ。呂戌切 質

一吹きかなづる音樂の調子の總名、音調の應を候ふものとせり、陽に屬するものは、黃鐘（十一月にあたる）、大簇（正月にあたる）、姑洗（三月にあたる）、蕤賓（五月にあたる）、夷則（七月にあたる）、無射（九月にあたる）の六つにして、陰に屬するものは、大呂（十二月にあたる）、夾鐘（二月にあたる）、仲呂（四月にあたる）、南呂（八月にあたる）、應鐘（十月にあたる）の六つなりとす。○〔漢〕「天・地之風・氣正十二一一定」。二特に、陽に屬する音調。○〔樂緯〕「陽爲レ一、陰爲レ呂」。三吹きかなづる樂器の管、調子ぶえ。○〔漢〕「黃鐘之一九寸」。四轉して、音樂、音調。○〔後漢〕「好ニ音一一善鼓ニ琴」。五守りしたがふべき物事の方、常道、規則、法制、つれ、のり。○〔管〕「一者所ニ以定ニ分止ニ爭也」。六特に、軍法、刑法。○〔易〕「師出以レ一」。七程度。○〔淮〕「以治ニ日月之行一一」。八等級。○〔禮〕「加地進レ一」。九身と口と意との三業を修練して過非を制伏すること、修行のこゝろ（佛家の言）。○〔宋〕「善持レ一」。十のぶ（述）。○〔禮〕「上一ニ天時一」。十一はかる（從）。○〔爾註〕「易坎卦主レ法々一、皆所ニ以詮ニ量輕重一」。十二のりと爲す、つれにまたがふ、のゾとる、ながさむたゞす。○〔荀〕「嗚呼哀哉尼父、無ニ自一一」。十三髮を理む、くしけづる。○〔荀〕「不レ沐則濡レ櫛三一而止」。十四漢詩にて、八句を以て成りたる中の第三句と第四句と對句を成し、第五句と第六句と對句を成す詩格をいふ。○〔唐〕「研ニ攜聲音一浮切不レ差而號ニ詩一」。十五律に遵す。○〔詩〕「南山一一」。

〔師律〕軍法。○〔禮〕「軍旅不以禮則數ニ諸於一一」。

〔六律〕陽聲に屬する六音をいふ。○〔禮〕「天下大定後正一一和五聲」。

〔紀律〕おきて。○〔左〕「軍旅而不ニ敢易一一！！」。

〔法律〕國家の規定されたる法令刑律。○〔史〕「乃ニ一一月令頒ニ冷道」。

〔前律〕聞くけはしき說に云ふ語。○〔國〕「臨入ニ曾望之所一一」。

〔不律〕（い）筆の別名。○〔禮〕「一一圓ニ之筆」。

（ろ）おきてを守らぬ。○〔左〕「斬ニ之以徇ニ一一」。

〔典律〕國家のおきて。○〔後漢〕「使ニ持節臨ニ大學、表ニ定一一」。

〔軍律〕前に同じ。○〔後漢〕「今一一既嚴」。

〔總律〕諸樂を法律のこと。○〔禮〕「一一雜修」。

〔科律〕刑法。○〔後漢〕「五刑之屬、皆在一一」。

〔新律〕あらたに作られたるおきて。○〔後漢〕「作一一十八篇」。

〔舊律〕もとのおきて、新律に對していふ。○〔管〕「一一繁苛」。

〔清律〕たゞしきおきて。○〔管〕「不ニ標綱之一一！！」。

〔調律〕つれのゝり、又、音樂のゝり。○〔禮〕「不ニ依一一！！」。

〔成律〕管尼のぼるべきおきて。○〔蘇軾詩〕「一一「鼠前身」。

〔條律〕前に同じ。○〔後漢〕「沙門多犯一一！！」。

〔國律〕前に同じ。○〔李密〕「論ニ北根源ニ、乃越一一！！」。

〔禮律〕前に同じ。○〔白居易〕「禮禮依一一！！」。

〔刑律〕刑法。○〔呉〕「孝敬以一一治ニ敬鄉門」。

〔無律〕紀律なき。○〔後漢〕「戲瑪瑙論持「皿」一一、鐵士大樂、歌ニ失音實」。

〔後〕コウ、ゴ。胡口切 有

一のちになる、あとになる、おくる。○〔老〕「自一者人先之」。二おくらしむ、のちにす、あとになす、おくらす。○〔論〕「一一其食」。

〔先後〕（い）さきたつとおくるゝこと。○〔禮〕「子曰、「一一！！」。

（ろ）嫁娶、あひよめ。○〔史〕「夏、神於一一、「若」。

〔前後〕あとつぎ。○〔蘇軾〕「仰視右側一一！！」。

〔組後〕うしろのみひきゐ。○〔蘇軾〕「蘇軾一一「來」。

〔向後〕このゝち。○〔皮日休〕「一一頃秋酒頭」。

〔後人〕他より劣ること。○〔李白〕「風流自賞一一！！」。

〔後〕コウ、ゴ。下遘切 宿

一のちになる、あとになる、おくる。○〔老〕「自一者人先之」。二おくらしむ、のちにす、あとになす、おくらす。○〔論〕「一一其食」。

〔先後〕（い）さきたつとおくるゝこと。○〔禮〕「子曰、「一一！！」。

（ろ）嫁娶、あひよめ。○〔史〕「夏、神於一一、「若」。

〔往〕アイ、エ。於佳切 佳

ないめに行く、正しからず。

〔袴〕クワ、ケ。苦花切 麻

行く。

〔從〕タツ、ダチ。徒活切 曷

前條に同じ。

〔袿〕キツ、キチ。闕吉切 質

前條に同じ。

〔徠〕シウ、シュ、息弓切 東

人の姓。

七畫

〔徑〕テイ、チヤウ。丑郢切 レイ、リヤウ。里郢切 梗

一徑を行く、ゆく。二雨ふりて後のこみち。

徑 テイ、チキナガ 他頂切 圜
ニワミち。径。

俟 埃に同上。

待 俟に同上。
カイ、ケ 水崖切 圜
ニワタたふ。径。

徘 徘に同上。

徐 ジョ、ソ 似魚切 圜
❶安靈なること。やすらか。おもむろ。ゆ。〔注〕「其爲一一、其愛手手」。
❷おそし。遲。ゆるし。緩。〔注〕「子一一言爾三之矣」。
〔詩〕「一一生民」。
〔孟〕「一一焉、如之何其使人疑之」。
〔孟〕「一一焉、如之何其使人疑之」。
〔孟〕「一一焉、如之何其使人疑之

一・徉は、徘徊に同じ、さまよふ、たちもとほる。○〔韓愈〕「終二吾生一以一徉」。

御 チ、ヂ。直知切 支

ありく、ゆく〔行〕。

値 チ、ヂ。竹志切 寘

ほどこす〔施〕。

陟に同じ。

從 ショウ、ジュ。疾容切 冬

一ふたがふ、つく。

（い）可さず〔聽き容る。○〔書〕「后一」。

（ろ）屬す〔傍ふ。○〔詩〕「遡洄一之」。

（は）逆らはず、反かず。○〔禮〕「縊一人幼一」。父、嫁一夫、死一子。

（に）己れにふたがはしむ、ふたがす。

（前各項参照）。○〔韓愈論〕「三八、極一而朝海内」。

一出處又は來歷を表はすに用ふる字、より。○〔晉〕「不レ聞下人一二日・邊來上」。

一南北の方向、たて。○〔史〕「一合則楚王衡成秦帝」。

四蹤に通じ用ふ、あと。○〔史〕「重自刑一以絶レ」。

〔書〕くものゐくにつきふたがよ。○〔余說〕「文物如一一」。

〔周〕ものゐたりのみたがよ又（つらよとにい上轉。○〔書〕「飯無一一」。

〔孝〕おがやかしふたがが。○〔卷〕「一一四治」。

〔三〕給人の他にふたがよ者をいよ、種以例に餘かなり。○〔周〕「詩」「給人幼從父、嫁從夫、夫死從子、故無有一一之義」。

〔孝〕ふたがよ。○〔孝〕「同類一一」。

〔孝〕前に同じ。○〔左〕「吾難一一」。

〔孝〕前に同じ。○〔禮〕「國合則一一」。

〔孝〕ものなりてつきふたがよ。○〔史〕「韓信一一」。

從 ショウ、ジュ。慈用切 宋

一ふたがふ。

（い）つきて行く、つく。○〔論〕「一一而代」。

（ろ）ひきて行く。○〔史〕「一而代」。

一ふたがひ居る人、とも、つきそひ、そばのもの、近侍僕隷。○〔後漢〕「車馬滿一街徒一無所止」。

二宗を同じくすると。○〔釋名〕「一一・組・隨從己祖」。父母、盲從己親・祖・別而下也、亦盲隨從己祖以爲名也」。

四縱に同じ、ほしいまゝ、はなつ。○〔禮〕「一レ之純・如也」。

〔孝〕後につきふたがひ行く、又、其の者。○〔孝〕「一一・一・一・

之咸陽」。

㊀覆に通ト用ふ、おほふ、おほひ。○〔詩〕「陶―陶穴」。

〔往部〕ゆきか（す）。○〔北〕「摩崖碑」―」。

〔徃部〕ならひか（す）。○〔北〕「夕雨―」。「年」。

〔彿部〕賞賜を政府より給除す。○〔北〕「―」七

〔給部〕前に同に。○〔北〕「―十五年」。

〔祇部〕かたしか（す）。○〔後書〕「―」宗紀」。

〔底部〕かたして元にかへす。○〔史〕「論」―」功」。

〔反部〕くりか（す）。○〔蘇軾〕「人事殘」―」。

〔返部〕開きかさね。○〔後〕「―」孝王之大業」。

〔返部〕かへるか（す）。○〔後漢書〕「祇書傳」―」。

〔返部〕ためか（す）。○〔國〕「―」方化」。

〔返部〕病氣形変す。○〔後漢書〕「祭祀時王」。

〔後部〕つくらふ。○〔後書〕「館」―」。「陵」。

〔後部〕よるひか（す）。○〔史〕「懷」―」之志」。

〔後部〕戦殺を敗をゆる（す）。○〔北〕「―」子孫」。

〔後部〕記憶をすゝ（む）か（す）。○〔北〕「志存」―」。

〔後部〕取りか（す）。○〔史〕「以國」―」。

〔後部〕鮮新なる（の）唱和往復をいふ。○〔國〕「―」

〔後部〕多。「地」。

〔後部〕ひろめか（す）。○〔北〕「有不能」―」月

復 ヒツ、フク。浮富切 密

重れて、くりかへして、また、又、ふたゝび（再）。○〔詩〕「文・王有二明・德一故夫―命武・王也」。

復 ツウ、祖叢切 東 一に選に作る。

㊀ゆく（行）。㊁かす（數）。

徂 ツウ、ツチ。王勿切 物

ゆく（行）又、あわて行く貌にいふ字、あわつ。

徑 徑に同ト。

循 シュン、ジュン。松倫切 眞

（い）戻り遁らはす。○〔禮〕「卿大夫以レ―法篤レ節」。

（ろ）よる（依）。○〔史〕「―レ牆而走」。

㊁普良・すなほ、よし。○〔耶律楚材〕「長・更求二良―」。

㊂次序・ついで、ついでな道ふ、ついづ。○〔論〕「夫子―…然善誘人」。

㊃めぐる。

（い）往きてかへる。○〔史〕「三・王之道若二―環・終而復始」。

（ろ）あまれく歴あるく。○〔漢〕「遣二使者一―二行郡國」。

㊄なづ。

（い）手にて擲す、さする。○〔漢〕「數々自―其刀環」。

（ろ）慰め安んず。○〔漢〕「拊―勉二百姓」。

〔徽部〕あなれく・ふたがふ。○〔國〕「亦以其事不可―」。

〔詩部〕あと・ふたりする說にいふ語。○〔註〕「―」

〔徽部〕他にたよりて自立する時はさる說にいふ語。○〔北〕「―」無依附長」。

徙 ヘイ、ビヤウ。歩定切 敬

かたはら、傍側。

從 ショウ、シュ。七恭切 冬

歩むと緩し、ゆるし、おそし。

從 ショウ、シュ。筍勇切 腫

疾き貌にいふ字、さし。

渚 ショ。事於切 魚 諸に通ト作る。

偉 井。雨鬼切 尾

行く貌にいふ字、ゆく。

偷 リュウ、ル。力救切 宥

行きて相待つ、まつ、とゞまる。

偸 サウ、ソウ。蘇遭切 豪

徇の字を見よ。

循 セツ、セチ。先結切 屑

物のひら〳〵と飜る貌にいふ字、又、うごく（ゆるぐ）。○〔司馬相如〕「―姮娥儛」。

傍 ハウ、バウ。蒲浪切 蕩

㊀附きそひ行く、つく、又其の者、つきびと。○〔周〕「凡會同軍・旅行・役共三其兵・車之牛・與二其牽―以載二公」。㊁後又は彷に通ト用ふ。〔任・器〕。

傜 エウ。余招切 蕭 繇・又・徭・傜に作る。

公務に役す、えだつ、又、えだつと、えだち。○〔後漢〕「倫爲二鄉嗇夫一平二―賦」。

〔戎部〕まものゝえだち。○〔史〕「駿敏盡裏―」。

〔戎部〕かはるゞ〳〵えだちに就く。○〔史〕「百萬之衆・周二十萬而―」。「相就出其中」。

〔皆部〕えだちをはじめて官吏の取扱ひをなす。○〔皆〕「―」。

〔國部〕えだちをのゞきて使ふことを出す。○〔書部〕「下・賢皆之分・―」。「―」。

〔賢部〕えだちをゆるやかにす。○〔江淹〕「―」皆」。

〔賢部〕くさ〳〵のえだち。○〔元〕「雷鳴・鐘声」。

〔相部〕年貢とえだちと。○〔書部〕「有・財力者」。

〔武部〕年貢とえだちと。○〔書部〕「輕・北―」。

〔丁部〕えだち・人一人前になればえだちにつかはる。

〔丁部〕えだちにつかはる。○〔北〕「―」。「賢」。

〔絲部〕えだちにつかはる。○〔北〕「凡―」子官」。

〔代部〕本人はかはりてえだちにいふ。○〔史〕「强」。

〔疑部〕かくれてかすかなる。○〔宮部〕「神祇・孝」。

〔疑部〕おどろかるる。○〔新敎〕「聲聲器文周孔」。

〔疑部〕「―」。

〔疑部〕（ひ）山の頂より少しく下れる處の稱。○〔史〕「由・來・及」上日―」。

（ろ）山・嶽・北の方すなはち色なるよりいふ。○〔林逋〕「人・家・園―」。

〔疑部〕とどやかなる。○〔後書〕「讀・敏―」。「之明」。

〔疑部〕大・尤。

〔疑部〕かすかなるを明かにす。○〔後書〕「羅」。

〔疑部〕星の名。○〔史〕「―」六・帝之庶・天子之雪・庶也。

〔疑部〕星の名。○〔史〕「―」天子庶也・五帝之少・庶也。

〔疑部〕星の名。○〔史〕「―」四・星在・北大・數西、士・大夫之位也。

〔疑部〕力少きものを引き立てやる。○〔鈴・部〕「輔・翼」。

〔疑部〕かすかなる。○〔周書〕「恒・晨・光之」。

〔疑部〕さとし。○〔何・遜〕「肝・蓋・又」。

〔疑部〕いさゝかなる。○〔韓・寶・王〕「經・數・數」。

〔疑部〕かぼそし。○〔後書〕「羅・道・原・版・身」。

〔疑部〕寓・和といふ・ことの政・治上の・用・語。○〔元・鮮・錦・陳・升之・撰・答〕「朝・故」。

〔疑部〕いみじきもの、たゝなる。○〔國〕「或者・既・失」。

〔疑部〕かすかなるをあらはす。○〔國〕「君子」。

〔疑部〕あらはれたるとゝかすかなるとゝ、又、かすかなるをあらはしやす。○〔國〕「有」―」。

〔疑部〕かゝとゝ、又、ひとか、又、ふつか。○〔後書〕「昔在・帝堯・聘・朝」。

〔疑部〕家の記こしたる場合に注意し加筆せざるも。

○〔後書〕「朝・者」。

〔疑部〕深くかすかなるも。○〔趙・抒・子〕「獄・淵」。

〔疑部〕「部・不・信」。

〔疑部〕助けなく弱し。○〔後部・書・書〕「事・難・出」。

〔疑部〕弱し。○〔史〕「者出・自」―」。

〔疑部〕遠とかくかすかなり。○〔國〕「受・道」―」。

〔疑部〕遠かくかすかなるも。○〔國〕「―」。

〔疑部〕「―」。

〔疑部〕無能・愚者。○〔國・朝・隱・者・形・明・書・書〕「―」。

徙 シツ、シチ。思七切 質

―」。

㊀一に蘇に作る、まつ（待）。○〔書〕「―」予后」。

㊁蹊に通ト用ふ、こみち。○〔漢〕「嬪・七不レ施・於―隧」。

〔鳥部〕「鵲・島の名。○山・海・經」「原・蠻之山・有・鳥名曰―」。

徙 ケイ、ガイ。胡禮切 齊

前條の㊀に同ト。

徙 ケイ、ガイ。弦雞切 齊

構 遘に同ト。

十一畫

徠 シュツ、シュチ。疏聿切 質

行く貌にいふ字、ゆく。

徨 復

復の本字。

徭 徭に同ト、はやし。○王延壽・性―・賃以猫・疾。

徑 テイ、ダイ。陳兮切 齊

㊀ひさし（久）。

㊁往き來する貌にいふ字。

徊 シュ、ス。尺主切 麌

ゆく（行）。

徨 シヤウ、サウ。諸良切 陽

―徨は、行くに正しからずまがる。

徵 シヤウ、サウ。之亮切 漾

―徨は、行くにあわつる貌にいふ語、あわつ、うろたへさわぐ。

徵 チヨウ。知陵切 蒸

㊀めす（召）。○〔國〕「唯官是―」。

㊁なる（成）。○〔淮〕「敢聖人見」化以觀―其―」。「也」。

㊂あきらかにす（明）。○〔左〕「且―」過

㊃とふ（問）。○〔左〕「寡人是―」。

㊄まろし。

（い）效驗・きゝめ。○〔中〕「久則―」。

（ろ）兆候・きざし。○〔漢〕「純二百・家之象・候・善・惡之―」。

（は）證據・あかし。○〔左〕「此其―也」。

㊅なさむ、斂。○〔周〕「以時―其賦」。

㊆もとむ（求）。○〔史〕「物賤之―貴」。

㊇懲に通ト用ふ、こらす。○〔荀〕「且―其來―也」。

〔徵部〕もろ〳〵のまろも。○〔國〕「―」厚・手下」。

〔徵部〕日月・邪・手上に。○〔國〕「―」之雄見」。

〔徵部〕めでたきまろし。○〔國〕「―」之雄見」。

〔徵部〕前に同じ。○〔周・相・如〕「厭・徵・徵・天」。

〔徵部〕前に同じ。○〔荀〕「天・同之―」。

〔徵部〕前に同じ。○〔論・書・書〕「符・瑞」。

〔徵部〕前に同じ。○〔後書〕「三」。

〔徵部〕みたびまろ召さる、又、たびく召さる。○〔後書〕「前・後―」。「依・以・直・離・不・合」。

〔徵部〕命の長きまろし。○〔荀・悅〕「常・劍・春・背者」。

〔徵部〕たいこをもて示す合圖。○〔穆〕「大・所」。

〔徵部〕（ひ）鄭・銅の線を結びたりといふまろし。

〔徵部〕（ろ）「―」。

〔徵部〕皮・如・納・古・禮」。

（ろ）廻り立つまろ。○〔國〕「所・謂」―」。「韓・千・馬」。

〔徵部〕めでいつくしむ・まろし。○〔左〕「亡・無」。

〔徵部〕「可・謂・無・他」。

〔徵部〕あしきまろし。○〔左・傳〕「晉・以」―」。「師」。

〔徵部〕政・所のめし、又、官・所の・取り立て。○〔書部〕「化・所・信・政・如・信」。

〔徵部〕たよりまろし。○〔史〕「高・帝・日」。

〔徵部〕いくさのかたろまろし。○〔國〕「古・面・有」。

「―」。

〔徵部〕太・きりはめし・出・だす。○〔後書〕「―」不。

〔徵部〕前に同じ。○〔史〕「―」者・以・疾・辭。

〔徵部〕魚・鹿・なりたるまろし。○〔後書〕「讀・書・部」。

「―」。「以・示・四・方」。

〔徵部〕ろ・今・書・して・召し・出だす。○〔史〕「・樂・部」。

〔徵部〕「北・名・師・以」―」。

〔徵部〕まろし。○〔荀〕「四・書」―」。

〔徵部〕くすしまろし。○〔北〕「宗・日・北」―」。

得 見出・意・輪・鎖」―」。

〔得部〕えだちを割りあつ。○〔荀〕「仍・為」―」。

微 古文の得の字。

微 ビ、ミ。無非切 微

㊀ふかく認めがたきとゝは少きりさと見はれざるとかすかとほのか。○〔易〕「知レ―知レ彰」。「可レ謂レ―也」。

㊁精妙・たへ・いみ・きゝ。○〔荀〕「未レ―」。

㊂隱密・ひそか・ふかのび・みそか。○〔史〕「―」行咸陽」。

㊃ちひさし、ほそし、こまし（小）。○〔孟〕「具・體而―」。

㊄太だ細小なり、こまかし。○〔金剛經〕「三・千大・千世・界所レ有―塵是爲レ多不」。

㊅すくなし（少）。○〔列〕「悲・心更―」。

㊆明かならずくらし。○〔左・註〕「近レ日星―」。

㊇いやし（賤）。○〔書〕「虞・舜側―」。

㊈幽・靜・ふかづか。○〔張衡〕「清・廟・肅以―」。

㊉かく（虧）。○〔詩〕「胡迭而―」。

㊉おとろふ（衰）。○〔詩〕「杞小―」。

㊉そく（殺）。○〔禮〕「有二―情者二」。

㊉うかゞふ（伺察）。○〔漢〕「使人―」知賊處」。

㊉かくる、かくす、匿。○〔左〕「百公奔山而絵其徒―レ之」。

㊉蔽ふもの、おほひ。○〔國〕「殷レ而薄而觀レ之」。

㊉あらず（非）。○〔詩〕「―我無酒」。

㊉なし（無）。○〔禮〕「曾子曰―鮫」。

㊉脚・脛の・肇・さ。○〔詩〕「既―且樞」。

〔微部〕ちまりあり、おずかにして現はれざるも。○〔史〕「―者動之」。

〔明部〕かすかなるをあらはかにす。○〔國〕「明論」。

【徵】チ。陟里切 紙

一五音の一。心より出でゝ齒を合せ物を開きて發する音。○〔禮〕〔孟〕夏之月其音一。

二さいはひ。福。○〔風俗通〕一者祉也。物盛大而繁祉也。

【宮徵】宮、商、角、徵、羽の音を五音といひその中宮と徵との音を和合音と稱して互に相和するを音と。○〔往〕〔二〕金音徵一一一。

【徵】宮調かはりたる徵の調。○〔史〕〔刑制和而民一一一之說〕。

【宮徵】樂曲の名。○〔舞說〕〔鎮一一一〕舞〔陳曲〕。

【宮徵】たかき徵の音。○〔書〕〔四〕聲徵〔其一一一〕。

【徵】征に通ト用ふ。○〔史〕〔非二教士二不レ得從レ一〕。

【徵】ケウ。巨天切 蕭

行く貌にいふ字。

【徵】クヮン。苦管切 旱

徐かに行くゆく。

【徵】ヘツ、ベチ。蒲結切 屑

衣服のひら〳〵する貌にいふ字。

【徳】トク。多則切 職

一道。○〔老〕〔常一一不離、復二歸於嬰兒一〕。

二正義善道。○〔論〕〔中庸之爲一一其人之一一、揚二人之美一〕。

三道義に適ふと、正善の行。○〔荀〕〔禁人之一一、揚二人之美一〕。

四正の極、至善、無上道、衆理の綱領。○〔莊〕〔通二天地一者一也〕。

五得ること。○〔老〕〔一者同於一一、失者同二於失一〕。

六心に得て行ひに見はるゝこと。○〔中〕〔爲二聖人一〕。

七行爲、おこなひ、節操、みさを。○〔論〕〔大一一不レ論閑小一一出入可也〕。

八本性、天賦。

九功用、勢力。○〔中〕〔鬼神之爲レ其盛矣乎〕。

十名譽、威望。○〔孔叢〕〔聲一一發聞〕。

十一教化。○〔韓愈〕〔藩其一一善、其者數一千人〕。

十二利得。○〔國〕〔下非二地一一〕。

十三恩惠、めぐみ。○〔詩〕〔既飽以レ一一〕。

十四幸福、さいはひ。○〔禮〕〔百姓之一一也〕。

十五恩に感ずること。○〔左〕〔然則一レ我之一一〕。

十六恩を施すこと。○〔孟〕〔又從而振二一一〕。

十七賢者、君子、正善なる人。○〔書〕〔佑レ四時の旺氣〕。

十八星の名、塡星。○〔漢〕〔陛下建二漢家封、禪一天其報一一一星一〕。

十九のぼる、升。○〔禮〕〔一レ車結レ旌〕。

【天德】(1)天道。○〔老〕〔常明聖智達一一一者、其就能知之〕。

【德】(2)自然。○〔莊〕〔古之君天下、無爲乎一一、天地自然〕。

【德】(3)天子の德。○〔後漢志〕〔月光一一一〕。

【德】(4)すぐれてあきらか。○〔代紀〕〔聰明德一一一〕。

【德】(5)すぐれたる德。○〔後漢〕〔光武初一一一〕。

【德】(6)性がらかはとなる、又、容貌のうつくしきにいふ語。○〔漢方志〕〔聚德皆一一一〕。

【德】とはる。○〔後〕〔樂夜語〕之句有五月、一皆一一一〕。

【德】とはる。○〔史〕〔不一一一、〔時不流德〕〕。

【德】頃とあきらかになる。○〔後〕〔自是一一一、「過人」〕。

【德】明明にして知らざるなきこと。○〔國〕〔一一一、「一如二水一流」〕。

【德】うつりとはる。○〔世說〕〔尼眞一一一、「一如二水一流」〕。

【德】すきとはる。○〔後漢書〕〔胡中有一一一〕。

【德】すぐれてあきらか。○〔代紀〕〔聰明德一一一〕。

【德】すきとはる。○〔往〕〔隋光初一一一〕。

【徙】サフ、ソフ。悉合切 合

シフ。先立切 緝

一行く貌にいふ字、又、もろ〳〵の行く貌にもいふ字。

二言聲の疾き貌にも、多き貌にもいふ字。○〔楚辭〕〔紛一一嘉以流漫〕。

【徹】カン。火陷切 陷

あやふし、危。

【徑】タツ、ダチ。他逮切 曷

一のがる、逃。○〔漢〕〔一一行〕。二行きて相遇はず。

【徽】クヮイ、ケ。呼外切 泰

室宇顯敞なり、ほがらか、あきらか。

【徊】タン、テン。知山切 刪

一ほしる、走。二かくる、藏。

【徳】セン、セン。時戰切 霰

あるくもの速かなる貌にいふ字。はやし、はしる。

【徊】

還に同ト。

【徵】ケウ。吉弔切 嘯

一めぐる、繞。○〔漢〕〔掌レ一一猶草〕。

二湯饗くにざかひ。○〔史〕〔南至一一師〕。

三微妙、たへ。○〔老〕〔常有レ欲三以觀二其一一〕。

四小さき道、こみち。○〔班固〕〔一一道〕。

【徭】みさとはする兵士。○〔後漢〕〔少一一部〕。

【徭】長一一。

【行徭】めぐる。○〔史〕〔一一、郵郵傳〕。

【外徭】遠案のこと。○〔史〕〔關案東一一一〕。

【徭】關塞の關門。○〔漢〕〔一一一、不一關〕。

【徭】めぐる。○〔後漢〕〔朝會一一一〕。

【徭】いきしめぐる。○〔後漢〕〔朝會一一一〕。

【徭】

明。

【徭】たかくすぐれてあきらかなること。○〔世說〕〔女一一神秀〕。

【徭】すきとはること。○〔後漢〕〔一一一、明明〕。

【徭】きよくあきらかなること。○〔後漢〕〔我心一一一一一、西都賦〕。

【徭】我が胸の他の物はとはること。○〔後漢〕〔我心一一一一一、明明如日月、未有一一一〕。

【徭】

【徭】

【徭】

心部（本）

心 シン。息林切 医

❶こころ。
（い）五臟の一。「ふんのさい。○〔漢間〕「者者五藏之專精也」。
（ろ）意識作用の所。○〔宿〕「一者形之君也」。
（は）考へ思ひ所存志望。○〔詩〕「他人有心予忖度之」。
❷ものごころ。
（い）人情。○〔詩〕「四牡騑騑」。
（ろ）原因・根底。○〔易〕「復其見天地之心乎」。
❸中央。○〔呂氏春秋〕「以察聞」。
❹ものごころ。○〔古歌〕「日出當心」。
❺ものごころ。○〔南〕「榮不入食」。
❻二十八宿の一。「なかぼし」。○〔史〕「蒼龍」。

〔あ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔い〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔う〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔え〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔お〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔か〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔き〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔く〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔け〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔こ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔さ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔し〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔す〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔せ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔そ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔た〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔ち〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔つ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔て〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔と〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔な〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔に〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔ぬ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔ね〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔の〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔は〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔ひ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔ふ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔へ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔ほ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔ま〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔み〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔む〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔め〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔も〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔や〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔ゆ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔よ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔ら〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔り〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔る〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔れ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔ろ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔わ〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔を〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。
〔ん〕ものごころ。○〔詩〕「一一」。

[勢志]自家の都はたかき人の都はいや。○[後漢]「后性！！」[光武]「！」[後漢]「！！奉車」[敏]「！」。

[後漢]「！！」[光武]「！」。

[後漢]「！！」[奉車]「敏」。

[後漢]「！！」[奉車]「敏」。

[後漢]「！！」[奉車]「敏

問曰、聞有一一之一、何以在死、答曰、以篤信好学、守死善道故也。〔呼書志〕論語に不善の言貨を浮雲になぞらへたるよりて、不義の富貴を賤しむ高尚なるこころざしにいふ語。○〔後漢〕仲尼篇一一之一、卒則魯論為盛之氣。〔書書志〕人は風雅をするこころざし。○〔晉書〕嵇康傳、康性剛腸、人、倘使高明、識鑑、會之會、必有一一一。〔晉書志〕やくそくせるも勢力を逃しくするにいふ語。○〔後漢〕大丈夫當而失志、一一曾一一語。〔魏書安知識錄之志〕つねめ、すすめなぞの小人、鄙夫は英雄豪傑のこころざしを知らざる輩、師ち小人、鄙夫は英雄豪傑のこころざしを知らぬいふ語。○〔史〕汝少時與人博戰、爭勝、爭勝之餘、上怒、怒之日、有客曾解、利忠、謂者笑而應曰、若能博乎、何客曾者、謂汝大怒曰、一一一一一一。

忔 キツ、ク。丘弓切 東

うれふ。〔憂〕。

忘 バウ、マウ。武方切 陽

一わする。

（い）心にとめず識さず。○〔眠〕「人之有德、三子我、不可一也」。

（ろ）忽にす。○〔詩〕「不一愆不忘」。

（は）雜念なくなる、思慮なくなる。○〔莊〕「其心一一其容寂」。

二善くわすれる、病、健忘症、記憶力衰弱。○〔列〕中年病一一。

「一」。

〔書忘〕よくわすれる。○〔莊〕「予而不上、則失入一一」。

〔史忘〕雜念なくなる。○〔莊〕同一一一。

〔漢忘〕時時しわすれる。○〔詩〕心之憂矣、不可一一一一。

〔漢忘〕時てわすれる。○〔眠忘〕江湖相一一一。

〔漢忘〕怠わすれる。○〔鍾忘〕以時以幾、併忘一一一一。

〔漢忘〕すてわすれる。○〔後漢〕「鍾儀今一一一。

忙 バウ、マウ。莫郎切 陽

わする。

（い）氣付かず、脫る、おとす。○〔周〕「三有日、遺一一」。

（ろ）其の事に當りて他の事を思ふ。○〔左〕與「鄭伯」盟歃如一一」。

〔漢忘〕驚かぬかる。○〔史〕「與「鄭西鄭」之以備一一一耳。

〔書忘〕暫くもくして物事をわすれる。○〔後〕「君夫一一一不可受寵」。

〔晉忘〕前に同じ。○〔後〕「有一一一自失之患」。

忙 バウ、マウ。莫郎切 陽

いそがしいそがはし。

（い）事多し。○〔白居易〕「蕭曹到老一一」。

（ろ）急なり。○〔杜牧〕「風指百萬世、過如三霹靂一一」。

（は）心やるせなし。○〔王會〕「鬻飢日晚妾心一一」。

〔敏忙〕いそがはし。○〔後漢〕「三為鄭縣令、一一」。

〔忙々〕いそがし。○〔嵇康〕「公子也一一一」。

〔荒忙〕せはし。○〔郭璞〕「自雖谷一一一」。

忖 シヤク、サク。之若切 藥

テキ、チヤク。丁歷切 錫

おどろく。〔驚〕。

四畫

忝 テン、デン。他點切 添

一はづかしむ。〔辱〕。○〔詩〕「無一一爾所生」。

二承けたるものをはづかしむ、かたけなくす。○〔書〕「否德一一帝位」。

〔盛忝〕功勞なくして恩をうけ位をる。○〔宗忝〕「一一國恩」。

〔盛忝〕前に同じ。○〔舜典〕「一一實多」。

〔榮忝〕高き官職をさをうけ居るも。○〔杜牧〕「一一恥猶」。

忞 ビン、ミン。眉貧切 眞

一つとむ。〔勉〕。○〔淮〕「穆一一躁、閔純、德獨存」。

二心了らざる所あり、くらし。○〔揚雄〕「傳三千里之一一一者莫一如書」。

忿 フン、モン。武粉切 吻

みだる。〔亂〕。

忼 ドツ、ノチ。奴骨切 月

怒に同じ。

忱 ドツ、チン。陟弓切 東

うれふ。〔憂〕、もだゆ。〔悶〕。

忠 チウ、チユ。陟弓切 東

一すなほにして敬しみ深し、まめやかにして詐欺なし、たゞし、〔正〕、なほし、〔直〕、あつし、〔厚〕。○〔周〕「一日六德、知、仁、聖、義、一、和」。

二君に事へて誠實を盡くすこと、上に對して二心なきこと、まこと。○〔書〕「爲下克一」。

〔孤忠〕ひとりたゞして忠を盡くして他に たすけなき有り様。○〔史〕「即墨一一、「後朝」即墨相用、「一」。

〔孤忠〕忠の為にまことあるも、○〔史〕「廉直一一、「孤忠」、ものかはにしてたゞし、又、自家の忠を謂ひていふ語。○〔後〕「以小日臣四一一」。

〔孤忠〕うはべに忠義をよそほふ。○〔後〕「行孤孤忠」。

〔行忠〕かざりなく忠なる。○〔史〕「非動一一一」。

〔大忠似忠〕大忠しきわるものは正しく見ゆ。○〔史〕「一一一一一、大忠似信」。

忡 チウ、チユ。敕中切 シウ、シユ。昌中切 東

うれふ。〔憂〕。○〔詩〕「憂心一一」。

忤 ゴ、ゲ。五故切 遇

さかふ。〔逆〕。○〔後漢〕「持レ正之一一」。

〔作忤〕さかふ、又、よろこばざるもいふ語。○〔名〕人、意不一一一一絵。

〔乘性〕さかふ。

〔辺性〕前に同じ。○〔後〕「郡生一一一之患」。

〔反性〕前に同じ。○〔史〕「自家有仲建一一之行」。

〔舞性〕前に同じ。○〔詩〕「一一聲戾」。

〔狂性〕そむきさかふ。○〔後〕「無去一一一」。

〔犯性〕あかしさかふ。○〔後〕「不一一一一」。

〔違性〕さかふ。○〔後宗〕「一一一背逆」。

忽 急の本字。○〔淮〕「一一手不二已知一者不二自知一也。

忿 カイ、許介切 怪

ケ、下戒切 卦

ゆるかせ。〔忽〕。

忿 キ、ケ。許既切 未

一疑惑の貌にいふ字、おろか。

二ふつか。〔靜〕。○〔書〕「一一一」。

三いこふ、やすむ。〔息〕。

忌 キ。虛器切 寘

よろこぶ。〔喜〕。

忠 古文の志の字。

忻 ガイ、ゲ。牛戒切 卦

うれふ。〔憂〕。

忻 カイ。居太切 泰 カイ、ケ。居拜切 卦

うれへおそる。〔憂懼〕。

忻 カツ、古黠切 黠 クワイ、苦怪切 卦 ケチ。切 黠 クワイ、切 卦

うらむ。〔恨〕。

忧 イウ、ウ。尤敕切 宥

心動くむなさわぎず。

忨 バウ。數方切 陽

一いむ。〔忌〕。○そこなふ。〔害〕。

忩 シユン、ジユン。常倫切 眞

ケイ、キヤウ。渠營切 庚

うれふ。〔憂〕。

忨 クワン。五換切 翰 五丸切 寒

むさぼる。〔貪〕、たしむ。〔愛〕。○〔左〕「一一レ幾而愎日」。

忪 ショウ、シユ。職容切 冬

心動きて定まらざる貌にいふ字、おどろく、あわつ、まどふ、むなさわぎず。○〔李賀〕「銀液鎖二心一一」。

〔怔忪〕驚き懼るゝこと。○〔白子建德論〕「春時百姓一一」。

怕 ハ、ヘ。普駕切 禡

怕に同じ、おそる。

怨 忿に同じ。○〔吳〕「無事一一」。

快 クワイ、ケ。苦夬切 卦

一こゝろよし。

（い）心に稱ひ氣に適ふにいふ字。○〔漢〕「取十上案所一不一、群臣所二共知一、最甚者一人上」。

（ろ）心地さわやかなり、喜ばし、おもしろし。○〔三朝聖政錄〕「乘一一揮」。

（は）羞なし。○〔後漢〕「體有一不一」。

二急疾はやし。○〔晉〕「此馬雖一一然力薄不レ堪二苦行一」。

三縱逸、ほしいまゝ、きまゝ。○〔眠〕「恭一于教一而不一」。

〔吸詠山〕「一一一」。

〔嘉性〕いたくこゝろよし。○〔鍾嵐記〕「一一新」。

〔嘉性〕こゝろよし。○〔北〕「公私一一一」。

〔奇性〕はなはだおもしろし。○〔白樂天〕「一一一」。

〔迅性〕はやし。○〔後漢〕「去白朝暮一一一」。

〔俊性〕すぐれてこゝろよし。○〔東朝策〕「草書尤一一一」。

〔俊性〕すぐれてこゝろよし。○〔後〕「呼博鈞」。

〔清性〕きよらかにしてこゝろよし。○〔後〕「曲」。

折車堂道一一一」。

〔明性〕あきらかにさわやかなる。○〔後〕「呼一一一夜堂黑」。

〔爽性〕ひろ〳〵としてこゝろよし。○〔後〕「耳目」。

〔沈有爽性〕あろ〳〵としかせして真心もて之を行ふの意、強壯性なる、主に、女風雅意はいふ語。

○〔後〕「呉鼎錄書行草書、世稱一一一一一」。

怖 ハイ、普太切 泰 四代切 隊 ハツ、ボチ。拂伐切 月

いかる。〔怒〕。

怖 ハツ、バチ。北末切 曷

意悅ばず、よろこばず。

怍 本、預に作り、或は通ずて慚に作る。

怍 舒に同じ。

怀 ヘン、ベン。皮變切 霰

よろこぶ。〔喜〕、たのしむ。〔樂〕。○〔紫微詩話〕「寰區大一」。

怯 シ、ジ。支義切 キ。居企切 寘

遺余切 紙 シ。章移切 支

そこなふ。〔害〕一說に、もとる。〔很〕。○〔詩〕「不一一不求」。

〔怯性〕つよくもとる。○〔後〕「民俗一一一」。

〔弱性〕前に同じ。○〔史〕「安石性一一一」。

〔劣性〕かひしくしてそこなふ。○〔史〕「孟嘗君軽薄而不一一一」。

〔怠性〕そこなひやぶる心を害ふも。○〔後〕「項王一一不亡」。

〔怠性〕いかりもとる。○〔鍾嵐記〕「小人一一一」。

怖 キ、ギ。巨支切 支

一つゝしむ。〔敬〕。二いつくしむ。〔愛〕。

怩 シ、ジ。是支切 支

事を憂へず、うれへず。

怩 イ。盈之切 支

和ぎ適ふ、やなふ。

怩 シ、ジ。上紙切 紙

たのむ、恃。

怩 テイ、タイ。待禮切 霽

いつくしむ。〔愛〕。

怪 エキ、ヤク。營隻切 陌

心を用ふ、つとむ。

怯 アウ、オウ。烏浩切 豪

一一、怪は、あわつ、おそる。

怪 俗の幹の字。

忱 諶に同じ、まこと。○〔詩〕「天難一一斯」。

怯 怯に同じ。○〔張衡〕「有二憑虛公子者一、心奢體一一」。

怪 ホウ、フ。北項切 腫

一一、惜は、もとる。

忱 シン。七鴆切 沁

いたむ。〔惻〕。

一くゆ。〔悔〕。

忳 トン、ドン。徒孫切 元
もだゆ〔問〕、みだる〔亂〕、うれふ〔憂〕。〔屈平〕「一鬱邑余侘傺兮」。

忳 シュン。朱倫切 眞 本〔譚〕に作る
人を誨へて倦まざるこゝろ。

忳 トン、ドン。徒困切 願
樂しまずうれふ。〔老〕「我愚人之心也哉——兮」。

忳 トン、杜本切 阮 都困切 願
おろか〔愚〕。

忾 ケン、ゲン。渠淹切 鹽
心急なり。

忾 キン、ゴン。渠今切 侵
——怵は、健了なる貌にいふ語、よくさとる。

念 デン、奴店切 豔 俗に念に作るは非なり。
❶おもふ、おもひ。
（い）心の物事に結著して忘れざるにいふ字。常に思ふ。〔書〕「惟聖罔念作狂惟狂克念作聖」。
（ろ）物事に應じて心のはたらきを起こすにいふ字。〔雲笈七籤〕「者」「制——以定志」。
❷僧ふ誦す。〔杜牧〕「口——心禱而求」。
❸廿の字に用ふ。俗音の同トきより來たるといふ。〔程篤敬〕「一日」。
❹極めて短き時間、刹那を二十分したるものといふ。〔佛家の言〕。〔仁王經〕「一——中有二九十刹那」。

（坐也）おもひおもふ上も、又、時々刹々。〔後漢書〕

（祠念）祭りおもふ。〔書〕「汝永——以相從」。
（貧念）つゝしみおもふ。〔書〕「——于民」。
（敬念）前に同じ。〔書〕「——以牧」。
（祿念）前に同じ。よかく思ふ。〔左〕「常懷居——」。
（圖念）前に同じ、又、即かなるおもひ。〔後漢書〕「行——起」。
（憂念）うれひ。〔綱宗元〕「常——」。
（常念）つねなるおもひ。〔綱宗元〕「常——」。
（情念）前に同じ。〔枚乘〕「——發狂惑」。
（歌念）かんがへおもふ。〔後漢〕「——前世」。
（願念）前に同じ。〔後漢〕「——所思」。
（懷念）前に同じ。〔後漢〕「——幼子」。
（思念）前に同じ。〔後漢〕「——」。
（憶念）こゝろざしおもふ。〔王昭君〕「——抑抑」。
（憂念）うれひおもふ。〔陶潛〕「——」。
（怨念）怨みおもふ。〔陶潛〕「——」。
（怒念）怒りおもふ。〔陶潛〕「——」。
（懷念）いろ〳〵なる多くの思ひ。〔陶潛〕「——」。
（竹念）たけをみ思ふ。〔陶潛〕「——」。
（征念）旅のおもひ。〔陶潛〕「——」。
（福念）親切なるおもひ。〔陶潛〕「——」。
（疑念）おもひどころ。〔王侍郎〕「——」。
（疑念）おもひどころ。〔綱光之〕「——」。
（疑念）疑ひ之付。
（疑念）疑ひ之付。
（疑念）疑ひ之付

おそる。おそれ。

忘 キフ。居立切 圓

❶ 失測なり。〔周〕「而一有」。〔禮〕「一」。

❷ 輕輕。

❸ 小なり。〔周〕「一」。

❹ 忘れる。

（イ）近づく。〔史〕「北一」。

（ロ）捨てる。〔史〕「一」。

（ハ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ニ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ホ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ヘ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ト）忘れる。〔禮〕「一」。

（チ）忘れる。〔禮〕「一」。

（リ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ヌ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ル）忘れる。〔禮〕「一」。

（ヲ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ワ）忘れる。〔禮〕「一」。

（カ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ヨ）忘れる。〔禮〕「一」。

（タ）忘れる。〔禮〕「一」。

（レ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ソ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ツ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ネ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ナ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ラ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ム）忘れる。〔禮〕「一」。

（ウ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ヰ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ノ）忘れる。〔禮〕「一」。

（オ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ク）忘れる。〔禮〕「一」。

（ヤ）忘れる。〔禮〕「一」。

（マ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ケ）忘れる。〔禮〕「一」。

（フ）忘れる。〔禮〕「一」。

（コ）忘れる。〔禮〕「一」。

（エ）忘れる。〔禮〕「一」。

（テ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ア）忘れる。〔禮〕「一」。

（サ）忘れる。〔禮〕「一」。

（キ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ユ）忘れる。〔禮〕「一」。

（メ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ミ）忘れる。〔禮〕「一」。

（シ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ヱ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ヒ）忘れる。〔禮〕「一」。

（モ）忘れる。〔禮〕「一」。

（セ）忘れる。〔禮〕「一」。

（ス）忘れる。〔禮〕「一」。

（ン）忘れる。〔禮〕「一」。

性 キイ。シヤカ。息正切 圓

❶ 天より賦物に付感じたる天賦の性質。〔中庸〕「天命謂之一」。

❷ 生質本來なるもの。〔孟〕「告子之一」。

❸ 心靈の本體（性質）才能なる。〔周〕「人一者也」。

❹ 情慾才能なる。〔孟〕「所以動心忍性」。

❺ 不本。〔北〕「利一」。

❻ 「不」。〔孟〕「一」。

❼ 「天」。〔孟〕「一」。

❽ 「天」。〔孟〕「一」。

❾ 「天」。〔孟〕「一」。

❿ 「天」。〔孟〕「一」。

⓫ 「天」。〔孟〕「一」。

⓬ 「天」。〔孟〕「一」。

⓭ 「天」。〔孟〕「一」。

⓮ 「天」。〔孟〕「一」。

⓯ 「天」。〔孟〕「一」。

⓰ 「天」。〔孟〕「一」。

⓱ 「天」。〔孟〕「一」。

⓲ 「天」。〔孟〕「一」。

⓳ 「天」。〔孟〕「一」。

⓴ 「天」。〔孟〕「一」。

㉑ 「天」。〔孟〕「一」。

㉒ 「天」。〔孟〕「一」。

㉓ 「天」。〔孟〕「一」。

㉔ 「天」。〔孟〕「一」。

㉕ 「天」。〔孟〕「一」。

㉖ 「天」。〔孟〕「一」。

㉗ 「天」。〔孟〕「一」。

㉘ 「天」。〔孟〕「一」。

㉙ 「天」。〔孟〕「一」。

㉚ 「天」。〔孟〕「一」。

㉛ 「天」。〔孟〕「一」。

㉜ 「天」。〔孟〕「一」。

㉝ 「天」。〔孟〕「一」。

㉞ 「天」。〔孟〕「一」。

㉟ 「天」。〔孟〕「一」。

㊱ 「天」。〔孟〕「一」。

㊲ 「天」。〔孟〕「一」。

㊳ 「天」。〔孟〕「一」。

㊴ 「天」。〔孟〕「一」。

㊵ 「天」。〔孟〕「一」。

㊶ 「天」。〔孟〕「一」。

㊷ 「天」。〔孟〕「一」。

㊸ 「天」。〔孟〕「一」。

㊹ 「天」。〔孟〕「一」。

㊺ 「天」。〔孟〕「一」。

㊻ 「天」。〔孟〕「一」。

㊼ 「天」。〔孟〕「一」。

㊽ 「天」。〔孟〕「一」。

㊾ 「天」。〔孟〕「一」。

㊿ 「天」。〔孟〕「一」。

性 キイ。シヤカ。新俊切 圓

おそる。「性」。

怨 エン。ヲン。於願切 圓

❶ うらむ。

（イ）恨む。〔周〕「日一」。

（ロ）恨む。〔周〕「一」。

❷ 怨む。〔禮〕「一」。

❸ 怨む。〔禮〕「一」。

❹ 怨む。〔禮〕「一」。

❺ 怨む。〔禮〕「一」。

❻ 怨む。〔禮〕「一」。

❼ 怨む。〔禮〕「一」。

❽ 怨む。〔禮〕「一」。

❾ 怨む。〔禮〕「一」。

❿ 怨む。〔禮〕「一」。

⓫ 怨む。〔禮〕「一」。

⓬ 怨む。〔禮〕「一」。

⓭ 怨む。〔禮〕「一」。

⓮ 怨む。〔禮〕「一」。

⓯ 怨む。〔禮〕「一」。

⓰ 怨む。〔禮〕「一」。

⓱ 怨む。〔禮〕「一」。

⓲ 怨む。〔禮〕「一」。

⓳ 怨む。〔禮〕「一」。

⓴ 怨む。〔禮〕「一」。

㉑ 怨む。〔禮〕「一」。

㉒ 怨む。〔禮〕「一」。

㉓ 怨む。〔禮〕「一」。

㉔ 怨む。〔禮〕「一」。

㉕ 怨む。〔禮〕「一」。

㉖ 怨む。〔禮〕「一」。

㉗ 怨む。〔禮〕「一」。

㉘ 怨む。〔禮〕「一」。

㉙ 怨む。〔禮〕「一」。

㉚ 怨む。〔禮〕「一」。

㉛ 怨む。〔禮〕「一」。

㉜ 怨む。〔禮〕「一」。

㉝ 怨む。〔禮〕「一」。

㉞ 怨む。〔禮〕「一」。

㉟ 怨む。〔禮〕「一」。

㊱ 怨む。〔禮〕「一」。

㊲ 怨む。〔禮〕「一」。

㊳ 怨む。〔禮〕「一」。

㊴ 怨む。〔禮〕「一」。

㊵ 怨む。〔禮〕「一」。

㊶ 怨む。〔禮〕「一」。

㊷ 怨む。〔禮〕「一」。

㊸ 怨む。〔禮〕「一」。

㊹ 怨む。〔禮〕「一」。

㊺ 怨む。〔禮〕「一」。

㊻ 怨む。〔禮〕「一」。

㊼ 怨む。〔禮〕「一」。

㊽ 怨む。〔禮〕「一」。

㊾ 怨む。〔禮〕「一」。

㊿ 怨む。〔禮〕「一」。

怨 意に同じ。〔宛〕「宛有二天下而無一」。

怨 ト。切怖懼 圓 タイ。切仲代 圓

常なる失ふ。

怩 ヂ。ニ。年支切 支 デイ。

年期切 圓 ニヂ。尼質切 圓

はづ。はづかしがる。〔圓〕「一」。

而已。

〔怪〕 クヮイ。古壞切 圓

❶ あやし。

（イ）不可思議なり。奇なり。異れり。〔禮〕「一」。

（ロ）疑はしい。〔周〕「一」。

（ハ）疑はしい。〔後漢〕「一」。

（ニ）疑はしい。〔後漢〕「一」。

❷ 妖物。

❸ あやしむ。〔後漢〕「一」。

怪 意に同じ。〔宛〕「宛有二天下而無一」。

怪 ト。切怖懼 圓 タイ。切仲代 圓

常なる失ふ。

怪 ヂ。ニ。年支切 支 デイ。

年期切 圓 ニヂ。尼質切 圓

はづ。はづかしがる。〔圓〕「一」。

而已。

〔怪〕 クヮイ。古壞切 圓

❶ あやし。

（イ）不可思議なり。奇なり。異れり。〔禮〕「一」。

（ロ）疑はしい。〔周〕「一」。

（ハ）疑はしい。〔後漢〕「一」。

（ニ）疑はしい。〔後漢〕「一」。

❷ 妖物。

❸ あやしむ。〔後漢〕「一」。

怪 意に同じ。〔宛〕「宛有二天下而無一」。

怪 ト。切怖懼 圓 タイ。切仲代 圓

常なる失ふ。

怪 ヂ。ニ。年支切 支 デイ。

年期切 圓 ニヂ。尼質切 圓

はづ。はづかしがる。〔圓〕「一」。

而已。

〔怪〕 クヮイ。古壞切 圓

❶ あやし。

（イ）不可思議なり。奇なり。異れり。〔禮〕「一」。

（ロ）疑はしい。〔周〕「一」。

（ハ）疑はしい。〔後漢〕「一」。

（ニ）疑はしい。〔後漢〕「一」。

❷ 妖物。

❸ あやしむ。〔後漢〕「一」。

怪 意に同じ。〔宛〕「宛有二天下而無一」。

怪 ト。切怖懼 圓 タイ。切仲代 圓

常なる失ふ。

怪 ヂ。ニ。年支切 支 デイ。

年期切 圓 ニヂ。尼質切 圓

はづ。はづかしがる。〔圓〕「一」。

而已。

〔怪〕 クヮイ。古壞切 圓

❶ あやし。

（イ）不可思議なり。奇なり。異れり。〔禮〕「一」。

（ロ）疑はしい。〔周〕「一」。

（ハ）疑はしい。〔後漢〕「一」。

（ニ）疑はしい。〔後漢〕「一」。

❷ 妖物。

❸ あやしむ。〔後漢〕「一」。

怪 意に同じ。〔宛〕「宛有二天下而無一」。

怪 ト。切怖懼 圓 タイ。切仲代 圓

常なる失ふ。

怪 ヂ。ニ。年支切 支 デイ。

年期切 圓 ニヂ。尼質切 圓

はづ。はづかしがる。〔圓〕「一」。

而已。

〔怪〕 クヮイ。古壞切 圓

❶ あやし。

（イ）不可思議なり。奇なり。異れり。〔禮〕「一」。

（ロ）疑はしい。〔周〕「一」。

（ハ）疑はしい。〔後漢〕「一」。

（ニ）疑はしい。〔後漢〕「一」。

❷ 妖物。

❸ あやしむ。〔後漢〕「一」。

怪 意に同じ。〔宛〕「宛有二天下而無一」。

怪 ト。切怖懼 圓 タイ。切仲代 圓

常なる失ふ。

怪 ヂ。ニ。年支切 支 デイ。

年期切 圓 ニヂ。尼質切 圓

はづ。はづかしがる。〔圓〕「一」。

而已。

〔怪〕 クヮイ。古壞切 圓

❶ あやし。

（イ）不可思議なり。奇なり。異れり。〔禮〕「一」。

（ロ）疑はしい。〔周〕「一」。

（ハ）疑はしい。〔後漢〕「一」。

（ニ）疑はしい。〔後漢〕「一」。

❷ 妖物。

❸ あやしむ。〔後漢〕「一」。

怪 意に同じ。〔宛〕「宛有二天下而無一」。

怪 ト。切怖懼 圓 タイ。切仲代 圓

常なる失ふ。

怪 ヂ。ニ。年支切 支 デイ。

年期切 圓 ニヂ。尼質切 圓

はづ。はづかしがる。〔圓〕「一」。

而已。

〔怪〕 クヮイ。古壞切 圓

❶ あやし。

（イ）不可思議なり。奇なり。異れり。〔禮〕「一」。

（ロ）疑はしい。〔周〕「一」。

（ハ）疑はしい。〔後漢〕「一」。

（ニ）疑はしい。〔後漢〕「一」。

❷ 妖物。

❸ あやしむ。〔後漢〕「一」。

怵 シウ、シュ。徐田切 尤
おもんぱかる。〔慮〕。

怔 セイ、シナウ。諸盈切 庚
おそる。〔懼〕。あわつ。〔遑〕。○〔晉〕「惶怖」—營無二地自厝一。

怕 ハ、ヘ。普駕切 禡
おそる。〔懼〕。○〔韓愈〕「鬼神」—二嘲詠一。
〔後漢〕前に同ト。○〔後漢〕「常—人者也」

おそる。〔怖〕。

急 キフ。居立切 緝

一 疾速なり。はやし、さし、はげし、あらし。○〔南〕「西南風」、或有二覆舟者一。

二 緩みなし、苛し、きびし。○〔漢〕「君嚴—則臣恐懼」。

三 褊小なり、せまし。○〔南〕「器逢大度、謙・祖之德、猜・忌禍—」魏武之「畧」。

四 せまる。

（い）近づく。○〔史〕「其射見敵—、非レ在二數十步之內一、度不レ中不レ發、々即應レ弦而倒」。

（ろ）窮まる。○〔漢〕「貧者窮—、愁」。

（は）縮む。○〔齊民要術〕「桃性皮—」。

（に）病篤の間なくなる。○〔史〕「樊噲在二外營一聞レ事—、「匿持レ眉入」、「立二帳下一」。

五 せく。

（い）あせる、いらつ、いそぐ。○〔漢〕「漢王—推二隨二子一」。

（ろ）促す、いそがす。○〔史〕「一日趣亟相御史一定功行封」。

六 困難・危險・災厄・事變。○〔左〕「使二下臣告急一」。

七 第一に行ふべきこと、先要。○〔中論〕「禮也者人之—也」。

八 休暇、やすみ。○〔晉令〕「—暇者一月五—」。

（は）心せまし。○〔後漢〕「以—、不能絕游」。

（ま）わせられる。○〔史〕「有—、非有罪也」。

（み）心せはしくきびしきこと。○〔時令〕「孟冬—、無不—王政教」。

（む）せまる、又、せくこと。○〔新語〕「懷—」。

（め）有心有所「創」。

（も）心をまし、いらく。○〔史〕「軍中—、無」。

（や）いそがしく、せまること。○〔史〕「厭水—」。

（ゆ）緩急。○〔高士傳〕「尊先德有—、不」。

（よ）急人間。

（り）きびし。○〔漢〕「國之疆半用刑—」。

（る）時に同上。○〔漢〕「使法—」。

（れ）困難。○〔史〕「博聞—」。

（ろ）氣性せまし。○〔漢〕「長俗—」。

（わ）急。

（を）あわてやすし。○〔後漢〕「時以—、各「以狀聞」。

（か）せまる。○〔後漢〕「歌—、必應」。

（よ）急。

（た）強くはゆし。○〔史〕「以文性—」、「務」功「夜」。

（れ）前に同上。○〔史〕「樂性—」。

（そ）急。

（つ）あやまってせまりたること。○〔漢〕「此讓—」。

（ね）急。

（な）前に同上。○〔史〕「存亡之秋也、性質急速、急—」。

（ら）急。

（む）性質急速なること。○〔史〕「天性—」。

（う）急。

（ゐ）きびしきこと。○〔史〕「法政—」。

（の）急。

（お）水勢はゆし。○〔元〕「幕殺白水交食、勢—」。

（く）急。

（や）前に同上。○〔後漢〕「帝—」。

（け）急。

（ふ）急。

（こ）急。

（え）急。

（て）急。

（あ）急。

（さ）急。

（き）急。

（ゆ）急。

（め）急。

（み）急。

（し）急。

（ゑ）急。

（ひ）急。

（も）急。

（せ）急。

（す）急。

（ん）急。

性 セイ、シヤウ。息正切 敬

一 天より萬物に付與したるもの、天賦自然。○〔中〕「天命謂二之一、從レ謂二之道一」。

二 生質・本來・さが・たち・もちまへ・なりたち。○〔孟〕「此豈水之—哉」。

三 心神の本體、〔情慾・才能などに對しての稱〕。○〔孟〕「人—善也、猶二水之就下一也」。

四 情慾・才能など、即ち心神の作用。○〔孟〕「所三以動心忍レ—、曾益其所レ不レ能」。

五 心神、こころ。○〔北〕「利・慾誘二其—」。

六 體軀、姿容、からだ、すがた。○〔淮〕「不レ待二耶・粉・芳澤一而—可レ說者」。

七 壽命、いのち。○〔左〕「莫レ保二其—一」。

八 萬有の原因〔佛家の言〕。○〔大藏法數〕「—以不變爲レ義、上極二諸佛、下至二蠕・飛・蠢・動一、莫二不レ本一乎—」。

九 生知安行すると、學問勉强の力によらずして天道に合する知行あること。○〔孟〕「堯・舜—レ之也」。

（い）本性のまゝ、性質。○〔漢〕「父子之道—」。

（ろ）本性。

（は）本性のまゝ、性質。○〔漢〕「—保」。

（に）本性。

（ほ）本性。

（へ）本性。

（と）本性。

（ち）本性。

（り）本性。

（ぬ）本性。

（る）本性。

（を）本性。

（わ）本性。

（か）本性。

（よ）本性。

（た）本性。

（れ）本性。

（そ）本性。

（つ）本性。

（ね）本性。

（な）本性。

（ら）本性。

（む）本性。

（う）本性。

（ゐ）本性。

（の）本性。

（お）本性。

（く）本性。

（や）本性。

（け）本性。

（ふ）本性。

（こ）本性。

（え）本性。

（て）本性。

（あ）本性。

（さ）本性。

（き）本性。

（ゆ）本性。

（め）本性。

（み）本性。

（し）本性。

（ゑ）本性。

（ひ）本性。

（も）本性。

（せ）本性。

（す）本性。

（ん）本性。

怨 エン、ヲン。於願切 願

（い）うらむ。○〔書〕「—、懟」。

（ろ）悲しむ、怨ふ。○〔呂氏春秋〕「必二於民一」。

（は）うらみ、怨み。○〔書〕「結二於民一」。

（に）うらみをたくはへて、又、たくはへたるうらみ。○〔書〕「—、懟」。

（ほ）うらみを買ひ求むる人にうらまるゝ仕方なる。○〔書〕「所謂—、而實招怨者也」。

（へ）前に同上。○〔書〕「以怨—」。

（と）怨みをはらす、又、あだをする心をやく。○〔書〕「常以物仇—」。

（ち）前に同上。○〔後漢〕「公及賢人皆予郭—」。

（り）つもりかさなりたるうらみ、又うらみをつむ。○〔書〕「怨有—」。

（ぬ）復れうらむ。○〔史〕「報力—」。

（る）うらむ、又、あだ、うらみ。○〔史〕「怨生平所—」。

（を）いたみうらむ。○〔史〕「西怨—」。

（わ）うれひうらむ。○〔後漢〕「怨—」。

（か）いきどほる。○〔後漢〕「皆側目—」。

（よ）それみうらむ。○〔史〕「多所—」。

（た）前に同上。○〔史〕「—、怨多」。

（れ）そしりうらむ。○〔史〕「以故多怨—」。

（そ）前に同上。○〔後漢〕「帝仲以公面無人—」。

（つ）前に同上。○〔中論〕「無作詩—」。

（ね）うらむ。○〔韓詩〕「則不可以情面—」。

（な）いかりうらむ。○〔後漢〕「大家—」。

（ら）前に同上。○〔古史考〕「來錫相—」。

（む）なげきうらむ。○〔後漢〕「心常—」。

（う）嫌ひうらむ。○〔後漢〕「女のうらみ、藤のかたち。○〔前天盤后〕「高宗代—、之宗旨」。

（ゐ）〔紅色〕「浮世のなやみをかこつる勝情のうらみ。○〔紅色〕「春閨第上題」—、等上題詩」。

（の）怨。

（お）一に秋風恨ともいふ、秋ぶ鳴しき男に見捨てられたるうらみ、國の孤客の女人、孤獨評が寵を失ひたるなかこちて想歌作を作り、國風の見ればひるれ秋に捨てられるゝ女己の身を比して述べたるに出づ。○〔南・弘正・宮・集〕—、—、。

（く）前に同上。○〔後漢〕「高・陶・話」—、—、。

（や）前に同上。○〔後漢〕「歌・詩」—、」。

（け）前に同上。○〔史〕「怨・恨」—、」。

（ふ）前に同上。○〔後漢〕「高・陶・話」—、—、。

（こ）前に同上。○〔史〕「怨・恨」—、」。

（え）前に同上。○〔王德〕「羅・奇」—、不可」。

（て）前に同上。○〔史〕「怨・恨」—、」。

（あ）ひかりのよしなし。○〔雜著〕「夜々風雷起」。

（さ）ひかりのよしなし。○〔不・詩〕「—、—、」。

（き）怨。

（ゆ）怨。

（め）怨。

（み）怨。

（し）怨。

（ゑ）怨。

（ひ）怨。

（も）怨。

（せ）怨。

（す）怨。

（ん）怨。

性 セイ、シヤウ。新佞切 徑

（い）うらむ。

（ろ）悲しむ、憐む。○〔論〕「曰—乎」。

（は）あだ、うらみ、〔仇〕。○〔書〕「結二於民一」。

（に）うらみをたくはへて、又、たくはへたるうらみ。○〔書〕「—、懟」。

（ほ）怨ふ。○〔書〕「—、懟」。

（へ）前に同上。○〔後漢〕「—、」。

（と）怨。

（ち）怨。

（り）怨。

（ぬ）怨。

（る）怨。

（を）怨。

（わ）怨。

（か）怨。

（よ）怨。

（た）怨。

（れ）怨。

（そ）怨。

（つ）怨。

（ね）怨。

（な）怨。

（ら）怨。

（む）怨。

（う）怨。

（ゐ）怨。

（の）怨。

（お）怨。

（く）怨。

（や）怨。

（け）怨。

（ふ）怨。

（こ）怨。

（え）怨。

（て）怨。

（あ）怨。

（さ）怨。

（き）怨。

（ゆ）怨。

（め）怨。

（み）怨。

（し）怨。

（ゑ）怨。

（ひ）怨。

（も）怨。

（せ）怨。

（す）怨。

（ん）怨。

性 セイ、シヤウ。新佞切 徑

（い）生れつき。○〔孟〕「—、—、—、

悅 キヤウ、カウ。許方切 陽
狂ふ貌にいふ字、自失する貌にいふ字、くるふ、きぬけす、ほる。○〔楚辭〕「隨レ風—兮清歌」。
〔補悅〕おろかにして物くるはし。○〔説〕「顛倒—」。

悅 クワウ。虎晃切 養
恍に通ト用ふ。○〔老〕「道之爲レ物惟—惟忽」。
〔補悅〕親めてひろきこと。○〔孫綽〕「懷字—」。

悅 ケイ、キヤウ。呼請切 梗
くるふ、狂。

戉 ケツ、クワチ。許月切 月
㊀難なる貌にいふ字、おろか。
㊁怒る貌にいふ字、いかる。

怵 ヂユツ、ヂユチ。敕律切 質
㊀おそる、恐。○〔書〕「—惕惟厲」。
㊁いたむ、かなしむ、傷、憐。○〔禮〕「心—而拳レ之以レ禮」。
〔補注〕恐る、貌にいふ語。○枚乘「—〻—〻」。
〔補遺〕いたみかなしむ。○〔東方朔〕「心—〻—而奉」。
〔補遺〕おどろき恐る。○〔歐陽修〕「樂—兔—」。

怵 シユツ、シユチ。辛律切 質
鼠に通ト用ふ、利をもて誘ふ、いざなふ。○〔賈誼〕「—〻迫之從或趨二四東一」。

怵 キツ、キチ。休必切 質
怵に同ト、くるふ。

彼 ヒ。數羈切 支
㊀いかる、怒。㊁うれふ、憂。

彼 ヒ。彼義切 寘
—愉は、れちく。

恋 チユツ、ヂユチ。直律切 質
こまかなるつち、〔密・土〕。○〔管〕「中・土曰五・—」。

愕 ヲイ、エ。烏快切 卦
あし、惡。

六書

怪 シ。尺氏切 紙
たのむ、〔恬恃〕。

恒 カウ。寒剛切 陽
よろこぶ、〔悅〕。

怨 ロン。魯本切 阮 ラン。魯晉切 軫
睡—は、おこなひに廉隅なきこと、おこなひ正しからざること。

恁 ジン、ニン。如甚切 寢 如焰切 沁
㊀心の靡る所卑下なり、ひくし、いやし。
㊁思念す、こころにかく、おもふ。○〔班固〕「勤—旅力」。
㊂此の如く、かく、此の如きは、こは。○〔王守仁〕「個只—的便罷」。

恁 ジン、ニン。如林切 侵
㊀おもふ、思。㊁よわし、弱。
㊂まこと、〔信〕。

恆 シユン、ジユン。相倫切 眞
前に同ト。

恂 シユン、ジユン。相倫切 眞
㊀まこと、〔信〕。○〔書〕「迪知忱—」。
㊁温恭の貌にも、又信實なる貌にもいふ字、まめやかうやく、し。○〔論〕「孔子於二鄉黨一—〻如也」。
㊂謹嚴なる貌にいふ字、おごそか。○〔大〕「惡兮個分者—慄也」。
㊃おそる、おのゝく、懼。○〔莊〕「慓・慄—慄」。
㊄たのしむ、樂。○〔詩〕「—〻訏且樂」。

恂 シユン、ジユン。輸閏切 寘
にはか、あわつ、遽。○〔莊〕「—然棄而走」。

恃 シ、時止切 紙 時吏切 寘
依る、たのむ、たのみ、又、母の稱。○〔詩〕「無レ母何—」。
〔恬恃〕たのむ、たのみ、又、父と母と。○〔註〕「無父何—」。
〔矜恃〕たのみとする所あるまではてるる。○〔晉〕「矜宜哉、各自—〻不相離棄」。
〔憑恃〕たのむ。○〔後〕「—〻—恩擁」。
〔倚恃〕前に同じ。○〔孟子〕「—〻—主人仁」。
〔依恃〕前に同じ。○〔後漢書〕「何—〻以育養」。
〔負恃〕前に同じ。○〔後漢書〕「母、寡而—〻」。

恃 ヂ。丈里切 紙
心明かならずくらし。

恬 キツ、キチ。許吉切 質
おそる、怖。

怯 キツ、コチ。許聿切 質
くるふ、狂。○〔公羊〕「曷爲以三二・日一卒レ之—也」。

怯 ケツ、ケチ。翻劣切 屑

怯 ウウ、ロウ。虞晧切 皓
憚—は、心亂るゝみだる。

恆 コウ、ゴウ。胡登切 蒸
㊀易の卦名䷟巽下震上。○〔易〕「—亨无レ咎」。
㊁つね、常。○〔易〕「—其德・貞」。
〔常恆〕日月たるすゝ必あり。○〔後〕「政貴—」。
〔不恆〕「永之卦」。
〔ろうとみならず〕。○〔後〕「—其德、或」。
〔如恆〕やはらぎて常なること。○〔後〕「巽・命天命、—〻四方」。
〔常恆〕常なくしてかはらざるもの。○〔晉書〕「以德之柄、其如—〻」。

恆 コウ、ゴウ。古鄧切 徑
㊀ゆみはりづき、弦・月。○〔詩〕「如二月之一」。
㊁あまねし、徧。○〔詩〕「—之秬・秠」。

恇 キヤウ、去王切 陽 カウ。切 丘往切 養
おそる、おづ、怯・恐。○〔梁鴻〕「唫—兮誰留」。

悖 ボウ、ム。莫浮切 尤
むさぼる、貪、たしむ、愛。○〔荀〕「—〻然利唯之見」。

悖 カウ、コウ。古巷切 絳
うらむ、恨。

悖 シ。畛視切 紙 脂利切 寘
こゝろ、こゝろばせ、意。

恍 シウ、シユ。昌中切 東

心動くゝうごく、又、むなさわぎ。

悄 俗の悄の字。

協 愜に同ト。

悇 サツ、セチ。初鎋切 黠
人を謫す、せむ。

恋 俗の戀の字。

恠 タク、ダク。徒落切 藥
㊀はかる、おもふ、〔付〕。㊁くはだつ、〔企〕。

恠 タク、ヂヤク。直格切 陌
なほし、惡、たゞし、〔正〕。

恠 タ。抽加切 麻
未だ定まらずきまらず。

悐 ビ、ミ。綿批切 支
心惑ふ、まどふ、又、まよふ、〔迷〕。

悐 ビ、ミ。毋婢切 紙
やすし、安。

悅 テウ。吐彫切 蕭
うすし、〔薄〕。○〔詩〕「視レ民不レ—」。

悅 エウ。餘昭切 蕭
うれふ、憂。

悊 恐に同ト。

悊 セン。思廉切 鹽
貪欲し、ことばおほし、くちがましく、ちさがし、疾利口。

悉 レツ、レチ。良擊切 屑
うれふ、憂。

例 前に同ト。

例 レイ。力制切 霽
おどろく、驚。

恍 クワウ。虎晃切 養
㊀ひろくして名狀し難し、有無たしかならず。○〔老〕「惚兮—兮」。
㊁自失す、きぬけす、ほける、ほる。○〔莊〕「神心惚—」。

恍 クワウ。姑黃切 陽
たけし、〔武〕。

悄 イク、オク。乙六切 屋
心動く、うごく、又、むれさわぐ、むなさわぎ。

悎 テツ、デチ。徒結切 屑
シツ、シチ。職日切 質
㊀あしきさが、〔惡性〕。㊁もとる、〔很〕。

悎 シ、ジ。充至切 寘
㊀前條の㊀に同ト。
㊁慳遽す、あわつ、おそる。

怒 カウ、コウ。許皓切 皓
むさぼる、〔慾〕。

恐 キヨウ、ク。丘勇切 腫
㊀おそる、おそれ。
〔い〕驚きて勇氣失す、こは氣立つ、おゞ。○〔左〕「魯人—乎對曰、小人—矣、君子則否」。
〔ろ〕心安んぜず、危む。○〔左〕「何恃而不レ—」。
〔は〕いたく憤む。○〔禮〕「孝子祭之日、顏色必溫、行必—、如レ懼レ不レ及、愛然」。
㊀おそれしむ、おそれを懷かしむ、おびやかす、おどす。○〔史〕「脅二—季・相二以子夫人殺一待・婢一事上」。
〔振恐〕ふるひおつ、わなゝきおそる。○〔史〕「華陰色變—」。
〔迫恐〕せまりおそす、おびやかす。○〔後〕「多聞・無・師、孤立—」。
〔大恐〕いたく、おそる。○〔呂氏春秋〕「大喜—」。
〔懼恐〕おそる。○〔史〕「宗室衆興、皆人人—」。
〔慄恐〕前に同じ。○〔史〕「孟—」。
〔怖恐〕大いにおそる、大いにおどす。○〔史〕「百官震—」。
〔驚恐〕おびやかしおどす。○〔史〕「使人—」。
〔驚恐〕うれひおそる。○〔後〕「心—」。
〔恐恐〕おどろきおそる、おどろかしおどす。○〔後〕「—者—」。
〔長恐〕おそれおそる。○〔左〕「膚・中皆—」。

恐 キヨウ、ク。區用切 宋
想像するに、おもふに、おもんばかるに、疑ふらくは、おそらくは。○〔史〕「秦城—不レ可得」。

恥 エイ。余制切 霽 テイ。丑制切 霽
㊀ならふ、〔習〕。㊁あきらか、〔明〕。

恪 キ。古黠切 紙
㊀かはる、〔變〕。㊁あやしむ、〔異〕。
㊂くゆ、〔悔〕。

恪 ギ。虞爲切 支
獨立の貌にいふ字、ひとりたつ。

恒 俗の恆の字。

恤 セイ、サイ。先齊切 齊
煩らひ憂める貌にいふ字。○〔韋應物〕「—惶我・旅下」。
㊁栖に通ト用ふ、すむ。

恤 ケウ。古了切 篠
あきらか、〔慧〕。

恢 カウ、吉巧切 巧 ケウ。切 下巧切 巧
さとし、慧、又、小才あり、こざかし、又、わるがしこし、〔黠〕。

恢 カウ、胡孝切 效 ケウ。切 下交切 肴
こゝろよし、〔快〕。○〔左〕「於二人・心一獨無一乎」。

恕 ジヨ、ショ。商豫切 御
㊀己れを推して他に及ぼす、仁を施し行ふ、あはれむ、おもひやる、あはれみ、おもひやり。○〔論〕「其—乎、己所レ不レ欲勿施二於人一」。
㊁寬假す、ゆるす、ゆるし。○〔歐陽修〕「原情以一特出二深仁一」。
〔補恕〕おもひやる、ゆるす。○〔後〕「人有不及、可以—〻」。
〔不恕〕私なくしていつくしみあり。○〔後〕「聊直—」。
〔有恕〕心の中におもひやりを存す。○〔後〕「—〻孔孟」。
〔明恕〕心あるものにして人の身の上をおもひやる。○〔左〕「—〻而行、要之以德」。
〔忠恕〕人に對して己れの眞さうを盡くすを己れの心を推して人に及ぼすを。○〔後〕「—〻違道不遠」。
〔寬恕〕ゆるやかにしておもひやりあること、又、ゆるすこと。○〔後漢〕「以—待人」。○〔後〕「以—〻」。

〔厚語〕非を責めゆるす。○〔後漢〕「自責怨咎、不責人」。〔宗語〕ゆるす。○〔後漢〕「相」。〔仁語〕あはれむ、ゆるす。○〔後漢〕「宣明而」。〔公語〕私なくして仁なること。○〔史〕「以仁義」。〔孟語〕つばらにして無邪なく、見おもひやりの心なり。○〔史〕「嚴酷」。〔孟語〕「多所矜恤」。〔孟語〕あはれみ。○〔宋〕「」。〔孟語〕いさぎよくしておもひやりの心あること。○〔史〕「比恤」。〔孟語〕「」。〔孟語〕非、有大食、「例」。〔孟語〕人の身をおもひやりて、自己の身をのみおもひやりて、自己の身をのみおもひやりて、自己の身をのみ

〔百恩〕くさ〳〵のうらみ。○〔後元卷〕[illegible]。
〔愛恩〕うれ〳〵うらむ。○〔沈約〕[illegible]。
〔羞恩〕恥をうらむ。○〔王筠〕[illegible]。
〔離恩〕旅路に出でゝあしく旅に離るさるうらみ。○〔無篤〕[illegible]。
〔羅恩〕さびしきうらみ。○〔王勃〕[illegible]。
〔芳恩〕うらみを忍びて表にあらはさず。○〔蘇頌〕[illegible]。
〔離恩〕相利かゝるうらみ。○〔李白〕[illegible]。
〔旺恩〕大いなるうらみ。○〔張九齢〕[illegible]。
〔苦恩〕くるしみうらむ。○〔蘇軾〕[illegible]。
〔栄恩〕[illegible]。○〔蘇軾〕[illegible]。
〔寓恩〕無實の汚名にかゝれるうらみ。○〔杜甫〕[illegible]。
〔嘯恩〕怒りうらむ。○〔李華〕[illegible]。
〔義恩〕[illegible]。○〔蘇軾〕[illegible]。
〔寸恩〕あづかばかりなるうらみ。○〔機嘉〕[illegible]。
〔恢恩〕いたみうらむ。○〔鮑令〕[illegible]。
〔仇恩〕うらみ。○〔鮑令〕[illegible]。
〔雅恩〕のとるうらみ。○〔孟郊〕[illegible]。
〔宣恩〕[illegible]。○〔孟郊〕[illegible]。
〔暗恩〕人知れぬうらみ。○〔白居易〕[illegible]。
〔鍵恩〕うらみのたけを書にものし封じて送るにいと[illegible]。○〔杜牧〕[illegible]。
〔情恩〕をしくおもひうらむ。○〔李商隱〕[illegible]。
〔鮮恩〕いたくうらむ。○〔李白〕[illegible]。
〔恨恩〕はうらむ。○〔宋庄周〕[illegible]。
〔刺骨恩〕骨にもとめるうらみ。[illegible]。○〔後漢〕[illegible]。

恩 オン。烏痕切 元

❶めぐむ（惠）、いつくしむ（愛）。○〔詩〕「[illegible]レ斯勤レ斯」。
❷惠德仁愛。いつくしみ、めぐみ、あはれみ。○〔史〕「[illegible]レ之」。
〔恩恩〕[illegible]。
〔恩恩〕[illegible]。
〔恩恩〕[illegible]

〔猶悪〕まこと。○〔論語〕「一—一」〔善者〕。〔孟子〕「一—一」〔善者〕。○〔論語〕「一—一」〔善者〕。○〔孟子〕「一—一」〔善者〕。○〔孟子〕「一—一」〔善者〕。○〔孟子〕「一—一」〔善者〕。

怨 ヨウ、ユ。余鵰切 〔鍾〕

㊀いかる、いきどほる、〔怒〕〔憎〕。㊁心喜ぶ。㊂器に盛り滿つ、もろ、みつ。

悁 エン。於絲切 〔先〕 ―俗に悄に作る。

㊀いかる、いかり〔怒〕。○〔史〕〔秦〕〔紂〕。―之節。㊁うれふ、うれひ〔憂〕。○〔詩〕〔中心〕―。〔悲悁〕いかり。○〔論〕〔怒〕―。〔怨悁之日久矣〕。〔類悁〕あづるひ―れふ、うれひ。○〔後漢〕〔可以解―〕。〔感悁〕うれふ―ふさぐ。○〔賞〕〔すゑ〕。〔悲悁〕おすぼれ―ふさぐ。○〔賞〕〔すゑ〕。

悁 ケン。吉緣切 〔先〕

いらだつ、いそぐ〔躁急〕。

悁 ヒ。匹賓切 〔支〕

あやまり、あやまち〔錯謬〕。○〔左思〕「兼二重一以雕一謬」。

悁 ヘイ、ベイ。逸迷切 〔霽〕

意併ふ、あふ。

悁 ヘイ、ベイ。普米切 〔薺〕

つゝしむ〔慎〕。

悁 コン、ゴン。苦本切 〔阮〕

純一なる志、まごころ、まこと。○〔後漢〕「一—慎無一華」。〔慎々〕ねんごろなる說にいふ字。○〔論〕〔言〕〔事〕―〔敬々〕〔以思乎〕。

悁 ケン。居縣切 〔霰〕

㊀おそる、おづ〔怖〕。○〔列〕「一—然無一忙」。〔以應一〕。

悁 ヨウ、ユ。余鵰切 〔鍾〕

㊀いかる、いきどほる〔怒〕〔憎〕。㊁心喜ぶ。㊂器に盛り滿つ、もろ、みつ。

悁 エン。於絲切 〔先〕 ―俗に悄に作る。

㊀いかる、いかり〔怒〕。○〔史〕〔秦〕〔紂〕。―之節。㊁うれふ、うれひ〔憂〕。○〔詩〕〔中心〕―。〔悲悁〕いかり。○〔論〕〔怒〕―。〔怨悁之日久矣〕。〔類悁〕あづるひ―れふ、うれひ。○〔後漢〕〔可以解―〕。〔感悁〕おすぼれ―ふさぐ。○〔賞〕〔すゑ〕。

悁 セウ。親小切 〔篠〕

うれふ〔憂〕。○〔詩〕〔憂心〕―。

悁 セウ。七肖切 〔嘯〕

はげし、きびし〔急〕。

悅 エツ、エチ。戈雪切 〔屑〕

よろこぶ、よろこび。

〔い〕樂しく思ふ、たのしむ、たのしみ。○〔詩〕「我心則一」。

〔ろ〕心服す、まだがふ。○〔韓愈〕「平一居里巷相慕一」。

〔ぬ〕〔論語〕「一—一」。〔孟子〕「一—一」。〔孟子〕「一—一」。〔孟子

人性―…し【孟子盡心】。
【壯悍】さかんにして勇ましし。○【國】綽以山中人、尚多―…。
【戇悍】すぐれてつよし。○【呉】―…樂毅【青兒】。
【猛悍】つよし。○【呉】【周紀】―…勝敗不實。
【強悍】前に同じ。○【綱鑑】【胡廣紀】―…。
【番悍】あらし、はやし。○【後漢】【馬援】―…
【番悍】【蘇秦】【呉】【古人之小心】【周】【卷】【宮室】【家】。
【勁悍】たけくつよし。○【後】【紹】―…有武力、以―任俠聞。
【剛悍】前に同じ。○【左】【思】―…生北方。
【豪悍】みさりてあらし。○【後】【摩恒】【傳】―…。
【驍悍】つよくあらし。○【宏】【魏人】―…。
【雄悍】前に同じ。○【宏】【思】【料】【北】【城】【勇】、【剛】―…【狼】【戾】。
【勇悍】ねたみ心あるひとはやし。○【南】【唐】【近】【思】【北】【李】【張】【氏】―…【九】【愈】。
【驍悍】あらくたけし。○【程】【治】【聲】【志】【其人】【物】―…【風】【俗】【惡】【怪】。
【強悍】かたくなにしてあらし。○【宏】【令】【叢】【思】【人】【性】―…【不】【畏】【命】【法】。
【粗悍】あらく―し。○【東】【京】【所】【見】【五】【代】【之】【文】―…【塗】【有】【五】【事】【紹】【之】【弊】。
【鋭悍】あらつきて猛し。○【王】【安】【石】【論】【人】―…
【強悍】たけくつよし。○【段】【克】【己】【東】【山】【猛】【獸】【去】「―…」。
【悍】カン、ガン。下罕切 旱
急なり、はやし。○【淮】【水】【激】【則】―…。

恒 ヒウ、フ。敷救切 尤
❶小しく怒る、いかる。❷ほしいまゝ、恣。

恒 トウ、ダ。大透切 宥
❶うがいふ(候)。❷たぶらかす、誑。

恒 ヒ、フ。芳否切 紙
小しく怒る、いかる。

悋 カウ、ゴウ。下老切 皓

悋 カウ、ケウ。居效切 效
❶おそる(懼)。❷心動く、うごく、むなさわぎ。

悋 コク。切枯沃 沃 カク。乾岳切 覺
おどろく(驚)。

悋 アイ。烏代切 隊
おそる(怖)。

慈 ケフ。苦叶切 葉
優に同じ、むせぶ。○【徐鍇】【向】【風】而行則氣―…吃也。

恢 テキ、チヤク。他歴切 錫
慈に同じ。
思ふ貌にいふ字、おもふ。

慈 テキ、チヤク。他歴切 錫
惕に同じ、うれふ、おそる。○【楚辭】【悼二來者之―…】。

恣 シ。職吏切 置
わがする、恣。

悒 イフ、オフ。於汲切 緝
心安からず、うれふ。○【楚辭】【武】【發】【殺】【レ】【殷】【何】【所】【レ】―。
【慈】【悒】【憂】【て】【心】【安】【からず】。○【後】【漢】【不】【寢】。
【憂】【悒】前に同じ。○【詩】【風】【日】―…。
【悄】いかりうれふ。○【劉】【向】【說】【苑】―…。
【鬱】―…【而】【鬱】【鬱】。心結ぼれて安からず。○【司】【馬】【遷】【悲】【以】【鬱】―…【而】【鬱】【鬱】【鬱】。
【怨】心をいたばり憂ふ。○【徐】【陵】【書】【與】【以】「―…」。
【怏】心鬱しなげく。○【杜】【甫】【馬】【嵬】【詩】―…。

怪 ケイ、ギヤウ。胡頂切 迥 下梗切 梗
もとる、(很)。

悅 ケン。輕甸切 銑
たとへ、たぶふ、(譬喩)。

悔 クワイ、ゲ。荒内切 隊 呼鄙切 賄
❶往事を追ひ恨む前非をさとり改む。くゆくやむ。○【齊】【吾今】―無レ及。❷くいくやみ。
【いくゆるとくやむと。○【陸】【機】】
【竭】レ情而多レ―。
【ろ】失敗、過失、まくり、あやまち、とがめ。○【詩】【庶】無【罪】―…以【逆】
【于今】。
【後】【悔】【事】を後しをはりたるあとにてくやむ。○【後】【悔】【求】【今】【論】【後】【悔】。
【吞】【悔】とがめるあたむ、又、くい。○【後】【宜】【痛】【自】
【後】【悔】―…。くいくやむ。○【後】【武】【帝】【今】【自】【此】【悔】【心】
【思】【悔】あとよりくいくやむ。○【史】【記】―…【前】【過】。
【思】【悔】あやまち。○【宋】【書】【思】【所】【以】【免】【其】―…。
【悔】【悔】苦しみくゆ。○【周】【語】【庶】【北】―…。
【悔】【悔】うらみくやむ、又、くやみ。○【後】【漢】【馮】【衍】【傳】【之】【所】
【悔】【悔】とがめ、又、くやむ。○【後】【漢】【馮】【衍】―…。
【悔】【悔】いたみくやむ。○【後】【漢】【皮】【聞】【者】【自】―…。
【悔】【悔】心づきくやむ。○【後】【漢】【馮】【魚】【公】【之】―…。
【悔】【悔】うらみくやむ、くやみ。○【白】【居】【易】【雪】【時】【贈】【人】【詩】―…。
【悔】【悔】あやまち。○【史】【今】【一】【思】―…。
【悔】【悔】あやまち、びくやむ。○【後】【漢】【馬】【一】【英】【傳】―…
【悔】【悔】心を動かしくやむ。○【後】【漢】【馬】【援】【傳】―…。
【悔】【悔】のこりのくやみ。○【後】【漢】【朱】【儁】【傳】【儁】【歎】【曰】―…。
【悔】【悔】【鄙】【くやむ】。○【後】【漢】【自】【入】【鄙】【校】―…。
【悔】【悔】心をいたむ。○【後】【漢】【馮】【魚】【公】【之】―…。
【悔】【悔】前に同じ。○【左】【思】【北】―…。
【悔】【悔】【義】【之】【所】【在】【身】【死】【無】【悔】―…。
【悔】【悔】【讓】【珠】【書】―…。
【悔】【悔】【讓】【珠】【書】―…。
【悔】【悔】【讓】【珠】【書

〔説文〕ものの形容えたり。○〔易〕「以社——」。〔説文〕「——」。〔説文〕「——之」。〔説文〕「——」。〔説文〕「——」。〔説文〕「——

〔哀愍〕かなしみいたむ。○〔本書〕「哀憐」。〔哀哭〕前に同じ。○〔後漢〕「民衆——」。〔哀悲〕前に同じ。○〔後漢〕「——」。〔哀慕〕前に同じ。○〔後漢文帝〕「想慕——之誠」。〔哀痛〕天子のなげきいたまるゝにいふ語。○〔史〕「哀哭——」。〔哀哀〕前に同じ。○〔王僧〕「——手上」。〔哀怨〕かなしみいたむ。○〔蘇約〕「未百——」。〔哀惜〕おしをきいたむ。○〔徐陵〕「——之情」。〔哀悼〕以傷悼。〔哀傷〕あはれむ。○〔元稹〕「天子——哀傷」。

愆 キン、巨鳩切 尤 其九切 有 ク。

仇とす、うらむ、〔怨〕。

恇 ガイ、ゲ。牛懈切 卦

うらむ、〔恨〕。

悃 怙に同じ。たのむ。○〔揚雄〕「——無三長之守」。

悛 リョウ。閭承切 蒸

一あはれむ、〔憐〕。○〔揚雄〕「趙魏燕代間謂レ哀曰レ——」。二おどろく、〔驚〕。○〔張衡〕「百禽——遠」。

〔情悛〕おそれ驚くこと。○〔荀〕「——後其不——」。〔悲悛〕前に同じ。○〔後漢〕「——而寒下」。

悽 セイ、サイ。七西切 齊

いたむ、〔痛〕、かなしむ、〔悲〕。○〔後漢〕「曹操過二其墓一——悽致二祭奠一」。

〔悽愴〕かなしみ感じいふ。○〔揚子〕「人之善——有二時一、心則酸——然」。

〔悽然〕いたむ、かなしむ。○〔顔延年〕「——歌力命」。

悽 セイ、サイ。七計切 霽

うらむ、〔恨〕。

悾 コウ、ク。苦紅切 東

一まこと、〔誠〕。○〔任昉〕「實有二急、誠」。二無知なる貌にいふ字。おろか、くらし。○〔論〕「——而不信」。

悾 コウ、ク。苦貫切 換 切 諫

志を得ざる貌にいふ字。

悌 テン、デン。他珍切 銑

よわし、〔弱〕。

悌 テン、デン。他典切 銑

心惑ふ、まどふ。

悌 タイ、デ。他內切 隊

一ほしいまゝ、〔肆〕。○〔揚雄〕「肆レ欲曰レ——」。二わする、〔忘〕。

悚 タイ、ダイ。待戴切 隊

トツ、ドチ。他骨切 月

ゆるし、〔緩〕。

悁 ロン。盧昆切 元 リン。

龍春切 眞 縱尹切 軫

知らんと欲する貌にいふ字。

悁 ロン。魯本切 阮

おもふ、〔思〕。

悁 ロン。盧困切 願

もだゆ、〔悶〕。

悊 セキ、シャク。先擊切 錫

一うれふ、〔憂〕。二うやまふ、つゝしむ、〔敬〕。

悒 カン、コン。苦感切 感

憂困す、うれふくるしむ。

悃 コン。古渾切 元 古本切 阮

みだる、〔亂〕。

惑 ケン、ゲン。胡田切 先

きびし、いそがし、〔急〕。

怒 デキ、ニャク。奴歷切 錫

ダヨク、ドク。奴沃切 沃

おもふ、〔思〕、うれふ、〔憂〕。○〔詩〕「——如二調飢一」。

情 セイ、ジャウ。慈盈切 庚

一感下て起こる心のうごき。儒家にては、性の用と說き、善惡邪正を一視していふ。佛家にては、之を昏動妄念と稱し、種々の罪業は此れより起こるものとなせり。○〔禮〕「何謂二人一——喜、怒、哀、懼、愛、惡、欲七者弗レ學而能」。二心に感ずる所、こゝろもち、こゝろ。○〔楚辭〕「——賞之不信兮」。三欲望。○〔禮〕「無二辭而行一レ則民爭」。四まこと。

〔い〕誠心、まこゝろ。○〔荀〕「——貌之」。〔ろ〕實事。○〔孟〕「擊二間過」——君子恥レ之」。

「物之——也」。五條理、ことわり。○〔孟〕「物之不レ齊」。六おもむき。

〔い〕狀態、ありさま。○〔戰〕「蘇秦〕四周之——于東周」。〔ろ〕趣味、あぢはひ。○〔歷代名畫記〕「似二畫外有レ——」。

〔性情〕こゝろ。○〔荀〕「——自有」。〔六情〕喜、怒、哀、樂、愛、惡、欲の六つの情。○〔荀〕「——」。〔七情〕喜、怒、哀、樂、愛、惡、欲の七つの情。○〔孟〕「——不生」。

〔情然〕こゝろなし、又、まことなし。○〔禮〕「——」。

〔交情〕まじはりのこゝろ。○〔禮〕「——死一生知」。

〔同情〕おなじこゝろ。○〔禮〕「——同志」。

〔官情〕役人たるこゝろ。○〔韓愈〕「知如此——」。

〔綽情〕ゆ。○〔後漢〕「玉夫人——歌頌」。

〔心情〕前に同じ。○〔李史〕「寒山臥雲——」。

〔中情〕心のうち、まこと。○〔後漢〕「前——之原」。

〔歌情〕はるめきたる心、即ち、男女の間の感情。○〔子夜歌〕「風雨——」。

〔行情〕まこゝろ。○〔曹植〕「乃陷——之原」。

〔本情〕まこゝやかなる。○〔陳神記〕「——歸」。

〔實情〕たゞたゞゝ。○〔張方先〕「——在忘」。

〔發情〕前に同じ。○〔樂府〕「城者——昌歌」。

〔思情〕天子のこゝろ。○〔孔德紹〕「——」。

〔恩情〕なさけ。○〔晉少帝〕「長夜沒——」。

〔情情〕よるさとのさま。○〔樂府〕「五更牧宇——」。

〔風情〕おもむき。○〔白居易〕「二條長恨——」。

〔風情〕もとのこゝろ。○〔唐書〕「——」。

〔雲情〕前に同じ。○〔韓詩〕「——」。

〔雲情〕前に同じ。○〔韓詩〕「——」。

〔思情〕こゝろをなぐ。○〔後漢〕「——」。

〔情情〕こゝろ。○〔後漢〕「——」。

〔思情〕まこゝろ。○〔後漢〕「——」。

〔私情〕私欲。○〔後漢〕「——」。

〔隱情〕こゝろ。○〔史〕「——」。

〔鄙情〕前に同じ。○〔樂詩記事〕「——歌」。

〔況情〕こゝろをなぐさむ。○〔後〕「——味」。

〔往情〕こゝろのゆくまゝに。○〔北〕「——笑噫」。

〔興情〕こゝろをよろこばす。○〔謝田賦〕「——以」。

〔才情〕才能のこと。○〔世說〕「——過人所聞」。

〔勝情〕山水の景色を說しむこゝろ。○〔世說〕「——非二俗人一」。

〔詩情〕前に同じ。

〔陳情〕「——」。

〔逆情〕「——」。

〔怪情〕「——」。

〔性情〕「——」。

〔情〕「——」。

〔情〕「——」。

〔

❶置ク。ウタル。
❷トコヘ。首因ヲ詳ガ。いつはり。

悚 トウ。ダ。都鄙切 圓
おそる。(慮)

悈 ケイ。ケツ。切乙六 圓 キヨク。切鞠 圓
心ヲ痛ミ。いたむ。

悈 キヨク。ニキ。鞠鞠切 圓
心憂ヒ。なやむ。

惑 ヨク。(ヲク) 戸國切 圓
❶心亂ル。疑フ。迷フ。まどふ。まどひ。
○(論)「武乃不ー」。
❷まどはし。たぶらかす。まどはす。
○(圓)「惑ヲ同ー」。
(左傳) まどはさるること。○(孟)「ー一ーーー」。
(左傳) 惑ヒ。○(孟)「ー一ーー」。
(論語) 惑ヒ。○(孟)「ー一ーー」。
(論語) 惑ヒ。○(孟)「ー一ーー」。
(論語

（ろ）郎し。○〔宋〕事多郎—。
（は）醜し。○〔史〕「沛蕭滅明狀、銳甚—」。「王使者—」。
（に）粗し。○〔史〕「以—食—食二項」。
（ほ）凶し。○〔論衡〕「南北常—」。
（へ）硯からず。○〔陸雲〕「頃觀之正使二人意—」。
（と）種かならず。○〔唐〕「時秋、淳清、瀾漫—」。
（ち）頁好ならず。○〔左〕「堞丘城—衆」。
（り）すべて物事の宜しからず好ましからざるにいふ字。○〔漢〕「餓—民流」。
㊃あしき行爲、敗德の事業、犯罪。○〔左〕「諒—國之—禮也」。
五あしきおこなひある人、わる者。○〔唐〕「誅—其首—」。
六缺乏きず。○〔周〕「敝蓋而無—」。
七疾病災難、害害。○〔周〕「凡瘠—獸、瘍—灌而劉之以發—其—」。
八垢穢あか、よごれ。○〔管〕「水淖弱—以清而好醜二人之—」。
九くせ、癖。○〔吳越春秋〕「越王勾踐爲—吳人王」管—」。
〔小惡〕ちひさき不善。○〔易〕「以—」。
〔非惡〕わるしゝ、わるもの。○〔易〕「防—」。
〔惡惡〕前に同じ。○〔孝經〕「不—於人」。
〔惡惡〕わる者のかしら。○〔禮〕「勢—」。
〔惡惡〕前に同じ。○〔禮〕「而非其—」。
〔惡惡〕前に同じ。○〔禮〕「而非其—」。
〔惡惡〕前に同じ。○〔禮〕「而非其

惰 ダ。古賀切 圏
性質に怠惰（ものぐさ）。

惰 ヰ。于眞切 困
❶心安らかず、うれふ。
❷疲れやすければ、

惺 テフ。テフ。徒協切 圏
思ひ懼る。怠ふ。おそる。○後漢「宮房一一息」。

惺 テフ。切正 圏
おそれる。

慄 ケン。切正 圏
慎む。

慄 ケフ。嗜涉切 圏
慎む。

慧 キツ。キチ。叔列切 圏
安らかさる。

慨 ケン。切正 圏
清慨切 圏 ケカン。口減切 圏
一一嘆は、意安らかず、うれふ。

慌 クワ。クワ。切光 圏 ヲカ。切所方 圏
おそれる。○後漢「百姓一一」。

慢 ヤ。徒結切 圏
怠ける。

慢 ヤ。徒結切 圏
ものうい。

慢 ヤ。徒結切 圏
ものうい。

慢 ヤ。徒結切 圏
ものうい

行一。
（は）主旨・理由。○論語「學而」「人不知而不慍」。
（ば）知・知覚。
（ば）情・感・感動。○「孟子」「盡心」「君子之於物也愛之而不仁」。
❶ 意・心。○「孟子」「告子」「生亦我所欲也義亦我所欲也」。
❷ おもう。
（い）思う。○「孟子」「萬章」「文王其無罪而出妻屈子其無罪而放逐」。
（う）疑う。○「荀子」「天論」「君子之於天也樂其成而已矣不求其知也」。
（え）疑う。○「論語」「子罕」「吾有知乎哉無知也」。
（お）考える。○「論語」「學而」「吾日三省吾身」。
（か）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（き）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（く）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（け）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（こ）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（さ）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（し）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（す）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（せ）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（そ）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（た）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（ち）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（つ）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（て）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（と）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（な）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（に）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（ぬ）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（ね）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（の）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（は）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（ば）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（ま）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（み）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（む）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（め）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（も）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（や）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（ゆ）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（よ）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（ら）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（り）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（る）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（れ）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（ろ）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（わ）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（を）思う。○「論語」「爲政」「子曰吾十有五而志于學」。
（ん

悖 ト゛ド゛ 徒沃切 匣
おろか。愚。

悁 ケン゛メン゛ 鵑兗切 圓
つぶやく。怨。又おもふ。思。○顯表「永川群[illegible]一」。

悉 カ゛ク゛ 何加切 匣
悉一は盡るを能くすること。

悃 チョク゛ 切直囧 切諫用 匣
おもむく。懇。

悃 鶴に通ず用ふ。

悃 カ゛キャク゛ 虎伯切 匣
心意くづれさわぐ。おろかく。

悚 チカ゛ ケニ゛ 特中切 匣
うれふ。憂。

悼 タフ゛トフ゛ 鑠養切 匣
おそる。怨。

悉 俗の沔の字。

悶 カケイ゛ 切去例 匣 カカチ゛ 切丘勝 匣
悶・悩・懊・懣・懇・懇・懇に作るは誤。

いふ。すむ。憂。○詩「左可ふ」。

悶 カイ゛ 切若鑠 匣 切可奚 匣
❶もだえる。憂。○左「況遠用」。
❷いきどほる。怨。○公羊「不及時而日一葬也」。

悔 カタ゛カチ゛ 薛蟹切 匣
相悉性。おそる。

悉 イカ゛ニ゛ 於筆切 匣
うれふ。憂。

惕 ダカ゛ 切徒刺 匣 切大濱 匣
ほしいまゝ。怠。○荀「一惕懦怠」。

惕 シキカ゛ 尸亦切 匣
直く慎き貌にふる。はやし。○禮「行容一一」。

惕 ヤカ゛ 余亦切 匣
たはぶる。もてあそぶ。○孟「嬉遊一游也」。

惜 イ゛ 相逝切 匣
❶安らかに和きたる貌にふる。○「左」「新知之一一」。
❷深くして靜かなる貌にふる。○「柳」「玉華宴夜一一」。
〔李惟〕ふるこゝろなさま。○〔禮記〕「君子以貴一一」。

惜 アン゛オン゛ 烏合切 匣
貪る。貪せずして。○〔唐〕「朕不能一一虎口」。

愕 ガク゛ 切五各 匣 ゲ゛ 切五故 匣
❶驚嘆する。おどろく。○〔戰〕「詩」「切切一一」。
❷區別して。○〔戰〕「詩」「詩」「書」「禮」「樂」「春秋」「一一」。

愛 アイ゛ 烏代切 匣
❶いつくしむ。愛。
（いつくしむ）〔史〕「開」「美務」「大」「召」「匱」「而」「下」「幸」「一」。
（うつくしむ）〔愛〕「君有」「區」「之」「語」「不」「特」「一」「手」「其」「民」。
（はぐくむ）〔愛〕「曹」「若」「飛」「鳥」「依」「人」「自」「加」「鷹」「一」。
（にくしむ）〔親〕「〔論〕「況」「一」「衆」「而」「親」「之」。
（ほどこす）〔愛〕「〔麗子〕「十」「人」「之」「則」「十」「人」「之」「寡」「也」「百」「人」「之」「百」「人」「之」「寡」「也」。「之」。
❷このむ。好。○〔別賦記〕「衆」「仙」「海」「一」。
❸をしむ。惜。
（いとほしむ）「人」「其」「以」「子」「爲」「一」。○〔論〕「一」「而」「不」「見」。
（うしなふ）「宜」「之」「不」。○〔管〕「實」「相」「非」「常」「必」「有」「二」「大」「讀」「宜」「三」「條」「一」。
（ものをしむ）〔愛〕「人」「之」「一」「非」「一」「不」「能」「一」。
（おもひ）〔愛〕「之」「一」「之」「一」「之」「一」

〔説文〕 [illegible]。○(同)「[illegible]」。

〔説文〕 [illegible]。○(同)「[illegible]」。

〔説文〕 [illegible]。○(同)「[illegible]」。

愫 タイ。他蓋切 泰
恐るゝ貌にいふ字。

愰 クワウ。戶廣切 漾
おごる〔奢〕。

愰 カイ、ガイ。胡蓋切 泰
㊀心明かなるゝ、あきらか。㊁一懷は、心の定まらざるにいふ語。

愜 カイ、ガイ。胡蓋切 泰
こゝろよし〔快〕。

恢 嫉に同じ。

恢 サウ、セウ。楚絞切 巧
心迫る、せまし。

愚 イン、オン。於靳切 吻
㊀つゝしむ〔謹〕。㊁いたむ〔痛〕。

愼 コツ、クチ。古忽切 月
心亂る、みだる。○〔漢〕〔心結一兮傷レ肝〕。

愛 サウ、ソウ。蘇遭切 豪
うれふ〔憂〕。

怒 デキ、他歷切 ヂヤク、切 ギヤク、切 錫
いましむ、たゞす〔敕〕。

愴 ジヤウ、初亮切 漾 ジヤウ、切 陽
悲傷す、いたむ、かなしむ、いたみ、かなしみ。○〔禮〕〔霜露既降、君子履レ之、必有二悽一之心、非二其寒之謂一也〕。

愴 シヤウ、サウ。楚兩切 養
一一怳は、意を失ふ貌にいふ語、心まどひ。

慄 リウ、ル。力求切 尤
懼に同じ、うらむ〔怨〕。

慷 怒に同じ、うれふ。○〔元結〕「久一兮慷々」。

慵 ケフ、コフ。虛業切 葉
威力をもて迫りおそれしむ、おどす、おびやかす。

慥 クワク。忽郭切 藥
恐懼の貌にいふ字、おそる。

愷 カイ。苦亥切 賄
㊀やすし〔康〕又、たのしむ〔樂〕。○〔孝〕「一一悌君子」。
㊁軍中にて勝利ありたる時にかなづる樂の名。○〔周〕「一一樂獻二于社一」。
㊂南方より吹く風、みなみかぜ。○〔楚辭〕「順二一一風一以從遊」。
〔天性〕周の時代に鼓琴に用ひし一種の音樂。○〔後漢〕「天子一一」。
〔和性〕やはらかたのしむ。○〔王筠〕「自合一一」。

愁 俗の整の字。

悅 テイ、タイ。他計切 霽
心安し、やすし。

愧 ヒ、ビ。匹賣切 支
愚しき性、あし。

愧 サウ、ソウ。蘇遭切 豪
慟傷に同じ。

悼 サウ、ソウ。采老切 皓
悼の字の條を見よ。

慈 遜に通じ用ふ、したがふ。○〔古本尚書〕〔五品不レ一〕。

愼 シン。時刃切 震
㊀つゝしむ又、つゝしみ。
〔中〕「莫見乎隱二莫顯二乎微一、故君子一一其獨」。
〔子〕重んず。○〔荀〕〔爲二人上一者必將レ一一禮義一〕。
〔注〕誠にす。○〔詩〕「一一爾言一也」。
㊁おもふ〔思〕。○〔爾疏〕「凡思之貌皆曰レ一」。
㊂まこと、まことに〔誠〕。○〔詩〕「予一一無レ罪」。

〔愧性〕〔愧性〕〔愧性〕

慇 イン、オン。於巾切 圓

〔慇懃〕前に同じ。○懇切に、ねんごろに。○〔詩〕「憂心——」。

㊀いたむ（痛）。○〔詩〕「憂心——」。

㊁—勤は、ねんごろ、まごゝろ。○〔十六國春秋〕「每思二其—勤之言」。

慇 カウ、ゴウ。居号切 號

憾怨に通ト用ふ。

慈 シ、ジ。疾之切 支

㊀恩愛す、和げ服はす、いつくしむ。○〔禮〕「—以二甘旨」。

㊁いつくしむと、柔和、やはらか、善良、よし、仁愛、なさけ、いつくしみ。○〔漢〕「溫—惠和」。

㊂磁を吸引する性ある石の名、俗に磁に作るは非なり。○〔精薀〕「山產二鐵於其陽一者—石產二其陰一」。

㊃養り生ト子母相依る竹の名、なんなだけ、めだけ。○〔竹譜〕「竹之叢生子母相依曰二—竹一」。

〔天慈〕天子の仁愛のこと。○〔柳宗元〕「醒當賞者———」。

〔慈悲〕前に同じ。○〔孟子〕「———樂二天下一」。

〔慈愛〕前に同じ。○〔孝商聽〕「賞者———」。

〔慈惠〕前に同じ。○〔歌陽修〕「曲———」。

〔慈孝〕父母に孝く事えること。○〔韓愈〕「——微微單生—且—」。

〔慈母〕いつくしむ母。○〔禮〕「而—二—二—」。

〔慈母〕よかきあはれみ。○〔陸〕「弧———子不殺」。

〔慈善〕佛をいつくしみ。○〔歌陽修〕「別矣佳之——」。

慉 キク、コク。許竹切 屋

㊀やしなふ、養、一說に、おこる、驕。○〔詩〕「不二我能—一反以二我貨一」。

㊁あつむ（聚）つむ（積）。○〔馬融〕「疏—越積—」。

慉 チク、トク。敕六切 屋

うらむ（恨）。○〔馬融〕「疏二越溢—」。

慼 ケフ 詰叶切 葉

かなふ（協）。○〔揚雄〕「陰氣—而念之」。

慼 エイ、アイ。於計切 霽

かくす（隱）又はづ（慙）。○〔揚雄〕「冥—駁習」辭中自—」。

慊 ケン。古銜切 豏

㊀意に滿たすあきたらす、又、うらむ（恨）。○〔左邑〕「吾何—乎哉」。

㊁滿足す、たる、あきたる、又、こゝろよし（快）。○〔大〕「此之謂二自—」。

㊂誠意、まこゝろ、まこと。○〔白居易〕「重陳二丹—」。

〔慊慊〕まこゝろ。○〔陶潛〕「頃之錄—」。

〔慊然〕こゝろに滿足せざること、又、憂ふる說にいふ語。○〔除機〕「—」恒苦寒」。

慊 ケフ。詰叶切 葉

こゝろよし（快）。○〔莊〕「盡去而後—」。

慊 ケン。賢遍切 霰

嫌に同じ、きらひ、うたがひ。○〔漢〕「嫌得二離—之便」。

慊 レン。離彌切 齊

とばり（帷）。

態 タイ、ダイ。他代切 隊

すがた、かたち、さま。

（い）容色、貌姿なり、ふり。○〔白居易〕「妍蚩黑白失二本—」、妝成盡是含二悲嘶一」。

（ろ）動作仕わざ。○〔越絕書〕「飲之以酒以製二其—」。

（は）形勢、形狀、ありさま、おもむき、やうす。○〔名畫記〕「千—萬—」。

〔姿態〕さまはりのさま。○〔史〕「貴一賤乃知二——」。

〔妖態〕こびるすがた。○〔後漢〕「容色美而善爲——」。

〔媚態〕前に同じ。○〔後漢〕「花叢——」。

〔態態〕おかしのさま。○〔後漢〕「花叢——」。

〔鮮態〕ゆツたりしたるさま。○〔楚辭〕「靜心——」。

〔態態〕すぐれたるありさま。○〔孟〕「——」。

〔秋態〕前に同じ。○〔傳說〕「——輩出」。

〔態態〕まことなるなさま。○〔詩〕「良多——」。

〔態態〕いろ〳〵にゝつりかはるさま。○〔論語〕「良多——」。

〔異態〕「——不一」。

〔容態〕なみ、なはつれたるさま、又、形をちがへる。○〔陸〕「原中——」。

〔容態〕かはかたち。○〔蘇軾〕「——現姿」。

〔巧態〕ときすがた。○〔白〕「驚鼠——」。

〔常態〕つねなるみのさま。○〔後漢〕「舞無——」。

〔奇態〕めづらしきかたち。○〔左傳〕「俺抑有——」。

〔媚態〕前に同じ。○〔史〕「其——若此」。

〔情態〕こゝろざし。○〔孟子〕「——詩馬」。

〔雲態〕前に同じ。○〔孔平仲〕「——何樂々」。

〔嘉態〕よこしなるさま。○〔新語〕「公愛其——」。

〔姿態〕前に同じ。○〔孟〕「——歌我謠」。

〔鐵態〕前に同じ。○〔李白〕「——鐵意天上上」。

〔容態〕「——歌」。すがた。○〔陸〕「——歌我謠」。

〔鐵態〕前に同じ。○〔李白〕「——鐵意天上上」。

〔容態〕風雅ならぬさま。○〔韓愈〕「別矣佳之——」。

〔形態〕かたち。○〔歷代名畫記〕「——」。

〔態態〕前に同じ。○〔歐陽修〕「曲———」。

〔態態〕いろ〳〵のさま。○〔歐陽修〕「千——」。

〔態態〕いさましきさま。○〔史記書〕「有二——」。

〔態態〕たゝなるすがた。○〔傳說〕「——」。

〔態態〕のりあるさま。○〔後漢〕「——」。

〔態態〕まひをなすすがた。○〔後漢〕「王——」。

〔態態〕うつくしきすがた。○〔後漢文帝〕「——」。

〔態態〕孤生。○〔宋之問〕「何——」。

〔態態〕うつくしくなまめかるる。○〔宋之問〕「何——」。

〔態態〕なまめかるるさま。○〔宋〕「——」。

〔態態〕前に同じ。○〔楊雄〕「——」。

〔態態〕前に同じ。○〔楊雄〕「——」。

〔態態〕酒に耽ひたるさま。○〔歐陽〕「——」。

〔態態〕酒に耽ひたるさま。○〔歐陽〕「——」。

〔態態〕まことのかたち。○〔蘇軾〕「金風——」。

〔態態〕——。○〔蘇軾〕「金風——」。

〔態態〕——。○〔孝經〕「——」。

〔態態〕——。○〔孝經〕「——」。

〔家態〕いろけあるさま。○〔白居易〕「——」。

〔風態〕——。○〔白居易〕「——」。

〔風態〕——。○〔白居易〕「——」。

〔風態〕うつくしきさまをつくす。○〔白牧〕「——」。

〔容態〕——。○〔白居易〕「——」。

〔容態〕うつくしけるさま。○〔白居易〕「——」。

〔容態〕——。○〔白居易〕「——」。

〔容態〕——。○〔孝山〕「——」。

〔容態〕——。○〔孝山〕「——」。

〔容態〕——。○〔孝山

【慚】愁に同ト。

【慣】クワン・シヤク。測革切 圓

❶慣習の堅きこと。❷ものなれること。

【慣】サイ・セ。昨同切 圓

うれふる意。いたむ。

【慜】ビン・ミン。眉殞切 匿

さとること。

【慝】トク・ドク。他雜切 圓

❶わるい。〔書〕「姦慝」。〔管〕「之死矢人惟一」。❷ふしまつ。〔論〕「之死矢人惟一」。❸隱れたる惡事。〔國〕「語不善一」。❹けがれ。〔禮〕「毛血血腥」。❺惡一而無所逃。❻邪惡わるはひ。〔國〕「背聲女慝」。❼只惡惡一。〔左〕「一未之作」。❽惡意なり。〔國〕「事過方一」。❾行惡有わるもの。〔管〕「民無一」。

〔書〕おろかなるものこころ。〔左〕「同一之心」。〔書〕「一一之心」。〔書〕ものはなはだ惡。〔左〕「子產惡其一一」。〔論〕ものはなはだ惡。〔左〕「以惡一一」。〔論〕ものはなはだ惡。〔左〕「以惡一一」。〔論〕はなはだ。〔國〕「天命之一一」。〔論〕はなはだ。〔國〕「惡一一」。〔論〕はなはだ。〔國〕「惡一一」。〔論〕はなはだ。〔國〕「惡

〔輕惡〕あさはかなるおもんばかり。○〔史〕「一一時民。〔篤惡〕おろかなるかんがへのこと、われも他人に對し自身のかんがへを謂する語。○〔後〕「蓋平生之一一」。〔懷惡〕充かはよくはかること、又、よかきかんがへ。○〔後〕「若一一一開山」。〔特惡〕ひとかにおもんばかる。○〔常〕「常心一一」。〔篤惡〕よこしまなるかんがへ。○〔後〕「細細一一」。〔知惡〕せまきかんがへ、又、はかりごとはつたなきこと。○〔後〕「長侯一一」。〔愚惡〕正しきかんがへ。○〔呉、陸〕「自足創一一」。〔試惡〕かんがへを糾せず。○〔後〕「抱眞一一」。〔猶惡〕物を辨別すること。○〔史〕「不分一一」。〔默惡〕うたがふ。○〔史〕「有所一一」。〔篤惡〕よきかんがへ。○〔後〕「一一四海」。〔密惡〕おはやけならねはかりごと。○〔後、魏〕「探一一」。〔議惡〕おそれおもんばかる。○〔孟〕「一一未能」。〔測惡〕よかきおもんばかり。○〔章、後〕「一一」。〔狐惡〕たづかなるおもんばかり。○〔後〕「一一」。〔一致百慮〕おもひひく所は同一にして、おもんばかる所はさまざま。○〔易〕「一一而一一」。〔錯惡〕おもんばかる。又、かくして他をして心づかしめず。○〔史〕「一一一一一行留用兵之道也」。

慮　ロク。慮谷切　屋

四人を錄す、まちぶ。○〔唐〕「凡繫囚五日一一」。

愓　シヤウ、サウ。式亮切　漾

うれふ、うれひ、憂。

慰　ヰ。於胃切　未

心を安んず、情を暢くす、なぐさむ、なぐさみ。○〔後漢〕「所過竝使勢一一」。〔鎮惡〕なづめなぐさむ。○〔後〕「一一州郡」。〔恩惡〕なさけを加へてなぐさむ。○〔後〕「因獸名見如一一」。〔招惡〕まねきやすんぜ。○〔後〕「今可譯使一一與共合力」。〔嘯惡〕さとしなぐさむ。○〔後〕「但使恥本性一一」之。〔撫惡〕なぐさむ。○〔後〕「時聞琴歌賞以自一一」。〔弔惡〕喪に居る者をとむらひて其のかなしみをなぐさむ。○〔後〕「益往一一」。〔後惡〕はぐくみなぐさむ。○〔後〕「武后聖書一一」。〔賞惡〕前に同じ。○〔魏、晉〕「十年喪一一」。〔安惡〕なぐなぐさむ。○〔後〕「酸棘一一」。〔綏惡〕前に同じ。○〔後〕「酒心一一」。〔撫惡〕前に同じ。○〔呉越春秋〕「一一百姓」。〔訪惡〕他人をたづねてなぐさめ問ふ。○〔後、晉〕「序族相一一」。〔問惡〕あはれみなぐさむ。○〔蜀書〕「一一」。〔慶惡〕あはれみなぐさむ。○〔後〕「一一」。

慰　ヰ。於胃切　未

慰に同じ。

愜　コウ、ク。丘恢切　灰

勤力すつとめ。

慱　タン、ダン。徒官切　寒

㊀憂ひ勞る、うれふ、つかる。○〔詩〕「勞心一一兮」。㊁園に通じ用ふまどか、まろし。○〔揚雄〕「月闕一其一一」。

慲　バン、マン。母官切　寒

わすれる、忘。

慳　カン、ケン。丘閑切　刪

かなしむ、やぶさか、ものをしみ、惜情。○〔朱熹〕「倒一盡詩一靈一未一許一一」。〔天問〕天の意識に見はさる所。○〔李白〕「投簪蹤一一」。〔懷一一〕。〔慳一一〕。〔慳惡〕やぶさか、ものをしみ。○〔後魏〕「鄙吝一一」。

慳　サン、セン。所簡切　潸

一一「明帝紀」之。

慳　サン、セン。初患切　諫

前條に同じ、一說に、おびたゞし、夥。

慴　セフ。之涉切　テフ、デフ。

徒協切　葉　シフ。席入切　緝

㊀ふす、伏、おそる、懼、おづ、怯。○〔史〕「一一府中皆一一伏」。㊁おそれしむ、おどす、おびやかす。○〔曹植〕「威一一萬乘、華夏稱一雄」。〔慴懼〕身をふるはしておそる、又、おそれ。○〔史〕「赤見矢手、故一一」。〔慴懼〕前の上段に同じ。○〔後〕「威一一失色」。〔怖慴〕おそる。○〔後〕「夜警一一不敢動」。

慴　ショウ、蜀容切　冬

おこたる、ものうし、頓。○〔白居易〕「行一一舉一足遲」。〔怠慴〕おこたりて怠らなきこと。○〔孟子〕「舉止各一一」。〔疲慴〕心のさえざること。○〔社牧〕「曉子水一一」。

慶　ケイ、キヤウ。丘正切　敬

㊀賀す、よろこぶ、いはふ。○〔史〕「再拜而一一」。㊁よろこび。

（い）いはひ、ことほぎ。○〔周〕「賀一一之禮」。

（ろ）善事、幸福、めでたきこと。○〔易〕「大有一一也」。

㊂たまもの、めぐみ、賜。○〔詩〕「是以有一一來」。

㊃語句の發端に用ふる字、あゝ。○〔揚雄〕「一一天怦而褒褒」。〔敬慶〕いはひ、よろこび。○〔時、後〕「謂之一一也」。〔賀慶〕あつまれるさいはひ。○〔後〕「時者之家必有一一」。〔祭慶〕さいはひ。○〔後〕「運家一一」。〔賞慶〕せめてかけものす。○〔後魏〕「一一刑威」。〔伏慶〕よろこび。○〔後〕「威嚴一一」。〔喜慶〕前に同じ。○〔後〕「威嚴一一」。〔福慶〕前に同じ。○〔後〕「安期先生一一」。〔吉慶〕前に同じ。○〔史〕「不參一一」。〔詐慶〕前に同じ。○〔後〕「自為一一」。〔祚慶〕前に同じ。○〔後〕「歌者皆預一一」。〔祚慶〕前に同じ。○〔後〕「一一」。〔先慶〕前に同じ。○〔後〕「生徒一一」。「一一」。

〔天慶〕上帝のかけるもの。○〔後、公羊〕「大夫當慶」。〔宴慶〕神祇なるよろこびのまにて、ものを以て行禮なること。○〔後〕「一一既醉」。〔賜慶〕さいはひをうく。○〔後〕「從在手一人臨一一」。〔後慶〕さいはひをうく。○〔後〕「從在手一人臨一一」。〔後慶〕よろこびをかさね。○〔後〕「皆朝會及本日之一一也」。〔迎慶〕ひさしきよろこび。○〔後〕「同學一一」。

慷　カウ、コウ。苦朗切　養

慨に同じ。○〔後漢「性剛毅一一慨」。

慷　タイ、ダイ。特計切　霽

〔慷慨〕いきどほる、なげく。○〔鄭〕「時會余輔如一一」。

慧　セイ。尺制切　霽

敗れて和せず。

憇　タイ。丑邁切　卦

一一芥は、さけ、刺、梗。○〔司馬相如「昏不二一芥一」。

憚　タイ。丑邁切　卦　テツ、デチ。

徒結切　屑

一一忰は、心安からず。

憤　シフ。之入切　緝

おそる、怖。

憤　セフ。之涉切　葉

㊀動かわ貌にいふ字。○〔莊〕「一一然似レ非レ人」。㊁氣を失ふ、きぬけす、又、またがふ、服。○〔後漢〕「豪強一一服」。

憤　デフ、チフ。奴協切　葉

おそる、怖。

憤　セツ、チチ。如列切　屑

ありさま、情態。

憐　ガイ、ゲ。五介切　卦

なしむ、まはし、やぶさか、吝。

憘　コ、カ。荒胡切　虞

ほこる、夸、誕。

憘　カ。虛加切　麻

一一忰は、志無きと。

憐　トウ、ドウ。徒登切　蒸

迷亂す、まよふ、みだる。

憐　ル。力朱切　虞　ロウ、ル。

落侯切　尤

㊀よろこぶ、悅。㊁恭謹の貌にいふ字。○〔後漢〕「豈敢愛二惜垂沒之年一而不レ臺二其一一之心一哉」。

憐　リツ、リチ。劣戊切　質

憂鬱す、うれふ、もだゆ。

憐　タイ、デ。徒同切　灰

ゆるぶ、縱弛す。

憐　ゲン、ケン。居倦切　霰

回顧す、かへりみる。

感　セキ、シヤク。倉歷切　錫

心を痛め思ふ、いたむ、うれふ、いたみ、うれひ。○〔書〕「率二顧衆一一」。〔哀感〕うれひ。○〔左、註〕「示一一」。〔怒感〕前に同じ。○〔左、襄〕「心一一勿不識」。〔憐感〕おもひうれふ。○〔書〕「一一之心」。

憾　カン。胡感切　感

感に同じ。○〔漢〕「居喪哀一一」。〔怨憾〕うらみ。○〔後〕「怨一一」。〔恨憾〕前に同じ。○〔左、襄〕「心一一勿不識」。〔怨憾〕おもひうれふ。○〔書〕「一一之心」。

慾　ヨク。余蜀切　沃

好み欲する情意。○〔淮〕「患生二於多一一」。〔嗜慾〕色物のこと。○〔後、孝〕「十室比一一」。〔嗜慾〕たしなみこのむこころ。○〔後〕「靜讀者一一」。〔貪慾〕物をほしがり好むこころ。○〔東京賦〕「遂聖奉之一一」。

憑　ヒン。扶冰切　蒸

俗の憑の字。

憀　レウ。落蕭切　蕭

㊀たよる、たのむ、賴。○〔淮〕「夷民不二相一一」。㊁たよる所なし、こゝろさびし。○〔陸龜蒙〕「雲晴山晚動一情」。㊂音聲の清らかなる說にいふ字。○〔裴〕「新聲一亮」。

憀　リウ、ル。力求切　尤

悲恨す、かなしむ、うらむ。

憁　ソウ、作孔切　董　千弄切　送

意を得ず。

憂　イウ、ウ。於求切　尤

（い）うれふ。

（ろ）心思を苦しむ。○〔論〕「仁者不一一」。

（ろ）病む。○〔國〕「文王在レ胎母不レ一一」。

（は）頭垂れ下る。○〔禮〕「下手帶」則一一」。

（に）困しむ。○〔易〕「小人道一一也」。

㊂うれひ。

（い）心のなやみ、なげき。○〔論〕「樂以忘レ憂」。

（ろ）疾病、やまひ。○〔禮〕「來有二采薪之一一」。

（は）忌服。○〔書〕「王宅一一」。

（に）困難。○〔左〕「弛」周室之一一」。

〔服憂〕他にあらはさやるうれひ。○〔易〕「如有一一」。〔服憂〕やみうれふ。○〔後〕「其親小心一一以御」。〔外憂〕共にうれふ。○〔後〕「非以憂」。〔憂乃一一耳」。〔近憂〕目の前のうれひ。○〔後〕「人無遠慮、必有一一」。〔眼憂〕なやきにかゝる。○〔史〕「周屬常憂一一」也」。〔除憂〕うれひをのぞく。○〔禮〕「一喪之一一」。〔先憂〕世の人のなやきにさきだちてうれふること。○〔史〕「范一一後樂之志」。〔憂患〕つもるなやき。○〔史〕「天一一常憂」。〔酒憂〕うちのうれひ。○〔左〕「外事必有一一」。〔憂患〕ふかくかくれたるうれひ。○〔後〕「今日一一」。〔孔憂〕おほいなるうれひ。○〔易、林〕「作此哀詩、以人憂」。〔憂患〕うれふ。○〔後、離騷〕「常民一一」。〔憂人〕どうとし苦惱することにいふ語。○〔史〕「一一國有一一天地間常事」。

憂　タウ、トウ。抽江切　江

生來に物事の區別意義を知るの才能なきこと、おろか。○〔周〕「三一敎曰一一愚」。

憂　ショウ、シユ。書容切　冬

物慾に蔽はれて才能明かならず、くらし、にぶし。○〔禮〕「寡人一一愚冥頑」。〔狂憂〕前後のわきまへかりもなきおろかなること。○〔後漢〕「如我幼時一一之行也」。〔愚憂〕おろか。○〔後〕「天性一一暗機神慎一且一」。

憂　チヨウ、チユ。丑用切　宋

鄙に同じ。

懇 クヮン・クン・公潤切 圓
ねんごろ（懇）

懌 キヨ・ニ・丘於切 圓
喜悅なり。よろこび。

懈 クヮ・ゲ・胡瓜切 圓
心怠る。おこたる。

懖 ダン・ナン・乃版切 圓
慚じて面色赤くなる。はづらふ。

懠 ヒヤ・フ・數故切 圓
いきどほり。うらみ。怒。

懥 ヒヤ・ヒヤ・清皮切 圓
一時は自ら强しとす。ほこる。つよがる。

懺 ヘイ・ヘ・清耕切 圓
悔り改しむ。懺悔す。つつしむ。れ。○
〔史記〕「今天下日定四海一也」。
〔後漢書〕「ものつつみ。○〔注〕「面一一手面」。
〔後漢書〕「ものつつみ。○〔公羊〕「手一一手」。
〔後漢書〕「ものつつみ。○〔注〕「慚愧一一」「慚愧」。
〔後漢書〕「ものつつみ。○〔後漢書〕「慚愧一一」。
〔後漢書〕「ものつつみ。○〔後漢書〕「面

憺 タン、ドン。他紺切 覃

㊀あわつ、(慌遽)。
㊁憂な懼く、うれふ。

憺 タン、ドン。他紺切 覃

おもふ、(思)、一說に、憂感す、うれふ、まどふ、一說に、あわつ、(遽遽)、又一說に、瞞瞞未だ定まらざる意。

惰 タイ、デ。徒對切 賄

惰に同ト。

憝 タイ、デ。徒對切 賄

㊀うらむ、(怨)。○(書)「凡民罔レ弗レ—」。
㊁にくむ、(惡)。○(書)「腎弗レ長レ死民罔レ弗レ—」。
㊂にくむべき者、わるもの。○(晉)「旗不二再麾一而元—授レ首」。
(惡態) 憎み惡む。○(孟軻)「切切然如レ—」。

憝 タイ、デ。杜罪切 賄

うらむ、(恨)。

憝 トン、ドン。他昆切 元

憝に同ト。○(揚雄)「楚—」。

憝 トン、ドン。他昆切 元

羣策二而自屈二其力一。

憝 トン、ドン。他昆切 元

心明かならずくらし。

慄 シヨク、ソク。相玉切 沃

上の顏色をうかゞひ其の意向を察して事をなす、又諂り媚ふ。

慚 セイ、サイ。先齊切 齊

心怯る、おそる。

慚 シ、ジ。相支切 支

おそる、(懼)。

慎 シユン、ジユン。雙尹切 軫

劣りて弱き貌にいふ字。

慎 セン。息變切 霰

よろこぶ、(悅)。

慮 ケツ、クツチ。其月切 月

つよし、(勁)。

懸 ハツ、バチ。蒲撥切 曷

心起こる、おこる。

慷 サク、シヤク。楚革切 陌

小しく痛むいたむ。

慣 バイ、メ。莫佳切 佳

—慢は、心平かならず。

慍 ケツ、ゲウ 許玄切 蘊

㊀おそる、(懼)。㊁いつはる、(僞)。

慕 ハン、ベン。符山切 刪

心動動す、かはる、うごく。

慕 タウ、ダウ。徒刪切 諫

ほしいまゝ、(放)。

憤 フン、ボン。房吻切 吻

㊀いきどほる、又、いきどほり。
㊁心氣おこり奮ふ。○(論)「發レ—忘レ食」。
(ろ)心氣鬱積す、もだゆ。○(劉向)「鹿、婦—而長望」。
(は)怒る、恨む。○(宋)「以法報二私—一耳」。

(慎態) つゝむ、(慎)。○(國)「陽輝—盈」。
(慎態) 心をはゞかるしるしなる。○(孟軻)「雁卵—」。
(慎態) 北斗—一、斗柄始手是手。
(慎態) いきどほりの心中に鬱もる貌にいふ語。
○(後漢)「官—し憤ち、狐狸此樹の下」。
(慎態) いきどほる。○(後漢)「—一而死」。
(慎態) もたれる。○(王粲)「芝意—」。
(慎態) 心動き驚く。○(後漢)「釋丘之間、輒決之—一壯夫」。
(慎態) 食はぬ心を出だして怒りあらひいきどほる。
○(論語)「興—口起浦」。
(慎態) 身をよるはしていきどほる。○(後漢)「海內獸々人懷—」。
(慎態) うらみいかる。○(後漢)「以舒北—」。
(慎態) 著のためにいきどほりを興こす。○(後漢)「士之耳鼻鼓—其矣」。
(慎態) かなしみいきどほる。○(崔駰)「感時—」。
(慎態) 痛みもたゆ。○(史)「鈍其—」。
(慎態) 心氣鬱積するる。○(孟)「一旦鬱鬱、乃作—」。
(慎態) 此をいきどほる。○(孟)「—、于門宗」。
(慎態) なやましきどほる。○(西京雜記)「無倒—」。
(慎態) 昔はたのしき、をうゝゆん、なののいきどほる。
○(金羅漢)「—、不可忘」。
(慎態) いたがいきどほる。○(蕭屬)「醉主貪欲、千—」。
(慎態) 無實の罪にかゝれるいきどほる。○(李德裕)「怒—」。
(慎態) うらみ怨る。○(孟)「秀實失兵必—」。
(慎態) はやいきどほる。○(孟)「行世—」。
(慎態) いきみいきどほる。○(白居易)「—」。
(慎態) 怒りいきどほる。○(後武帝)「行路—」。
(慎態) 我が一身のためにいきどほる。○(何中郎)「此世—」。
(公慎) 正義のためのいきどほる。○(史)「天下之—」。
(慎態) さわがしきいきどほる。○(後漢)「多—」。
(慎態) 前に同じ。○(後漢)「兄弟之情、有レ懷—」。
(慎々) 善き人の貌にいふ語。○(後漢文帝)「—」。
(慎態) うれふ。○(後漢)「—、生實」。
(慎態) いつくしみあはれむ。○(後漢)「—、道息」。
(慎態) 前に同じ。○(後漢)「—、不遠」。
(慎態) あはれむ、うれふ。○(後漢)「—、不遠」。

憐 レン、リン。力小切 篠

㊀さとし、(慧)。㊁あきらか、(明察)。
㊂こゝろよし、(快)。

憭 レウ。落蕭切 蕭

㊀空しき貌にいふ字。
㊁目に見て心に傷むにいふ字、いたむ。○(宋)「—、慄起二寒襟一」。

憮 ブ、ム。文甫切 麌

㊀めづ、いつくしむ、(愛)。○(陸雲)「遲—、然」。
㊁想歡—。
㊂失意の貌にいふ字。○(孟)「寡子—」。
㊃驚愕の貌にいふ字。○(論)「夫子—然」。
(慎態) はなはだいつくしむ。○(詩)「矣天—」。

憮 ク。況羽切 麌

なまめく、こぶ、(媚)。○(漢)「京兆眉—」。

憮 コ。荒乎切 虞

㊀おほいなり、(大)。○(詩)「亂如レ此—」。
㊁おごる、(傲)。○(禮)「毋レ—毋敖」。

憮 ブ、ム。微夫切 虞

むなし、(空)。

憮 憮の本字。

憮 憮の字の省文。○(漢)「支體傷此心—怛」。

憮 ケツ、ケチ。古穴切 屑

いつはる、いつほり、(權詐)。

慄 ヘイ、ベイ。邊迷切 齊

慢 ラウ、ロウ。耶到切 號

懶—はゝくゆ、(悔)。

憧 シヨウ、シユ。尺容切 冬

タウ、ドウ。直絳切 絳

㊀意定まらず。○(易)「—往來」。
㊁おろか、(愚蠢)。○(史)「愚—不達レ事」。

憧 トウ、ドウ。徒弄切 送

おろか。

憨 ゲ、ニ。女利切 霽

快き性。

憨 カン、呼談切 覃 下瞰切 勘

鈍きこと、おろか、(愚)。○(文心彫龍)「正平狂—以致レ戮」。

憾 カン、コン。計鑒切 翰

いかる、いかり、(怒)。

憩 憾に同じ、やすらふ、いこふ。

○(詩)「召伯所レ—」。

(憩態) あそびやすらふ。○(水經注)「項岩—」。
(憩態) 呼びよせ休息さす。○(詩品)「—」。
(憩態) とゞまりやすらふ、とゞめやすらす。○(韓愈)「—朝寺」。
(憩態) かりそめのやすらひ。○(蘇軾)「紅尤具以—勞」。
(休態) やすらふ。○(蘇軾)「非—」。
(憩態) やゝやすらふ。○(陶弘景)「興風—」。
(憩態) すみやすらふ。○(陶弘景)「官私行止、並有—」。
(憩態) 眠しやすらふ。○(李白)「北地聊—」。

憐 レン、リン。郎計切 霰

心熱する貌にいふ字。

憐 カン、ゲン。戶間切 刪

心靜かなること、まづか、又、たのしむ、(愉)。○(柳宗元)「安排祇自—」。

憫 カン、ゲン。下簡切 諫

㊀安からざる貌にいふ字。○(史)「—然念二外人之有レ罪」。
㊁勤く念る貌にいふ字。○(唐)「—然爲二天下無二人」。
㊂寬大なる貌にいふ字。

憫 ビン、ミン。眉殞切 軫

㊀うれふ、うれひ、(憂)。○(孟)「阮、窮而不レ—」。
㊁あはれむ、あはれみ、(憐)。○(宋)「若情可二矜—一而法不レ中レ情者斷レ之」。
(憫態) 其人に。○(後漢)「—、快生」。
(憫態) 惜みあはれむ、又、憐みうれふ。○(宋書)「情—一而傷悲」。
(憫態) 前に同じ。○(顏延之)「—、韓御史」。
(憫態) 前に同じ。○(王褒)「四海皆—」。

憬 ケイ、キヤウ。俱永切 梗 馱經切 迥

㊀覺寤す、さとる、一說に、とほきに行く貌にいふ字。○(詩)「—彼淮夷、來獻二其琛一」。
㊁とほし、(遠)。○(賀知章)「花—盡、鶯—忠」。

憲 ロウ、イキ。(ヨク)。於力切 職

㊀みつ、(滿)。㊁億に同じ。

憭 レウ。力小切 篠

㊀さとし、(慧)。㊁あきらか、(明察)。
㊂こゝろよし、(快)。

憭 レウ。落蕭切 蕭

㊀空しき貌にいふ字。
㊁目に見て心に傷むにいふ字、いたむ。○(宋)「—、慄起二寒襟一」。

憮 ブ、ム。文甫切 麌

㊀めづ、いつくしむ、(愛)。○(陸雲)「遲—、然」。
㊁想歡—。
㊂失意の貌にいふ字。○(孟)「寡子—」。
㊃驚愕の貌にいふ字。○(論)「夫子—然」。
(憮態) はなはだいつくしむ。○(詩)「矣天—」。

憮 ク。況羽切 麌

なまめく、こぶ、(媚)。○(漢)「京兆眉—」。

憮 コ。荒乎切 虞

㊀おほいなり、(大)。○(詩)「亂如レ此—」。
㊁おごる、(傲)。○(禮)「毋レ—毋敖」。

憮 ブ、ム。微夫切 虞

むなし、(空)。

憮 憮の本字。

憮 憮の字の省文。○(漢)「支體傷此心—怛」。

憮 ケツ、ケチ。古穴切 屑

いつはる、いつほり、(權詐)。

慄 ヘイ、ベイ。邊迷切 齊

(慄態) 身をよるはしていきどほる。○(蘇軾)「—、者不可勝數」。
(慄態) 心結ぼるる。○(李商隱)「鳴蟲何苦—」。
(慄態) 綾りのいきどほり。○(陸機)「義人感以—」。
(慄態) 心氣ねたみ怒れ鬱つる。○(陸武帝)「醫御之—」。
(慄態) うれひいきどほる。○(蘇軾)「—、稍增」。
(慄態) 前に同じ。○(陸機)「—、張迪增、憂苦」。
(慄態) 憂なるいきどほり。○(陸機)「以增—」。
(慄態) 殘し盡けるいきどほり。○(李白)「別宗—」。
(慄態) なやましいきどほる。○(陶淵)「—、時—」。
(慄態) 傷むいきどほる。○(江淹)「—、時—」。
(慄態) 怒る。○(宋)「勉—、世—」。
(慄態) いきどほりの心を鬱もし出だす。○(蘇軾)「—、歲—」。
(慄態) もたれる。○(李白)「—、稍—」。
(慄態) いきどほる。○(宋)「—、增—」。
(慄態) 怒りくみいきどほる。○(綿宗元)「—、而怨—」。
(慄態) をくしいきどほり。○(蘇軾)「—、新所—」。
(慄態) 鬱心より出でたるいきどほり。○(氣高)「—何自伸」。
(慄態) 思ひどほりいきどほる。○(蘇軾)「自語—」。
(慄態) 心結ぼしていきどほる。○(蘇軾)「自語—」。
(慄態) 非—、以鬱—、前之怨—」。
(慄態) 久しく苦、もてゝいきどほり。○(陸機)「—、國孤劍」。

慄 ラウ、ロウ。魯刀切 豪

心力乏しくなる、くるしむ、つかる、又、やむ、(疲)。

（同書）ものいと。○（同書）「一一」。
（同書）ものいと。○（同書）「一一」。
（同書）ものいと。○（同書）「一一」。

【慵】キン・ヨウ・巨庸切 冬
うれふる憂。

【慵】キン・ヨウ・巨庸切 冬
怠惰。

【慵】キン・ヨウ・巨庸切 冬
怠惰。

【慵】キン・ヨウ・巨庸切 冬
怠惰

づ（憂）。

懌 ガイ。牛代切 [國]
おどろく（驚）、一説に、あわつ、おそる、（怪）。

懌 キ、ギ。偶起切 [紙]
はかる（度）。

懌 ギョク、ゲキ。鄂力切 [職]
小兒の知あるにいふ字、さとし。

懞 ボウ、モ。謨蓬切 [東]
怒厚の貌にいふ字、あつし。

懟 ツキ、ヅキ、直類切 [置]
タイ、デ。徒隊切 [隊]
うらむ、うらみ（怨）。○〔左〕「以死誰―」。〔注〕怨うらむ。○〔傳〕「商私―…」。〔集解〕怨うらむ。○〔史〕「稽―…」有怨言。〔集解〕苦しみうらむ。○〔荀〕「孝子勿聞人之―」。〔注〕怨うらむ。○〔史〕「後而不―…」。

懠 セイ、サイ。前四切 [齊]
いかる（怒）、一説に、うたがふ（疑）。○〔詩〕「天之方―」。

懠 シ、ジ。才資切 [支]
いかる（怒）。

懠 セイ、ザイ。才詣切 [霽]
いかる（怒）、一説に、うれふ（愁）、やむ、（疾）。

懺 バ、マ。亡果切 [哿]
懼の條を見よ。

懇 ガイ。牛代切 [隊]
わする（忘）。

懠 エイ、ヤウ。烏定切 [徑]
竹―は、うらむ（恨）。

懠 ラン、ロン。魯甘切 [覃]
たしなむ（嗜）。

懠 カン、ゲン、戶黯切 [闞]
すこやか（健）。

懠 ラン、ロン 盧瞰切 [勘]
むさぼる（貪）。

懇 バク、マク。莫角切 [覺]
うるはし、よし（美）。

懣 ボン、モン。莫困切 [願] 模本切
[阮] バン、マン。母伴切 [旱]
煩悶す、もだゆ、わづらふ、もだえ、わづらひ。○〔禮〕「志―氣盛」。〔審題〕物形を送ひわづらふ。〔注〕「至―…」。〔後漢〕「酒幕載宮」。〔後漢〕わづらひ、もだえ。○〔司馬遷〕「不―憂」。〔注〕「―…」。〔後漢〕「長―…」。〔類聚〕もたゆ。○〔後漢〕「解中―…」。〔類聚〕いかみもたゆ。○〔後漢〕「昭染已殷」。〔注〕「―…」。〔後漢〕「―…」。〔後漢〕「―…」。〔後漢

つゝしむ。

【憎】 懵に同じ。

【憶】 ケン、クヤン。許元切。園

そこそこ。

【憶】 ケン。許僅切。園

うらむ。恨。

【憬】 カク、キヤウ。郭格切。園

一説、憧憬はつはものゝ意。

【憬】 ラン、落郎切。園

にくむ。憎惡。

【懷】 クワイ、エ。戸乖切。園

❶念ひ思ふ。おもふ。○論「有女一人懷春」。

❷いたむ。悼。○論「顧言則一」。

❸なつく。

（い）親しみ慕ふ。おもむく。○孟「樂貴一之」。

（ろ）親しみ愛せしむ。なつく。○論「少者一之」。

❹ものたらず。不足。○論「夏又一止」。

❺ものたらしむ。ものたらず。○論「一二柔百軍」。

❻やすし。やすらか。安。○論「一識一世」。

❼いたゞく。

（い）四達を包むこゝろ。○管「滿一一山澤」。

（ろ）心に持つこゝろに持つ。○「懷術」「一一懷鄙」。

❽やすんず。

（い）天中に入る。○論「顧一業君音」。

（ろ）其有ゝ終者一一其終」。

（ハ）包み蔵む。○論「一一其寶而迷其邦」。

❾表襟を陶ふこゝろ。○論「終後知一一」。

❿懷遷。ハラスゝ。おもひ。○論「一一無人」。

⓫わたゝし。○論「每一歲之」。

⓬いたる。

（い）止まる。○論「有一一手衝」。

（ろ）懷まる。○論「一一允不忘」。

⓭いたらしむ。ゝ知而彌一一給」。○論「不知而彌一一給」。

（論）かゝるこゝろ。○孟「所之一一」。

（論）1人之意。

（論）ものたらずこゝろ。○孟「所一一」。

（孟）足意。

（孟）足意。

（論）[illegible]

（孟）[illegible]

（孟）[illegible]

（孟

懽 クヮン。呼官切 寒
一歡に同じ、よろこぶ。○〔孝經〕「得二萬國之一心」。
二憂ふとも告ぐる方なき貌にいふ字。

懽 クヮン。古玩切 翰
うれふ、憂。

懾 セフ。之涉切 葉
一驚きて氣力を失す、心屈伏す、おづ、おそる。○〔荀〕「憂則挫而—」。
二おそれしむ、おどす。○〔淮〕「威動二天・地、聲—海・內」。
〔後漢〕「身在遠地、心懾二京・闕」。
〔後漢〕「使官舍不—」。
〔後漢〕くじけおそる。○〔史〕「舊—一寄」。
〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「憂則—而—」。
〔後漢〕おそれおそる。○〔後漢〕「—一不敢動」。
〔後漢〕なげきおそる。○〔呂氏春秋〕「貴新衣食、而不—」。
〔後漢〕おそる。○〔沈約〕「守臣方—」。

懼 ショウ、ス。息拱切 腫
サウ、ソウ。所江切 江 一に、聲懾に同ト、おそる、おどす。○〔漢〕「—之以行」。

懿 懿に同ト。

十九畫

懺 ザツ、サチ。子末切 曷
おこたる、慢意。

懺 セフ。悉協切 葉
懾に同ト。

戀 レン。力卷切 霰
慕ひ思ふて忘るゝ能はずまたふ、おもふ、こひ。○〔後漢〕「兄弟相—」。
〔後漢〕おもふ。○〔後漢〕「哀慕—」。
〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「—」。
〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「—」。
〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「—」。
〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「—」。
〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「—」。
〔後漢〕上にたつ者を慕ふ。○〔後漢〕「—」。
〔後漢〕其の人の去りたる後又は死にしあとにておもひたたふ。○〔北史〕「國百姓所—」。
〔後漢〕かなしみまたふ。○〔沈約〕「伏膺—」。
〔後漢〕前に同じ。○〔沈約〕「伏膺—」。
〔後漢〕前に同じ。○〔宋書〕「頃、輔不幼慕—」。
〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「—」。
〔後漢〕こひする。○〔晉書〕「小人—」。
〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「—」。
〔後漢〕こひ。○〔後漢〕「去々割—」。

戀 ダン、乃版切 諫 ナン。切 寒 セン、人善切 銑 子ン。切 寒
つゝしむ、敬、おそる、懼。○〔詩〕「不—不—」。

懼 ラ。來可切 哿
懦—はよはづ、懦、又、もの少くさびしき貌にいふ語。○〔揚萬里〕「人・烟懦・—不レ成レ村」。

懼 ビ、ミ。忙皮切 支
ちる、あらく、散。

懼 バ、マ。眉波切 歌
心病む、わづらふ。

願 ゲン、クヮン。魚怨切 願
いたゞき、頂。

廿一畫

懼 カク、キヤク。許縛切 藥
一おどろく、驚、一說に、遽て視る。
二諦かに視る。

懼 アク。鼎縛切 藥
あわつ、遽。○〔史〕「晏・子・—然攝二衣・冠」謝。

廿二畫

懼 俗の懼の字。

懼 トン、ドン。他袋切 阮
—懷は、明からず、くらし。

廿四畫

懼 レイ、リヤウ。郎丁切 青
心の了點なる貌にいふ字、ささし、こざかし、かしこし。

懼 タウ、陟降切 江 トウ。切 宋 チヨウ、丑用切 宋
胡貫切 送 チユ。
カン、コン。呼緋切 翰
正直にして才智鈍きこと、おろか。○〔史〕「甚矣汲黯之—也」。

懼 コウ、ク。呼孔切 董
心神の恍惚なる貌にいふ字、ほる、きぬけす。

廿五畫

懼 ベン、メン。免眞切 先
惘に同ト。

戈部

戈 クヮ。古禾切 歌
一則し搏き又は鉤け引くに用ふる一種の兵器枝ある刃に長き柄をなすけたるもの、ほこ。○〔書〕「執レ—而上」切。
二兵戰、いくさ、たゝかひ。○〔戰〕「欲二以解レ—」。
〔詩〕敵に向かはずして卻方に及をむくも。○〔後〕前條。○攻字條以北。
〔史〕「—」。○〔史〕たてをはこる。○〔史〕「—」。
〔史〕「—」。
〔史〕「—」。

〔花部〕咲めなす。あらたまりなる。○〔易〕「乃一」。
〔曲部〕ひとツ一になす。又、なる。○〔易〕「一」。
〔斜部〕つくるなす。又、のち。きりもり。○〔易〕「以」。
〔小部〕僅かになる。○〔詩〕「七年鮮能一來」。又、
〔天部〕自然に生ずる人。又、うまれつき。○〔孟〕「故
〔武部〕たけきいさを。武り。○〔孟〕「大者」。
〔歯部〕くにのつ。○〔孟〕「齒」。
〔來部〕きたりなる。おなりなる。○〔孟〕「聞」。
〔老部〕隱居を多く隱みされたるとき。かなくして
おろそかなとなる。○〔易〕「無」。
〔孫部〕家業の出來上がりたる。○〔詩〕「有」。
〔嬰部〕一年間の種蒔。○〔論語〕「以」。
〔嬰部〕出來ちがる。できちがもす。○〔周禮〕「」。
〔嬰部〕おそく成り遲く。○〔孟〕「大」。
〔立部〕見る間になる。見る間になる。○〔孟〕「」。
〔年部〕とくなる。とくなる。○〔孟〕「」。
〔年部〕入り交りてなる。又、はなはなる。○〔孟〕「」。
〔嬰部〕ありなす。ありあがる。○〔書〕「」。
〔嬰部〕嬰嬰杵。○〔書〕「」。
〔嬰部〕殺り殺りたるやうになる。又、かりなる。
○〔論語〕「」。
〔嬰部〕助けて成し遂ぐ。○〔孟〕「」。
〔嬰部〕嬰んなる。なる。○〔孟〕「」。
〔嬰部〕やはりたひらく。○〔周禮〕「」。
〔嬰部〕「」。
〔嬰部〕孔夫子の上、前項の事事の元始元年
に孔子の後子孫を後成後に對ひ孔子を追記
して後成宜居侯とい（りしより始まれり。○
〔孫部〕「」。
〔孫部〕はやくなる。はやくなる。又、年始を過ぎ大

人の氣象を留よるにいと語。○〔孟〕「」。
〔作部〕こしらへなす。○〔國語〕「」。
〔葉部〕集めてこしらへなく。○〔書〕「」。
〔青部〕色だてあく。○〔孟〕「」。
〔玉部〕榮盛なる人となる。又、榮盛なる人となす
と。○〔孟〕「」。
〔不日部〕既日立た間に出來上がる。一段には、
一日も立た間に成り成りあがる。とあれども。○
〔日〕「」。
〔月部〕「」。
〔月部〕「」。
〔月部

（第之四圖）

刃に上く向かくる圓柱あるゝ羅の兵器。

（第之四圖）

戟　ヨク、ニュ。乳勇切　圏

戟の圓。

戟　カン。切俟昨　圏　切古奚　圏

たて。盾。

戛　カツ、タチ。苞諧切　圏

❶はゞ。戟。「戟」に同じ。刃の長き矛。○（説文）「立一逆戟。」

❷❸くびちがふ。くびちがひ。圓。○（書）「一一擊鳴鏑。」（韓愈）「一一乎其雜戟。」

❹突進のりつれ。○（書）「不二番天一一。」

❺徒行。徒上用ふ。○（漢）「三百里一一服。」

（大雲）大出のこと。○（唐書）「番人之一一。」

（若考）そこ。○（左傳）「若未用一一。」

（若考）そこのこと。○（左傳）「一一無一一。」

（若考）ちがひのこと。○（左傳）「一一無一一。」

（若考）ちがひのこと。○（左傳）「一一無一一。」

（若考）ちがひ

【征敵】法をおこなひてころす。○〔論〕「豈可」事乎刑」。
已而——。善人論。
【懲敵】北の郡にあらざるにあらざるにあらざるところす。○
【殺敵】首を斬めころす。○〔孟〕「有罪東西——
者」。
【殺敵】官をみだして刑にあつ。○〔孟〕「宜——」。
【誅敵】惡くころすこと。○〔孟〕「——殺」。
【罰敵】刑にあてころすこと。○〔荀央論〕「起事之賊」。
【戮敵】——ル——」。
【戮敵】うつめころす。○〔孟〕「——〔孟〕「生」。

十二畫

戰 セン。之膳切 霰

❶たゝかふ。又たゝかひ。
（い）互に擊ちあらそふ。○〔家語〕「子路怒奮」戟將興」之——」。
（ろ）軍隊と軍隊と互に攻め擊つ、いくさ。○〔孫武〕「善——者致」人而不」致」于人」。
（は）互に優劣をあらそふ。○〔茅亭客話〕「酒——猶能敵」百夫」。
❷たゝかひをなさしむ、たゝかはす。○〔舊唐〕「張三空」拳於——」文之場」。
❸おそる〈懼〉。○〔書〕「小大——」。
❹なのゝく。
（い）怖ちて身體わな〳〵震ふ、わなゝくふるへる。○〔史〕「周退立股——」。
（ろ）ふり動く、ゆるぎ觸れて微音を發す、そよぐ。○〔白易居〕「怯」教」葉葉——」。
【戰】たゝかひの術を學ぶ。○〔殷〕「出日」治兵」——」也。
【戰】名義正しきいくさ。○〔馬〕「春秋」無——」。
【戰】あらそひたゝかふ。○〔韓愈〕「潮州八代——」書。
【戰】いくさをおかく。○〔史〕「使」死士——」。

【戰】掘み打ちしてたゝかふ。○〔史〕「出」親卒」自——」。
【乙戰】（いくさの中に組れて殺くる。○〔史〕「十——」
（ろ）智をたゝかはす。○〔呂〕「攻城野」戰——」。
【野戰】原野の間にてのいくさ。○〔國〕「有——」
【野地之功」。
【百戰】あまたゝびのたゝかひ。○〔國〕「有——」
【百戰之士」。
【戰】くが地にてのいくさ。○〔國〕「不——」。
【戰】（手戰）（ろ）己れ自身に手を下してたゝかふ。○
（い）對」幕——」。
【戰】（ろ）兩の手わなゝきふるふ。○〔陸機〕「面」名登
【戰】兩眼入り乱れ眼ふる。○〔機〕「短——」
之時」手反絡而求」——」。
【血戰】身命を捨ちてのたゝかひ。○〔孔〕「大丈夫」
子報讐——」三十年」。
【功戰】いさをしをたゝかひに立つること。○〔韓詩外
傳〕「貧者有」不以富」上而——」而以傳」鮑叔」。
【有戰】茶の湯の巧拙を學ふこと。○〔吳〕「——」
都練雜作」。
【苦戰】困難なるいくさ。○〔李白〕「——賞不
義」。
【征戰】いくさ。○〔李白〕「春閨賞」——」。
【遂戰】勝せ敗りたゝかふ。○〔李君〕「——會迷
蓬轉」下」。
【校戰】力をくらべたゝかふ。○〔李君〕「將軍——」
出」玉壺」。
【逸戰】ためらふことなく敵をたゝかふ。○〔孔〕「時」
殺日」必——」不」敢」將」矢」遺」師」。
【新戰】いくさして勝たんとを謀にいのる。○〔孔〕
「果」自伐」晉以」——」于」河」。
【下戰】いくさすることの方法をうらかたにたつね。
○〔孔〕「——」不」吉」。
【郊戰】都の近き野にありてたゝかふ。○〔孔〕「爲」
——」。「故公會」吳子」伐」齊」。
【疑戰】詐りをもて敵を誘ひ擊ついくさ。○〔殷〕
「公敗」齊師」于長勺」。「不日——」也」。
【食戰】熱いくさ。○〔孟子〕「殺」人盈」滿」野」人——」
「于」江」。

【水戰】前に記す。○〔孟〕「以習——」。
【敗戰】かたはらとしてたゝかふ。○〔國〕「夫吳之勝」
超」也休」——」。
【伏戰】勝負を定めんとて戰ふ。○〔孟〕「車勝」士
——」。
【籠戰】敵を捉したゝかふ。○〔史〕「——以死」。
【鎖戰】くるしみたゝかふ。○〔史〕「預」兵」鎖」——」。
【捉戰】勢をくたゝかふ。○〔呂〕「——」。
【擒戰】敵をたゝかふ。○〔史〕「李」——」
戰。
【會戰】行きあつてたゝかふ。○〔國〕「田」——本」將」兵
——」。
【合戰】たゝかひ、いくさ。○〔國〕「且」——」。
【接戰】すゝみ出でたゝかふ。○〔後漢〕「鄧利
——」。
【力戰】骨折りてたゝかふ。○〔後漢〕「臨」敵——」。
【四戰】四方何れを向てもたゝかひを挑さでは
すまじ。○〔後漢〕「銀川——」之地」。
【連戰】續にたゝかふ。○〔後漢〕「——」無」功」。
【步戰】かちにていくさす。○〔後漢〕「復」持」矛——」
——」。
【鉅戰】敵をよせきたゝかふ。○〔呂〕「——」于」擊
——」。
【出戰】城又は城の外にありてたゝかふ。○
〔史〕「——」入」鋒」。
【單戰】太刀をたゝかふ。○〔呂〕「——」書」鋒」。
【單戰】元氣を出だしてたゝかふ。○〔後正見〕「鋒」
花」——」。
【鋒戰】身を捨ち出だしていくさす。○〔史〕「且」身
——」。
【鑑戰】金カを鑑くしてたゝかふ。○〔史〕「車」
往」伏」——」。
【苦戰】町中にてたゝかふ。○〔呂〕「元」入」——」。
【敢戰】心を決して劇しくたゝかふ。○〔呂〕「其」——
——」戰」。
【鋼戰】敵を防ぎたゝかふ。○〔劉庶子〕「敵不」爭
險」以」——」非」爭」者」也」。
【敢戰】いくさするの法を訓練す。○〔孟〕「其
——」。
【守戰】籠又は城を堅固に守りたゝかふ。○〔劉
子〕「四國之間」「——」。
【攻戰】あたとたゝかふ。○〔劉子〕「有」——」
——」。

【敵戰】必死のたゝかひ。○〔史〕「殺」——」——則不
——」。
【骨戰】つかりあらそふ。○〔呂〕「官付之權」——」
【樂戰】多くたゝかふ。○〔呂兵事他〕「——」之
【敵戰】たゞ〳〵たゝかふ。○〔韓詩外傳〕「——」則
【民戰】草野の間にてのたゝかひ。○〔心書〕「——」
之道」利在」——」。
【林戰】林やしの間に在りてのたゝかひ。○〔心書
「——」之道」當」——」。
【伐戰】敵を討ちたゝかふ。○〔韓詩外傳〕「——」人
——」。
【格戰】擒ち合ひたゝかふ。○〔後漢書〕「吳」樂
——」。
【鋒戰】ほこをつゝみわなゝきふるふ。○〔後漢書〕「人
皆——」。
【鋒戰】思ひ〳〵にたゝかひて一致せず。○〔韓詩
「千人——」不」如」十人」——」。
【決戰】とゝめをわなゝく。○〔水經〕「——」
——」。
【決戰】敵を圍みて巧拙をたゝかはす。○〔韓詩
「——」——」。
【接戰】手をたゝかふ。○〔後漢〕「高」出」利」——」
——」。
【鬼戰】けなかにたゝかふ。○〔呂〕「——」——」。
【花戰】敵に近寄りたゝかふ。○〔後漢〕「——」——」
來」。
【結戰】たゝかひにはとりて敵をかを。○〔呂〕「——」
——」爲」結」人」。
【鬪戰】たゝかひ。○〔韓愈〕「——」——」之」色」。
【鬪戰】身をそなはたゝかわゝく。○〔韓愈〕「——」
——」。
【鬪戰】文筆の發方の爭ひ。○〔韓愈〕「——」
——」——」——」。
【鬪戰】死にもの狂ひのたゝかひ。○〔史〕「——」
——」——」「不」——」敗」。
【骨水戰】川をせなに負ひ迫ることをせざる覺悟
をなしてたゝかふ。○〔後漢〕「乃」——」——」。

【戲】俗の戲の字。

【戟】猫に同じ、鳥の驚き飛ぶ貌にいふ字。

十三畫

𢦏 イク、オク。乙六切 屋

文章あるとゝつやあや。

戩 ヤン、モン。亡范切 豏

やいば〈刃〉。

戲 キ、ケ。香義切 寘

❶たはむる。
（い）もの言ひ興ゝて笑ふ。○〔禮〕「國」門之內」而不」歡」。
（ろ）嘲り笑ふ、おどけな言ふ。○〔詩〕「善——謔兮」。
（は）あそぶ〈遊〉。○〔詩〕「無敢——」。
（に）遊技を演ず。○〔家語〕「俳優侏儒」子前」。
❷たはむれ。
（い）たはむるゝこと。○〔國〕「與」吾之少也不」好」弄——」。
（ろ）演劇、伎樂、角抵、踏博、おどけ、べての遊技。○〔史〕「優倡侏儒爲」——」而前」。
❸義に通ず用ふ。○〔荀〕「文武之道同」虛——」。
❹隱に同じ族の屬。○〔史〕「諸侯罷——」下各就」國」。
❺かたむく〈傾側〉。○〔周〕「執披備」傾——」。
【戲】すたろくの勝負はより金銀をとりやりするあそび。○〔史〕「——」勝負也」。
【戲】小供のたはむれ。○〔史〕「孟嘗君」上殺門客——」——」。

【戲】みたらなるたはむれ。○〔呂〕「昭」——」。
【戲】もろ〳〵のたはむれ。○〔呂〕「——」——」。
【戲】あざけりたはむる。○〔史〕「——」——」。
【戲】物語りをしてたはむる。○〔國〕「書能——」——」。
【戲】すたろくのたはむれ。○〔宋〕「宋世」——」。
【戲】すたろくのたはむれ。○〔朝鮮紀〕「明」——」
【戲】——」——」。
【戲】——」——」。
【戲】——」——」。

（名）出入り口。穴。○（書）「…」。

（注）「…」。

（名）「…」。

（名）「…」。

（名

〔孤部〕已れの休息する〈や。○〔史〕「所」孤帝紀、不入―――。
〔同部〕同居する。○〔論〕「又孤事晩病公」―――。
〔同部〕異類に離かなる〈や。○〔論語〕――――寧異時。
〔尼部〕仏僧の住せる〈る〈や。○〔孟子〕隙御覽記〕
〔尼部〕はさぐりの巻。○〔後漢書〕「時―之」、
〔尼部〕水の隔ゑ光る。
〔尼部〕たがる沙りたる花ぶさ。○〔後漢書〕「時―之」、
〔尼部〕人なき〈や。○〔管子〕「時―――」。
〔尼部〕幸王の住み給ふつ所。○〔周都賦〕「―――殘以華殿」。
〔尼部〕蝦かき〈や。○〔七部〕「――――則冬屋蟬鈴」。
〔尼部〕休息せや。○〔論語〕「――――以樂息」。
〔尼部〕あをそも。○〔後漢書〕「下―――之歌謠」。
〔尼部〕物かわにまつる〈し〈や。○〔後漢書〕「――――歩」。
〔尼部〕―面夏炎。
〔尼部〕とぢりの遮れたる〈や。○〔組語〕「鼻―――」。
〔尼部〕高く〈ぶきとかにかたる〈や。○〔論貴安〕
〔尼部〕「六―――」。
〔尼部〕勢羅に飾れる〈や。○〔顧延之〕「夏以―――」。
〔尼部〕人に目立たぬやうまつら〈たる〈や。○〔後漢書〕
〔尼部〕幸王の住み給ふつ所。○〔周都賦〕「―――」。
〔尼部〕「―――察日晩」。
〔尼部〕かんばしき香を込めたる〈や。○〔後漢書〕
〔尼部〕「―――経検鳳使非新」。
〔尼部〕えるくとり住まひし〈や。○〔孝経〕「――――方
〔尼部〕野蛙蟬出」―――。
〔尼部〕物さびしき〈や。○〔社甫〕「―――蝙蝠飛」。

所 ショ、ソ。疏舉切 語

❶ところ。
（い）地域。位置。
（ろ）處在の位置。存在地。○〔左〕「其有憂乎非一歎―也」。
（は）力を一事に致すこと。○〔書〕「王敬爲レ―」。
（に）物事を指すにいふ字。○〔論〕「製―其―由」。
❷他よりまむけしをあらはす字。ちる。○〔史〕「―レ殺者白帝之子」。
❸程を示すに用ふる字。ほど、ばかり。○〔漢〕「父去里―復還」。
〔所部〕景色のすぐれたるところ。○〔後昭明太子〕「取雲遊兮豈―――」。
〔所部〕むかしのところ。○〔史〕「乘―舟―浮於江湖」。
〔所部〕すまひ。○〔陸龜蒙〕「回―――」。
〔所部〕すみかすまひ。○〔蘇軾〕「念昔―――近不―」。
〔所在所〕天子のかりのみや。○〔史〕「武帝時、微北治太守―――」。
〔矢石所〕矢石の飛ぶ戰場。○〔後漢〕「明日詔―――」。
〔一宿所〕一年ばかり。○〔史〕「帝取

【屢】タン、デン。丈陷切　圖

やのむね。屋上。

手　部

【手】シウ、シュ。青九切　圖

㊀て。

（い）肩さきより指までの總稱。又、其の各部の泛稱。○〔禮〕一頃一淫聲。

（ろ）ての動作。○〔左〕頃一淫聲。

（は）ふわざ、わざ。○〔抱朴〕一皆出二碩儒之思一故才士之一。

（に）人者。○〔晉〕一個爲一敵一。

㊁てに持つ。○〔公羊〕一レ劍而從レ之。

㊂てを加ふ。○〔司馬相如〕一二熊羆一。

㊃己がてにて、自から、てづから。○〔論〕一即一招レ譏。

〔擅手〕助けを藉又助けを請ふ。○〔晉〕一一于我一。

〔扶手〕（ろ）ものてをこまぬく。○〔禮〕正立一一。

（ろ）河のわたりをもなさるも、力を帶せざるも。○〔後漢〕天水隗囂一一自眼。

〔交手〕前條に同じ。○〔後〕鏖戰一一、年。

〔負手〕てを背にもつ。○〔後〕一一、踽踽。

〔彷手〕（い）て拱斷を設す。○〔後〕註〔呼〕彼不一一、慎之也。

（ろ）わざを發なさるも。○〔後漢〕「孫堅」平力、勿令一一。

〔十手〕強人のて。○〔禮〕一一所指。

〔舞手〕もろてをちゃめ入る、時にて、ふわざを謂さるとにいふ。○〔論語〕「一一舞雩」。

〔束手〕（い）てをたばる。○〔史〕父子者同、束縛一一。

（ろ）縛取する。○〔史〕所謂束手就擒、不一一。

〔舉手〕てをもつて出だすを、ふわざを比ぶ、又、拱手に同じ。○〔史〕韓信一一。

〔鼓手〕鼓樂く發なるにいふ。○〔後漢〕「韓吏一一」。

〔叉手〕てをかさねたるを。○〔左〕「敢不一一」以禦。

〔種手〕交手に同じ。○〔禮〕「一一相向」。

〔種手〕もろてに力をつけるを吐きかくるを、ふわざにもかゝるとにも、又、一番の氣力を發するにもいふ。○〔後漢〕「我謂一一而決」。

〔四手〕ふしきふわざ、わる者のふわざ。○〔禮〕「父死一一」。

〔素手〕色どろなして。○〔古詩〕「一一出一一」。

〔玉手〕たまの如きうつくしきて。○〔晉書〕「後一一一寢同宿」。

〔分手〕相別るゝこと。○〔論語〕「一一東城關」。

〔三手〕もろて。○〔後〕「一一保酒」。

〔兩手〕前に同じ。○〔杜牧〕「兩士拔一一」。

〔執手〕（い）兩の手をはとの如くに張ること。○〔後漢〕「一一而泣」。

〔執手〕（ろ）ての動くを張る。○〔史〕吳本紀「一一口義」。

〔洗手〕（い）手のてのはたらき。○〔史〕「以術九酬」。

〔宮手〕かもて。○〔禮〕「一一」。

〔宮手〕上手といふに同じ。○〔後漢書〕「將一一堅二城」。

〔異手〕前に同じ。○〔禮〕「有仮一一之作」。

〔佳手〕前に同じ。○〔後漢書〕「張士誠之妹、勝弁後之妹、亦成一一」。

〔眞手〕前に同じ。○〔國語見聞志〕「並一一」。

〔著手〕てをおろす、試し始めて、ふわざにかゝる。○〔後漢〕「一一皇一也」。

〔下手〕前に同じ。○〔陳琳三國〕「誠不如一一」。

〔精手〕鍛錬したるつもの。○〔後〕「王嘉傳」「敏百一一」。

〔名手〕名人といふに同じ。○〔史〕「蘇秦一一」、多所參考。

〔妙手〕前に同じ。○〔新語〕「命班倕之一一」。

〔仙手〕前に同じ。○〔書苑〕「鳴者中一一」。

〔介手〕歌をうたはす。○〔史〕「一一加鞭」。

〔抱手〕（い）ふかきうとゝ。○〔後〕「ふ知、不一一之一拳」。

（ろ）こに中に即たる上手。○〔後漢〕「一一有輪時」。

〔老手〕老練者。○〔後漢〕「一一王學」。

〔仙手〕てをかく。○〔晉書〕「一一捧神書」。

〔鼎手〕前に同じ。○〔後漢〕「一一清且鼎」。

〔鼎手〕さとくはやきて。○〔顧延之〕「視鑑夫之一一」。

〔鼎手〕てをうつ。○〔論語〕「一一一太平」。

〔鼎手〕てをかへす。○〔蔡眞〕「一一齊雷鼓」。

〔信手〕ての動くにまかす。○〔白居易〕「信一一種千株」。

〔拍手〕（い）た。○〔古詩〕「一一傾杯」。

〔重手〕五かき。○〔杜牧〕「詩人無一一」。

〔翻手〕てをうらがへす。○〔杜牧〕「一一作雲」。

〔隙手〕雲の中に入る如き、所有となるとにいふ。○〔杜牧〕「馬走一一吾」。

〔筆手〕詩人。○〔白居易〕「詩來一一在成都」。

〔鞭手〕てにかゝる。○〔白居易〕「皆記丹雘當一一」。

〔失手〕てをはづす。○〔蘇軾〕「戰罷一一」。

〔觀手〕ふたしくてをする。○〔范曄〕「蘇角賣花一一鼓」。

〔雙手〕兩のて。○〔楊億〕「疏又一一」。

〔赤手〕すて。○〔杜牧〕「一一降劉蕡」。

〔先手〕さきて、又、てを第一番にとろす。○〔宋〕「射策羅一一」。

〔水手〕舟師。○〔杜牧〕「優合無一一」。

〔袖手〕てをそでの中に入る、又、何事をも謂さるとにいふ時。○〔杜牧〕「一一其輕其時」。

〔急手〕てをいそがしく使ふ。○〔後漢書〕「一一疾口如鋼鉸」。

〔盛手〕てにあふれをきらす。○〔杜〕「宋人有善搏人者」。

〔左右手〕ひたりとみぎとのて、轉じて、補佐の官の義。○〔史〕「字文泰傳」「一一何胥」。

〔擯殺手〕事を明てに決せざるも、又、其の人。○〔禮〕「決事不一一明白、情則有情狀持」。「所謂可也、敢能無」。

〔造五屬種手〕長靖大作の詩文をつくる才、又、其の才あるも。○〔說苑〕「鑄治鑄造能器古文、消當鞭捶同、吾兄爲文如鑄一能草食、動蔡風同」而已、子之文無一一一一一一一一」。

〔才〕サイ、ザイ。昨哉切　灰　通下、材に作る。

（い）てをかく。○〔晉書〕「一一捧神書」。

（ろ）前に同じ。○傅休奕「撫一一一琴」。

（は）さとくはやきて。○顧延之「視鑑夫之一一一」。

（に）てをうつ。○〔論語〕「一一一太平」。

（ほ）てをかへす。○〔蔡眞〕「一一齊雷鼓」。

（へ）ての動くにまかす。○〔白居易〕「信一一種千株」。

（と）へた。○〔古詩〕「一一傾杯」。

（ち）五かき。○〔杜牧〕「詩人無一一」。

（り）てをうらがへす。○〔杜牧〕「一一作雲」。

（ぬ）前に同じ。○〔杜牧〕「馬走一一吾」。

（る）詩人。○〔白居易〕「詩來一一在成都」。

（を）てにかゝる。○〔白居易〕「皆記丹雘當一一」。

（わ）てをはづす。○〔蘇軾〕「觀罷一一」。

（か）ふたしくてをする。○〔范曄〕「蘇角賣花一一鼓」。

（よ）兩のて。○〔楊億〕「疏又一一」。

（た）すて。○〔杜牧〕「一一降劉蕡」。

（れ）さきて、又、てを第一番にとろす。○〔宋〕「射策羅一一」。

（そ）水手。舟師。○〔杜牧〕「優合無一一」。

（つ）てをそでの中に入る、又、何事をも謂さるとにいふ時。○〔杜牧〕「一一其輕其時」。

（ね）急手。てをいそがしく使ふ。○〔後漢書〕「一一疾口如鋼鉸」。

（な）てにあふれをきらす。○〔杜〕「宋人有善搏人者」。

（ら）左右手。ひたりとみぎとのて、轉じて、補佐の官の義。○〔史〕「字文泰傳」「一一何胥」。

（む）擯殺手。事を明てに決せざるも、又、其の人。○〔禮〕「決事不一一明白、情則有情狀持」。「所謂可也、敢能無」。

（う）造五屬種手。長靖大作の詩文をつくる才、又、其の才あるも。○〔說苑〕「鑄治鑄造能器古文、消當鞭捶同、吾兄爲文如鑄一能草食、動蔡風同」而已、子之文無一一一一一一一一」。

（ゐ）質性、たち、又、能力、はたらき。○〔孟〕「非二天之降一一殊一」。

㊁其のたちのもの、其のはたらきある人。○〔說苑〕「王將東面目指氣使以來一臣則聊養之一一至矣」。

㊂たち勝ぐれたるとはたらき多きこと。○〔左〕「臣不一一不一勝一其任一」。

㊃賢人、智者、即ち、たち勝ぐれたる人、はたらき多き者。○〔國〕「管子天下之一一也」。

㊄幾に通じ用ふ、わづかに。○〔晉〕「一一小富貴便操二人家事一」。

㊅裁に通じ用ふ。○〔戰〕「惟王一一之」。

（に）前に同じ。○〔史〕「西山將一一一」。

（ほ）前に同じ。○〔左〕「有三一一一」。

（へ）前に同じ。○〔後漢〕「帝子有一一一」。

（と）前に同じ。○〔史〕「年雖少歲一一一也」。

（ち）前に同じ。○〔後漢〕「國其有一一一」。

（り）前に同じ。○〔後漢〕「奇傑一一」。

（ぬ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（る）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（を）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（わ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（か）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（よ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（た）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（れ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（そ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（つ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ね）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（な）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ら）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（む）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（う）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ゐ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（の）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（お）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（く）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（や）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ま）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（け）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ふ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（こ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（え）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（て）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（あ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（さ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（き）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ゆ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（め）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（み）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（し）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ゑ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ひ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（も）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（せ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（す）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ん）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（自）自他非一一。○〔後漢〕「西山將一一一」。

（上）前に同じ。○〔左〕「有三一一一」。

（四）前に同じ。○〔杜牧〕「帝子有一一一」。

（日）くちを（のはたらき。○〔杜牧〕「帝子有一一一」。

（從）從人としてのはたらき。○〔後漢〕「一一有錄」。

（軍）文を作つくるはたらき。○〔史〕「帝書」「帝紀」「一一」。

（天）いみじきはたらき、又、其のはたらきある人。○〔禮〕「此人有一一一」。

（天）うるはしつを、又、うるはしつきのはたらき。○〔禮〕「乃曰一一也」。

（鑑）劣れるたち、劣きはたらき、又、其の人。○〔史〕「帝王紀」「常自目指一一一」。

〔秀才〕（い）すぐれたるはたらき、すぐれたるたち、又、其の人。○〔史〕「聞北一一一」「孫臏門下」。

（ろ）古昔、文部にて人を採るに各地より舉問才能の勝れたるものを撰び出だしめ試驗して舉用するもの、漢。○〔禮〕「凡一一一試方略策五道、以考之」「周」「鄭」「上、女、上中、上下、中上、凡四等」「孟」「鄭」。

〔獄才〕はたらきをかぬし見る。○〔後漢〕「陝平一一」。

〔雋才〕はたらきを獄の中にあるとはし出だす。○〔後漢〕「孟嘗傳」「一一陳己」。

〔賢才〕眞正のはたらき、又、たち。○〔禮〕「君無一一」。

〔鑑才〕疾く走るもの。○〔禮〕「太宗謂一一一」。

〔樂才〕うるはしきたち、又、はたらき、其の人。○〔禮〕「一一一樂出」。

〔數才〕すぐれたるはたらき。○〔晉崎別傳〕「持御一一」「蔡詩雪讀之間」。

〔成才〕はたらきを完全ならしめたるたち、又、其の人。○〔晉崎別傳〕「持御」「一一」。

〔明才〕くもりなきたち、事の理非を辨ずるはたらき。○〔晉崎別傳〕「既有一一一」。

〔無才〕はたらきなし。○〔史〕「一一不敏」。

〔俊才〕なみのたち、平凡なるはたらき、又、其の人。○〔十六國春秋〕「世非一一一」。

〔異才〕ときたち、ときはたらき、又、其の人。○〔陶〕「一一不逢世」。

〔好才〕前に同じ。○〔文心雕龍〕「世非明哲、可謂一一一」。

〔奇才〕前に同じ。○〔文心雕龍〕「世非明哲、可謂一一一」。

〔才才〕はたらきを多きも。○〔文心雕龍〕「制理以一一一」。

〔用才〕はたらきあるものを役に立たす。○〔陶〕「學者慎一一」。

〔愛才〕すぐれたるたち、すぐれたるはたらき、又、其の人。○〔論語〕「一一一學子以謂士」。

〔識才〕前に同じ。○〔稽賀王〕「五朝引一一一」。

〔達才〕大才に同じ。○〔新語〕「一一報河源」。

〔達才〕ものはたらき、さときはたらき、又、其の人。○〔宋之問〕「獄廟仰一一一」。

〔達才〕日ごとのはたらき。○〔李白〕「嘆然有一一」。

〔達才〕才芝しきも、又、其の人。○〔杜甫〕「一一國所敬」。

〔才才〕（い）すぐれたるはたらき、すぐれたるたち、又、其の人。○〔史〕「聞北一一一」「孫臏門下」。

（ろ）古昔、文部にて人を採るに各地より舉問才能の勝れたるものを撰び出だしめ試驗して舉用するもの、漢。○〔禮〕「凡一一一試方略策五道、以考之」「周」「鄭」「上、女、上中、上下、中上、凡四等」「孟」「鄭」。

（は）はたらきをかぬし見る。○〔後漢〕「陝平一一」。

（に）はたらきを獄の中にあるとはし出だす。○〔後漢〕「孟嘗傳」「一一陳己」。

（ほ）眞正のはたらき、又、たち。○〔禮〕「君無一一」。

（へ）うるはしきたち、又、はたらき、其の人。○〔禮〕「一一一樂出」。

（と）すぐれたるはたらき。○〔晉崎別傳〕「持御一一一」「蔡詩雪讀之間」。

（ち）はたらきを完全ならしめたるたち、又、其の人。○〔晉崎別傳〕「持御」「一一」。

（り）くもりなきたち、事の理非を辨ずるはたらき。○〔晉崎別傳〕「既有一一一」。

（ぬ）はたらきなし。○〔史〕「一一不敏」。

（る）なみのたち、平凡なるはたらき、又、其の人。○〔十六國春秋〕「世非一一一」。

（を）ときたち、ときはたらき、又、其の人。○〔陶〕「一一不逢世」。

（わ）前に同じ。○〔文心雕龍〕「世非明哲、可謂一一一」。

（か）前に同じ。○〔文心雕龍〕「制理以一一一」。

（よ）はたらきあるものを役に立たす。○〔陶〕「學者慎一一」。

（た）すぐれたるたち、すぐれたるはたらき、又、其の人。○〔論語〕「一一一學子以謂士」。

（れ）前に同じ。○〔稽賀王〕「五朝引一一一」。

（そ）大才に同じ。○〔新語〕「一一報河源」。

（つ）ものはたらき、さときはたらき、又、其の人。○〔宋之問〕「獄廟仰一一一」。

（ね）日ごとのはたらき。○〔李白〕「嘆然有一一」。

（な）才芝しきも、又、其の人。○〔杜甫〕「一一國所敬」。

〔扶手〕（い）てをかぬ。○〔晉書〕「一一捧神書」。

（ろ）前に同じ。○傅休奕「撫一一一琴」。

（は）さとくはやきて。○〔顧延之〕「視鑑夫之一一一」。

（に）てをうつ。○〔論語〕「一一一太平」。

（ほ）てをかへす。○〔蔡眞〕「一一齊雷鼓」。

（へ）ての動くにまかす。○〔白居易〕「信一一種千株」。

（と）前に同じ。○〔古詩〕「一一傾杯」。

（ち）五かき。○〔杜牧〕「詩人無一一」。

（り）てをうらがへす。○〔杜牧〕「一一作雲」。

（ぬ）前に同じ。○〔杜牧〕「馬走一一吾」。

（る）詩人。○〔白居易〕「詩來一一在成都」。

（を）てにかゝる。○〔白居易〕「皆記丹雘當一一」。

（わ）てをはづす。○〔蘇軾〕「觀罷一一」。

（か）ふたしくてをする。○〔范曄〕「蘇角賣花一一鼓」。

（よ）兩のて。○〔楊億〕「疏又一一」。

（た）すて。○〔杜牧〕「一一降劉蕡」。

（れ）さきて、又、てを第一番にとろす。○〔宋〕「射策羅一一」。

（そ）水手。舟師。○〔杜牧〕「優合無一一」。

（つ）てをそでの中に入る、又、何事をも謂さるとにいふ時。○〔杜牧〕「一一其輕其時」。

（ね）急手。てをいそがしく使ふ。○〔後漢書〕「一一疾口如鋼鉸」。

（な）てにあふれをきらす。○〔杜〕「宋人有善搏人者」。

（ら）左右手。ひたりとみぎとのて、轉じて、補佐の官の義。○〔史〕「字文泰傳」「一一何胥」。

（む）擯殺手。事を明てに決せざるも、又、其の人。○〔禮〕「決事不一一明白、情則有情狀持」。「所謂可也、敢能無」。

（う）造五屬種手。長靖大作の詩文をつくる才、又、其の才あるも。○〔說苑〕「鑄治鑄造能器古文、消當鞭捶同、吾兄爲文如鑄一能草食、動蔡風同」而已、子之文無一一一一一一一一」。

（ゐ）質性、たち、又、能力、はたらき。○〔孟〕「非二天之降一一殊一」。

㊁其のたちのもの、其のはたらきある人。○〔說苑〕「王將東面目指氣使以來一臣則聊養之一一至矣」。

㊂たち勝ぐれたるとはたらき多きこと。○〔左〕「臣不一一不一勝一其任一」。

㊃賢人、智者、即ち、たち勝ぐれたる人、はたらき多き者。○〔國〕「管子天下之一一也」。

㊄幾に通じ用ふ、わづかに。○〔晉〕「一一小富貴便操二人家事一」。

㊅裁に通じ用ふ。○〔戰〕「惟王一一之」。

（に）前に同じ。○〔史〕「西山將一一一」。

（ほ）前に同じ。○〔左〕「有三一一一」。

（へ）前に同じ。○〔後漢〕「帝子有一一一」。

（と）前に同じ。○〔史〕「年雖少歲一一一也」。

（ち）前に同じ。○〔後漢〕「國其有一一一」。

（り）前に同じ。○〔後漢〕「奇傑一一」。

（ぬ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（る）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（を）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（わ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（か）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（よ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（た）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（れ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（そ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（つ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ね）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（な）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ら）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（む）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（う）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ゐ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（の）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（お）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（く）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（や）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ま）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（け）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ふ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（こ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（え）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（て）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（あ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（さ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（き）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ゆ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（め）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（み）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（し）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ゑ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ひ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（も）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（せ）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（す）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

（ん）前に同じ。○〔後漢〕「有一一一」。

【手】

サツ、サチ。側八切　黠

ぬく（拔）。

振に同じ。

尖の本字。

【扌】

ホウ、フ。匹儵切　宥

たゝく（扣）。

【扌】

ハイ、ヘ。布怪切　卦

ぬく、拔。○〔元包經〕「拔一戶一氏」。

【扌】

ハツ、ボチ。布拔切　黠　一に捌に作る。

㊀やぶる（破）。㊁うつ（打）。

【扌】

ヘツ、ベチ。彼列切　屑

削分す、さく。

【扌】

古文の巧の字。

【打】

テイ、チヤウ。都挺切　迥

うつ、たゝく（擊）。○〔宋〕「與レ人相一」。

（鼓）激しくうつ。○〔史〕「起南鼓一一之」。

（鼓）なぐりうつ。○〔禮〕「手加一一」。

（鼓）むちうつ。○〔禮〕「一一之無刑」。

（擊）手もてうつ。○〔禮〕「鼓巷一一」。

（擊）むちうつ。○〔史〕「鼓不前一一」。

（鼓）調樂なくみ定れたるく。○〔林賦〕「鼓擊一一金鼓鼓」。

【打】

タ、テ。都瓦切　馬

㊀うつ、たゝく（擊）。○〔北〕「以五瓦右一擊一一公門」。

㊁鞠を蹋る、ける。○〔蹴鞠譜〕「每人兩踢名二一二」。

㊂動作をあらはす文字に冠らせ用ふる無意味の助字。○〔宋〕「并行一一量庶幾杜三絕侯貫之鄭」。

【扔】

ジヨウ、ニヨウ。如燕切　圖　一に拔に作る。

扐 シヤク。職略切 藥
横合ひより擊つ、うつ。

扐 ヤク、アク。乙却切 藥
手の指の節の文、あや。

扐 レキ、リヤク。狠敵切 錫
おさふ（接）。

扛 カウ、古雙切 江 カウ居郎切 唐
兩手をさし向かひにして物を擧ぐ、人と人とさし向かひにて物を擧ぐ、かゝへあぐ、あぐ。〇（史）「籍長八尺、餘力能レ鼎」。

扛 ウ。憧俱切 虞
頻に同じになふ。

扛 コ。空胡切 虞
あぐ（揚）。

扥 チ。汪胡切 虞
ひく（引）。

扞 カン。侯幹切 翰
〔一〕ふせぐ、ふせぎ（拒）。〇（漢）「手足之」一頭自二。
〔二〕まもる、まもり（衛）。〇（左）「親帥一レ之」。
〔三〕もとる、（枝）、あたる、（抵）。〇（禮）「發然後禁則一格而不レ勝」。
〔四〕戰に通ト用ふ、こて、臂衣。〇（漢）「被三鎧一持三刀兵二」。
〔五〕鋒に通ト用ふ、いしづき、矛鋒。〇（駁）「蹂讓刃二其一」。
〔六〕（扞）ふせぐ、ふせぐ。〇（後漢）「蹂躪刃二其一」。
〔七〕（扞）前に同じ。〇（後漢）「……鄧志」。
〔八〕（扞）前に同じ。〇（北）「……」。
〔九〕（扞）敵對してふせぐ、ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔十〕（扞）打ち擊ちふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔十一〕（扞）捲ひふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔十二〕（扞）たすけまもる。〇（後漢）「……」。
〔十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔十五〕（扞）防ぎ、ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔五十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔五十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔五十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔五十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔五十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔五十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔五十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔五十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔五十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔五十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔六十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔六十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔六十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔六十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔六十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔六十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔六十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔六十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔六十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔六十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔七十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔七十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔七十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔七十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔七十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔七十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔七十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔七十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔七十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔七十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔八十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔八十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔八十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔八十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔八十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔八十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔八十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔八十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔八十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔八十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔九十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔九十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔九十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔九十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔九十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔九十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔九十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔九十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔九十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔九十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百二十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百二十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百二十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百二十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百二十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百二十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百二十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百二十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百二十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百二十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百三十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百三十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百三十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百三十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百三十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百三十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百三十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百三十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百三十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百三十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百四十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百四十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百四十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百四十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百四十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百四十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百四十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百四十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百四十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百四十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百五十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百五十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百五十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百五十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百五十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百五十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百五十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百五十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百五十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百五十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百六十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百六十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百六十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百六十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百六十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百六十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百六十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百六十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百六十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百六十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百七十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百七十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百七十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百七十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百七十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百七十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百七十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百七十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百七十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百七十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百八十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百八十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百八十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百八十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百八十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百八十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百八十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百八十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百八十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百八十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百九十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百九十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百九十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百九十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百九十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百九十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百九十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百九十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百九十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔百九十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百二十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百二十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百二十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百二十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百二十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百二十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百二十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百二十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百二十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百二十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百三十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百三十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百三十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百三十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百三十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百三十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百三十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百三十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百三十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百三十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百四十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百四十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百四十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百四十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百四十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百四十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百四十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百四十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百四十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百四十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百五十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百五十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百五十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百五十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百五十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百五十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百五十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百五十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百五十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百五十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百六十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百六十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百六十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百六十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百六十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百六十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百六十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百六十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百六十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百六十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百七十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百七十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百七十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百七十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百七十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百七十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百七十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百七十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百七十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百七十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百八十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百八十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百八十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百八十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百八十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百八十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百八十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百八十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百八十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百八十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百九十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百九十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百九十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百九十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百九十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百九十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百九十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百九十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百九十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔二百九十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百二十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百二十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百二十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百二十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百二十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百二十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百二十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百二十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百二十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百二十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百三十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百三十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百三十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百三十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百三十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百三十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百三十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百三十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百三十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百三十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百四十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百四十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百四十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百四十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百四十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百四十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百四十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百四十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百四十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百四十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百五十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百五十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百五十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百五十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百五十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百五十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百五十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百五十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百五十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百五十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百六十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百六十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百六十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百六十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百六十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百六十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百六十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百六十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百六十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百六十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百七十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百七十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百七十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百七十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百七十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百七十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百七十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百七十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百七十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百七十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百八十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百八十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百八十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百八十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百八十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百八十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百八十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百八十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百八十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百八十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百九十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百九十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百九十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百九十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百九十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百九十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百九十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百九十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百九十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔三百九十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百二十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百二十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百二十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百二十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百二十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百二十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百二十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百二十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百二十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百二十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百三十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百三十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百三十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百三十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百三十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百三十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百三十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百三十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百三十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百三十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百四十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百四十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百四十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百四十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百四十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百四十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百四十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百四十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百四十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百四十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百五十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百五十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百五十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百五十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百五十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百五十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百五十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百五十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百五十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百五十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百六十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百六十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百六十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百六十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百六十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百六十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百六十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百六十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百六十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百六十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百七十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百七十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百七十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百七十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百七十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百七十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百七十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百七十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百七十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百七十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百八十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百八十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百八十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百八十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百八十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百八十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百八十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百八十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百八十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百八十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百九十〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百九十一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百九十二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百九十三〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百九十四〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百九十五〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百九十六〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百九十七〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百九十八〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔四百九十九〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔五百〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔五百一〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）「……」。
〔五百二〕（扞）ふせぐ。〇（後漢）

〔鍵技〕鍵方よりたすく。○〔爲〕「爲」字は兩人！！以立。
〔突技〕敵に對し。○〔爲〕「爲」二人！！。
〔篤技〕近づきたすく。○〔爲〕「篤」！！升車。
〔嚮技〕手づからたすく。○〔化書〕「！！上馬」。
〔講技〕たすく。○〔眞德秀〕「勢」力相！！。
〔富技〕力を合せたすく。○〔宋史〕「天人！！」。
〔天技〕上帝のたすけ。○〔社牧〕「！！藩臣」。
〔官技〕神明のくすしきたすけ。○〔令狐德棻〕「！！匠」。

扶 ホ。蓬逋切 虞
御に同じ、ばらばふ。○〔禮〕「！！服敘之」。

扞 俗の析の字、わく、わかる。○〔揚雄〕「常變錯故百事！！」。

拼 折に同じ、をる。○〔元包經〕「！！典之！！」。

牲 シヤウ、サウ。貴良切 陽
たすく（扶）。

批 ヘイ。篇迷切 齊 ヒ。普弭切 紙
❶手にて擊つ、うつ。○〔左〕「！！而殺之」。
❷おす（推）、又、まろばす（轉）。○〔書傳〕「會！！之六・珍」。
❸ためす（示）、又、ためす（署）。○〔唐〕「制・敕有不レ便者、黃紙後！！レ之」。
❹奏表の末尾に署する勅答。○〔谷響集〕「帝・皇勅答謂二之！！者」。
❺伺書の末尾に署する指令。○〔訓蒙字會〕「上・司・以二公・事一題二下・司文尾一曰レ！！」。
❻文書の末尾に署する評言。○〔書史〕「有二兩・行謝・安！！」。
❼邪正適否の點檢、まらべあらため。○〔大明律〕「越・過！！・輸・所者。
❽善惡美醜の判定、ほんだん、まなさだめ。○〔樂郊私語〕「揚（廉夫）運・筆！！選」。

批 ヘイ。篇迷切 齊
剃に通じ用ふ、そぐ。○〔杜甫〕「竹！！蟬・耳唳」。

批 ヒ、ヒ。頻脂切 支
琵に通じ用ふ。○〔風俗通〕「！！把近世樂家所作、以レ手！！把因以爲レ名」。

批 ヘツ、ベチ。蒲結切 屑
隔れ擊つ、排し擊つ、うつ。○〔史〕「！！充擣レ虛」。

抵 シ。掌氏切 紙
側より擊つ、擊ちて殺る、うつ、やぶる。○〔揚雄〕「！！穰侯二而代レ之」。

抵 キ、ギ。翹移切 支
手を擬して期を刻すること。

扶 シ。側吏切 置 セツ、子結切 屑
髮を治めつくろふ、なさむ。○〔莊〕「簡レ髮而！！、數レ米而炊」。

扶 櫛に同じ。

扶 カン、コン。苦感切 感
古文の損の字。

扶 カン、コン。苦感切 感
うつ、たたく、擊。

扼 アク、ヤク。乙革切 陌 本、搦に作る。
❶扼に同じ、とりひしぐ、おさふ。○〔漢〕「力！！レ虎射命中」。
❷軛に同じ、くびき。○〔呂〕「加レ之以二衡！！」。

拥 ダン、ドン。他含切 覃
井ぜ持つ、もつ。

拥 ゼン、如占切 鹽 ダン、那含切 覃
もつ、持。

抛 トン、ドン。都困切 願
❶うごかす、撼。❷ひく（引）。
❸する（擲）。

找 クワ、ゲ。胡瓜切 麻
刻に同じ、竿を用ひて船を撥き進む。きをさす、ひらく、すゝむ。

找 サウ、セウ。（俗音）。
不足を補ふ、たらはす、たす。

承 ショウ。署陵切 蒸
❶うく。
（い）迎へ取る。○〔禮〕「！！天之祐」。
（ろ）さゝぐ。○〔詩〕「！！筐是將」。
（は）うけたまはる。○〔左〕「！！寡君之命」以請」。
（に）次ぐ。○〔國〕「魏・射爲レ右以！！レ公」。
（ほ）繼ぐ。○〔易〕「開國！！家」。
（へ）順ひ守る。○〔禮〕「弟・子敢不レ！！乎」。
（と）戰く。○〔易〕「萬物資生、乃順！！レ天」。
（ち）事ふ。○〔左〕「將レ！！三王宮」何故役！！諸侯」。
（り）聽す。○〔左〕「御！！玉見客免」冑！！レ命曰」。
❷順次、ついで。○〔左〕「同盟！！子平丘、子產爭！！」。
❸うくること、うくるもの、うけ。○〔賈傳〕「庶人有三石！！」。
❹丞に通ト用ふ、たすく、たすけ。○〔左〕「楚右・司馬子國帥レ師而行、請レ！！」。
❺とゞむ（止）。○〔詩〕「則莫！！我敢！！」。
（は）長しみてうく。○〔後語〕「敢不！！！！」。
（ろ）前に同じ。○〔禮〕「！！子學」。
（に）先生より教（をうくるも。○〔賈誼〕「五學無！！！！」。
（ほ）次ぎ守る。○〔禮〕「！！先王、修其禮樂」。
（へ）うく。○〔左〕「！！以來、魯敢失國」。
（と）そな（さゝぐ。○〔禮〕「！！雜料、備！！修學館」。
（ち）兩方よりかけさゝぐ。○〔左〕「輔・紀者、！！之」。
（り）發若にてあとを續ぐ。○〔禮記〕「師以！！弗出！！」。
（ぬ）つゝしみてうく。○〔禮記〕「！！有人質」。
（る）集めうく。○〔後語〕「！！大業」。
（を）慎ひうく。○〔後語〕「！！事典」。
（わ）むかへうく。○〔後語〕「上有！！之敬」。
（か）とりうく。○〔後語〕「！！先軍」。
（よ）順序によりて受けつぐ。○〔呂〕「！！祝聲」。
（た）招寄をうく。○〔禮〕「！！計業」。
（れ）受くべからざる特別にうく。○〔禮記〕「！！恩」。
（そ）のゝうく。○〔禮記〕「！！祿」。
（つ）うく。○〔史〕「！！不祿」。
（ね）繼き繼ぐ。○〔後漢書〕「！！祿」。
（な）うけたまはる。○〔高貴鄉公顏子論〕「！！說」。
（ら）修る。○〔後漢文紀〕「當！！甲賢」。

〔仰承〕あゝ甘うく。○〔史約〕「！！元首」。
〔承ム〕つぎ〳〵に傳（うく。○〔韓愈〕「擊手・神旗、翠々！！」。
〔繼承〕へつらひ隨ふ。○〔韓愈〕「振・皆！！」。
〔襲承〕うく。○〔韓愈〕「可・以！！天意」。
〔戰承〕のゝとりうく。○〔呂覽〕「！！！！訓・師」。
〔尊承〕崇びうく。○〔管子〕「！！六法」。

承 拼に通ト用ふ、すくふ。○〔列〕「使下弟子並レ流而！！之」。

技 キ、ギ。巨綺切 紙
わざ、たくみ。
（い）巧機、さいく。○〔禮〕「作二奇！！奇器」以疑レ衆」。
（ろ）藝術。○〔荀〕「故百！！所レ成、所三以養二！！人」。
（は）才能。○〔書〕「斷々分撫二他！！」。
〔藝技〕術わざ。○〔史〕「始可・皇臣！！！！」。
〔長技〕たけたるわざ。○〔國〕「知・叔之！！！！三」。
〔務技〕わざを眞にす、又、ことにすぐれたるわざ。
〔後技〕わざ。○〔禮記〕「文章本！！！！」。
〔小技〕こまやかなる藝。○〔社甫〕「文章本！！！！」。
〔絕技〕ことなく勝れたるわざ。○〔後漢〕「孫・家！！！！於師友」。
〔末技〕物の用に立つこと少きわざ。○〔孫子〕「！！之術・動物謀」。
〔方技〕醫術などの類にいふ語。○〔呂〕「藥・於醫！！」。
〔手技〕手わざ。○〔國〕「有！！！！作」。
〔書技〕ふゝ竹管筆のわざ。○〔國〕「有・驚色！！！！」。
〔駿技〕能に同じ。○〔呂〕「未嘗以！！！！」。
〔靈技〕藝を賣りて生活するもの。○〔史〕「！！朝而！！百金」。
〔巧技〕たくみなるわざ又、わざ。○〔管〕「！！！！手・奇器・飾・奇器」。
〔善技〕くさ〳〵のわざ。○〔呂〕「國・神・策・時宜！！！！」。
〔馬技〕曲馬などの類。○〔史〕「有・弄・丸・師子！！！！・百伎」。
〔心技〕心のわざ。○〔韓愈〕「心・技・盡！！」。
〔顯技〕たくみの藝をゝの思ふまゝになす。○〔京都賦〕「秘・材！！」。
〔秘技〕たくなるわざ。○〔梁昭明太子〕「巴・陵才！！！！」。
〔才技〕わざ。○〔阮籍〕「多！！！！其・何」。
〔藝技〕わざ。○〔國語〕「才・練！！！！」。「末」。
〔錄技〕下等のわざ。○〔江淹〕「錄・三五！！！！」。
〔當技〕女學のわざ。○〔江淹〕「當・當！！！！」。
〔庶職技〕職を仕ふるわざ、即ち、無用のわざ、いふ語。○〔莊〕「宋・汪・漢學！！！！於支離益！！成而師所用之巧」。
〔雜技〕はやがはりのわざ。○〔拾遺記〕「有・秦・雜技・北人善能・變化・異形狀・眩・神怪・殊・恐・倒・技」。
〔藝技〕さかさ立ちして舞ふわざ、「高・技」技の類なるもの類、「鋼・輪・技」わざはしの類、「逸・三・技」樂子を行而・倒者也。！！！！し・藝今之・倒、行而・倒者也。！！！！し・藝今之・倒・逸・飛・者也。！！！！し・藝今之・逸・飛・者也。
〔樂末技〕かるわざ。○〔張衡〕「！！之！！・末」。
〔心技〕心のわざ。○〔韓愈〕「心・技・盡！！」。
〔顯技〕たくみの藝をゝの思ふまゝになす。○〔京都賦〕「秘・材！！」。
〔秘技〕たくなるわざ。○〔梁昭明太子〕「巴・陵才！！！！」。
〔才技〕わざ。○〔阮籍〕「多！！！！其・何」。
〔藝技〕わざ。○〔國語〕「才・練！！！！」。「末」。
〔錄技〕下等のわざ。○〔江淹〕「錄・三五！！！！」。
〔當技〕女學のわざ。○〔江淹〕「當・當！！！！」。
〔庶職技〕職を仕ふるわざ、即ち、無用のわざ、いふ語。○〔莊〕「宋・汪・漢學！！！！於支離益！！成而師所用之巧」。
〔雜技〕はやがはりのわざ。○〔拾遺記〕「有・秦・雜技・北人善能・變化・異形狀・眩・神怪・殊・恐・倒・技」。
〔藝技〕さかさ立ちして舞ふわざ、「高・技」技の類なるもの類、「鋼・輪・技」わざはしの類、「逸・三・技」樂子を行而・倒者也。！！！！し・藝今之・倒、行而・倒者也。！！！！し・藝今之・逸・飛・者也。！！！！し・藝今之・逸・飛・者也。
〔樂末技〕かるわざ。○〔張衡〕「！！之！！・末」。

技 キ、ギ。切翹移 支 奇寄 寘
端しからず。

拝 扑に同ト。

拝 ハウ、ボウ。部項切 講
うつ（打）。

抗 エン。以轉切 銑 キ。ユキ。愈水切 紙 セン。粗兗切 銑
❶はかる（揣）。
❷うごく、うごかす（動）。

抗 エン。愈絹切 霰 エイ、愈芮切 霰
うごく、うごかす（動）。

抂 キヤウ、ガウ。渠王切 陽
一！！攘は、亂るゝ貌にいふ語。

抂 ヘン、ベン。皮變切 霰
兩手相拍つ、てをうつ、てをたゝく、たたくうつ。○〔魏〕「能・言之倫莫レ不二！！舞」。
（い）丞みて手をうつ。○〔柳宗元〕「！！前」。
（ろ）うたをうたひ拍子をとりて手をたゝく。○〔禮〕「尊・天卑・地・勝不！！！！」。
（は）踊り且手をうつ。○〔宋〕「樂・鼓！！！！」。
（に）手をたゝく。○〔孔叢子〕「小人！！！！」。
（ほ）上を向きて手をうつ。○〔成公綏〕「嘯！！而抗・首」。
（へ）村人の手を打ち歌ひはやすこと。○〔陶・趙〕「學歌！！！！」。
（と）よろこびて手をたゝく。○〔鍾馗〕「！！失國」。
（ち）てを打つ。○〔梁・馬〕「！！目顧・笑」。

抂 ヘン、ボン。方煩切 元
連ーは、まなやかに廻る貌にいふ語。

抂 バウ、莫報切 號 芒に通ト作る。
えらぶ（擇）。

抄 サウ、楚交切 肴 本、鈔に作る。
（い）點にて取る、すくふ。○〔韓愈〕「點！！爛・飯二種送レ之」。
（ろ）掠略す、かすむ。○〔魏註〕「！！！！略諸郡」。
（は）勝寫す、書き拔く、うつす。○〔晉〕「手自！！寫」。
〔手抄〕手づからうつす。○〔禮〕「書！！！！六經」。
〔刺抄〕あゝけてうつす、又、世ずかすむ。○〔史〕「又！！修百・篇十三・卷」。
〔鈔抄〕書をあつめて寫す。○〔史〕「東・南・書！！！！千・卷」。
〔詩抄〕詩を故を書きしたるもの。○〔史〕「家・與・弁！！！！上之」。
〔錄抄〕人知れずにとる。○〔史〕「力！！！！而歌・猶之」。
〔類抄〕似寄りたるものを寄せ集めて書きとる。○〔題紫絕〕「人・而成・變・以！！！！」。
〔傳抄〕先より先へとつたへてとる。○〔隋書〕「十・手！！！！長・不・供」。
〔錄抄〕たゞかりてとる。○〔晉〕「詩・雅・歌・風！！！！之」。
〔密抄〕ひそかに盜み取る。○〔史〕「！！！！宮」。
〔侵抄〕犯しとる。○〔國〕「！！！！國」。

抄 サウ、楚絞切 巧 初教切 效
掠略す、かすむ。

抄 サ。桑何切 歌
抄に同ト、もむ。

抄 シツ、シチ。子悉切 質 セツ、セチ。
子列切 屑 或は、擬に作る。
つむ、摘。

拘 俗の拘の字。

抗 仿髣に同ト。

抗 搒に同ト。

抵 クワ、ゲ。許誇切 麻 ダ、徒禾切 歌
さく（搦）。

扼 ブン、武粉切 吻 文運切 問
のこふ。〔抵〕又、する。〔驟〕。○〔唐〕「居レ官久来三曹」「飾器用車服」。

扫 コツ、ゴチ。胡骨切 月
㊀物を牽き曳す、うごかす、ころばす。○〔柳宗元〕「掎」「泥淖」。
㊁撙に同じ、あばく、ほる、みだる、やぶる。○〔荀〕「一入之墓」。

扫 クツ、クヲチ。其月切 月
掘に同じ、ほる。○〔列〕「一其谷一而得一其鉄」。

拐 ゲツ、クヲチ。五括切 曷
㊀ゐる〔折〕。○〔揚雄〕「車軸折其衡」。
㊁うごく、うごかす〔動〕。○〔國〕「其匠本也固矣故不可レ」。

抉 エツ、於悅切 ケツ、ケチ。切 屑
㊀剔き抉る、さくみだす、くりとる、えぐる。○〔左〕「以レ杙一其傷一而死」。
㊁挑發す、あばく、かゝぐ。○〔柳宗元〕「棉」「過失」。
〔説文〕くじる。○〔錯志〕「卓論」「」。
〔廣韻〕探しくじる。○〔錯志〕「」「」「」

㊃斷定す、さだむ。○〔易〕「无二敢—一」獸。

㊄年少にして死ぬるを、はやしに、一說に、未だ結婚する年ばへに至らずして死ぬるを。○〔書〕「二日凶短—」。

㊅父より其の子の死ぬるにいふ字。○〔漢〕「兄喪」弟曰レ—、父喪」子曰レ—」。

㊆草木の枯れそこなふを。○〔漢〕「人曰レ凶、禽獸曰レ殂、草木曰レ—」。

㊇地を封り上げたる祭場。○〔禮〕「瘞二埋于泰—一」。

㊈木を方形に連れて牀の如く作りたる葬具、壙に横たへ亙して上に席を加ふるもの。○〔儀〕「—横覆レ之」。

〔方折〕四角にをれまがる。○戸子、水部折省有後—。—省有法。

〔圓折〕まるかにをれまがる。○鐵延先、手部鑑—。

〔鑑〕「立剛—」—面鑑。

〔眞折〕身のとりなし。○周眞常、「—」—專和翻。

〔曲折〕（ち）をまがり。○袁宏、賞病賦「包」—舉翻。

（ち）轉じてくはしきとの義に借りいふ語。○〔史〕「百姓知其—」。

〔九折〕多くまがりくねりたる路、つまりをり。○〔張〕「王陵廟」—。

〔屈折〕力のがおとる。○〔史〕「勝敗—」、東民皆患苦之。

〔朝折〕そこなひやぶる。○〔史〕「欲レ—」—北狄」。

〔摧折〕推し挫けおさえ。○〔漢〕「—」—勢摧」。

〔折折〕くじく。○〔漢〕「無不—」。

〔挫折〕前に同じ。○〔後漢〕「摩兵」—」。

〔非折〕そしりくじく。○〔後漢〕「夏相」—」。

〔判折〕わかちさだむ。○〔後漢〕「—」—獄」。

〔除折〕けはしくしてをれまがる。○〔後漢〕「路險」—」。

〔眞折〕かやむ。○〔白居易〕「—」—孤生竹」。

〔天折〕わかかに。○〔史〕「華岡有上智之才而」—」。

〔盛折〕なたしいおおさま。○〔吳越春秋〕「發論學」—」。

〔參折〕まがりくねる。○〔水經〕「巴」、二十里中、—五曲」。

〔逆折〕うつぶきめくる。○〔上林賦〕「—」。

〔好折〕うねりまがる。○〔張衡〕「舞綺宜」、「—」。

〔百折〕あまたへびをれかやむ。○〔蘇軾〕「有」—不撓」。

〔摧折〕をりとる。○〔十洲記〕「—」。

〔傷折〕まつはるまがる。○〔李白〕「千歲伴」—」。

〔阻折〕（たゝ）りまがる。○〔李白〕「征軒今駐」—」。

〔蘇折〕ぬゝりまがる。○〔白居易〕「—」—面眼鏡」。

〔眩折〕すりをる。○〔白居易〕「被天」—」、作詩人」。

〔輾折〕うちやぶる。○〔杜牧〕「—」—河朔強藩之衆」。

〔審折〕たれをる。○〔杜牧〕「明角長」—」。

〔綾折〕けはしくしてうねりまがる。○〔余靖〕「山—」。

〔困折〕苦しみかやむ、くるしみくたく。○〔蘇軾〕「—」—於蒲風之外」。

〔約折〕かがまりをる。○〔鑑誡〕「呼吸」—」。

〔駁折〕くじく。○〔周〕「巾車」—」。

〔膠折〕秋氣至れば、にはをれたつをもて秋の節至れるにかりいふ語。○〔蘇世南〕「秋砧發」—」。

〔挽折〕とじくをる。○〔後漢〕「—」—樓樓」。

〔審折〕かみくじく。○〔後漢〕「—」—舊之」。

〔脫折〕ぬけくじく。○〔高枕〕「高臥」—」。

〔摧折〕くたけくじくくたきくじく。○〔水經〕「芒砀」—」。

〔折折〕屈れてをる。○〔白居易〕「家鎖」—」、「—」。

〔撥折〕おとろくじく。○〔蘇子瞻〕「置書給之」—」。

〔結折〕おれはてゝくじく。○〔杜牧〕「淺荷」—」。

〔風折〕。

〔後折〕やみれくじく。○〔蘇洵〕「水之原」、「—」。

〔折〕テイ、タイ。杜奚切 齊

安らかにしてのびゝしたる貌にいふ字。○〔禮〕「吉事欲レ其」—」。

〔挈〕ロ 羊諸切 魚

昇に同じ、かゝぐ。

〔抒〕ジョ 抵に同じ。

〔抒〕キ。其記切 寘

いむ（辭）。

五畫

〔拐〕ヘイ、補永切 梗 ヒヤウ。柄又（揉）に作る。

乘に通じ用ふ。つとる。

〔抉〕シ。掌氏切 紙 キ。遣爾切 紙

あく、ひらく（開）。

〔抉〕サイ、セ。爪蟹切 蟹

うつ、たゝく（擊）。

〔抨〕ハウ、ヒヤウ。披耕切 庚

彈に同じ、はじくの意。○〔唐〕「其意不レ樂レ彈」—」。

㊁彈、使に同じ、ふむ、ぜしむ。○〔揚雄〕「—」—雄以作レ賦」。

〔抨〕ヘイ、ビヤウ。蒲兵切 庚

前條の㊁に同じ。

〔拇〕俗の拇の字。

〔捉〕ホ、フ。博故切 遇

搏に同じ。

〔拂〕ホ、フ。博孤切 虞

のぶ、舒。

〔披〕ヒ。敷羈切 支

㊀ひらく。

（い）あく。○〔史〕「—」—九山」、通「九澤」。

（ろ）わかつ、わかる（分）。○〔左〕「又—」、「其邑」。

（は）ちる、ちらす（散）。○〔屈平〕「髮—」—以鬱々」。

（に）さく（裂）。○〔史〕「木實繁者—」、其枝」。

（ほ）なびく（靡）。○〔漢〕「羽大呼驅下、漢軍皆—」。

㊁きる、被。○〔朱熹〕「誰把」羊裘」、與醉—」。

〔披〕はなはだひらく、はなはだしひらく。○〔許慎〕「青山書略相」—」。

〔分披〕前に同じ。○〔蘇軾〕「左右驚」—」。

〔氣披〕なびきたかぶる。○〔史〕「心當年氣」—」、有征無敵」。

〔放披〕なびく、放に同じ。○〔張元素〕「皮」—」、西羌傳」。

〔披〕ヒ、ビ。平義切 寘

め之れを持ち行くに設けたるもの、ひつぎなは。○〔禮〕「孔子裘設レ—」。

㊁越て物の兩側に設けふつちへたる手を掛くるもの。○〔周〕「使二六軍之士執レ—」。

㊂ちる、ちらす（散）。

〔披〕ヒ、ビ。普靡切 紙

なびく（靡）。

〔披〕ヘ、ヘ。普駕切 禡

ひらく（開）。

〔抬〕

笞に同じ、うつ。

〔抗〕エヤ。以沼切 蕭 弋笑切 嘯

イヤ、ユ。以周切 尤 ユ。容朱切 虞

曰より物を擧ぐ、あぐ。○〔詩〕「或春或—」。

〔抗〕

挑に同じ、物を抒む器。

〔抗〕ハウ、ヒヤウ。井ツ、井チ。于鮮切 霰

㊀うつ（擊）。㊁なぐ（投）。

〔抗〕ケツ、ゲツ。胡決切 屑

前條の㊁に同じ。

〔抗〕ウツ、ヂチ。王勿切 物

擂に同じ、なげうつ。

〔抮〕シン。止忍切 軫

引き戾ちす、もどす、持ち著く、つく。○〔雅〕「雖二天地覆育、亦不二與レ之—」抱」。

〔抮〕ケン、呼典切。ケン。切 銑 テン、徒典切。テン。切 銑

そむく（背）。

〔担〕サ、セ。側加切 麻

把み取る、くむ、とる。○〔揚雄〕「南楚之間、凡取二物溝泥中一謂二之—」、或謂二之摭」。

〔担〕サ、シヤ。淺野切 馬

とる（取）。

〔挾〕ヤウ、アウ。倩兩切 養

車輿（おもがい）もて擊つ、うつ。

〔挾〕ヤウ、アウ。於郎切 陽

うつ（打）。

〔抓〕クワ、ケ。古華切 麻 ワ、エ。烏瓜切 麻

㊀ひく（引）。㊁うつ（擊）。

〔拏〕

承に同じ。

〔抱〕ハウ、蒲皓切 皓 ホウ。切 皓

㊀いだく、だく。

（い）兩手を以てかこみ持つ、かゝふ。○〔後漢〕「互—二超馬脚」不レ得レ行」。

（ろ）挾む持つ。○〔戰〕「此二空質」、「也」。

（は）守る、保つ。○〔荀〕「—關擊柝而不二以爲寶」。

（に）鳥の卵をあたゝむるにいふ字。○〔陸龜蒙〕「譬如レ拳雞驚豈不レ容乳—」。

㊁かゝふるも、かゝふるほどの大さ、かゝへ。○〔司馬相如〕「長千仞大連レ—」。

〔抱〕

抱浮に同じ。

〔抱〕ハウ、ヘウ。披交切 肴

抱に通じ用ふ。なげうつ、すつ。○〔史〕「姜嫄生二后稷一—之山中」。

〔抭〕カ。虎何切 歌

さく（裂）。

〔抭〕ダ、ナ。女加切 麻

さらふ（攫）。

〔抭〕カ。丘加切 麻

にぎる（握）。

〔抭〕タ、ダ。待可切 哿

になふ（擔）。

〔抭〕ダ、女履切 紙 デイ、乃禮切 齊 ナイ。切 齊

さとむ、さとまる（正）、一說に、手にて物を指す、ゆびさす。

〔抭〕ダツ、ニチ。尼質切 霽

さとまる、さとむ（正）。

〔抭〕ダ、ニ。女爲切 支

さぐみがく（研）。

〔抭〕エイ。以制切 霽 エツ、エチ。

羊列切 屑 一或は拽に作る。

牽引す、ひく。○〔荀〕「接」人則用レ—」。

〔抭〕

擽に同じ。

〔抵〕テイ、タイ。典禮切 齊

一おす（推）。○〔漢〕「多見」排―一。
二ふる（簸）さかふ（性）。○〔漢〕「習」俗薄惡民人―盲」。
三あつあたる（霑）。○〔史〕「傷」人及盜―レ罪」。
四いたる（至）。○〔禮〕「草木零落―レ冬降レ霜」。
五いたす（致）。○〔漢〕「或―其罪」法」。
六おくる（歸）。○〔漢〕「―禄陽史司―馬欣」。
七こばむ（拒）。○〔漢〕「―諫置」辭」。
八なげうつ（擲）。○〔後漢〕「毀以―地」。
〔穴抵〕ゐはよこ。○〔史〕「―…盡訴以不實」。
〔遠抵〕たちいたる。○〔禮〕「禄位爵賞所――」。
〔鬼抵〕はせいたる。○〔元〕「已而―…而上」。
〔鬼抵〕直ちに至る。○〔元〕「―…其地」。

抵 タイ。直皆切 佳

前條の一に同じ。

抵 ジ。諸氏切 紙

抵に同じ。うつ（擊）。○〔漢〕「奮」舞―レ几」。

扶 チツ、チヽ。敕栗切 質

むちうつ（鞭）。○〔左〕「―…其僕」以徇」。

抔 ヒ、ビ。匹眉切 支

ひらく（披）。

抸 サフ、ソフ。作苔切 合

挾に同じ。わきばさむ、たづさふ。

抹 バツ、マチ。莫曷切 曷

一すり、なづ（摩）。○〔李紳「轉」脣擂紇促」揮―」。

抵 抵

搢の字の省文。

抵 抵

兩手にて抱むくむ。

抸 キ。丘其切 支

抸 キヨ、コ。丘於切 魚

―…摸は、持ち去る、さる、一說に、さゝぐ、捧。

抸 ケフ、ゴフ。乞業切 業

一くむ（挹）、又、もつ（持）。○〔揚雄〕「―」羅蠟」。
二おびやかす（劫）。○〔後漢〕「―」封、稱」。

抽 チウ、チユ。丑鳩切 尤

一ひく（引）。○〔莊〕「翠」水若レ―」。
二ぬく（拔）。○〔詩〕「楚々者茨言レ―」其蒺」。
三なさむ（敗）。○〔揚雄〕「詳倫―レ緒」。
〔鑑抽〕抽くぬきうつ。○〔編期詩話〕「歌」計鋒―…―之勢」。
〔鑑抽〕きたひぬきうつ。○〔鑑期〕「解除―…」。

三掃ひ滅す、けす、ばらふ。○〔秦觀〕「山―」微雲」。
四なで附く、ぬる、なする。○〔歐陽修〕「酒入」香腮」紅―」。
〔金抽〕ぬる、なする。○〔鑑續〕「起」信鑑―…」。
〔電抽〕いまづまのはらふが如く、迅速の間におゆるに、上聞。○〔鑑期〕「四十三年如―…」。
〔一抽〕ひとなでひとけし、ひとなり。○〔王仁抽〕「―…」朱鉛四十餘。
〔鑑抽〕色こくぬる。○〔鑑期〕「映衆―…也相宜」。
〔鑑抽〕ひねりなづ。○〔鑑長恨〕「衣綿―…」殺復急」。

抽 抽

春秋「吳起―レ泣」。

抽 抽

物を展べて長くなす、のぶ。

抽 抽

伸に同じ。

抽 抽

アフ、エフ。烏甲切 洽

一交書の證として自己の名を一定の字形に自書せるもの、さうなかきはん（初めは其の文字眞體を用ひしが後には其の文字を用ひしとなれりといふ。○〔宋〕「必先書―…而後輕」。
二おす。
（い）壓に通ず―用ふ。○〔晉〕「偃以石」其頭」。
（ろ）詩賦にて韻を用ふるにいふ字。○〔滄浪詩話〕「謂平韻可二重―、若或平或仄則不可」。彼但以二八、仙歌一言之耳、何見之陋耶」。
（は）おさふ（接）。○〔左思〕「拉―摧藏」。
三管拘す、ゝはる、あづかる。○〔唐〕「朝會聯祭御史二人―班」。
〔例抽〕かきはん。○〔史〕「朝班恩節論―…」。
〔管抽〕名を書しかきはんす、又、たうな、かきはん。○〔鑑金通書〕「叔齊觀故―…」。
〔花抽〕かきはん。○〔國史補〕「不次押名曰―…」。

抽 カフ、ケフ。古狎切 洽

一撿束す、まとる。○〔性理大全〕「使之有三以檢―相率而趨」手音」。
二規律のり。○〔揚雄〕「素絃檢―…」。
三相因る、よる。○〔漢〕「羽檄重レ迹而―至」。

抜 クワイ、ケ。古環切 卦

みだる（擾）。

抹 バイ、マイ。莫貝切 賄

うつす、さぐる（摸）。

拂 フツ、ホチ。敷勿切 物

一はらふ。
（い）拭ふ。○〔儀〕「以石・秋・推」―九三」。
（ろ）除く。○〔後漢〕「激」揚名・整」五相題―」。
（は）絶つ。○〔國〕「無―」吾鑑」。
（に）擊つ。○〔戰〕「左榮而右―レ之」。
（ほ）振ふ。○〔國〕「―レ衣從レ之人效之」。
（へ）摩す。○〔張衡〕「雲旗―レ霓」。
二さかふ、逆、もとる（戾）たがふ（違）。○〔詩〕「四方以無―」。○〔王柏〕「老師鑑―活潑潑」。
三たむ（矯）。○〔王柏〕「老師鑑―活潑潑」。
四物をはらふ具、はらひ。○〔南〕「驥・尾蠅―」。
〔鑑拂〕ひらはらふ。○〔史〕「貨居新事」而―…」。
〔鑑拂〕勝つ。○〔史〕「環境―…」。
〔鑑拂〕まひろのけの間はらひ。○〔社甫〕「―…且」。
〔拂拂〕する。○〔詩殘景〕「霞相―…」。
〔拂拂〕ゐしひらくと。○〔史〕「鉢―…」。
〔拂拂〕ぬく上、又、其の身。○〔李商〕「鉢拂拂―」。
〔拂拂〕うつ。○〔史〕「周紀―…」。
〔鑑拂〕ゐふまはらひと、又、ゐふはらふ。○〔鑑拂〕「人」採北風以鑑―…」。
〔鑑拂〕いとにて作れるちりはらひ。○〔李華弔古戰場文〕「―…」。

拂 フツ、ホチ。敷勿切 物

拔 バツ、ハツ。蒲撥切 月

一ぬく（拔）。○〔莊〕「翠」水若レ―」。
二ぬく（拔）。○〔詩〕「楚々者茨言レ―」其蒺」。
三なさむ（敗）。○〔揚雄〕「詳倫―レ緒」。
〔鑑拔〕抜くぬきうつ。○〔編期詩話〕「歌」計鋒―…」。
〔鑑拔〕きたひぬきうつ。○〔鑑期〕「解除―…」。

拔 バツ、ハツ。蒲撥切 月

拔 バツ、ハツ。蒲撥切 月

拔 バツ、ハツ。蒲撥切 月

❶うつ、たゝく。
（い）手のひらにて其の上を搏つ。○〔宣和畫譜〕所謂左挹浮丘袖、右一洪崖肩。
（ろ）打つ。○〔莊〕椎一輪斷與物宛轉。
（は）うちて音聲を發す、うちならす。○〔唐〕獻レ一音聲。○〔唐〕此霓裳第三疊最初一也。
❷膊に同ト。○〔周〕饋食之豆、其實豚一。

〔新拍〕あたらしみ得るゝことにいふ。○〔後漢〕一一一一奉獻。
〔拍〕たゝく。殺にいふ。○〔後漢〕一一一一不移。
〔拍〕たゝくこと。○〔後漢〕一一一一。
〔拍〕ひやうし。○〔白居易〕一一一一。
〔拍〕歌舞音曲などのひやうし。○〔梅堯臣〕「奇唱相隨無一一一」。
〔拍〕うちたゝく。○〔張籍〕「絃琴〔琴〕一振一一手以一一一」。
〔拍〕はくうつ、ひく。○〔梅堯臣〕「一一一宋絃聲無」。

拎 レイ、リヤウ。耶丁切 青

懸け捻る、懸け持つ、ぴれる、もつ。

拏 ダ、ナ。奴加切 麻

❶つかむ（攫）。○〔揚雄〕「攫一者亡」。
❷ひく（引）。○〔唐〕「兵一仍歲不解」。
❸とらふ（捕）。○〔康熙〕「拘一捕罪人一日レ一」。

〔拏〕みだれひくもつる。○〔史〕「讓齊侯與狄相一一」。
〔拏〕前條に同ト。○〔史〕「自受武宗之恩」。
〔拏〕すぐれぬきんづ。○〔蘇軾〕「祭錢自一一」。
〔拏〕前に同ト。○〔世說〕「才氣一一」。
〔拏〕たくみにしてすぐる。○〔古董品〕「馬一一」。
〔拏〕高くぬきんづ。○〔國語寶〕「一一百尋」。
〔拏〕あきらかにしてすぐる。○〔酸棗〕「孝廉一一」。
〔拏〕前に同ト。○〔蘇軾〕「才一一」。
〔拏〕前に同ト。○〔孔平仲〕「才氣一一」。
〔拏〕すきとる。○〔王令〕「筆意一一舞」。

拔 ハツ、バチ。蒲撥切 曷

❶めぐる、かへる（回）。○〔雲笈七籤〕「巔峰廻一一」。
❷とし（疾）。○〔禮〕「毋一一來」。
❸やはず（括）。○〔詩〕「舍レ則獲」。
❹のぞく（除）。○〔周、註〕「赤友猶レ言一拔一一」。
❺茇に同じ、やどる。○〔漢〕「一一蘭堂」。

拔 ハイ、バイ。蒲蓋切 泰

柯葉を生じたる貌にいふ字。○〔詩〕「柞棫一一」。

拔 ハイ、ベ。蒲昧切 隊

❶挺出す、ぬく。○〔詩、傳〕「挺一而上」。

〔拔抜〕すぐる。○〔周〕「一一一一」。
〔拔抜〕前に同ト。○〔史〕「少孟賁面皮特一一一」。
〔拔抜〕水にてたすけしぬくたゞよひぬく。○〔周〕「一一一一謝右」。
〔拔抜〕早もひ取る。○〔魏〕「拔不拔一一一一單獨」。
〔拔抜〕さわやかにすぐる。○〔北〕「風神一一」。
〔拔抜〕すぐる。○〔北〕「一一一」。
〔拔抜〕引きあひ用よ。○〔周〕「一一一才一」。
〔拔抜〕あやときと。○〔周〕「今一一一一」。
〔拔抜〕いつくしみ引きあく。○〔史〕「自受武宗之恩」。
〔拔抜〕すぐれぬきんづ。○〔蘇軾〕「祭錢自一一」。
〔拔抜〕前に同ト。○〔世說〕「才氣一一」。
〔拔抜〕高くぬきんづ。○〔國語寶〕「一一百尋」。
〔拔抜〕あきらかにしてすぐる。○〔酸棗〕「孝廉一一」。
〔拔抜〕前に同ト。○〔蘇軾〕「才一一」。
〔拔抜〕きりのぞく。○〔孔平仲〕「才氣一一」。
〔拔抜〕すきとる。○〔王令〕「筆意一一舞」。

拔 ハツ、バチ。蒲撥切 曷

❶めぐる、かへる（回）。○〔雲笈七籤〕「巔峰廻一一」。
❷とし（疾）。○〔禮〕「毋一一來」。
❸やはず（括）。○〔詩〕「舍レ則獲」。
❹のぞく（除）。○〔周、註〕「赤友猶レ言一拔一一」。
❺茇に同じ、やどる。○〔漢〕「一一蘭堂」。

拔 ハイ、バイ。蒲蓋切 泰

柯葉を生じたる貌にいふ字。○〔詩〕「柞棫一一」。

拔 ハイ、ベ。蒲昧切 隊

❶挺出す、ぬく。○〔詩、傳〕「挺一而上」。

❷拂取す、はらふ、とる。

拔 ハツ、バチ。房越切 月

一種の草、莫赤く葉多し、やぶからし。○〔爾〕「一一寵葛」。

拔 ハツ、ベチ。蔑別切 レツ、レチ。切 薛

地を平かにしはらひ除くこと、さうぢ。○〔張籍〕「栖遲無一一、不レ營不レ」。

拕 ダ。湯何切 歌 吐臥切 箇

ダ、唐何切 歌 徒可切 箇 一に拖に作る。

拖 アウ、エウ。於絞切 巧

拕に同じ。○〔論〕「一レ紳」。

拗 アウ、於數切 箇 於交切 巧

くじく、〔拉〕、なる、〔折〕。○〔尉繚子〕「一レ矢折レ矛」。

拗 アウ、於數切 箇 於交切 巧

❶拉きめぐらす、ゆがめ戾らす、れづ、れぢる。○〔唐詩升〕「風一一藤花」。
❷戾り違ふ、曲がり忤ふ、すれる、れちく。○〔朱熹〕「天賞亦有一一強處」。

〔拗拗〕自から戦る堅くしてすなはち人に從はするもなかたくなる。○〔名臣言行錄〕「但不聽一一」。

拗 イク、乙六、オク。切 屋 イウ、於糾切 有

おさふ（抑）。○〔班固〕「蹂一躪其十二三、乃一レ怒而少息」。

拘 ク。舉朱切 虞

❶執ら（止む、とゞむ、とらふ。○〔左〕「武一夫力而一一諸原」。
❷とらへらる、とらはる、とゞまる。○〔左〕「自一一于司敗」。
❸束ばり止まる、なづむ、かゝはる。○〔史〕「弘大體、不レ一一文法」。
❹とらへられたるもの、とらはれ、とりこめしうど。○〔月令廣義〕「殉レ獄出レ一」。

〔拘拘〕とらふ。○〔後〕「一一以韓子問」。
〔拘拘〕ひきかゝはる。○〔史〕「一一之嫌」。
〔拘拘〕前に同ト、又、ひきとゞまる、○〔史〕「又一一一于時事方大」。
〔拘拘〕かゝはる、關はる。○〔呉志〕「帝士一一守一一途」。
〔拘拘〕かゝはる、とらふ、又、つなぎとゞまる。○〔蘇軾〕「一一之常論」。
〔拘拘〕前に同ト。○〔論衡〕「常貴自一一」。
〔拘拘〕官の務め向きにかゝはる。○〔王安石〕「我方一一小節」。
〔拘拘〕見識の小き者の物事にかゝはるといふ語。○〔史〕「一一不可以語海若一一井蛙也」。

拘 コウ、ク。居侯切 尤

❶かゝふ、擁。○〔禮〕「必加帶於笏上、以一袂一而退」。
❷とる（取）。○〔禮〕「自下一一之」。
❸かゞむ（曲）。○〔荀〕「古之王者有二務而一一領者」。
❹ひきあつむ（摶聚）。○〔蘇問〕「筋肉

拘 キヨ、コ。求於切 魚

とゞむ、とゞまる（止）。○〔莊〕「吾處レ身也若二橛株一一」。

拘 ク。俱遇切 遇

ひきつけて展びず、ひくゝかゞまる。○〔淮〕「指之一也、莫レ不レ事レ伸」。

拘 ク。果羽切 麌

❶矩に同じ、けた、方形。○〔淮〕「一一折之容」。
❷方形の隊列、方陣。○〔左〕「爲二左一一以當二蔡人衛人」。

拓 セキ、シヤク。之石切 陌

❶ひろふ（拾）。○〔儀、註〕「一一果樹實」。
❷ふる（折）。○〔張衡〕「一一若華而躊躇」。

拓 タク、ダク。他各切 鐸

❶手にて物を承く、うく、一說に、手にて物を推す、おす。○〔李山甫〕「一一纖痕更不レ收」。
❷ひらく（斥）。○〔揚雄〕「一レ述開統」。
❸廣し。○〔北〕「少落一一有二大志」。

〔拓拓〕ひらく、ひろし。○〔後漢〕「一一開地千」。
〔拓拓〕前に同ト。○〔李白〕「一一宅北、直鄰新都」。
〔拓拓〕をゝめひらく。○〔宿德〕「後夏一一一西方各拓跋」。

拔 ハツ、バチ。蒲八切 黠

❶ぬく。
（い）引き出だす、引き取る。○〔易〕「一一茅茹以其彙、征吉」。

（ろ）放れ出づ。○〔史〕「乃悉持二龍一一聲龍聲」。
（は）攻めて悉く取る。○〔漢〕「攻レ碣三白一レ之」。
（に）攻め取らる。○〔戰〕「城且一一矣」。
（ほ）除く。○〔周、註〕「赤友猶レ言二拔一一」。
❷ぬきんづ、❸に同ト。
（い）擢び出す、えらぶ。○〔後漢〕「速見二一一擢位在二上列一」。
（ろ）ひいで出づ、特立す。○〔周〕「神采英一」。

〔拔拔〕ぬけとれざるも。○〔呉〕「此與華時以來一一之基」。
〔拔拔〕みわけてぬきんづ。○〔後〕「一一一英雄」。
〔拔拔〕はめぬきんづ。○〔呉〕「智謀一一」。
〔拔拔〕えりぬく。○〔蘇軾〕「忠以先帝一一以遺陛下」。
〔拔拔〕ぬきいづ。○〔呉〕「劫一一不能」。
〔拔拔〕ひきぬく。○〔呉〕「乞餘加一一後嗣」。
〔拔拔〕すゝめぬきんづ。○〔後〕「一一一同僚」。
〔拔拔〕前に同ト。○〔呉〕「多一所一一」。
〔拔拔〕前に同ト。○〔晉書〕「一一一無者」。
〔拔拔〕ぬきんづ。○〔後漢〕「一一一一之力」。
〔拔拔〕せめ取る。○〔後漢〕「一一一一之」。
〔拔拔〕前に同ト。○〔後〕「又一一一之」。
〔拔拔〕めしぬきんづ。○〔後漢〕「一一一英俊以一一議」。
〔拔拔〕異議無。
〔拔拔〕あらはしぬきんづ、あらはれぬきんづ。○〔後漢〕「多一所一一」。
〔拔拔〕はかれぬきとる。○〔呉〕「未可一一一」。
〔拔拔〕たゞれぬく、たゞしぬく。○〔呉〕「瓦解一一」。
〔拔拔〕前に同ト。○〔後漢武帝〕「敢動則萬年一一」。
〔拔拔〕とりぬく。○〔呉〕「一一西鎮山岳」。
〔拔拔〕すぐれたる。○〔後〕「貴見一一一」。
〔拔拔〕ひきぬく。○〔後〕「一一一」。
〔拔拔〕きとらかにしてすぐる。○〔後〕「一一一」。

〔反拔〕そむきこばむ。○〔東京賦〕「前門一一一」。
〔前拔〕前期のふせぎ。○〔史〕「攻北一一一」。
〔前拔〕てがたくふせぐ。○〔國〕「陳閉一一一而不一背城」。
〔抗拔〕ふせぐ、ふせぎ。○〔後〕「古一一一大敵」。
〔防拔〕前に同ト。○〔後〕「朝有一一一之効」。
〔禦拔〕前に同ト。○〔後〕「天命不可以一一一」。
〔禦拔〕こばむ。○〔後〕「一一一一」。
〔拒拔〕くじきこばむ。○〔後〕「光武馬色一一一」。
〔拒拔〕ふせぎ、ふせぐ。○〔後〕「一一一一外一一一一綿衾實半以蔽北朝」。

拳 ケン、ゲン。巨淹切 鹽

カン、ゴン。扱范切 鑑

脊し持つ、鍼ち束ぬ、ばさむ、つゞむ、とゞ、ゑむ。○〔漢〕「天下之士一レ口、不二敢復言一矣」。

拳 ゲヨ、ニヨ。女居切 魚

❶前條の❷の解に同ト。○〔漢〕「禍一一而不解」。
❷する、摩、又、もむ（揉）。○〔楚辭〕「稻粱積兮一一黃粱」。

拐 カイ、ケ。求關切 刪

物の幹體より分かれ出でたるもの即ち手・足・枝など。

拐 カイ、ケ。古買切 蟹

一一騙は、たぶらかす、かたり。

拑 ケン、ゲン。巨淹切 鹽

カン、ゴン。扱范切 鑑

脊し持つ、鍼ち束ぬ、ばさむ、つゞむ、とゞ、ゑむ。○〔漢〕「天下之士一レ口、不二敢復言一矣」。

拒 キヨ、ゴ。其呂切 語

❶ふせぐ、こばむ。
（い）さゝへて入らしめず、さへぎり阻む。○〔荀〕「內以固レ城、外以一レ雄」。
（ろ）たがふ（違）。○〔詩〕「密人不一恭、敢一大邦」。
❷ふせぐ、ふせぐもの、ふせぎ。○〔漢〕「爲二貳師後一一」。
❸あたる（抵）。○〔寇〕「高談雄辯能抗一一」。
❹匣の中の横に當たる節。○〔儀〕「長皆及二俎一一」。

〔拒拒〕そむきこばむ。○〔東京賦〕「前門一一一」。
〔拒拒〕前期のふせぎ。○〔史〕「攻北一一一」。
〔拒拒〕てがたくふせぐ。○〔國〕「陳閉一一一而不一背城」。
〔拒拒〕ふせぐ、ふせぎ。○〔後〕「古一一一大敵」。
〔拒拒〕前に同ト。○〔後〕「朝有一一一之効」。
〔拒拒〕前に同ト。○〔後〕「天命不可以一一一」。
〔拒拒〕こばむ。○〔後〕「一一一一」。
〔拒拒〕くじきこばむ。○〔後〕「光武馬色一一一」。
〔拒拒〕ふせぐ、ふせぐ。○〔後〕「一一一一外一一一一綿衾實半以蔽北朝」。

拒 ク。果羽切 麌

❶矩に同じ、けた、方形。○〔淮〕「一一折之容」。
❷方形の隊列、方陣。○〔左〕「爲二左一一以當二蔡人衛人」。

拓 セキ、シヤク。之石切 陌

❶ひろふ（拾）。○〔儀、註〕「一一果樹實」。
❷ふる（折）。○〔張衡〕「一一若華而躊躇」。

拓 タク、ダク。他各切 鐸

❶手にて物を承く、うく、一說に、手にて物を推す、おす。○〔李山甫〕「一一纖痕更不レ收」。
❷ひらく（斥）。○〔揚雄〕「一レ述開統」。
❸廣し。○〔北〕「少落一一有二大志」。

〔拓拓〕ひらく、ひろし。○〔後漢〕「一一開地千」。
〔拓拓〕前に同ト。○〔李白〕「一一宅北、直鄰新都」。
〔拓拓〕をゝめひらく。○〔宿德〕「後夏一一一西方各拓跋」。

拔 ハツ、バチ。蒲八切 黠

❶ぬく。
（い）引き出だす、引き取る。○〔易〕「一一茅茹以其彙、征吉」。

（ろ）放れ出づ。○〔史〕「乃悉持二龍一一聲龍聲」。
（は）攻めて悉く取る。○〔漢〕「攻レ碣三白一レ之」。
（に）攻め取らる。○〔戰〕「城且一一矣」。
（ほ）除く。○〔周、註〕「赤友猶レ言二拔一一」。
❷ぬきんづ、❸に同ト。
（い）擢び出す、えらぶ。○〔後漢〕「速見二一一擢位在二上列」。
（ろ）ひいで出づ、特立す。○〔周〕「神采英一」。

〔拔拔〕ぬけとれざるも。○〔呉〕「此與華時以來一一之基」。
〔拔拔〕みわけてぬきんづ。○〔後〕「一一一英雄」。
〔拔拔〕はめぬきんづ。○〔呉〕「智謀一一」。
〔拔拔〕えりぬく。○〔蘇軾〕「忠以先帝一一以遺陛下」。
〔拔拔〕ぬきいづ。○〔呉〕「劫一一不能」。
〔拔拔〕ひきぬく。○〔呉〕「乞餘加一一後嗣」。
〔拔拔〕すゝめぬきんづ。○〔後〕「一一一同僚」。
〔拔拔〕前に同ト。○〔呉〕「多一所一一」。
〔拔拔〕前に同ト。○〔晉書〕「一一一無者」。
〔拔拔〕ぬきんづ。○〔後漢〕「一一一一之力」。
〔拔拔〕せめ取る。○〔後漢〕「一一一一之」。
〔拔拔〕前に同ト。○〔後〕「又一一一之」。
〔拔拔〕めしぬきんづ。○〔後漢〕「一一一英俊以一一議」。
〔拔拔〕異議無。
〔拔拔〕あらはしぬきんづ、あらはれぬきんづ。○〔後漢〕「多一所一一」。
〔拔拔〕はかれぬきとる。○〔呉〕「未可一一一」。
〔拔拔〕たゞれぬく、たゞしぬく。○〔呉〕「瓦解一一」。
〔拔拔〕前に同ト。○〔後漢武帝〕「敢動則萬年一一」。
〔拔拔〕とりぬく。○〔呉〕「一一西鎮山岳」。
〔拔拔〕すぐれたる。○〔後〕「貴見一一一」。
〔拔拔〕ひきぬく。○〔後〕「一一一」。
〔拔拔〕きとらかにしてすぐる。○〔後〕「一一一」。

❷拂取す、はらふ、とる。

拔 ハツ、バチ。房越切 月

一種の草、莫赤く葉多し、やぶからし。○〔爾〕「一一寵葛」。

拔 ハツ、ベチ。蔑別切 レツ、レチ。切 薛

地を平かにしはらひ除くこと、さうぢ。○〔張籍〕「栖遲無一一、不レ營不レ」。

拕 ダ。湯何切 歌 吐臥切 箇

ダ、唐何切 歌 徒可切 箇 一に拖に作る。

拖 アウ、エウ。於絞切 巧

拕に同じ。○〔論〕「一レ紳」。

拗 アウ、於數切 箇 於交切 巧

くじく、〔拉〕、なる、〔折〕。○〔尉繚子〕「一レ矢折レ矛」。

拗 アウ、於數切 箇 於交切 巧

❶拉きめぐらす、ゆがめ戾らす、れづ、れぢる。○〔唐詩升〕「風一一藤花」。
❷戾り違ふ、曲がり忤ふ、すれる、れちく。○〔朱熹〕「天賞亦有一一強處」。

〔拗拗〕自から戦る堅くしてすなはち人に從はするもなかたくなる。○〔名臣言行錄〕「但不聽一一」。

拗 イク、乙六、オク。切 屋 イウ、於糾切 有

おさふ（抑）。○〔班固〕「蹂一躪其十二三、乃一レ怒而少息」。

拘 ク。舉朱切 虞

ひきつけて展びず、ひくゝかゞまる。○〔淮〕「指之一也、莫レ不レ事レ伸」。

拘 ク。果羽切 麌

❶矩に同じ、けた、方形。○〔淮〕「一一折之容」。
❷方形の隊列、方陣。○〔左〕「爲二左一一以當二蔡人衛人」。

拓 セキ、シヤク。之石切 陌

❶ひろふ（拾）。○〔儀、註〕「一一果樹實」。
❷ふる（折）。○〔張衡〕「一一若華而躊躇」。

拓 タク、ダク。他各切 鐸

❶手にて物を承く、うく、一說に、手にて物を推す、おす。○〔李山甫〕「一一纖痕更不レ收」。
❷ひらく（斥）。○〔揚雄〕「一レ述開統」。
❸廣し。○〔北〕「少落一一有二大志」。

〔拓拓〕ひらく、ひろし。○〔後漢〕「一一開地千」。
〔拓拓〕前に同ト。○〔李白〕「一一宅北、直鄰新都」。
〔拓拓〕をゝめひらく。○〔宿德〕「後夏一一一西方各拓跋」。

拔 ハツ、バチ。蒲結切 屑

❶もとらすれづ（裂）。
❷擊ち仆す、たふす。○〔秉燭〕「徒一一之所二擊一一」。

拶 ヒ、ビ。吡至切 寘

戲れ擊つ、うつ。

拶 ヒツ、ヒチ。餓吉切 質

❶さす（刺）。
❷相推搏すること、くみうち、おしだし、ずまふ。○〔揚雄〕「兩一一楚凡相推搏曰一、或曰總」。

拙 セツ、セチ。朱劣切 屑

つたなし。
（い）巧みならず。○〔老〕「大巧若レ一一」。
（ろ）用をなさず。○〔史〕「戰劍利而倡優一」。

〔拙拙〕かざりなくつたなし。○〔史〕「巧辯一一之人金少」。
〔拙拙〕むかしふうにてつたなし。○〔何承天〕「野思一一」。
〔拙拙〕みだらにしてつたなし。○〔蘇兵部〕「幸雖一一」。
〔拙拙〕生まれつきのたくみなき樣をやしなひたもつ。○〔社〕「一一真何樂」。
〔拙拙〕つたなきをたもつ。○〔陶〕「一一樂一一」。
〔拙拙〕心ゆるびたるきのつたなし。○〔宋〕「自一一將有一一一」。
〔拙拙〕おろかなること。○〔盧思道〕「オホ一一一」。
〔拙拙〕事をなすにものうくしてつたなし。○〔社〕「我衰更一一」。
〔拙拙〕まはり疎くしてたくみなきこと。○〔白居易〕「若道本一一」。

拚 ヘン、ベン。皮變切 霰

抃の本字。

手を拍ってうつたゝへ。○〔宋〕「歌一妙絶」。

拚 フン。切方問　圓　切方文　図

蘆葉をはらひ除く。はらふ。○〔魏〕「不一先君之底蘊一以俟矣」。

拚 ハン。字義切　園

翻に同じ。「〔詩〕「雖先君之一猶樹一飛蓬」。

招 セウ。之遥切　圏

❶まねく。
（い）手をふりて人を呼ぶ。○〔詩〕「左鞭之寶有一」。〔書〕「舜一丹朱」。
（ろ）呼びて來たらしむ。きたす。○〔書〕「舜一後」。
（は）ものをもとむ。○〔漢〕「舜一丹朱丘」。
（に）生數一一。「一一顧三金錢」。
❷繋ぎて止むはたすわなす。○〔孟〕「既入一其室」。
❸あつらへ。○〔孟〕「舜乃使一二子」。
❹敬。共。○〔孟〕「舜乃使一二子」。
❺丸。○〔孟〕「舜乃使一二子」。
〔廣韻〕招。〔玉篇〕招。〔類聚〕招。〔集韻〕招。〔字彙〕招。〔正韻〕招。〔字彙補〕招。〔康熙字典〕招。

拻 ケイ。涓畦切 齊

わかつ（別）。一說に、鈎取す、かく、とる。○〔莊〕「好經三天一事一、變一更易」常、以一功名一。

拰 ロツ、ロチ。勒沒切 月

もつ（拵）、又とる（埒）。

揉 サツ、サチ。蠶括切 曷

揉一は、手もて打つ、うつ。

㨰 ヂク、ニク。女六切 屋

搦一は、伸びず、かゞまる。

捏 チツ、チチ。陟栗切 質

一禾を穫る、かる、又、禾を刈る擊。○〔詩〕「穫レ之一一」。

二つく（擅）。○〔淮〕「五指之更彈、不レ若二捧手之一一一」。

〔錄捏〕つく。○〔人名〕「有所一一一」。

〔筆捏〕勢をはげしてつく。○〔錄珍〕「顧錄人々物一一一」。

捏 テツ、デチ。徒結切 屑

なげうつ（擿）。

㨰 ジウ、ジュ。充仲切 送

たゞる（跳）。

㨰 セン。蘇典切 銑

ひれる（捻）。

拖 拖に同ト。

拖 擿に同ト。

㨰 タ、ダ。都果切 箇

一擿に同ト、ばかる。

二うごく、うごかす（搖）。

㨰 タ、ダ。都唾切 箇

一前條の一に同じ。

二帆を落とす、おろす。

㨰 ホク、フク。蒲北切 屋

うつ、擊。

㨰 ケン。苦擊切 先 一或は拈に作る。

うつ、擊。

㨰 クワウ。呼宏切 庚

ふるふ（揮）。

指 シ。軫視切 紙

一手足の端に枝の如く出でたるものの稱ゆび。○〔漢〕「會大、寒士、卒隨一者什二、三」。

二さす。

〔い〕示す。○〔禮〕「凡有一一一畫於君、前一用レ筋」。

〔ろ〕指にて示す、ゆびさす。○〔禮〕「車上不妄一一」。

〔は〕さしづを爲す。○〔禮〕「六十曰レ耆一一使」。

〔に〕直立す。○〔呂氏春秋〕「目裂髮一一」。

〔ほ〕向かふ。○〔淮〕「然而趙舍一一湊」。

〔へ〕さし示して人を使ふと、又、其の事柄さしづ。○〔劉向〕「承聖一一倚神靈」。

〔ト〕むれ。

〔い〕意向、こゝろばせ。○〔書〕「不匿二厥一一」。

〔ろ〕歸趨、おもむき。○〔孟〕「言近而一一遠」。

拻 サツ、ジャク。色責切 陌

一擇び取る、えらぶ、とる。

二擇に同ト、たすく（扶）。

抹 サク、ソク。測角切 覺

擇に同ト、刺し取る、さす、とる。

㨰 クワイ、ケ。呼回切 灰

相擊つ、うつ、うちあふ。

拽 エツ、エチ。羊列切 屑

地を曳き行く、ひきずる、ひく。○〔禮〕「疏一曳一也、不得一擧レ足、但起レ前一レ後使下蹠如二車輪一曳レ地而行上」。

拽 エイ。以制切 霽

ひく（引）。○〔朱熹〕「康節凡事纖覺レ雖、便一レ身退」。

拽 セイ、ゼイ。時制切 霽

ひく（拖）。

拾 ジフ、ジフ。是執切 緝

一採り取む、とる、ひろふ。○〔左〕「猶レ一レ獲」。

二弓を射るに左臂に著くる具、ゆがけ、射韝。○〔詩〕「決一既佽」。

三十に通ト用ふ。○〔康熙〕「今官文書借爲二數目之十字一」。

〔洗拾〕うつむきてひろふ。○〔國〕「礼坂・雩祭」「如レ一一拾芥」。

〔秋拾〕取りあつむる。○〔後國〕「紙幕嚴不一能一一」。

〔刷拾〕墨しるを刷り去るを洗ひ取るなり。○〔宝安石〕「新文得一一」。

〔排拾〕取り收むる、ひろふ。○〔前〕「常以一一自資」。

〔採拾〕前に同じ。○〔後國〕「書一一以給費」。

〔級拾〕前に同じ。○〔後〕「一切一一」。

〔雀拾〕ひと下ゆとる。○〔藤園文意〕「事因一一用」。

拿 俗の拏の字。

拇 イン。伊眞切 眞

つく（就）、よる（仍）。

拆 ハク、ヒヤク。博厄切 陌

さく（裂）。

持 チ、ヂ 直之切 支

もつ。

〔い〕手に執る、把握す、とる、にぎる。○〔禮〕「一二弓矢一寄固」。

〔ろ〕守る、保つ。○〔國〕「有一一盈」。

〔は〕制す、たゞす。○〔荀〕「引二繩墨一以一一曲直一」。

〔豆持〕水を取り具つるべ。○〔藤園〕「取水一一」。

〔扶持〕たすけもつ。○〔社説〕「軟首領一一」。

〔同持〕さかしにもつ。○〔國〕「一一事阿」。

〔支持〕さゝへもつ。○〔社説〕「等效裏一一」。

〔保持〕たもつ。○〔藤園〕「等雖大將軍一一之耳」。

〔攜持〕たづさへもつ。○〔藤園〕「將軍相一一」。

〔鈴持〕さしはさみもつ。○〔史〕「一一浮說」。

〔相持〕互にもちあふ。○〔史〕「無以久一一」。

〔朝持〕朝もつ。○〔國〕「一一事公」。

〔操持〕とりもつ。○〔宋面題〕「李杜一一事師」。

〔獨持〕にぎる。○〔後國〕「難渡嚴由、一一不一能一身」。

〔守持〕まもりたもつ。○〔後國〕「一一一南」。

〔護持〕つゝみもつ。○〔後國〕「奮介伍以相一一」。

〔扶持〕たすけもつ。○〔宋〕「共一一之」。

〔自持〕己れを防ぐ。○〔宋〕「威自一一」。

〔護持〕守りたもつ。○〔宋〕「羅、有二時物一一」。

〔匡持〕たゞしたもつ。○〔資治通鑑〕「擁自一一」。

〔懷持〕抱きもつ。○〔國〕「一一之便也」。

〔負持〕おはひもつ。○〔傳雅〕「一一而去」。

〔住持〕守のあるなり。○〔若學指歸〕「小船一一名住持」。

〔補持〕たてゝもつ。○〔肖題〕「減乃一一」。

〔貫持〕大切にもつ。○〔韓文考〕「水世一一」。

挂 クワイ、ケ。古賣切 卦

一かく。

〔い〕懸く。○〔戰〕「把一一レ鞭」。

〔ろ〕畫り別く。○〔易〕「一一レ一象レ三」。

二かゝる。

〔い〕懸かる。○〔漢〕「南二一杆起二」。

〔ろ〕さゝはる。○〔禮〕「公羊」「擊一則不レ得一入一門」。

〔足挂〕足を懸けて角觝す。○〔西京雜記〕「有一一取鼠之名」。

〔鐵挂〕わきの鼠に鐵を下ゝ。○〔李白〕「車勢一一一金鎖」。

〔用挂〕餅のやどりの名。○〔藤園〕「鼠一一一以鐵製」。

〔釣挂〕つりかく。○〔論衡〕「利鉤一一」。

〔從挂〕かゝるものを從にかけるをかゝるなり。○〔國〕「官除を見て以上聽。○〔白居易〕「七角鐵鞭一一」。

〔緣挂〕ゆかかく、ゆがりかゝる。○〔管輅〕「一一帳者」。

〔連挂〕連にかくのこりかゝる。○〔藤園〕「一一物在壁」。

〔鐵挂〕つながりかゝる、つながかく。○〔國〕「草中病一一」。

〔高挂〕たかかく、たかくかゝる。○〔白居易〕「雷風一一」。

〔衆挂〕つかねかく。○〔後國〕「一一倒雖殺一一」。

〔懸挂〕かゝかゝる。○〔國賓伝〕「中間不敢勝一一一他中央」。

〔保挂〕うゝ其の如く保かる。○〔後國〕「一一一」。

〔懸挂〕ならびかゝる、ならべかく。○〔肖題〕「鐵一一一」。

〔宋挂〕實際のむね。○〔史〕「共一一一」。

〔懸挂〕師よりうけたゝられたる教のむね。○〔史〕「口受其一一」。

〔相挂〕あるものかなるむね、相かなるさしづ。○〔國〕「大切なる事、厚密藏一一」。

〔衆挂〕大切なるむね。○〔國〕「方論六藝之一一」。

〔字挂〕文字のむね。○〔國〕「陳一一一軟實」。

〔綱挂〕ひとかなるこゝろもて、ひとかなるさしづ。○〔國〕「死年生一一以觀世相」「當在詩瑞」。

〔芳挂〕正しからざる心ばへ。○〔國〕「俗觀一一」。

〔從挂〕ものゝなるむね。○〔史〕「擧其一一」。「傳」。

〔標挂〕主なるものもむき。○〔史〕「以大義、問其中間一一」。

〔同挂〕おなじ筆にかゝる。○〔國〕「秋事西一一」。

〔綱挂〕かなるをひかず。○〔相傳記〕「高瑞義前狀一一相之關者」。

〔參挂〕かゝるものつたなるゆび。○〔藤園〕「雀一一、蛟印手書編」。

〔屈挂〕節くの方をゆびもて、さす。○〔李德〕「野中一一三千歲」。

〔十手所挂〕數人の聞く知る所の義にいふ語。○〔國〕「十目所視、一一一一」。

挈 ケツ、ケチ。苦結切 屑

一ひっさゞ、さゞ、提。○〔禮〕「班二白者不一提一二」。

二修整す、さゝのふ。○〔荀〕「君子一一其辨、而同レ濟者合衆」。

〔提挂〕ひっさゞ。○〔作荀〕「一一共雖勞衆愛」。

〔扶挂〕助け持つ。○〔後紀〕「一一宰幼相繼」。

〔左提右挂〕相扶持すること。○〔國〕「以海常王」。

挈 クイ、カイ。詰計切 霽

一かく、缺、又たつ（絕）。○〔司馬相如〕「一二三神之獸」。

二板に認めたる文書。○〔漢〕「上所」

是受而著〔獻法〕廷尉—令〔二〕。
㊁契に通ト用ふ、わりふ、てがた。○〔漢〕「内史稻田租—重〔一〕。
㊂燃やし灼くやく。○〔班固〕「且算二記於—龜〔二〕。

挈 カツ、ケチ。詰黠切 黠

ひとり（獨）。

摽 ハイ、ヘイ。蒲蓋切 蓋

はらふ（撥）。

摽 ハイ、ヘ。蒲昧切 隊

もとらす（摽）。

按 アン。烏肝切 翰

㊀おさふ。
（い）壓し下す、おす。○〔梁簡文帝〕「陸離抑—〔一〕磊落縱横」。
（ろ）檢制す、とりまむ。○〔管〕「—レ彊助レ弱」。
（は）とゞむ（止）。○〔史〕「王—レ兵毋レ出」。
（に）ひかふ（控）。○〔史〕「天子乃—レ轡徐行」。
（ほ）安んず。○〔史〕「趙軍—長平、以—二據上黨之民〔一〕」。
（へ）守る。○〔禮〕「陳三祭器〔一〕度、程〔二〕」。
（と）撫づ。○〔史〕「毛遂—レ劒歷階而上」。
㊁ならぶ。
（い）巡りて察る。○〔晉場銘〕「俾二有司—二之當今之務〔一〕」。
（ろ）驗を考ふ。○〔漢〕「—二之當今之務〔一〕」。
（は）罪過を擧ぐ、糾問す、きはむ、たゞす。○〔漢〕「公府—レ辟自レ吉始」。
〔敕按〕引き抑へてならず。○〔漢〕「於是—一數」。
〔梁按〕取りあつかてならず。○〔朝野僉載〕「凡取官不法許—一」。
〔召按〕呼び出だしてならず。○〔史〕「李相國—一之」。
〔渡按〕くりかへしならず。○〔漢〕「—一梁邪」。
〔考按〕かんがへならず。○〔漢〕「國史—一」。
〔抑按〕とゞめてならず。○〔漢〕「天子詔貴戚以—一」。
〔請按〕ならず。○〔後漢〕「—一無所回避」。
〔奈按〕ならず。○〔後漢〕「上不加—一」。
〔推按〕窮めならず。○〔後漢〕「乞留—一」。
〔案按〕前に同じ。○〔後漢〕「—一」。
〔拾按〕ならず。○〔後漢〕「—一」。
〔巡按〕めぐりならず。○〔後漢〕「—一」。
〔勁按〕上に告げてたやす。○〔後漢〕「—一」。
〔編按〕たづねならず。○〔後漢〕「—一其事」。
〔腰按〕吟味す。○〔後漢〕「—一」。
〔鞫按〕ならず。○〔後漢〕「—一」。
〔臨按〕出はり行きて吟味す。○〔後漢〕「—一」。
〔糾按〕ならず。○〔後漢〕「—一」。
〔推按〕とくとくかんがへならず。○〔後漢〕「—一」。
〔計按〕ならず。○〔後漢〕「—一」。
〔抑按〕ならず。○〔後漢〕「—一」。
〔新按〕あらたかなでなず。○〔後漢〕「—一」。

按 アツ、アチ。阿葛切 曷

とゞむ（止）。○〔詩〕「以—一徂旅」。

拏 タク、チヤク。陟格切 陌

探に同ト、手にて物をはかるばかる。

拏 タク、チヤク。陟格切 陌

俗の弄の字。

抱 キ。古委切 紙

やぶりすつ（毀撤）。

抱 ギ。魚鬼切 尾

かく、かゝる（懸）。

抪 キン、コン。丘甚切 寢

物をもつ、もつ。

拒 シン之刃切 震

㊀たす（給）、一說に、つかぬ（約）。
㊁のごふ（拭）。○〔禮〕「浴用二絺巾一、—用二浴衣〔一〕」。
㊂振に同ト、ふるふ。○〔楚辭〕「新浴者必—レ衣」。

拒 キン、コン。居欽切 侵

擒に同ト、のごふ。

抛 センン、チン。而宣切 先

さゝふ（拄）。

抛 シ、ニ。日之切 支

ひく（擊）。

格 カク、キヤク。各額切 陌

㊀うつ（擊、又たゝかふ（鬪）。○〔魏〕「手—三猛獸〔一〕」。
㊁あぐ（擧）。㊂とゞむ（止）。

格 カク。虛各切 鐸

うつ（擊）。

格 カク。曷各切 合

拳引す、ひく。

拏 シ。千奢切 麻

ひく（擊）。

拏 キヨウ、ク。古勇切 腫

いだく、かゝふ（擁）。

挍 校に同ト。

挍 カウ、ケウ。居肴切 肴

㊀みだる（亂）。㊁いきどほる（憤）。

挎 コ、ク。苦胡切 虞

もつ（持）。○〔儀〕「—レ越内一枝」。

挏 トウ、杜孔切 董 徒紅切 東

ヅ。

搖き引く、ひく、又、うごかす（動）。○〔推〕「撑挏搖—世之風俗」。
〔編按〕つき動かす。○〔國〕「—乃成也」。
〔推按〕かも動かす。○〔劉表〕「紅旦動—一」。
〔新按〕前に同じ。○〔劉表〕「紅旦動—一」。

捍 ソク。租毒切 沃

早く熟せる禾を收むること。

拏 拏に同ト。○〔莊〕「丈人—而引レ其船」。
〔拏按〕わづらはしく亂れひく。○〔孔叢〕「狡—一而交觀」。
〔拏按〕なびき亂れひく。○〔王褒〕「歌舞吟—一」。
〔拏按〕さらへとゝのへん。○〔論語〕「紀朱戰之間、請之—一」。

挑 テウ。吐彫切 蕭

㊀拘へ擊つ、うつ。○〔國〕「卻—レ天」。
㊁引き撥す、かゝぐ、あぐ。○〔白居易〕「輕攜慢撚抹復—」。
㊂穿抉すくりとる、ほりくる。○〔嵇康〕「侃左手有レ文、逢二中指上横節一便止、侃以針—令微」。
㊃宛轉す、めぐる、めぐらす。○〔莊〕「登二天游一霧撓—無極」。
㊄汁などを挹みあぐる匙。○〔儀〕「二手執二—匕枋」。
㊅佻に通ト用ふ、うすし。○〔荀〕「其服不レ—」。
㊆杖に下げて荷ふ、になふ。○〔陸游〕「擔—壺草屨」。
㊇とる、取。○〔康熙〕「今揀二擇人物一亦謂二之—一」。

挑 テウ、デウ。徒了切 篠

㊀ひく、引。○〔成公綏〕「輕拂徐振緩案急—」。
㊁もてあそぶ（弄）。○〔宋〕「輕—二兵、端一窗國深害」。
㊂他をうごかし挑る、いどむ。
（い）誘ふ。○〔史〕「若漢—レ戰慎勿二與戰一」。
（ろ）戲る、たはむる。○〔漢〕「相如以二琴心一—レ之」。
㊃掉に同ト、ふるふ。○〔宋〕「皆三—乃退」。
〔日本〕めもていはみいぎなよ。○〔史〕「—心挑」。
〔輯考〕舞遊作に弄ぶ。○〔宋〕「—二兵端」。

挑 タウ、トウ。土刀切 豪

身輕に跳躍す、はねをどる、一說に、往き來すること。○〔詩〕「—兮達兮」。

挧 レツ、レチ。良薛切 屑

かゝぐ（擧）、一說に、れづ（捩）。

挒 クヲ、ケヲ。切果 ダ、ナ。切果 哿

物を摘む、つむ（趙魏の間の語）。

挈 キヨウ、ケ。苦容切 冬

兩手をあげて取る、とる。

挖 タ。陟加切 麻

—抄は開く貌にいふ語。

挕 デフ、チフ。尼輒切 葉

とる（採）。

探 サウ、ソウ。蘇遭切 豪

攀ぢ探くすがる。

拔 旅に同ト。

拇 テフ。丁叶切 葉

うつ（打）。

拍 コツ、コチ。呼骨切 月

高き貌にいふ字、たかし。

挖 ヲツ、ワチ。切括 曷 烏八切 黠

みだる（挑）。

拈 古文の指の字。

揉 セン、ゼン。蘇前切 先

もつ（持）。

挾 抉に同ト

扛 コウ、ク。匪降切 東

蟲の飛ぶにいふ字、とぶ。

七畫

挨 アイ。於駭切 賄 倚亥切 咍

英皆切 佳 一本推に作る。

㊀背を擊つ、うつ。○〔菊坡叢話〕「野牛就レ木—レ擦」。
㊁推排す、おす、ひらく。○〔列〕「攜拗—一抗」。
㊂強過す、すゝむ。○〔王安石〕「旗纛千里相搪—」。
㊃切近すちかづく、せまる。○〔梅堯臣〕「千檣密自—」。

挩 タツ、タチ。他括切 屑

㊀とく、解。㊁のぞく、除。
㊂あやまる、誤。㊃のこす、遺。

挩 セイ、ゼ。輸芮切 霽

のごふ、拭。○〔儀〕「坐—レ手遂祭レ酒」。

挩 エイ、エ。兪芮切 霽

抗に同ト、うごく、うごかす、動。

挪 ダ、ナ。諾何切 歌

もむ（搓）。

挫 サ、ザ。祖臥切 箇

㊀くとく。
（い）くだく（摧）。○〔周〕「凡採レ牙外不レ庳而內不レ—」。
（ろ）勢氣へこみ弱る。○〔魏〕「勢—力風」。
（は）勢氣を抑へ弱らしむ。○〔舊唐〕「太宗按甲以—レ之」。
（に）毀辱す、はづかしむ。○〔孟〕「思予以二一・惡一—於人若レ鏗二於市朝一」。
㊀とる、とらふ（搦捉）。○〔楚辭〕「—レ精凍飲」。

〔蟠按〕くとく。○〔後漢〕「曾情—一」。
〔抑按〕前に同じ。○〔抱朴子〕「—一騎立」。
〔遮按〕そしる。○〔後漢〕「而鑑之未由所—一」。
〔攝按〕くとく。○〔後漢〕「郭泰—一之」。
〔折按〕前に同じ。○〔後漢〕「外則—一勢尚」。
〔傷按〕自づから。○〔史〕「服有—一」。
〔衷按〕よわりくとく。○〔魏〕「又不能坐觀—一」。
〔伐按〕うちくとく。○〔大觀〕「直相—一以讓」。
〔地〕。
〔戰按〕つみなひくとく。○〔論莊〕「必加—一」。
〔鼎按〕くづはる。○〔尋常〕「故字選—一」。
〔波按〕たのがくとく。○〔蘇軾〕「牛車—一鏡」。
〔鑿〕。

挫 サ、ザ。臧戈切 歌

おさふ（塞）。○〔莊〕「—レ鍼治レ癰」。

抹 サン、ソン。桑感切 感

うごかす、うごく（搖）。

挬 ホツ、ボチ。蒲沒切 月

ぬく（拔）。

挭 カウ、古杏切 梗 一本撓に作る。

㊀みだる（攪）。㊁たわむ（撓）。

挭 テイ、タイ。他禮切 齊

涙を去る。

梯 テイ、タイ。他計切 霽

ぬぐふ（拭）。

振 シン。之刃切 圖
一すくふ（救）。○〔禮〕「一一乏」絶」。
二ふるふ。
（いうこく、うごかす、ふる。○〔禮〕「繫」蟲始」。
（ろ）なのゝくなのゝがすおそる、おどす。○〔戰〕「燕王」一一怖大主之威」。
（は）あぐ、あがる（舉）。○〔荀〕「明」一宰末」。
（に）おこる、おこす（興）。○〔國〕「一一摩滄」。
（ほ）拂ふ。○〔禮〕「一一書端」書於君前」。
（へ）整ふ。○〔管〕「一一之刑罰」。
三ひらく（披）。○〔左〕「一レ虞同レ食」。
四をさむ（收）。○〔禮〕「一一河海」而不レ逸」。
五やむ（止）。○〔詩〕「一レ旅閔々」。
六古貴いにしへ。○〔詩〕「一一古如茲」。
七群り飛ぶ貌にいふ字。○〔詩〕「一鳧于飛」。
（か）振 物をあたへ（與）。○〔左〕「一一衆」一新」。
（ま）振 ゆるさかに整ふ。○〔史〕「顏色」一一」。
（み）振 のべる。○〔後漢〕「一一鼓鳴」。
（む）振 米倉を發きて人をすくふ。○〔蜀志〕「幕府開設」一一之實」。
（め）振 整へる。○〔左傳〕「一一虎旅」。
（も）振 よる。○七見「條旋」一一」。
（や）振 運ひ方をつかふ。○〔韓詩外傳〕「羽」一一」。
（ゆ）振 ゆかんなる。○〔鍾白馬賦〕「駿骨」一一」。
（よ）振 あきらかにする。○〔江賦〕「所以」一一」才略」。
（ら）振 整ふ。整飭。
（り）振 集めて大成すること。又、不倫にして完全なるもの。○〔史〕「集大成也者」一一而一一之也」。

振 シン。之人切 圖
一あつし（厚）。○〔詩〕「一一公子」。
二盛なる貌にいふ字。○〔左〕「均服一一」。

振 シン。止忍切 軫
一取り出す、分け取る、とる、くむ。○〔詩〕「不レ可三以一酒漿一」。
二まりぞく、おさふ（抑）。○〔荀〕「一而損レ之」。
三掉に通ト用ふ、こまぬく、すゝむ、ゆづる。○〔荀〕「拱一指麾」。
（ま）振 おさふ、まりぞく。○〔後漢〕「情存一一」。
（ち）振 雨不居。
（ち）振 皮皇書くして高からざるる。○〔管〕「報尊一一」。
（ぬ）振 色をうやまひかゝるもの。○〔管〕「相一一敵日」我不如也」。
（ね）振 おしすゝむ。○〔荀〕「職所」一一」。
（の）振 すくむ。○〔禮〕「大如一一」以女妻之」。
（は）振 うやまふ。○〔荀〕「慎見」制」一一」。
（ひ）振 〔すくたる。○〔北〕「名位雖高」益存」一一」。
（ふ）振 くみとる。○〔水經〕「一一」河渡」臨」故芳」。
（へ）振 おりぞく。○〔王僧〕「國業」一一」。
（ほ）振 おしすゝむ。○〔荀〕「職所」一一」。
（み）振 すくむ。○〔禮〕「大如一一」以女妻之」。
（む）振 〔すくたる。○〔北〕「名位雖高」益存」一一」。
（め）振 〔くみとる。○〔水經〕「一一」河渡」臨」故芳」。
（も）振 おりぞく。○〔王僧〕「國業」一一」。
（や）振 〔相一一敵日」我不如也」。
（ゆ）振 〔おしすゝむ。○〔荀〕「職所」一一」。
（よ）振 〔すくむ。○〔禮〕「大如一一」以女妻之」。
（ら）振 〔うやまふ。○〔荀〕「慎見」制」一一」。
（り）振 〔すくたる。○〔北〕「名位雖高」益存」一一」。
（る）振 〔くみとる。○〔水經〕「一一」河渡」臨」故芳」。
（れ）振 〔おりぞく。○〔王僧〕「國業」一一」。

捉 イフ、オフ、乙及切 緝
一取り出す、分け取る、とる、くむ。○〔詩〕「不レ可三以一酒漿一」。
二まりぞく、おさふ（抑）。○〔荀〕「一而損レ之」。
三掉に通ト用ふ、こまぬく、すゝむ、ゆづる。○〔荀〕「拱一指麾」。
（ま）振 おさふ、まりぞく。○〔後漢〕「情存一一」。
（ち）振 雨不居。
（ち）振 皮皇書くして高からざるる。○〔管〕「報尊一一」。
（ぬ）振 色をうやまひかゝるもの。○〔管〕「相一一敵日」我不如也」。
（ね）振 おしすゝむ。○〔荀〕「職所」一一」。
（の）振 すくむ。○〔禮〕「大如一一」以女妻之」。
（は）振 うやまふ。○〔荀〕「慎見」制」一一」。
（ひ）振 〔すくたる。○〔北〕「名位雖高」益存」一一」。
（ふ）振 〔くみとる。○〔水經〕「一一」河渡」臨」故芳」。
（へ）振 〔おりぞく。○〔王僧〕「國業」一一」。
（ほ）振 〔おしすゝむ。○〔荀〕「職所」一一」。
（み）振 〔すくむ。○〔禮〕「大如一一」以女妻之」。
（む）振 〔うやまふ。○〔荀〕「慎見」制」一一」。
（め）振 〔すくたる。○〔北〕「名位雖高」益存」一一」。
（も）振 〔くみとる。○〔水經〕「一一」河渡」臨」故芳」。
（や）振 〔おりぞく。○〔王僧〕「國業」一一」。
（ゆ）振 〔相一一敵日」我不如也」。
（よ）振 〔おしすゝむ。○〔荀〕「職所」一一」。
（ら）振 〔すくむ。○〔禮〕「大如一一」以女妻之」。
（り）振 〔うやまふ。○〔荀〕「慎見」制」一一」。
（る）振 〔すくたる。○〔北〕「名位雖高」益存」一一」。
（れ）振 〔くみとる。○〔水經〕「一一」河渡」臨」故芳」。
（ろ）振 〔おりぞく。○〔王僧〕「國業」一一」。

抄 サ。師加切 麻
一桑何切 戈 一作る。
摩り採む、もむ。○〔韓愈〕「誰復著」手更摩一一」。

捏 タウ、直庚切 庚 デヤウ。切 庚
えらぶ（擇）、あぐ（擧）。

抄 サ。桑何切 戈 一作る。
摩り採む、もむ。○〔韓愈〕「誰復著」手更摩一一」。

挴 バイ、メ。莫罪切 賄
むさぼる（貪）。○〔楚辭〕「穆王巧一夫何周流」。

挵 弄に同ト。

拽 カ。五可切 哿 牛河切 歌
もむ（擦）。

掏 キヨク、居玉切 沃 コク。切 沃 或は拘 に作る。
一手にてあげ持つ、拘へ持つ、かゝふ、もつ。
二土をになふに用ふる器、つちふこ。○〔左〕「陳」畚」一一具」輦」畚」。

挶 ケン。吉典切 銑
のこぶ（拭）。

挺 テイ、デヤウ。徒鼎切 迥
一ぬく。
（い）ひき出だす。○〔國〕「一レ鈹擠レ鐸」。
（ろ）脱す。○〔史〕「尉劍」。
（は）引く。○〔漢〕「一レ身逃亡」其印綬」。
（に）ぬきんづ、二に同ト。
二ぬきんづ。
（い）特に擧ぐ。○〔漢〕「一一力田」。
（ろ）秀で立つ。○〔左思〕「列」一一衛山之陽」。
（は）進み出づ、進め出だす。○〔蘇軾〕「一レ身而鬪」。
三なほし、ただし（直）。○〔左〕「周道一一」。
四なほく持つ、もつ、とる。○〔宋〕「一レ戈而前」。
五ゆるす、ゆるむ（寛）。○〔禮〕「一一四徒」益」其食」。
六脛に通ト用ふ。○〔儀〕「脛」脚五一一」。
七梃に通ト用ふ。○〔韓愈〕「南墻鉅」竹干一一」。
（な）挺 ぬきんでゝ立つ。○〔歴天食山經〕「八柱一一」以衆觀」。
（に）挺 めづらしくぬきいづ。○〔歴天食山經〕「鐵」金」獻之所一一」。
（ぬ）挺 すぐれぬきいづ。○〔孔雀東南〕「吾家一一」。
（ね）挺 前に同ト。○〔任昉〕「伏惟聖武一一」。
（の）挺 常の名、おはたら。○〔禮〕「仲尼一一」也」。
（は）挺 とくべつにぬきんづ。○〔徐陵〕「一一廢擢」。
（ひ）挺 めづらしくぬきいづ。○〔呉均〕「像類竹之一一」。

挺 タウ、デヤウ。丈梗切 梗
なほし（直）。

挺 セン。尸連切 先
一ながし（長）、又、ひく（引）。○〔唐〕「一一」亂江南」。
二逆に取る、とる。○〔揚雄〕「秦晉之間、凡取物而逆謂之籌、楚或謂之一一」。
三のがる、遁。○〔賈誼〕「主上有敗、則因而一レ之矣」。
四掌にて擊つ、うつ（批より重し）、又、もむ（揉、やはらぐ、和）。○〔淮南子〕「猨狖陶人爲器也、揉一一其土而不益厚」。

挺 テン。抽延切 先
ながし（長）。

挺 エン。寒然切 先

挼 ダ、ナ。奴禾切 歌
一とる（取）。二あまれし（周）。
挼へ採む、もむ。○〔晉〕「東府聚稽、薄一大擲劉裕一一五木」久レ之卽成レ盧矣」。

挼 サイ、蘇回ダイ、奴回切 灰
一うつ、擊。二手にて摩すする。

挼 キ。翻規切 支 スキ。宣鎚切 支
神に供ふる霊稷の屬。○〔儀〕「祝命一一祭」。

挼 ス井。宣錐切 支
もむ（接）。

挼 ラ、盧臥切 箇
採に同ト、をさむ（理）。

挼 ダ、ナ。奴臥切 箇
おす（推）。

拗 扶に同ト。

挽 ベン、マン。武遠切 阮 バン、マン。
無歌切 箇 ベン、メン。美辨切 銑 古文は「輓」に作る。
前より引き進む、ひく、すゝむ。○〔禮〕疏「力作一一引之事」。

拘 カ ガ。下可切 箇
になふ（擔）。

拏 カウ、キヤウ。丘耕切 庚
一琴の聲音にいふ字。
二引き伸ぶ、のぶ、ひく。

拔 ブ、ナ。奴禾切 歌
一淡に同ト、あまれし、さゝく。○〔詩〕「使不レ一一四方」。
二十干を日子に配當して甲より次ぎの甲に至るまでの日子の稱、卽ち、十日。○〔周〕「一一日而歛レ之」。
三めぐる、匝。○〔荀〕「方皇周一一」。

拔 俗の插の字。

拔 ホウ。數容切 冬 ブ。房用切 宋
一さゝぐ（奉）。
二兩の手に分け數ふ、かぞふ。

拔 ダン、ナン。奴紺切 勘
魚の食ふ貌にいふ字。

拔 トン、ドン。他恨切 願
のぶ（振）。

拔 カウ、ケウ。古巧切 巧
攪に同ト、みだる。○〔馬融〕「散」毛族」一一羽翠」。

拔 コク。枯沃切 沃
うつ（打）。

拔 ゴ。五故切 遇
一抵觸す、支拄す、ふる、さほる、あたる、さかふ、さゝふ。○〔後漢〕「難」無所」擬一一然終不能改」。
二對し向く、むかふ。○〔儀〕「若無器則一一受之」。
（ま）拔 ふれるかた。○〔後〕「或有一一」。
（ち）拔 さゝふ。○〔史〕「無故一一」。

拔 居運切 問 擧蓋切 旨
擾擾に上、とる、ひろふ。○〔史〕「往往」は、開く貌にいふ語。

拔 バイ、メ。莫罪切 賄
むさぼる（貪）。○〔楚辭〕「穆王巧一夫何周流」。

拔 弄に同ト。

拔 カ。五可切 哿 牛河切 歌
もむ（擦）。

拔 キヨク、居玉切 沃 コク。切 沃 或は拘 に作る。
一手にてあげ持つ、拘へ持つ、かゝふ、もつ。
二土をになふに用ふる器、つちふこ。○〔左〕「陳」畚」一一具」輦」畚」。

拔 ケン。吉典切 銑
のこぶ（拭）。

拔 テイ、デヤウ。徒鼎切 迥
一ぬく。
（い）ひき出だす。○〔國〕「一レ鈹擠レ鐸」。
（ろ）脱す。○〔史〕「尉劍」。
（は）引く。○〔漢〕「一レ身逃亡」其印綬」。
（に）ぬきんづ、二に同ト。
二ぬきんづ。
（い）特に擧ぐ。○〔漢〕「一一力田」。
（ろ）秀で立つ。○〔左思〕「列」一一衛山之陽」。
（は）進み出づ、進め出だす。○〔蘇軾〕「一レ身而鬪」。
三なほし、ただし（直）。○〔左〕「周道一一」。
四なほく持つ、もつ、とる。○〔宋〕「一レ戈而前」。
五ゆるす、ゆるむ（寛）。○〔禮〕「一一四徒」益」其食」。
六脛に通ト用ふ。○〔儀〕「脛」脚五一一」。
七梃に通ト用ふ。○〔韓愈〕「南墻鉅」竹干一一」。
（な）拔 ぬきんでゝ立つ。○〔歴天食山經〕「八柱一一」以衆觀」。
（に）拔 めづらしくぬきいづ。○〔歴天食山經〕「鐵」金」獻之所一一」。
（ぬ）拔 すぐれぬきいづ。○〔孔雀東南〕「吾家一一」。
（ね）拔 前に同ト。○〔任昉〕「伏惟聖武一一」。
（の）拔 常の名、おはたら。○〔禮〕「仲尼一一」也」。
（は）拔 とくべつにぬきんづ。○〔徐陵〕「一一廢擢」。
（ひ）拔 めづらしくぬきいづ。○〔呉均〕「像類竹之一一」。

拔 タウ、デヤウ。丈梗切 梗
なほし（直）。

拔 セン。尸連切 先
一ながし（長）、又、ひく（引）。○〔唐〕「一一」亂江南」。
二逆に取る、とる。○〔揚雄〕「秦晉之間、凡取物而逆謂之籌、楚或謂之一一」。
三のがる、遁。○〔賈誼〕「主上有敗、則因而一レ之矣」。
四掌にて擊つ、うつ（批より重し）、又、もむ（揉、やはらぐ、和）。○〔淮南子〕「猨狖陶人爲器也、揉一一其土而不益厚」。

拔 テン。抽延切 先
ながし（長）。

拔 エン。寒然切 先

拔 ブ。蒙于切 虞
土を埋の中に盛る、つちもる、かきつむ、あつむ、とる。○〔詩〕「一レ之陾陾」。

拔 キウ、ク。居尤切 尤
一前條に同ト。
二物の長き貌にいふ字、ながし。○〔詩〕「有一一棘」匕」。

拔 キウ、ク。居又切 宥
敕に同ト、すくふ。○〔漢〕「將」以」溢扶」寡」。

拔 トウ、ツ。他孔切 送
一すゝむ（進）。二ひく（引）。

拔 ソウ、ス。損動切 董
一前條に同ト。二敲に同ト、うつ（擊）。

拔 コン。苦本切 阮 苦閑切 潸
一叩きて堅密ならしむ、たゝくうつ、逼まりて纖密ならしむ、せまる、まむ。○〔左傳〕「一一屨織」席」。
二堅密となる、纖密となる、まる、かたまる。○〔詩疏〕「一一逼而密織」。

捆 コン、ゴン 胡昆切 元
一掴に同ト、手にて物を推す、おす。
二とる（取）。三くむ（抒）。四くむ（舞）。

捆 トン、ドン。杜本切 阮
おす（推）。

抹 クロク。呼麥切 屋
さく（裂）。

抹 カク、キヤク。郝格切 陌
土を掘る、ほる。

抹 セキ、シヤク。七迹切 陌
物を除掃す、のぞく、はらふ。○〔周〕〔赤芽槍〕「音二一拔」。

抹 ト。同都 虞 ヤ。余遮切 麻
横さまに引く、ひく、又、とる、〔抒〕。○〔揚雄〕「一中心之所欲、通諸人之喉咙者、莫如音」。

除 チヨ。抽居切 魚
擢に同ト、のぶ、とる。

除 ダ。直加切 麻
なげうつ、擲。

捉 サク、ソク。側角切 覺
とる。
（い）にぎる（握）。○〔蜀註〕「先主一レ手而別」。
（ろ）とらふ（捕）。○〔唐〕捕一一未獲。
〔字林〕歯の初めに出たり遺城をまもる小單陣の城。○〔書〕「大日、堅、小日一一」。
〔紀傳〕とる。○〔僧寶傳〕「老僧結師相一一」。
〔論語〕捕ふ。○〔賈誼〕「可一一而取之」。
〔孟子〕獲に同じ。○〔孟子〕「不可一一」。

捉 ホウ、蒲侯切 尤 フ。房尤切 尤
引き寄せて聚む、かきあつむ、あつむ、又、くむ（掬）。○〔禮註〕「人所一一治也」。

捕 フ、ホ。方遇切 遇
搏に同ト。

捉 クヮン、クヮン。胡官切 寒
けづる（刮）、ずる（擦）。

捉 クヮン、クヮン。戶管切 旱
うつ（擊）、又、する（擦）。

捉 クヮツ、古刹切 黠
刮に同ト。○〔周註〕「一一擦之工」。

捉 ホ、ブ。蒲故切 遇
敷敷す、ふさむ。

捉 ホ、ブ。蓬逼切 虞
芟に通ト用ふ、亂草を收む、ふさむ。

捉 チヨク、チキ。竹力切 職
うつ（打）。

扶 サフ、セフ。初洽切 洽
さし、（刺）。

捉 ソン、祖寸切 願 シユン。七倫切 ス井。津垂切 支
おす（推）、又、つかむ（捉）。○〔左〕「涉佗」「衛侯之手一及一擁」。

捉 サイ、祖同 灰 セ。切 サイ、子對切 隊
おす、（推）。

捉 抽に同ト。

捉 シユク。式竹切 屋
ひく（引）。

掬 捻の本字。

掔 掣に同ト。

捏 サイ。莊皆切 佳
拳にて擊ぐ、さいぐ。

捧 カウ、ゴウ。下江切 江
變の帆。

捧 エイ。餘制切 霽
ひく（牽引）。

八畫

揖 トク。他雞切 屑
拳にて打つ、手のひらにて打つ、うつ。

揖 ヨン。烏貫切 翰 一一に、拳拳に作る。
腕、擊に同ト、うで、かひな。○〔史〕「海、上燕齊之間、莫一不一接一而自賈」。
有二柴一方一能乙神一僊甲」。

揖 ヨン。烏丸切 寒 ウツ、紆勿切 物 ウチ。切
れぢれる、れづ、拗捩。

揖 ヨン。烏管切 旱
とる、取。

捻 キン、琴金切 侵 ゴン。切 或は撰、擒、拎に作る。
衣の袴を急しく持つ、急しく持つ、もつ、さる、さらふ。

捻 ヨ、ヤ。切 於許切 魚 依據切 御
うつ、擊。

捻 タフ、ドフ。達合切 合
一一繼ひ物をなすときに指に貫き着けて針頭を抑ふるに用ふるもの、ゆびぬき、一說に、指嚙、かはのゆびぶくろ。
二おほふ（冒）。三うつす（摹）。

捻 タク、トク。竹角切 覺
一一うつ（擊）。二なげうつ（擲）。
三おす（推）。四水が刺す、さす。

捻 ソク。作木切 屋
ふる、（縛）。

捻 トク、ドク。都木切 屋
物を擊つ擊にいふ字。

捻 ヘウ、悲廟切 嘯
分かち與ふ、わかつ、ちらす。

捻 ケン、ゲン。胡田切 先
縣の名。

捧 ホウ、フ。數奉切 腫
左右の手にて承く、うく、さいぐ、すくふ。○〔禮〕「兩手一一長者之手」。
〔宋玉〕うけさく。○〔長門賦〕「一一車蓋」。
〔韓詩〕もちさく。○〔後漢書〕「一一書」。
〔張衡〕おかかげさく。○〔後漢書〕「一一俸出乃一一」。
〔後漢〕ひさまづきてさく。○〔蘇軾〕「一一香」。
「一一天官」。○〔後漢書〕「一一書」。
〔孝經〕ぬかづきさく。○〔後漢〕「一一思」。
〔禮記〕もたもしさく。○〔孫光憲〕「一一書」。
「御一來」。

捧 拳に同ト。

抒 フ。芳無切 虞
うつ（擊）。

抒 捻に同ト。

抒 ラツ、ラチ。郎括切 曷
一指先にて取る、とる、つまむ。○〔詩〕「彈言一一之」。
二なづ、する（摩）。○〔潘岳〕「郁一一劫括」。
〔宋抒〕取る。○〔劉蕡〕「一一一阿類」。
〔拳抒〕なづ。○〔賈誼〕「好自一一賈」。
〔摸抒〕手にてなづる殺にいふ。○〔書〕「或擒一一」。

抒 レツ、レチ。龍輟切 屑
前條の一の解に同ト。

捌 ハツ、ハチ。布拔切 黠
一抓に同ト、やぶる、さく、又、うつ（擊）。
○〔淮〕「解捽者不一在一於一一格一」。
二數目の八の字に借りて用ふる字。
○〔康熙〕「官文書紀一數借爲一八字一」。

捌 ハツ、ハチ。必結切 屑
一挽に同ト、もとる（捩）。
二さく（割）、わかつ、わかる（分）。

捌 ハツ、ハチ。百轄切 黠
禾穀を推し引きて聚むる具、卽ち鍬なきえぶり、さらへ。○〔急就篇〕「一一杷」。

械 カイ、ゲ。下介切 卦
もつ、（持）。

捍 カン。侯幹切 翰 カン、戶版切 諫 ケン。切
一扞に同ト、ふせぐ、まもる。○〔禮〕「能一一大患」「則祀之」。
二弓射るに臂に掛くる具ゆこて。○〔禮〕「右佩一決一一」。
三猛烈なり、たけし、はげし。○〔史〕「民雖一一而少一虛」。
四一一捺は、手を以て動かす、一說に、手を以て精しく擲ぶ、又、止む。

捉 俗の旋の字。

掉 ハウ、ヒヤウ。拔庚切 庚
うつ（打）。

拵 ラウ、ロウ。郎刀切 豪
とづ（閉）。

掉 サウ、セウ。師交切 肴
一物の上を取る、選擇す、略取す、えらぶ、かすむ、とる。○〔揚雄〕「搖一一選也」。
二かる、（殺）。○〔史〕「以一夜一一兎絲一去」。
三かする（掠）、又、ばらふ（拂）。○〔揚雄〕「曳一一星之籌」。
〔演教〕古昔の眞眞の名。

掉 サウ、山巧切 巧 所教切 效
うつ（擊）。

掉 セウ。思邀切 蕭
のぞく（除）。○〔周〕「以一其圍之防一一其藪」。
〔論語〕動く說にいふ詞。

捏 デツ、子チ。乃結切 屑
一おさふ（捺）。二さらふ（刷）。三捻
り聚む。

掘 短に同ト。

掘 トウ、グ。大遘切 宥
四剱よすくひ。

撰 ショク、ソク。實側切 職
うつ（友）。

揀 ショウ、シユ。當勇切 腫
一練に同ト、つゝしむ。二のぼる、のぼす（上）。三うごく、うごかす（動）。

揀 ショ、所據切 御 シユ、色句切 遇
よそほふ（裝）。

揀 ショク、ソク。輸玉切 沃
東に同ト、ぶばる、つかぬ。

揀 ソウ、ス。先侯切 尤
撥に同ト、とる（取）。

捐 エン。與專切 先
一すつ（棄）。○〔漢〕「自一我得一之、自一我一一之、無所一恨」。
二除去す、損す、のぞく、へす。○〔史〕「一一不急之官」。
〔出師〕いたしすつ。○〔史〕「太王捐國一一一畔」。
〔賓戶〕すつ。○〔銅色〕「金子市廛傾術之士、一一於世」。
〔說苑〕ぬきすつ、ぬかたのぞく。○〔後〕「王莽傳」「一一、卿、卿一一」。
〔書〕おとし棄つ。○〔王褒〕「野者往者、棄一一」。
〔李陵〕すつ。○〔禮〕「一一所佩帶」。

掷 ヤ。余遮切 麻

摯 リ。良脂切 支
手にて物を持つ、もつ。

捨 シヤ。書冶切 馬
轉棄す、てゝばなす、おとす、なゞす。○〔文中〕「居レ家不三暫一二周・禮」。〔字彙〕心のうち。心の中。〔晉書〕「行・樂有レ所レ寄、品題一一」。〔篇海〕たがひすつ。○〔史〕「未嘗一一」。

捩 レイ、ライ。耶計切 霽 或は「淚」に作る。
琵琶の弦を彈き鳴らす撥、ばち。○〔梁簡文帝〕「插レ撥二琵琶一」。

捩 レツ、レチ。力結切 屑 「戾」に、通ト用ル。
❶ねぢくれづ、〔拗〕、もとる、もとらす、〔紾〕。○〔韓愈〕「一レ手翻レ羹」。❷なる、〔折〕、さく、〔撕〕。○〔柳宗元〕「一枝」。

捻 コツ、コチ。苦骨切 月
❶相推し擊つ、うつ。❷塵を去る、ばらふ。

捩 カン、ケン。口減切 豏
安からす。

捫 ボン、モン。謨昆切 元 俗に「門」に作る。
❶撫で持つ、もつ。○〔詩〕「莫レ一二朕❷さぐる、摸。○〔史〕「漢・王傷レ胥乃一レ足」。

摘 古の撫の字、なづ。○〔漢二選三〕「撫耳更一一衢和軒」。

摘 フ、ホ。匪父切 麌
ふせぐ、〔捍〕。

摘 フ。方遇切 遇
手を物に著く、つく。

摛 ヒ。必至切 寘
昇に同ト、あたふ。

摛 ハイ、ヘ。補賈切 蟹
❶兩手にて擊つ、うつ、一說に、なげうつ、〔擲〕。○〔左思〕「莫レ不二飯レ銳挫レ鋩」。❷繼に通ト用ル、ひらく。○〔鬼谷子〕「蘇秦學二一闔捭一」。

摛 ヘイ、ハイ。普米切 霽
敝に同ト、やぶる、〔毀〕。

摛 ハク、ヒヤク。博厄切 陌 又「擘」に作る。
ひらく、〔開〕、又さく、〔拆〕。○〔禮〕「燔乘一レ豚」。

摛 バイ、マイ。莫亥切 賄
むさぼる、〔貪〕。

据 キヨ、コ。斤於切 魚
拮一ハ、口と手と共に作す、ばたらく、又、手を擧げ持つ、もつ。○〔詩〕「予手拮一一」。

据 キヨ、コ。居御切 御
❶手の病、てやみ。❷よる、〔據〕。○〔史〕「趙禹一レ法守レ正」。❸すぐなるうなト、〔直・項〕。○〔司馬相如〕「一以驕驁」。

掏 タウ、トウ。觀老切 皓
搗に同ト。

掝 ヲ。鄙果切 哿
つむ、〔摘〕。

捷 ガイ。宣佳切 佳
❶ふせぐ、こばむ、〔拒〕。❷延び緩む、ゆるむ、のぶ。

捲 ケン、ゴン。巨員切 先
❶氣勢、いきほひ。○〔國〕「有二一勇股肱之力」。❷こぶし、〔拳〕。○〔史〕「解二雜亂紛糾者不二控一一」。❸力を用ひて勞する貌にいふ字。○〔莊〕「一一乎后之爲レ人」。

捲 ケン。居轉切 霰
卷に通ト用ふ、まく、なさむ。○〔史〕「席二一常山之險一」。

捲 ケン、クワン。苦選切 阮
うつ、〔擲〕。

揉 カク、ゴク。五角切 覺
はトく、〔拉〕。

揉 カク、ゴク。五角切 覺
揉に同ト。

捻 ヒ。匹沼切 小
扮に同ト。

捩 セウ。千遙切 蕭
隙一ハ、たかし、高。

挽 テン。他典切 銑 チン。丑忍切 軫
手にて物を伸ぶ、のぶ。

挽 鑑に同ト。

捶 ス井。主藥切 藥 「鎚」に通ト用ル。
❶杖をもて擊つ、むちうつ、うつ。○〔魏〕「加二其一井之罰一」。❷つく、〔搗〕。○〔禮〕「欲二乾肉一則一而食レ之」。
〔韓愈〕うちたゝく。○〔史〕「無一一之刑」。〔綱目〕前に同ヒ。○〔南〕「鞭加一一」。〔晉書〕おひかけうつ。○〔南〕「鞭鎖一一」。〔晉書〕むちうつ。○〔後漢・土燾〕「寶鎚而一一」。

捶 ダ。都火切 哿 「一」に、「鞭」に作る。
はかる、〔搗〕。○〔莊〕「大馬之一レ鉤者」。

捷 セフ。疾葉切 葉
❶戰に勝つ、かつ、かち。○〔詩〕「二月三一」。❷戰爭の獲物、ぶんどりもの。○〔春秋〕「齊人來獻二戎一一」。❸かちの報知。○〔白居易〕「李二明・詞之詞二元・閏二月一一」。❹敏疾なり、はやし、さとし、かろし、すみやか。○〔漢〕「一如二慶・忌一」。○〔王延壽〕「獵一一韓・集相和」。❺接續す、つゞく、つぐ。○〔王延壽〕「獵一一韓・集相和」。❻三十六銖。○〔小爾二二・十四・銖曰レ兩々有半曰レ一」。
〔後漢〕すばやし。○〔史〕「幹理一一」。〔晉書〕敏に勝つ。○〔史〕「所在一一」。〔綱目〕うつくしくはやし。○〔史〕「不二聞無為而一一」。○〔史〕「余與吳公南下」。〔後漢〕みがるなるゝ。○〔史〕「皮肉一一」。〔後漢〕衣服のわさく成れたるをきるゝ。○〔方言〕

〔後漢〕「南巡瓦人愛衣被鮮厚、問之一一」。〔後漢〕「乃一一」。〔後漢〕「布一一而弱強」。〔後漢〕こてこきのはやきと。○〔後漢〕「布一一而弱強」。〔後漢〕足のはやきと。○〔後漢〕「駿馬一一」。〔才說〕智慧のとはりはやきと。○〔韓詩〕「陳治民一一」。〔後漢〕「一一」。〔後漢〕日時のさわやかなると。○〔後漢〕「明帝一一」。〔後漢〕たゝかひ勝つと。○〔後漢〕「所在一一」。〔後漢〕はやし。○〔後漢〕「可馬一一」。〔後漢〕うるはしくはやし。○〔後漢〕「軍一一」。〔後漢〕たけくすばやし。○〔後漢〕「未見以少敵一一」。〔後漢〕みがるにすばやきと、又、てがるくはやきと。○〔史〕「如馬・相・如」。〔後漢〕「如二江・漢・江・漢一一」。〔後漢〕「帝・紀・一一」。〔後漢〕足をあぐるとすばやし。○〔後漢〕「皆所以智」。〔後漢〕「一一」也。〔後漢〕つよくすばやし。○〔後漢〕「一一如此」。〔後漢〕前に同じ。○〔後漢〕「一一逸等輩」。〔後漢〕勝利のさらせを楽関す。○〔後漢〕「使入一一」。〔巧說〕極めてみがるし。○〔後漢〕「非不一一也」。〔後漢〕のぼりあがるとはやし。○〔心書〕「水・東・流・緩之手、而貴之以一一也」。〔後漢〕とがかしくすばやし。○〔曹植〕「一一繼一一」。〔後漢〕わるびとくすばやし。○〔後漢〕「一一者莫如一一」。〔後漢〕ひきつまり勝つ。○〔後漢〕「去武則南北一一」。

捷 サフ、セフ。測洽切 洽
插に同ト、さす、さしはさむ。○〔曹植〕「一二忘・歸之矢一」。

捷 トツ、トチ。他骨切 月
なめらか、〔滑・利〕。

拚 ホン、ボン。蒲悶切 願
手のさまの亂るゝ貌にいふ字、みだる。

掬 扎、又擄に同ト。

掾 拯に同ト。

掠 俗の搶の字。

掠 ダツ、奴曷切 曷 ナチ。切 乃八切 黠

捻 手にて重く抑ふ、おす、おさふ。❷瀾捫す、とらふとる。❸書法の一、即ち靈のやゝ斜なるもの、大人の字などの如し。

捻 デフ、ネフ。諾協切 葉
指頭にて挾み振づ、よゝる、ひねる。○〔宵・貢・高・誥〕「來・歲・花・開・舞・有二指・印・名爲二一一紅」。

捻 デツ、ネチ。乃結切 屑
おさふ、〔接〕。

捼 ダ、奴禾切 歌 「一」に、「挼」に作る。
ナ。奴禾切 歌
くだく、〔摧〕、もむ、〔揉〕、兩手にて切摩す、する。○〔無名氏〕「碎二一花一打レ人」。

捼 ヲ。烏禾切 歌
手に榮ふ、まとふ、めぐらす。

捼 ダイ、ネ。奴回切 灰
手にて物を摩す、する。

捼 擂に同じ。

捼 ズ井。儒錐切 支
❶もむ、〔揉〕。❷そむ、〔攜〕。

捼 井。於毀切 紙
もつ、〔捫〕。

捼 ジヤ、ニヤ。儒邪切 麻
もむ、〔揉〕。

拗 カツ、ケチ。丘瞎切 黠
ふめつく、〔拶・著〕。

捽 ソツ、ソチ。昨沒切 月
ジユツ、シユチ。卽律切 質
❶とる。（い）頭髮を持つ、手に持つ、つかむ、もつ、さらふ。○〔淮〕「溺則一二其髮一而拔」。（ろ）抜き取る、ぬく。○〔漢〕「農夫父子一レ卯把土」。❷あたる。（い）互に對す、むかふ。○〔國〕「戎・夏交一一」。（ろ）觸る、さはる。○〔莊〕「齊人之井飲者相一一也」。
〔後漢〕ひきつかむ。○〔後漢〕「倫今・說・倫一一」。〔後漢〕うちあたる。○〔後漢〕「曾・電・助一一」。〔後漢〕とも。○〔後漢〕「然皆以・神・說・刑・獄・相一一」。〔後漢〕ひきつまり勝つ。○〔後漢〕去武則南北一一。

捽 ソツ、ソチ。蘇骨切 月
する、〔摩〕。

捽 サイ、スキ。祖對切 隊
拔に同ト、おす、〔推〕。

掊 ソツ、ソチ。烏括切 曷
❶かゝぐ、〔揭〕。❷ひく、〔援〕。

掊 ソツ、ソチ。烏八切 黠
なゞ、〔援〕。

掊 チ、ヂ。丈里切 紙
くトる、〔抉〕。

掊 カツ、ゲチ。下瞎切 黠
搗に同ト、けづる。

掊 ヲン。烏版切 潸
とる、〔取〕。

捿 セイ、サイ。先齊切 齊
栖に同ト、すむ、すみか。○〔謝靈運〕「恣二此永幽一一」。

擤 キウ、ク。去仲切 送
おす、〔搾〕。

掘 クワク、コク。古獲切 陌
摑に同ト、うつ、〔打〕。

掘 ケン、ゴン。虛言切 元
❶手にて高く擧ぐ、擧げ出だす、あゞ、かゝぐ。○〔左〕「乃一レ公以出二手掉一」。❷高く聳ゆ、そびゆ、そびだつ。○〔韓愈〕「蛇・虺・首一一」。

掘 キン、コン。許斤切 文
丘近切 問 キツ、コチ。許訖切 迄
あゞ、かゝぐ。

掘 コン、ゴン。胡恩切 元
掘に同ト、ひく、〔引〕。

植 チ、ヂ。直吏切 寘
なゞ、〔援〕。

植 チ、ヂ。丈里切 紙

もつ（持）。

植 ショク、ジキ。常職切 職
杖に挂へらる、つるつく。

揀 トウ、タ。都動切 置
うつ（擊）。

揠 タウ、ヂヤウ。除庚切 庚
ふる（觸）、又、つく（撞）。○〔謝惠連〕以レ物―二發之一。

掉 タイ、デ。都猥切 賄
おす（排）。

掉 タウ、除耕 庚 ヂヤウ。切 ―に作る。
杙に同ト。

掉 テン。丁廉切 豔
手にて物を量るばかる。

拚 ハウ、ヒヤウ。北萌切 庚
㊀押に同ト、まむ、せしむ。
㊁弁に通ト用ふ―ト―く。

拚 ヘイ、ヒヤウ。皐正切 敬
倆に同ト、のぞく（除）。

掃 サウ、蘇老 皓 ソウ。切 先到 號
はらふ。
（い）汚穢を棄てのぞく、はく。○〔詩〕「酒―二廷内一」。
（ろ）抹す、なづする。○〔杜甫〕「溪―二蛾眉一朝二羊尊一」。

掄 ロン。盧昆切 元
㊀えらぶ（擇）。○〔國〕「君―賢人之後有レ常」位於國一者上而立レ方」。
㊁つらぬく、（貫）。

掄 リン。龍春切 眞
えらぶ（擇）。

掄 セイ、千定 徑 シヤウ。切 七正 敬
もつ、とる、（持）、捧。

掄 倩に同ト、やとふ。○〔六書統〕「假二人力一曰レ―」。

掬 カウ。居郎 陽 切 古溟 溟
扛に同ト、對舉す、さしにてあぐ、かく、あぐ。○〔唐〕「二鼓金一鉦一」。

掬 擊に同じ。

掬 タツ、都括 曷 タチ。切 テツ、陟劣 屑 タチ。切
とる。
（い）拾取す、ひろふ。○〔淮〕「猶下采
薪者見二一芥一―ヤ之」。
（ろ）掠略す、かすむ。○〔史〕「秦得

燒―焚三杆君之國一」。
〔宋祁〕と旨於上。○〔社甫〕「―…仕中朝」。
〔取意〕前に同じ。○〔李白〕「―…世上艱」。
〔抄略〕うつしとる。○〔史〕「有如―…」。
〔攫〕あつめひろふ。○〔史〕「雖論者之人能世―…」。
〔掬〕拾ひとる。○〔國〕「緊就―…」。
〔掬〕つまみとる。○〔元稹〕「―…明鏡発」。
〔掬〕えらびとる。○〔白居易〕「博徒―…」。
〔掬〕ひろふ。○〔王令〕「―…敗種―…詩」。

掬 セツ、セチ。朱劣切 屑
みとがし（短）。

授 シウ、是酉 宥 シュ 切 承呪 宥
㊀さづく。
（い）付與す、あたふ。○〔詩〕「還予授二子之粲一兮」。
（ろ）傳ふ。○〔史〕「子夏居二西河一、教―二魏文侯師一」。
㊁さづけらる、受く、さづかる。○〔周〕「再拜―レ稽」。
㊂さづくると、さづかると、さづくる所、さづかる所、さづけ、さづかり。○〔魏〕「恭籍二重一―」。

〔燒〕前に同じ。○〔皮日休〕「樂―…臥來
無二為技一」。
〔掃〕きよめはらふ。○〔王昌齢〕「―…降山」。
〔掃〕門戸をよさずてはらひきよむ。○〔唐〕「門庭―…」。
〔掃〕はや風の如くはらひ去る。○〔李白〕「千騎
―…」。
〔掃〕ふるひはらふ。○〔陸贄〕「奉命―…不自
知」。

〔掄〕ロン。盧昆切 元
〔掄〕えらぶ。○〔國〕「君―賢人之後有レ常」位於國一者上而立レ方」。
〔掄〕つらぬく、（貫）。○〔宋〕「七雄―…形人多失」。

〔掄〕リン。龍春切 眞
〔掄〕えらぶ。○〔宋〕「七雄―…形人多失」。

〔掄〕セイ、千定 徑 シヤウ。切 七正 敬
〔掄〕もつ、とる、（持）、捧。

〔掄〕倩に同ト、やとふ。○〔六書統〕「假二人力一曰レ―」。

〔掬〕カウ。居郎 陽 切 古溟 溟
〔掬〕扛に同ト、對舉す、さしにてあぐ、かく、あぐ。○〔唐〕「二鼓金一鉦一」。

〔掬〕擊に同じ。

〔掬〕タツ、都括 曷 タチ。切 テツ、陟劣 屑 タチ。切
〔掬〕とる。

〔掬〕拾取す、ひろふ。○〔淮〕「猶下采
薪者見二一芥一―ヤ之」。
〔掬〕掠略す、かすむ。○〔史〕「秦得

〔掬〕セツ、セチ。朱劣切 屑
〔掬〕みとがし（短）。

〔授〕シウ、是酉 宥 シュ 切 承呪 宥
〔授〕さづく。
〔授〕付與す、あたふ。○〔詩〕「還予授二子之粲一兮」。
〔授〕傳ふ。○〔史〕「子夏居二西河一、教―二魏文侯師一」。
〔授〕さづけらる、受く、さづかる。○〔周〕「再拜―レ稽」。
〔授〕さづくると、さづかると、さづくる所、さづかる所、さづけ、さづかり。○〔魏〕「恭籍二重一―」。
〔授〕天のさづけ。○〔史〕「陛下所謂―…乎」。
〔授〕魚鄧にあり、竿をさづかる。○〔後漢〕「―…東武因來問」。
〔授〕くちびたにさづくるやうし。○〔國〕「而
―…作愛、皆有盡期」。
〔授〕をし（さづく）。○〔魏〕「稱動―…」。
〔授〕とさつたふ。○〔國〕「勝年―…」。
〔授〕官をさづけあたふ。○〔國〕「即就中―…」。
〔授〕つた（さづく）。○〔後漢〕「柴此習相―…」。
〔授〕をしよ。○〔國〕「以此使皆春京氏易」。
〔授〕いつくしみてさづく。○〔史〕「秦得

〔燒〕前に同じ。○〔皮日休〕「樂―…臥來
無二為技一」。
〔掃〕きよめはらふ。○〔王昌齢〕「―…降山」。
〔掃〕門戸をよさずてはらひきよむ。○〔唐〕「門庭―…」。
〔掃〕はや風の如くはらひ去る。○〔李白〕「千騎
―…」。
〔掃〕ふるひはらふ。○〔陸贄〕「奉命―…不自
知」。

〔掄〕ロン。盧昆切 元
〔掄〕えらぶ（擇）

掎 イ。隔綺切 紙

一一匿は、正しからざるを。

掏 タウ、ドウ。徒刀切 豪

一えらぶ。（擇）。二とる。（抒）。

掐 カフ、ケフ。乞洽切 洽

爪にて刺す、爪もて按ふ、つかむ、ひねる、さす。○（晉）「一レ鼻灸二眉頭一」。

掑 キ、ギ。渠之切 支 一又葬に作る。

拎一一は堅勇なり、つよし。

排 ハイ、バイ。蒲皆切 佳

一推擠す、擯却す、おしあく、おしのく、はらふ、ひらく、ふりぞく、おす。○（史）「一レ闥直入」。二おさる、壁まる。○後漢「勢一逆不得二進退一」。三ならぶ。

（い）妥置す、おく。○（莊）「安一而去レ化」。

（ろ）列をなす。○（漢）「相推一陳二列中一庭一」。

（彫）（鶴）（鑑）（鑑）（鑑

さしめ隔てゝ自由ならしめず、ひく。○〔易〕「見二輿曳一其牛一」。〔樂書〕ひく。○〔禮〕「一二曾閣」。

掣 セツ、セチ。昌列切 屑

ひく。

（い）手をかけて寄すゝげ取る。○〔晉〕「從レ後一一其筆一不レ得」。

（ろ）延ぶ。○〔庾肩吾〕「或横牽堅一」。

（は）急しく縮まる。○〔六書故〕「乍一乍縱」。

〔樂書〕ひく。○〔李白〕「六甲鎖一一」。〔樂書〕既ひく鈍にして上聞。○〔詩話〕「城一一」。〔禮記〕「掣長坐之席登」。〔樂書〕ひきひく。○〔禮記〕「衆海一一長鯨」。〔禮〕「掣長坐之席登」。

捌 ヒヨウ。悲陵切 蒸

箭箙の蓋、やづゝぶた。○〔詩〕「抑釋レ一忌」。

接 セフ。子葉切 葉

一交會す。あふ、まじはる。○〔禮〕「若一子之一如レ水」。二交會せしむ。あはす、まじふ。○〔國〕「假兵一レ好」。三承受す。うく。○〔禮〕「一一下承レ所」。四連續す。つゞく。○〔漢〕「民一レ手飲」。五ちかづく（近）。○〔儀〕「賓立一二西一塾」。六迎へ射る。迎へ搏つ。○〔曹植〕「仰レ手一二飛猿一」。七すみやか（速）。○〔禮〕「一一祭而已矣」。八かつ、（勝）。○〔禮〕「國君世一子生一以二太牢一」。

〔樂書〕いれちかづく。○〔後漢〕「有接者一一」。〔樂書〕前に同じ。○〔田錄〕「糸一一」。〔樂書〕會す。あふ。○〔李〕「國手一一」。〔樂書〕ねんごろに聽報もてまねはる。○〔李〕「一一」。〔樂書〕まじはる、まじふ。○〔禮〕「不一一世俗」。〔樂書〕まひりつゝく。○〔禮〕「接一一」。〔樂書〕身かいやしきに會見す。○〔後漢〕「接一一」。〔樂書〕ちかづく。○〔後漢〕「接一一」。〔樂書〕つゞく。○〔後漢〕「接一一」。〔樂書〕をなりつゝき。○〔後漢〕「一一一大刑覆興國」。〔樂書〕もてなす。○〔後漢〕「一一一要書」。〔樂書〕教助すること。○〔後漢〕「糸一一」。〔樂書〕いつくしみちかづく。○〔後漢〕「又一一加」。〔樂書〕前に同じ。○〔後漢〕「一一一」。〔樂書〕前に同じ。○〔後漢〕「一一一」。〔樂書〕ちかづく。○〔後漢〕「一一一」。〔樂書〕前に同じ。○〔後漢〕「一一一」。〔樂書〕たすけちかづく。○〔後漢〕「每一出入一一一者」。〔樂書〕身分高き者にあふ。○〔後漢〕「一一一」。〔樂書〕よろこびもてなす。○〔後漢〕「時一一一」。〔樂書〕はぢちかづく。○〔後漢〕「一一之」。〔樂書〕貧人にはへりくだり。○〔後漢〕「日夕一一」。〔樂書〕前に同じ。○〔後漢〕「一一一」。〔樂書〕客としてねんごろにまねはる。○〔後漢〕「一一一客」。〔樂書〕人たえまなくつゞく。○〔後漢〕「中朝一一附者一一」。〔樂書〕本の語なしきまなくつゞく。○〔後漢〕「一一一而相繼」。〔樂書〕うるこの如くつらなる。○〔周邦彥〕「埋塊一一」。〔近書〕ちかづく。○〔林逋〕「一一一西南風」。〔樂書〕つゞく。○〔後漢〕「一一一」。

接 サフ、セフ。色甲切 洽

一擊に同じ。○〔周註〕「故書搴作一一」。二扱に同じ。さる。○〔周〕「共二其一一盤一」。

接 ケフ。檄頰切 葉

挾に同じ。さしはさむ、はさむ。

控 コウ、ク。苦貫切 送

一つゞ、（告）。○〔詩〕「一二于大邦一」。二ひく（引）。○〔漢〕「一一弦四十萬騎」。三引き止む。操り制す。とゞむ、ひかふ。○〔詩〕「抑釋一一忌」。四なぐ（投）。○〔莊〕「時則不レ至而一一於地一而已矣」。

〔樂書〕ひき制す。○〔後漢〕「常加一一一」。〔樂書〕ためひく。○〔王褒〕「飲不一一一」。〔樂書〕ためひく。○〔李白〕「酒無一一之節」。〔樂書〕前に同じ。○〔後漢〕「一一一事知人故後」。

控 コウ、ク。枯公切 冬

ひく（引）。○〔班固〕「機不二虛掎一弦不二再一一」。

揚 テキ、チヤク。他歷切 錫

かゝぐ（挑）。

推 タイ、テ。他回切 灰

おす。

（い）進め遣る、後より送り遣る、すゝむ。○〔左〕「或輓之或一一之」。

（ろ）おしおとす。おしひらく。○〔穀梁〕「不一一之」。

（は）うつす（移）、又、まうりそく（卸）。○〔詩〕「旱既太甚則不レ可一一」。

（に）讓り與ふ、あたふ、又（ゆだぬ）（委）。○〔史〕「解衣衣レ我一一食食レ我」。

〔樂書〕ひきよせておしたやすと。○〔後漢〕「一一之」。〔樂書〕おしひらく。○〔易〕「一一一而進」。

推 ス井。昌雖切 支

おす。

（い）撰び擧ぐ、すゝむ。○〔書〕「一一賢讓能庶官乃和」。

（ろ）上さし仰ぐ。○〔梁〕「居二於鄉里一、專行二禮讓一、爲二衆所一一」。

（は）究め尋ぬ、たづぬ。○〔漢〕「有レ意其一一本之一也」。

（に）窮め詰る、なやる。○〔史〕「天水時整一一滅」。

（ほ）遷る。○〔易〕「寒暑相一一而歲成」。

〔樂書〕えらびすゝむ。○〔江淹〕「詳材一一」。〔樂書〕とりかはえらぶ。○〔杜甫〕「一一物遊觀」。〔史書〕たづぬ。○〔後漢〕「臣一一而進」。〔樂書〕行幸。

掩 エン、衣檢切 琰

一おほふ。

（い）をさむ（歛）。○〔說文〕「歛也小上曰一一」。

（ろ）遮り隙すきへぎる。○〔禮〕「君子害戒處必一レ身」。

（は）慢みかばふ、撫づ。○〔爾〕「矜憐撫一一之一也」。

（に）とゞむ（留）。○〔南〕「席門常一一」。

（ほ）不備に乘じて襲ひ取る。○〔國〕「大夫不レ一一軍」。

二止む。○〔女誡〕「宰人和則勝一一」。

三おなじ（同）。○〔康熙〕「同也江淮南楚之間曰一一」。

四賭博の屬、ぜにうち、意錢。○〔漢〕「掘レ家博一一」。

〔樂書〕惡く不意におはる。○〔史〕「乃一一而斷之」。〔樂書〕おかしかくす。○〔晉〕「世一一人之私也」。〔樂書〕かくしおはる。○〔晉〕「一一一」。〔樂書〕たづねきはめて問ふ。○〔後漢〕「一一一其智次」。〔樂書〕敵の後をおはひかをる。○〔北〕「一一勝」。〔樂書〕いそがはせて敵をおそふ。○〔晉〕「常之一一乳虎搏之」。〔樂書〕敵を襲ちおそふ。○〔徐廣〕「臨淄一一」。〔樂書〕ひらくとゆづる。○〔元帝〕「宜爲擊太國一一」。〔樂書〕はちかさへまる。○〔梅賾〕「一一一來說」。〔樂書〕除去。○〔後漢〕「抑虐一一」。〔樂書〕おはひさへまる。○〔後漢〕「抑虐一一」。〔樂書〕おはりをおはふ。○〔高誘〕「鉾鋒一一柱」。〔樂書〕斬除。

掩 アン、オン。烏感切 感

ひきだす。

掩 エン。於瞻切 豔

絲を繰るに手にて其の緒を振り出すにいふ字。

掩 エフ。乙業切 葉

うつ、打。

措 ソ、ス。倉故切 遇

一おく。

（い）施す、布く。○〔易〕「一二之天下之民一、謂二之事業一」。

（ろ）用ふ。○〔中〕「故時一レ之宜也」。

（は）置く。○〔禮〕「一二之于參保介之間一」。

（に）廢す、すつ。○〔中〕「學レ之弗能弗レ一也」。

二交雜す、まじふ、まじはる。○〔史〕「內一二齊晉一」。

三手のおきどころ、ふるまひ、動作。○〔李白〕「周惶失一一」。

〔樂書〕よるまひ。○〔梅〕「眼前一一一當以清名」。〔樂書〕子孫部。

〔刑書〕刑罰を其のまゝにさしおく。○〔晉〕「一一刑十餘年不用」。

〔莊書〕とりおく。○〔北〕「納政一一」。

措 サク、シヤク。側格切 陌

一追捕す、とらふ。○〔漢〕「迫一一青徐盜賊」。

二冪に同じ、せまる、はさむ。○〔史〕「爭門一一指」。

措 セキ、シヤク。七迹切 陌

刺に通じ用ふ、さす。○〔淮〕「發狀之捷來一」。

掫 ソウ、將侯切 尤 シウ、側九切 有

柝を擊ちて巡行し夜を戒め守ること、よまはり、よばん、行夜。○〔左〕「賓將レ一一、主人辭」。

掫 ソウ、ス。此苟切 有

一うつ（擊）。

二麻幹、あさがら、又、木蘇、たきゞ。○〔漢〕「民驚走持二薪或一一一枚」。

掫 シユ、ス。子于切 虞

うつ（擊）。

掫 シウ、シユ。初尤切 尤

手を以て物を取る、とる、又、もつ（持）。

掬 キク、コク。居六切 屋

一擊に同じ。○〔周註〕「故書搴作一一」。二扱に同じ。さる。○〔周〕「共二其一一盤一」。

接 ケフ。檄頰切 葉

挾に同じ、さしはさむ、はさむ。

控 コウ、ク。苦貫切 送

一つゞ、（告）。○〔詩〕「一二于大邦一」。二ひく（引）。○〔漢〕「一一弦四十萬騎」。三引き止む。操り制す、とゞむ、ひかふ。○〔詩〕「抑釋一一忌」。四なぐ（投）。○〔莊〕「時則不レ至而一一於地一而已矣」。

〔樂書〕ひき制す。○〔後漢〕「常加一一一」。〔樂書〕ためひく。○〔王褒〕「飲不一一一」。〔樂書〕ためひく。○〔李白〕「酒無一一之節」。〔樂書〕前に同じ。○〔後漢〕「一一一事知人故後」。

控 コウ、ク。枯公切 冬

ひく（引）。○〔班固〕「機不二虛掎一弦不二再一一」。

揚 テキ、チヤク。他歷切 錫

かゝぐ（挑）。

推 タイ、テ。他回切 灰

おす。

（い）進め遣る、後より送り遣る、すゝむ。○〔左〕「或輓之或一一之」。

（ろ）おしおとす。おしひらく。○〔穀梁〕「不一一之」。

（は）うつす（移）、又、まうりそく（卸）。○〔詩〕「旱既太甚則不レ可一一」。

（に）讓り與ふ、あたふ、又（ゆだぬ）（委）。○〔史〕「解衣衣レ我一一食食レ我」。

〔樂書〕ひきよせておしたやすと。○〔後漢〕「一一之」。〔樂書〕おしひらく。○〔易〕「一一一而進」。

掩 エン、衣檢切 琰

一おほふ。

（い）をさむ（歛）。○〔說文〕「歛也小上曰一一」。

（ろ）遮り隙すきへぎる。○〔禮〕「君子害戒處必一レ身」。

（は）慢みかばふ、撫づ。○〔爾〕「矜憐撫一一之一也」。

（に）とゞむ（留）。○〔南〕「席門常一一」。

（ほ）不備に乘じて襲ひ取る。○〔國〕「大夫不レ一一軍」。

二止む。○〔女誡〕「宰人和則勝一一」。

三おなじ（同）。○〔康熙〕「同也江淮南楚之間曰一一」。

四賭博の屬、ぜにうち、意錢。○〔漢〕「掘レ家博一一」。

掌 カツ、ゲチ。胡瞎切 黠

拳に同じ、車軸の端の鍵、くさび。

捽 アツ、アチ。伊昔切 昔

伐木の殘株、きりかぶ。

掣 擊に同じ。

捭 把に同じ。

揲 拗に同じ。

九畫

捶 ハウ、ビヤウ。蒲孟切 敬

つく（擊）。

掾 エン、以絹切 先

一よる（緣）。

二屬官の通稱、そへづかさ、あたやく、こやくにん。○〔晉〕「辟一一屬百餘人一、時人謂二之百一八一一」。

〔樂書〕ひとやづかさ。○〔後漢〕「奉時號一一一」。〔樂書〕あたづかさ。○〔後漢〕「此一一之任、何足相慎」。

〔晉書〕よみづかさ、部内書記官。○〔後漢〕「出錄事一一」。

〔晉書〕役所のたづかさ。○〔賈臣〕「白頭伯作功一一一」。

〔樂書〕あがた役所のそへづかさ。○〔後漢〕「王府來賓一一一」。

〔晉書〕歲計を掌る役所のたづかさ。○〔北書〕「負才位終于一一一」。

掾 ダク、ノク。昵角切 覺

手にて引く、ひく。

揀 カン、ケン。古限切 潸

つかむ（攫）。

擊 カツ、ゲチ。胡瞎切 黠

拳に同じ、車軸の端の鍵、くさび。

捽 アツ、アチ。伊昔切 昔

伐木の殘株、きりかぶ。

掣 擊に同じ。

捭 把に同じ。

揲 拗に同じ。

レン。郎甸切 [震]

えらぶ。

（い）區別す、わく、わかつ。○[魏]「博愛容衆、無所二一一擇一」。

（ろ）拔き取る、よる。○[舊唐]「選二一召三募官健三千人一」。

[舞樂] はかりえらぶ。○[倚象]「綽綽恐一一」。

[沈樂] えなぐ、えらぶ。○[保記]「一一有明師」。

[損] テイ、チヤウ。知盈切 [庚]

ひく[引]。

[損] カウ、キヤウ。丘耕切 [庚] 古杏切 [梗]

拳の擊にいふ字。

[摺] ビン、ミン。眉貧切 [眞] 美隕切 [軫]

なづ、撫[一說に、さぐる、摹。

[摺] ブン、モン。武粉切 [吻]

拔に同ト。

[摻] シウ、シユ。即由切 [尤]

あつむ、あつまる[聚]。

[摺] イウ、ユ。夷周切 [尤]

おほふ[掩]。

[揃] セン。即淺切 [銑]

（い）分割す、わかつ、又、きる[剪]、たつ[斷]。○[晉]周公自一一其蚤一沈二之河一。

（ろ）整齊ならざるものを揃り去る、ぬく、そろふ。○[唐]「吾年五十拭鏡一一白」。

[揃] セン。子仙切 [先]

（い）前條の（い）に同ト。○[禮]「蚤一一」。

（ろ）翦に同ト。まるす、まるし、鑿識。

[揃] セン。千賤切 [霰]

（い）まるし[驗]。（ろ）さし[鋏]。

（ハ）つらぬく[貫]。

[揄] ユ。羊朱切 [虞]

ひく、[引]。○[史]「一二長袂一、顯二利一展」。

[莊逸] 手を振ひて嘲弄するさけるゝ、からかふ。○

[後漢] 市人皆大笑、擧手一一。

[晉書] 早く成熟する稻、わせ。○[揚雄]「嘉禾凡稼、孰早成熟謂之稅、孰晚之間謂之一一」。

[後漢] かゝひひく。○[劉向]「一一樂故樂也」。

[後漢] 疾考。

[後漢] 劍の名。○[呉都賦]「一一明鋒」。

[後漢] えらびひく。○[蘇軾]「自選一一」。

[揄] エウ。餘招切 [蕭]

袖に同ト。○[禮]「夫人一一狄」。

[揄] イウ、ユ。以周切 [尤]

白より抒む、あぐ。○[詩]「或春或一一」。

[揄] トウ、ヅ。度侯切 [尤]

（い）ひく、[引]。○[班固]「一二文字一出二比自一」。

（ろ）たる、[垂]。○[莊]「被髮一一狄」。

[揄] トウ、ヅ。徒口切 [厚]

ひく[引]。

[揄] チウ、チユ。丑鳩切 [尤]

手を垂れて行く。

[揄] シユ。春朱切 [虞]

四一一は、傾く說にいふ語。

[捜] ショク、シキ。阻力切 [職]

うつ[打]。

[掃] 墻に同ト。

[掇] タン、ダン。都玩切 [翰]

むちうつ、うつ[捶]。

[掇] 捶の本字。

[掇] ダン、ナン。奴感切 [感]

さらふ[掬]。

[揆] キ。求癸切 [紙]

（い）はかる[度]。○[詩]「一一之以日」。

（ろ）はかる所、はかりごと。○[孟]「先聖後聖其一一也」。

（ハ）法度のり。○[韓]「明主之法一一也」。

（ニ）官吏、つかさ。○[魏]「百一一均一一任四民殊一一業」。

（ホ）宰輔の官。○[晉]「桓溫居一一政由己出」。

[說文] みちをもて天意をはかる、又のり。○[書]「上無一一也」。

[一切] 万に相同じ。○[後漢]「其旨一一」。

[省文] かゝりはかる。○[後漢]「臣意自一一」。

[新撰] 百事をはかり百官を統ぶるの地位におく。○[後漢]「宰相一一之時」。

[測文] はかるなり。○[後漢]「一一日月」。

[機文] 肝要なるはかりごと。○[北]「方金一一」。

[埤蒼] さらべはかる。○[大戴禮]「一一山林」。

[記文] もろ〳〵のつかさ。○[孔叢]「氣一一指」。

[廣韻] はかる、又のり。○[崇義]「百一一明」。

[揆] キ。以水切 [紙]

すつ[棄]。

[揆] キ。羊捶切 [紙]

（い）前條に同ト。（ろ）さる[剔]。

[揆] ダ、ダ。他果切 [哿]

（い）かぞふ[撰]。（ろ）おつ、おさす[落]。

（ハ）ぬく、脫。（ニ）はかる[探]。

[揆] クワウ。呼宏切 [庚]

（い）擊つ聲にいふ字。（ろ）ふるふ[揮]。

[揆] ケン。訓縣切 [先]

うつ、だしく、擊。

[揆] 掬の本字。

[揆] シヤ。昌者切 [馬]

うつ、擊。

[揆] トウ。唐亙切 [徑]

貝擔すになふ。

[揆] ジウ、ニユ。寶由切 [尤]

（い）手もて延ぶ、撰り和らぐ、もむ。○[王氏談錄]「手自和一一」。

（ろ）順和ならしむ、やはらぐ。○[詩]「一一此萬邦」。

（ハ）亂れ繼る。○[史]「百家競列事跡錯一一」。

[後漢] もつれみだる。○[錯世]「衆心百一一」。

[揆] ジウ、ニユ。忍九切 [有]

直きを曲ぐ、曲がれるを直くす、たむ。○[易]「一一木爲レ耒」。

[揆] セウ、子ウ。寶紹切 [篠]

かゞむ[屈]。

[摺] ウツ、ヲチ。王勿切 [物]

なげうつ[擲]。

[摺] ヒヨク、ヒキ。芒逼切 [職]

擊つ聲にいふ字。

[摺] テツ、テチ。敕列切 [屑]

さる、すつ[去]。

[摺] ヲイ、エ。烏回切 [灰]

ひく、摘。

[摠] サイ。桑才切 [灰]

（い）うごかす[動]。（ろ）えらぶ[擇]。

[摠] ソウ、ス。千候切 [宥]

（い）さしはさむ[挿]。（ろ）なぐ、[投]。

[擅] セン。須緣切 [先]

（い）衣をあげ發く、袂を釣りあげて臂をあらはす、まくる、からぐ、かゝぐ。○[蘇軾]「玉一腕牛一雲碧釉」。

（ろ）ちゞむ[縮]。○[漢註]「蹇跼猶二一一蹙二」。

[摠] ベウ、メウ。眉鑣切 [蕭]

形狀を摹し畫く、うつす、ゑがく。○[圖繪寶鑑]「白二一荷花一」。

[描] バウ、メウ。莫交切 [看]

うつ[打]。

[描] バウ、メウ。眉教切 [效]

なげうつ[擲]。

[摯] ハウ。博旁切 [陽]

（い）ふせぐ、[捍]。（ろ）まもる、[衛]。

（ハ）ならぶ[並]。

[摽] リツ、リチ。劣戊切 [質]

滓汁を去る、こす、ろぼる。

[提] テイ、ダイ。杜奚切 [齊]

（い）ひつさぐ。

（ろ）手に懸け持つ。○[國]「范蠡乃左一レ鼓」。

（ハ）持つ。○[淮]「一レ名實一實」。

（ニ）擧ぐ。○[周]「王一一馬而走」。

（ホ）扶ぐ。○[姚鼐]「實類奬一一」。

（ヘ）牽き行く。○[禮]「長者之手一一携」。則兩手牽二長者之手一一。

（ト）曲がりたる木に釣り下ぐる鼓「馬の髦の上に立つるもの。○[周]「師帥執一一」。

[後漢] 步行安行の間にいふ語。○[詩]「好人一一」。

[後漢] 大角星の南方に在りて斗星の柄の方にあたる三箇の星。○[史]「眼足句之曰一一」。

[校] 笞の俗說。○[續]「好一一熟鼓」。

[禮] 拓種の鉤說、即ち浮屠子の居所、寺院。○[社]「無上一一」。

[晉] 正覺、正道、佛道。

○[傳燈錄]「無上一一寺」。

[晉] 酒を酌む、杯に用ふる器、形狀の如くに小さく注口あり、提梁を附く。かゝるもの。○[傳]「酒壺一一」。

[晉] 「酒壺一一」。

[晉] さゝやかつ。○[續世說]「九月九日、一一一一輪行、立觀佛之來時、北面拜」。

[後漢] みやびた。○[晉]「車皆如一一」。

[新語] 目方にかけてはかるもの。○[宋書]「樂部舊「竹譜一一」。

[提] シ、ジ。市之切 [支]

鳥の群り聚まれる說にいふ字。○[詩]「鳧飛一一」。

[提] テイ、ダイ。都禮切 [醫]

（い）たつ[絕]。○[禮]「牛羊之肺離而不一一心」。

（ろ）なげうつ[擲]。○[史]「太后以二買一一絮一二文帝一」。

[插] サフ、セフ。測洽切 [洽]

（い）刺し入る、さす、さしはさむ。○[漢註]「露檄一一羽」。

（ろ）物を擔ふに用ふる棒、兩頭とがる、になひぼう。○[荀註]「一一擔也、兩頭鐵銳、所下以一一刺禾東一而擔之也」。

（ハ）鍾に同じ、すき。○[戰]「坐而織レ黃立則杖レ一一」。

[後漢] たてにはさむ。○[後]「一一一兩邊」。

[後漢] なゝめにはさむ。○[合]「居基、水邊一一一邊」。

[後漢] さゝしにはさむ。○[北]「往々一一而瞰」。

[後漢] 頭にのせはさむ。○[開天遺事]「一一以弃花、多者爲勝」。

[後漢] まゝへはさむ。○[上林賦]「一一北國」。

[後漢] つまみさしこむ。○[宋石林詩]「一一明鏡」。

[後漢] そゝしはさむ。○[後漢]「一一金鎖」。

[後漢] 上より かゝりはさむ。○[江賦]「綠芝一一」。

[後漢] 秩序によりさしこむ。○[後漢書]「新一一如神字」。

[後漢] ちらしさしこむ。○[王賦]「一一紅鏡玉」。

[後漢] いねの穗をつけ。○[李賦]「穗郁郁一一」。

[後漢] 鎗を立てる。○[後漢]「長鎗一一萬鎗」。

[後漢] 一樣にかざす。○[後漢]「一一宮花」。

[後漢] うえつく。○[孔平仲]「一一倚何來」。

[後漢] 一面にかざす。○[高誘]「一一不解」。

[插] 扱に同ト。

[施] シ。施智切 [寘]

とる、にぎる[把]。

[揔] 總に同ト。

[揔] ソウ、ス。蘇叢切 [東]

手にて物を進む、すゝむ。

[揔] 惣に同ト、いそがはし。

[揔] チン。知鴆切 [沁]

擊たんと擬す、うたんとす、れらふ。○[史]「左一手把二桑王之釉一、右一手持二匕首一一レ之」。

[揔] チン。知林切 [侵]

さす[刺]、一說に、木を斫る聲。

[揔] チン。陟甚切 [寢]

さす[刺]。

[揖] イフ。一入切 [緝]

（い）拱きたる手を或は上下にし或は左右にし或は推し或は引きなどして行ふ敬禮の泛稱、ゑしやく、おじぎ。○[論]「一二巫馬期一而進レ之」。

㊀ゆづる、（譲）。○（漢）「二大・嬉之愿」。

㊁すゝむ（進）。○（儀）「四・南面一レ号」。（三国）「廉・太・失・士の三をいふ。○（名）「一一在下」。（士説）「両手を揖して胸より小しく下でる敬礼。○（周）「見・雑侯一一座丝」。（時説）「両手を胸と平かにする敬礼。○（周）「一一」。（宋説）「両手を揖して胸より小しくあぐる礼。○（周）「一一同丝」。（宋説）「両手を拱きて長くのばるを、即ち、礼の部書なるものを。○（漢）「不・拝一一」。（宋説）（ハ）義を守りて謙る。○（後漢）「琴歌！一一」。（ろ）みだれるを乱しやく。○（孔叢子）「先生講説！（秋説）「両手をこまぬきて乱しやくする。○（名）「車鈴一一」。（時説）「両手を上下し、又、両手を横して胸に寄せるなり。○（周）「性簡坦、不一容一一」。（常説）正しく両手をこまぬきてるやをなす。○（隋書）「盛・盛長官一一両口」。（安説）身を高くし、両手をこまぬきてるやをなす。（唐説）「但・鳳・殺一一両口」。（安説）かゝしぶをなす。○（金）「拱手一一」。

揖 イフ。乙及切 緝

把に同じ、手にて揖む。○（王禹偁）「遠・巻二山・光、平一一江・瀬」。

揖 シフ。側入切 緝

㊀あつまる、（聚）。○（詩）「蠢・斯羽一一」。

㊁輯に通ず、あはす、あつむ。○（漢）「二五・端」。

㊂なる、なす（成）。

揖 イ。乙冀切 寘

楫に同じ、ふしやく。

揖 シュン、食尹切 諄 辭閏切 寘

なづ、（撫）。

揗 シュン、シュン。詳遵切 寘

安んじ慰む、なづ。

揑 カツ、キチツ。胡頁切 屑

うつ、（撃）、又、さす、（刺）。○（張衡）「竿・殳之所二一・臂」。

揑 エイ、ヤウ。永兵切 庚

ぬく、（抜）。

揙 ヘン、卑義・ベン。切 先 紳善切 銑

手にて撃つ、うつ。

揚 ヤウ。興章切 陽

㊀あがる。

（い）高くなる、上がる。○（詩）「以伐二一」。

（ろ）飛ぶ、翻る。○（周）「中・強則一一」。

（は）発る。○（列）「矢・鋒相觸而摩レ地、而塵不レ一一」。

（に）顔はる。○（荘子）「滑・内而外一一」。

（ほ）激す。○（詩）「一之水不レ流二束薪一」。

（へ）奮ふ。○（後漢）「閻・其冒一者無レ不二激一一」。

（と）自ら足れりとす。○（戰）「志高而一一」。

㊁あぐ。

（い）持ちて高くす。○（屈平）「一一枹兮拊鼓」。

（ろ）上す。○（易）「二于王庭一」。

（は）用ふ。○（禮）「或以言一」。

（に）顔はす。○（漢）「華二一・尚・青事一」。

（ほ）発す。○（禮）「將レ上レ堂聲必一」。

（へ）飛ばす、翻す。○（江淹）「巻二一江・海一」。

（と）誘ぐ。○（漢）「令二一人炊レ之百人一レ之」。

（ち）抜く。○（屈平）「二雲・霓之晻・鬱一」。

（り）激せしむ、奮ばしむ。○（管）「導二一厥歌一」。○（礼）「殺業」「不レ足二平一一」。

㊂つぐ、（續）。○（爾）「廣一一、續也」。

㊃眉、又、眉の上下。○（詩）「一一且之晳也」。

（揚之㊃）

㊄なの（鍼）。○（詩）「干・戈戚一一」。

（刺説）こたへあぐ。○（書）「敢一一天子之休命」。

（飛説）ゆよゆる。

（常説）「赤・鳳・鳳・紅・華、美・自流一一」。

（屋説）たかの如く飛び上がる。即ちあがるに同じ。

（飛説）「時・雉一一」。

（飛説）みもてゆるりなびひひたり。○（風俗通）「鳳・時一一」田歌之事也。

（飛説）とびあがる。○（後漢書）「鳥一一」。

（飛説）ゆとりあるさま。○（周）「徳一一」。

（揚説）「作・雲・なる・鼓に・い・上・鼓」。

（揚説）方々にはめあるく。○（史）「雷一一」。

（揚説）「名・于・天・下」。

（揚説）賞めあぐ。○（周）「一一之・鼓・鼓・手・天・地之間」。

（揚説）前に同じ。○（周）「下・鼓一一」。

（揚説）おさまるも、乱れるも。○（周）「又・鼓・時一一」。

（揚説）探し求めて乱れ用ふ。○（後漢）「一一吹・鼓」。

（揚説）はやたしあぐ、はやたされあがる。○（後漢）「一一・士・民」。

（揚説）はやとく。○（周・都賦・序）「・・・家一一・・・者・子・孫・・・」。

（揚説）ひら〳〵とあがる、又、ひらがな。○（鶴武志）「・・・風・・・」。

（揚説）動かし上げ、うごかさあがる。○（宋・鶴）「・・・・・・・・・」。

（揚説）あらはし顕ぐ、あらはしあがる。○（周）「一一・・・・・・・・・」。

（宇説）「・・・・・・・・・」。

（行説）ゆるやかにのぼがる。○（周）「・・・・・・・・・」。

（行説）かろ〳〵しく・・・・・・・・・。○（周）「・・・・・・・・・」。

（行説）はやましらはす、ふるるらはる。○（史）「一一・・・・・・・・・」。

（行説）廣くあらはす、廣くあがる。○（史）「孔子・・・・・・・・・」。

（宣説）前に同じ。○（周）「一一・・・・・・・・・」。

（宣説）大いにあらはす、大いにあがる。○（綱宗）「一一・・・・・・・・・」。

（宣説）よるひるぐ、よるひるがる。○（後漢）「一一・・・・・・・・・」。

（宣説）助けてあらはす。○（後漢）「夏・・・・・・・・・」。

（休説）尊くあらはるよくあらはす。○（後漢）「今・・・・・・・・・」。

（揚説）よるひるがる、ふるひるぐ。○（史）「一一・・・・・・・・・」。

（揚説）前に同じ。○（史）「一一・・・・・・・・・」。

（揚説）ひらく。○（史）「一一・・・・・・・・・」。

（揚説）上に乗ぐ。○（後漢）「風・・・・・・・・・」。

（揚説）ひやるの如き形上に見る。○（後漢）「・・・・・・・・・」。

（揚説）前に乗ぐ、前にあがる。○（後漢）「一一・・・・・・・・・」。

（揚説）高に乗ぐ、高にあがる。○（後漢）「一一・・・・・・・・・」。

（揚説）かややきあらはす、かややかしあらはす。○（荀引）「一一・・・・・・・・・」。

（揚説）の位に乗がる、の位しあぐ。○（後漢）「・・・・・・・・・」。

（揚説）「・・・・・・・・・」。

（揚説）「・・・・・・・・・」。

（揚説

〔字彙〕紙ぎる、紙ぎり、てのうち、又、巻かばかりなるとしいふ。○〔篇海〕「紙不編」―一、又、足、以言話。
〔字彙〕手にあたれば紙ぎる。○〔劉孝威〕「自初徒―」。
〔字彙〕紙ぎりこぶし。○〔玉篇〕「其外人所見者―」。
〔篇海〕たづさ（持つ）。○〔高誘〕「―動芳華」。

握 サク。烏谷切 屋
㊀局られて小さき貌にいふ字。○〔漢〕「委頓―蹣」。
㊁そなへ、そなふ（具）。○〔爾〕「―具也」。〔註〕「主持辨具也」。

握 オウ、於候切 宥 ―或は緯に作る。
喪葬に死者の手を束ねる素。○〔儀〕「設―乃連」。

搦 カク、キャク。乞格切 陌
手に把る、にぎる、とる。

搦 カ、ケ。丘加切 麻
こぎる、振。

搦 カ、ケ。丘駕切 碼

挾 カウ、ケウ。古巧切 巧
㊀物に接す、まじふ、まとはる。㊁もとる、もつ（持）。

揲 エツ、エチ。伊決切 屑
㊀目を抉る、くじる。㊁一説に取の譌字。

揲 タン。他干切 寒 他案切 翰

揲 シ。達奏切 紙
㊀はかる。
（い）量度す。○〔左〕「計二丈六敦―二厚薄」。
（ろ）察して定む、さだむ。○〔鬼谷〕「善用二天下一者必二諸侯之情一。（は）試む、ためす。○〔魏〕「楊儀令三蔣往―」延意指」。
㊁のそく（除）。
〔綱機〕出しつりはかる。○〔爾〕「―、―人主」。
〔併機〕はじめはかる。○〔爾〕「―、―解音」。
〔叢機〕前に同じ。○〔白居易〕「此旅輕―」。
〔究機〕前に同じ。○〔漢書〕「言兵場制敵詞！―」。

揲 セン。福絹切 霰
前條の㊁の（い）に同上。

揲 タ。丁果切 哿
うごかす（搖）。

揲 ス井。朱惟切 支 主柴切 紙
むちうつ（捶）。○〔老〕「―而銳之」。

揲 タン、ダン。徒官切 寒
聚まる貌にいふ字。○〔馬融〕「冬雪―封二其枝一」。

揲 ショク、シキ。節力切 職
つかむ（拯）。

揲 シツ、シチ。秦悉切 質
のこぶ（拭）。

揲 ホウ、フ。方苟切 有 ―或は拂に作る。
衣服の上より擊ち叩くうつ。

揲 チツ。陟栗切 質 ―挫に通ず作る。
つく（搗）。

揲 ヰ。羽鬼切 尾
遊さまに追ふ、おふ。

揲 揮に同上。

揲 ソウ、ス。祖叢切 東
㊀手にて打つ、うつ。㊁かぞふ（數）。

揲 ケイ。傾畦切 齊 ―或は剴に作る。
㊀鉤に中たる、かゝる、あたる。
㊁剴に同じ、さく。○〔儀註〕「離猶―」。

揲 テイ、タイ。丑例切 霽
㊀髮を摘なふるに用ふる物、かうがい。○〔詩〕「象之―也」。
㊁すつ（捨）。○〔陸機〕「意徘徊而不能―」。

揲 テキ、チヤク。他歷切 錫
㊀たはむる（戲）。㊁さる、取。

揲 テイ、タイ。都黎切 齊
指さす、さす。

揲 ラツ、ラチ。郎達切 曷
とぐ、みがく（研）。

揲 タウ、チヤウ。除耕切 庚
㊀ふる（觸）。㊁つく（撞）。

揲 カイ。丘皆切 佳
擦拭すのこふする。○〔張衡〕「―二枳落」〔突二棘藩一〕。
〔字彙〕すりみがく。○〔孟郊〕「乞孟津―…」。
〔字彙〕消く拭ひ去る。○〔劉禹錫〕「―白鷺洲」。
〔字彙〕とる。

揲 カイ。苦戒切 卦
㊀排―は、強く突く、つく。
㊁拏に通ず用ふ、鼓の名。○〔唐〕「拏部有二鼉鼓―鼓腰鼓一」。

揲 カツ、ケチ。訖黠切 黠
鼓に同上、樂を止どむるときに用ふるすり鳴らす樂器。○〔禮〕「拊搏玉―擊」。

揪 シウ、シユ。將由切 尤
つかぬ（束）、なさむ（斂）、あつむ（聚）、一既に、細く物をなさむるにいふ。○〔馬融〕「―二斂九藏之動物」。
〔字彙〕なさむ。○〔玉篇〕「擊―紐赤―…」。

揪 揪に同上。

揪 トツ、ドチ。他沒切 月
突き當たる、ぶつ（觸）。

揭 ケツ、ゲチ。渠列切 屑
㊀かゝぐ。
（い）高く擧ぐ、あげ挑ぐ。○〔元好問〕「幾度春風二揭旗一」。
（ろ）表し示す。○〔癸辛雜識〕「偏牒二諸路一昭二通衢一」。
（は）擧げて擊つ。○〔漢〕「―一竿爲一族」。

（に）かゝげ起こす。○〔詩〕「維北有斗、西柄之―」。
（は）所上す、まうしあぐ。○〔嚴照〕「又啓事今日―一帖」。
㊁竪立す、たつ、そばだつ。○〔張衡〕「單章參館―馮中峙」。
㊂あがる。
（い）起こり反る、そる。○〔戰〕「蹬―者其齒寒」。
（ろ）眼を見はす、ぬく。○〔詩〕「顒沛―之一」。
（は）になふ（擔）、おふ（負）。○〔戰〕「馮煖于是乘二其車一―二其劍一」。
（に）表標、おるし。○〔郭璞〕「峨嵋爲二梟陽之一」。
㊃ながし（長）。○〔詩〕「葭菼―」。
㊄偶に通じ用ふ、車の挾き貌にいふ字としばやし。○〔韓詩外傳〕「匝二車之一兮」。
〔字彙〕荷にひ負ふ。○〔史〕「―西去」。
〔字彙〕前に同じ。○〔後漢書〕「―光去」。
〔字彙〕人目に隱れしめんとてるせしもかゝぐ、又、さゝし。○〔史〕「―門閭」。
〔字彙〕前に同じ。○〔丁晉〕「忠報門―西―」。
〔字彙〕あるきかはかゝぐ。○〔王勃〕「―如日晶」。
〔字彙〕旗竿の立てる貌にいふ字。○〔什泉集〕「夫何旗旗―一之旗旗也」。
〔字彙〕あがるはす、あがり起こる。○〔劉禹錫〕「―一千道烈云」。
〔字彙〕目おるし、しあぐ、又、めおるし。○〔杜牧〕「―一御溝」。
〔字彙〕目おるし、しあぐ。○〔林鶴〕「顧眺―」。
〔字彙〕（い）物の故けんとする貌にいふ字。○〔史〕「衆―其一―」。
（ろ）長き貌にいふ字。○〔水文〕の例を見よ。
（は）そばだつ貌にいふ字。○〔綱目〕「―一以聳々」。

揭 ケイ。去例切 霽
かゝぐ。
（い）高く擧ぐ、又、表し示す、あぐ。
（ろ）衣の裾を捲き上ぐ、からぐ。○〔詩〕「淺則―」。
〔字彙〕水を涉るに衣をかゝぐ。○〔劉孝綽〕「―一御―」。
〔小結〕僅かばかり衣をかゝぐ。○〔孟郊〕「蝦蟆放―」。

揮 カク、キャク。各核切 陌
あらたむ（改）。○〔楊雄〕「運遭並合―二繫其名一」。

揮 キ。吁韋切 微
㊀ふるふ。
（い）振る、動かすはたらかす。○〔韓愈〕「―レ刀紛紜爭判二膾鱠一」。
（ろ）散らす。○〔戰〕「―レ汗成レ雨」。
（は）離くさしづ。○〔梁元帝〕「抽レ戈而―、蛟日爲レ之退舍」。
（に）灑ぎ棄つ、そゝぐ。○〔禮〕「執二玉器一者弗―」。
㊁さしづばた（麾、ふるしばた（纛）。○〔張衡〕「我士介而揚レ―」。
〔指揮〕さしづ。○〔史〕「三朝攻鋒―…一事」。
〔指揮〕數き散らす。○〔史〕「―…而不一色」。
〔倉揮〕白き地色の旗。○〔後漢〕「―…一而容」。
〔味揮〕はじめて動き出だす。○〔梁簡文帝〕「帙蔵―…」。
〔初揮〕
〔奇揮〕奇も奇くこと。○〔李白〕「―…一爲点綴」。
〔銷揮〕交を振り動かす。○〔杜甫〕「―…一歸如雲」。

揮 クン。吁運切 問
ふるふ（奮）。

揮 コン、ゴン。胡昆切 元
―捻は、全うして破れざること。

揮 サン、セン。師咸切 咸
捻に同上。

揮 セツ、食列切 屑 ―エフ。與涉切 テフ。徒協切 葉 ―タフ、アフ。直甲切 洽
㊀閲し持つ、かぞへもつ、もつ。○〔史〕「―一荒爪一暮」。
㊁度り數ふ持ち數ふ、かぞふ。○〔易〕「―レ之以レ四以象二四時一」。

揲 セツ、セチ。先結切 屑
㊀撮―は、方正なちざること。
㊁ひれる（縮）。㊂ふさぐ（塞）。
㊃拭ひ滅す、のこふ。

揲 ケツ、ケチ。奚結切 屑
繫に同上、はかる。○〔荀〕「不」揲長不―レ大」。

揲 カツ、ケチ。訖黠切 黠 ―擷に同上。
擊ち持つもつ。○〔史〕「趙女鄒姬設二形容一―二鳴琴一」。

揲 ケキ、キヤク。吉歷切 錫
擊に同じ、うつ。○〔後漢〕「尚書近臣至二乃捶一―蓋三鬼於前一」。

揲 撼の本字。

揲 エン、チン。于元切 元
㊀ひく。
（い）引き取る。○〔爾〕「琛媛善―」。
（ろ）拔く。○〔荀〕「不肖者敢―而廢レ之」。
（は）扶く。○〔孟〕「子欲三手一二天下一乎」。
（に）率き持つ、とりつくすがるよう。○〔禮〕「在下位一不一上」。

㊀刃の直くして上に向かへると。○〔周〕「戈廣二寸、—四レ之」。〔擧注〕（いたのみなり。○〔周〕「獻祖—」。〔ろ上ちの位なり。○〔荘〕「烏獲之屬、可—百鈞」。〔鑑注〕つかみ引く。○〔論〕「—」。〔鑑注〕さがしひく。○〔荘〕「—」。〔引注〕ひく。○〔荘〕「—」。

援 エン。于眷切 霰

ひき持つ。とりつく所、親接するもの。たすけ、救助。○〔國〕「爲二四隣之—一結二諸侯之信」。〔戚注〕親類の引き合ひ。○〔荘〕「旁無—」。〔郭注〕陸奏のとり得たるたすけ。○〔左〕「註」「鄭忽失舞—」。〔論注〕書又は筆のとたりのたすけ。○〔陸賢〕「義則—」。〔鑑注〕たより助け。○〔戚舍〕「—」。〔眞注〕とり助け。○〔鑑乾〕「—」。

援 エン、チン。于願切 願

引き持つ、ひく、よづ、とりつく。○〔國〕「俠儒不レ可レ使—」。

援 クヮン、クヮン。胡玩切 翰

悖—は、順はず、一說に、拔扈す。

掾 ケン、ゲン。羊戀切 霰

肩に物を擧ぐ、あぐ、になふ。○〔後漢〕「—弓鳴九鏃」。

揵 ケン、ゴン。巨偃切 銑

㊀あぐ、あがる（擧）。○〔司馬相如〕「—レ鼎掉尾」。㊁たつ（竪）。○〔張衡〕「左—青琐、以レ芝分」。

揵 チ。陟利切 寘 陟侈切 紙

㊀さす、刺。一說に、刺してわづかにとどく、いたる。㊁財を効す、かすむ。一說に、うつ（撞）。

撽 チ。陟侈切 紙

㊀いたる（至）。○〔揚雄〕「洪、蠡囓其獨出兮、—北極之嶋々」。㊁さす（指）。㊂つく（拄）。

揉 ケン、ゴン。丘倫切 元

あぐ、あがる（擧）。○〔詩〕「蘩、尾末—然」。

揵 ケン、ゴン。丘倫切 元

㊀かたし（鍵）。

揭 アウ、エウ。於蔟切 沃

㊀くとく（拉）。㊁れづ（拗）。

撰 撰の本字。

搆 コウ、ク。居候切 宥

ひく（擧）。

搆 フ、ブ。蓬無切 虞

てのひら（手掌）。

搉 アイ。乙諧切 佳

㊀おす（推）。㊁うつ（擊）。

搉 アイ。乙諧切 佳

㊂背負ふ貌にいふ字、ぜおふ。

搉 搉に同ト。

搉 ダ、ナ。泥多切 歌

水の茂りて盛んなる貌にいふ字、ぎかんなり、ちげる。

搉 セン。荷緣切 先

れづ（捩）。

搉 アン。羊安切 寒

種を掠む、かすむ。

搉 ラフ、ロフ。郎合切 合

摧折し拗づ、くとく、れづ。

搉 カイ。戶佳切 佳

㊀ばさむ、さしばさむ（挾）。㊁たすく（扶）。

搉 ケイ、ガイ。胡計切 霽

かふ（換）。

搉 ケイ、ガイ。戶禮切 齊

かとく（掲）。

搆 コウ、ク。古候切 宥

搆の字の條を見よ。

搆 コウ、ク。居候切 宥

ひく（擧）。

搉 キン、コン。丘禁切 沁

おさふ（抑）。

搉 ヨウ、ユ。尹竦切 腫

うごく（動）。

搉 ヨウ、ユ。餘封切 冬

安からず、あやふし。

搉 テン。丑善切 銑

うつ（擊）。

搉 カク、コク。克角切 覺

㊀たくく（敲）うつ（擊）。○〔漢〕「高后支二斷戚夫人手・足・目一、其眼一以爲二人彘一」。㊁ひく（引）。○〔漢〕「搉二古今一」。㊂はかる（商）。○〔荘〕「可レ不レ調レ有二大搉一乎」。㊃權に通ト用ふ、專有す、もつぱらにす、ふむ。○〔唐〕「—レ利借レ廣、進二奉獻助」。

〔鑑注〕兼容をはかり定む。○〔荘〕「—古今」。〔鑑注〕究めはかる。○〔唐〕「權息—」。「—」。〔鑑注〕あきらかにはかる。○〔種珠子〕「無容—」。

搉 クヮク。忽郭切 藥

擢に同ト、手を反覆す、ふるふ、かへす。

搉 シュン。思尹切 諄

こばむ（拒）。

搉 シュン。息倫切 眞

えらぶ（擇）。

搉 シウ、ス。初尤切 尤

㊀五指にて拘る、とらふ、とる、つまむ。○〔熊朋來〕「立—臥、續」。㊁手にて彈す、はじく、ひく、つめびき。○〔唐〕「樂工裴神・符初以レ手彈、後人習爲—琵琶」。

搉 シウ、側九切 有 ―或は「拗」に作る。

㊀もつ（持）。㊁屬の異稱、あふぎ。

搉 ス。莊俱切 虞

さく（解）。

捫 セン。失冉切 琰

疾く動く貌にいふ字、さしばやし。○〔潘岳〕「降レ丘以騁レ敵」。

搉 ケン、ゴン。渠言切 元

㊀物を肩に擧ぐ、あぐ、になふ、かたぐ。㊁互に評告すあばく、つぐ。㊂相援くたすく、ひく。

搉 ケン、丘虔切 先 カン、丘顏切 刪

ひく（援）。

搉 チ。丑豸切 紙 イ。演爾切 紙

㊀わかつ（析）。㊁ひく（拽）。

搉 撕に同ト。

搉 タイ。丑佳切 佳

擊ち人に加ふ、うつ。

搉 テン。知鑑切 銑

㊀のぶ（展）。㊁つかぬ、たばぬ（束）。

搉 テン。陟扇切 霰

まく（捲）。㊁のこふ（拭）。

搉 ソン。鎮本切 阮

㊀へる、へす（減）。○〔史〕「有レ能增二一字一者、与二千金一」。㊁うすす、うしなふ（失）。○〔晉〕「不レ遇、費二一日・月之間一」。㊂おつ、おとす（墜）。○〔晉〕「執レ政常自退—」。㊃そこなふ、やぶる（傷）。○〔吳〕「勞二—聖慮一」。㊄易の卦、䷩發下○〔易〕「—有レ孚吉」。

〔前注〕はかりて減らす。○〔論〕「—之」。〔論注〕〔ろ〕「—之」。〔鑑注〕かけへる。○〔通鑑〕「明月幸無——處」。〔論注〕おつ、おとす、へる。○〔傳〕「—」。〔鑑注〕前に同ト。○〔史〕「推此類、以爲當世—之義」。〔鑑注〕そこなひ減る、そこなひ、へす、へる、へす。○〔左〕「人良—」。〔加注〕用すくへらすと。○〔史〕「千金之物、所—不過後南面移羣」。〔增注〕前に同ト。○〔鑑論〕「當不能—」。〔抑注〕かさねて放逐なることもの。○〔史〕「其後夫自—」。〔抑注〕前に同ト。○〔論〕「獨自—」。〔傷注〕やはりそこなはれそこなふ。○〔社會〕「大食—」。〔鑑注〕高ぶらざるも。○〔晉〕「公琛鎗—」。〔仲注〕前に同ト。○〔顧氏家訓〕「轉虛—」。〔思注〕前に同ト。○〔晉〕「執政常自—」。〔約注〕つねをやかせ減らす。○〔晉〕「—」。「以示單虛」。〔前注〕けづりへらすけづれる。○〔晉〕「先自—也」。〔義注〕おとろへる。○〔南〕「咲虛以來、頗減—」。

搉 テン。陟扇切 霰

ふる（觸）。

搉 ハク、ヒヤク。伯各切 藥

㊀とる。

（い）捕らふ。○〔禮〕「孟秋務—執」。

（ろ）攫み取る。○〔史〕「鑠金百・鎰盜跖不レ—」。

㊁うつ。

（い）手のひらをひらげて擊つ、ひらでうち。○〔史〕「—二牛之舌」。

（ろ）たゝく。○〔魏〕「以レ腹—レ面」。

（は）うちて音聲を發す。○〔史〕「彈レ箏—レ牌」。

（に）闘ふ、くみうち。○〔荀〕「是猶ヲ鳥獲與二鼎鑊一—止也」。

〔前注〕はかりて減らす。○〔論〕「—」。〔注疏〕「—」。〔鑑注〕つかみとる、つかみうつ。○〔晉〕「雪蕉—」。〔鑑注〕うつ、うちつかむ。○〔宋和書譜〕「如蔡襄李、使人見之、謂有—之意」。〔字注〕手もてうつ。○〔史〕「—」。〔論注〕手に器械を持たずしてうつ。○〔晉〕「—日拳虎」。〔綱注〕勢はやくうつ。○〔論〕「—者多」。〔綱注〕國を持ちて打ちたゝく、つかむ、つかみとる。○〔荀〕「晉魯—」。〔鑑注〕とらふ。○〔風俗通〕「鼎—」。〔鑑注〕物と物とをはりうつ。○〔後漢〕「百相—」。

搏 フ、ホ。方遇切 ホ。蒲故切 遇

とらふ（捕）。

搉 ベン、メン。彌彩切 銑

封ト、ぬる、ぬる、かさぬ。

搉 セキ、シヤク。秦昔切 陌

うつ（擊）。

搉 セツ、セチ。先結切 屑

㊀物を挺き出だす、ぬきだす、ぬく。㊁かぞふ（揲）。

搉 サク。昔各切 藥

㊀手にて物を摸す、さぐる。㊁衆に通じ用ふ、もとむ。○〔揚雄〕「三以レ數」。

搉 サク、シヤク。色責切 陌

えらぶ（擇）。

搉 ソ、ス。桑故切 遇

暗に物を取る、とる。

搉 ソン。蘇昆切 元

さぐる（揲）。

搉 カイ。柯開切 灰

挺 ソウ、ス。損動切 董
おす。（推。

捌 チキ、チヤク。他歴切 錫
一擿に同じ。かゝぐ。二きる。（伐。

搐 チク、トク。敕六切 屋
奉制す、ひく、又動き痛む、いたむ。○
〔漢〕「二二指」身慮亡」粉。

揖 ショウ、ニユ。乳隴切 腫
推し搗く、つく。

揖 ショウ、ニユ。如容切 冬
一推し搗く、つく。二なさむ、收。

揖 ダウ、ノウ。濃江切 江
一推し搗く、つく。二ふさぐ、塞。

揖 擾に同じ。

搒 ハウ、ヒヤウ。北孟切 敬
一おほふ、（掩。二舟を進む、すゝむ、こぐ、さす。

搒 ハウ。補曠切 漾
船を掉かして一たび敬む、とゞまる、やむ。

搒 ハウ、ヒヤウ。蒲庚切 庚
一擊撃す、むちうつ、うつ。○〔漢〕「更」一答敷于」。
二相搏く、ひきあふ、ひく。
（後漢）かせを施し苦もて撃たゝく。○（後魏書）「搒掠」一」。
（搒掠）たゝきうつ。○（宋書）蒲恐怖「一」。

搒 コツ、胡骨切 月
手にて推す、おす。

搒 コツ、苦骨切 月
ゴチ。切 ゴツ、戶昆切 元 コン。古本切 阮
ほさむ、（拑。

搓 サ。七何切 歌
摩り挪む、もむ、ふる。○〔陸游〕「柳細—
雜」似」。
（後漢）もむ。○（廣韻書）「摩者—一之」。

搓 サ、ザ。此我切 哿
邪(ヤ)なる親にいふ字、ゆがむ、かたむ
くすぢかひ。

搓 サイ。初皆切 佳
推し擊つ、うつ。

搔 サウ、ソウ。蘇曹切 豪
一爪にて摩す、爪にて刮く、なづ、こそ
ぐ、かく。○〔詩〕「—」首踟躕」。
二騷に通ト用ふ、さわぐ、さわがす。○
〔吳志〕「所在—擾更爲」煩苛」。
（搔搔）おさへかく。○（後漢）「騷—一之」。
（記搔）かく。○（後漢書）「往復多疑、—一無
已」。
（搔首搔）くつを一直にたてゝ抑きとゝろをかく、北
の國むるを、神く俗にいふはがゆき心地する上り、物
事の思ふがまゝならぬ、又、物足らぬ心地するいふ
語。○（韓昭胤魯）「詩不勝—搔仙」。—搔。
（搔始搔）搔始て上爪長き仙人の抑きとゝろをかく
と、其の抑きとゝろに上ふ手のとゞくと上り、思ひのま
ゝなるとに、又、上く行きとゞくと上に思ひのまゝ
（社牧）「白髮—」。—搔處—」。

搔 サウ、セウ。側絞切 巧
蚕に同ト、つめ、つめきる。○〔儀〕「沐、
浴櫛—爪」。

搔 サウ、ソウ。先到切 號
つかむ、（擥。

搔 カフ、コフ。克盍切 合
一さる、（取。二うつ、（擊。

搔 アフ、オフ。烏合切 合
手にて覆ふ、おほふ。

搖 エウ。余招切 蕭
一うごく。
（い）附著する所なくして動く、ゆる
ぐ、ゆらめく、ゆる。○〔荀〕「水動而
影—、人不三以定二美・惡」。
（ろ）轉す。○〔漢〕「天・星霊—」。
（は）動ぐ。○〔宋二〕「嶺微驚—」。
（に）おこる、（作。○〔漢〕「將二—舉」
誰興期」。
二うごかしむ、ゆるがす、ゆらめかす、
ゆる、うつす、さわがす、おこす、うご
かす、三の條參照。○〔周〕「夾而—」
之」。
三遙に通ト用ふ。○〔禮〕「貢」手曳」杖
消「—于門」。
四步搖の略、かぶりもの、首飾。○〔曹
植〕「鼓二金—之煩爾」。
（搖々）ゆたゝく、愛よる鼓にも、ホ佐き鼓にも、飛び
移る鼓にもいふ語。○（詩）「中心—」。
（搖搖）星の名、北斗星の第七、一に搖光といふ。○
（漢）「—」在上」。
（長搖）高風、はやて、あらし。○（漢）「—」國之
森」。
（步搖）首飾、かぶりもの。○（人名）「—」上有」
搖枝」—則」。
（搖搖）たゞよひ動く、たゞよはしうごかす。○（詩）

搖 サウ、セウ。側絞切 巧
「風雨所—」。
（搖搖）うたくうごかす。○（名）「—」根搖動」。
（搖搖）搖搖に同じ、ゆたゆたくの間。○（漢）「年智識
—」。
（搖搖）搖らし動かす、うごかす。○（名）「—」
所者」。
（搖搖）うつし動かす、うごかうつす。○（漢書）「搖
能感功、—」匠氣」。
（搖搖）ふるひうごく、ふるひうごかす。○（漢）「草
心—」、秋日暮々」。
（搖搖）あふり動かす、あふりうごく。○（後漢）「搖
—」、搖」ゆ之宝」。
（搖搖）動かす、かたむけ動かす、かたむけ動く。○（後
「—」大臣」。
（搖搖）おのゝきうごく、又、おのゝかし動かす。○
（後漢）「水波都—」。
（搖搖）ひきうごかす、ひきうごく。○（後漢書）
「搖動時—」、北村」。
（搖搖）安かもざる鼓にいふ語。○（後漢書）「搖—
—而無」鼓」。
（搖搖）吹き動かり動く、又、吹きうごかす。○（晉書）
「—」鼓長風」。
（搖搖）たゞ動く、又、うちうごかす。○（年代）「—」
—宜上九萬里」。
（搖搖）顧ひなく動く、又、みだしうごかす。○（後漢）
「打茶—」—察在即」。

搗 タウ、トウ。觀老切 皓
擣に同じ、つく。

搦 シ。而支切 支
さゝふ、（捂。○〔唐〕「初鳳・迦・異樂」祐・
東城」諸葛亮石刻故在文曰「碑郎
仆爲」漢奴」、寒長」曾常以石—搦」。

搦 ヂヨク、ノク。內沃切 沃
ひれる、（捻。

搦 ダク、ノク。女角切 覺
おさふ、そむ、（掘。

搦 ドウ、ヌ。乃豆切 宥
さゝふ、（拄。

搶 偽に同ト。

搶 ラフ、ロフ。虛合 切 合
拉に同じ、ぐじく、とりひしぐ。○〔公
羊〕「—」幹而殺」人。

搶 ケン。虛欠切 豏
引き從ふ、またがふ。

搛 レン、ロン。離彌切 豏
獻に同じ、鼓を打つ、つゞみうつ。

搛 ケン、コン。堅嫌切 豏
夾み持つ、もつ、（さむ。

搥 ヘイ、篇迷 齊 ベイ。切 ヘツ、蒲結 屑
手を反らして擊つ、たゝく、うつ、又、手
にて捶て拂ふ、なづ、はらふ。○〔哲
鹿〕「樸—」、轢搥」。

搥 ヒ。頻脂切 支

搜 シウ、疎鳩 ソウ、先侯 尤 切 ス。
搜に同ト、もさむ、さぐる、さがす。○
〔漢〕「閉二城門」大—」。
（賀表）石の中にてかんが、へもとむ。○（袁書華陽國
「郡伏耳中」—」。
（辭地）みがきさがす。○（江總）「好都—」。
（千載）くさ〳〵にさぐりもとむ。○（韓愈）「—
萬安何處有」。
（搜搜）ひろくもとむ。○（李商隱）「搜搜求—」。
（搜搜）前比同ヒ。○「搜搜」—」。
（搜搜）くはしくとゝめかにさぐる。○（宋休）「—
—曲樂」。
（搜搜）いつこまでもさぐりもとむ。○（荀悅大）

搜 セウ。先彫 蕭 サウ、ソウ。
蘇曹 豪 ソウ、ス。蘇后 有 切
動く貌にいふ字、うごく。

搜 サウ、セウ。山巧切 巧
みだる、（亂。○〔韓愈〕「炎・風日—」搜」。

搽 ハ。蒲醱切 歌
察敏す、とりこむ、ものさむ。

搽 キウ、ク。去久切 有
手擧ぐ、かゝぐ、あぐ。

搞 カウ、ケウ。丘交切 肴
敲に同ト、横に搗つ、うつたゝく。

搞 カウ、コウ。口到切 號
相違ふ、たがふ。

搟 ケン、コン。許偃切 阮
手を擧げて之に擬す、うちかゝる、うた
んとす。○〔揚雄〕「麾城」邑」。

搦 サク、ソク。色角切 覺
ぬる、（塗。

搥 ヒ。攀糜切 支
簸に同ト、肉を割くさく、ほふる。

搡 サウ。蘇朗切 蕭
うつ、（撰。

搡 サウ。四浪切 漾
さゝむ、（捼。

搥 シン。卽刃切 震
一紳帶の間に挿す、さす、はさむ、さし
はさむ。○〔禮〕「天・子—」珽」。
二ふるふ、（振。○〔國〕「挺」鈸—」鐸」。

搢 セン、作甸切 霰
前條の一に同じ、さす、はさむ、さしは
さむ。○〔史註〕「—讀曰」鹿、則萬亦
是通謂三進而置二於紳帶之間」。

搣 ベツ、メチ。亡列切 屑
一手にて擊つ、うつ。
二手にて拔く、ぬく。三する、（擥。
四つかむ、（拂。

搣 ケツ、ケチ。翻劣切 屑
齊整ぜざるものを去る、ぬく、きる、そ
ろふ。○〔急就篇〕「沐・浴搢—」。

搋 アク、ヤク。乙革切 陌
一盛しく持つ、ふめ提る、さる、もつ、さ
らふ。○〔史〕「—」天・下之肱」而搋」
其背」。
二手に一ぱいに握る、にぎる。○〔史〕
莫レ不二—腕」。

搋 エツ、エチ。壹結切 屑
もつ、（持。

搋 エイ、アイ。壹計切 霽
くとく、（拉。

搋 アイ、エ。烏懈切 卦

搋 タイ、デ。都回切 灰
あぐ、（縋）又、なげうつ、（擲。○〔楊雄〕
「二提仁義」。

搋 夢井、ヂ井。直追切 支
たゝく、うつ、（擊。○〔唐〕「日永」明四
刻—二」鼓」。

搦 ヂヤク、ニヤク。呢格切 陌 ヂヨク、ニヤク。
女力切 職 ダク、ノク。女角切 覺
一さる。
（い）もつ、（持）にぎる、（握。○〔郭璞〕
「舟子於是—」棹」。
（ろ）さらふ、（捕。○〔錢叡〕「傘風欲
飛遊擊—」」。
二なづ、（擦）又、おさふ、（按。○〔班固〕
「—」紡磨」蝕」。
（搦搦）とる。○（後漢）「夫—」者法也」。
（搦搦）かゝはとる。○（後漢）「相鈴搦—」。

搦 ダク、ノク。女角切 覺
おさふ、そむ、（掘。

搦 ドウ、ヌ。乃豆切 宥
さゝふ、（拄。

搶 偽に同ト。

搶 ラフ、ロフ。虛合 切 合
拉に同じ、ぐじく、とりひしぐ。○〔公
羊〕「—」幹而殺」人。

搶 ケン。虛欠切 豏
引き從ふ、またがふ。

搛 レン、ロン。離彌切 豏
獻に同じ、鼓を打つ、つゞみうつ。

搛 ケン、コン。堅嫌切 豏
夾み持つ、もつ、（さむ。

搥 ヘイ、篇迷 齊 ベイ。切 ヘツ、蒲結 屑
手を反らして擊つ、たゝく、うつ、又、手
にて捶て拂ふ、なづ、はらふ。○〔哲
鹿〕「樸—」、轢搥」。

搥 ヒ。頻脂切 支

搜 シウ、疎鳩 ソウ、先侯 尤 切 ス。
搜に同ト、もさむ、さぐる、さがす。○
〔漢〕「閉二城門」大—」。
（賀表）石の中にてかんが、へもとむ。○（袁書華陽國
「郡伏耳中」—」。
（辭地）みがきさがす。○（江總）「好都—」。
（千載）くさ〳〵にさぐりもとむ。○（韓愈）「—
萬安何處有」。
（搜搜）ひろくもとむ。○（李商隱）「搜搜求—」。
（搜搜）前比同ヒ。○「搜搜」—」。
（搜搜）くはしくとゝめかにさぐる。○（宋休）「—
—曲樂」。
（搜搜）いつこまでもさぐりもとむ。○（荀悅大）

搜 セウ。先彫 蕭 サウ、ソウ。
蘇曹 豪 ソウ、ス。蘇后 有 切
動く貌にいふ字、うごく。

搜 サウ、セウ。山巧切 巧
みだる、（亂。○〔韓愈〕「炎・風日—」搜」。

搽 ハ。蒲醱切 歌
察敏す、とりこむ、ものさむ。

搽 キウ、ク。去久切 有
手擧ぐ、かゝぐ、あぐ。

搞 カウ、ケウ。丘交切 肴
敲に同ト、横に搗つ、うつたゝく。

搞 カウ、コウ。口到切 號
相違ふ、たがふ。

搟 ケン、コン。許偃切 阮
手を擧げて之に擬す、うちかゝる、うた
んとす。○〔揚雄〕「麾城」邑」。

搦 サク、ソク。色角切 覺
ぬる、（塗。

搥 ヒ。攀糜切 支
簸に同ト、肉を割くさく、ほふる。

搡 サウ。蘇朗切 蕭
うつ、（撰。

搡 サウ。四浪切 漾
さゝむ、（捼。

搥 シン。卽刃切 震
一紳帶の間に挿す、さす、はさむ、さし
はさむ。○〔禮〕「天・子—」珽」。
二ふるふ、（振。○〔國〕「挺」鈸—」鐸」。

搢 セン、作甸切 霰
前條の一に同じ、さす、はさむ、さしは
さむ。○〔史註〕「—讀曰」鹿、則萬亦
是通謂三進而置二於紳帶之間」。

搣 ベツ、メチ。亡列切 屑
一手にて擊つ、うつ。
二手にて拔く、ぬく。三する、（擥。
四つかむ、（拂。

搣 ケツ、ケチ。翻劣切 屑
齊整ぜざるものを去る、ぬく、きる、そ
ろふ。○〔急就篇〕「沐・浴搢—」。

搋 アク、ヤク。乙革切 陌
一盛しく持つ、ふめ提る、さる、もつ、さ
らふ。○〔史〕「—」天・下之肱」而搋」
其背」。
二手に一ぱいに握る、にぎる。○〔史〕
莫レ不二—腕」。

搋 エツ、エチ。壹結切 屑
もつ、（持。

搋 エイ、アイ。壹計切 霽
くとく、（拉。

搋 アイ、エ。烏懈切 卦

搋 タイ、デ。都回切 灰
あぐ、（縋）又、なげうつ、（擲。○〔楊雄〕
「二提仁義」。

搋 夢井、ヂ井。直追切 支
たゝく、うつ、（擊。○〔唐〕「日永」明四
刻—二」鼓」。

搦 ヂヤク、ニヤク。呢格切 陌 ヂヨク、ニヤク。
女力切 職 ダク、ノク。女角切 覺
一さる。
（い）もつ、（持）にぎる、（握。○〔郭璞〕
「舟子於是—」棹」。
（ろ）さらふ、（捕。○〔錢叡〕「傘風欲
飛遊擊—」」。
二なづ、（擦）又、おさふ、（按。○〔班固〕
「—」紡磨」蝕」。
（搦搦）とる。○（後漢）「夫—」者法也」。
（搦搦）かゝはとる。○（後漢）「相鈴搦—」。

搦 ダク、ノク。女角切 覺
おさふ、そむ、（掘。

撃勝。〔博雅〕紙もとより破れ〔とつた〔ゝ〕〕。〔所〕―〔ゝ〕。〔博雅〕うつす。○〔書言〕〔撃鼓〕―〔ゝ〕非常宜。〔博雅〕鼓に同じ。○〔錦繡〕〔吾題〕―〔ゝ〕―〔ゝ〕。〔博雅〕うつす。○〔雅琴〕〔紙浮玉色〕供―〔ゝ〕。

揲 ケツ、ゲチ。渠列切 屑
揭に同じ、かゝぐ。

揲 タク、チヤク。陟格切 陌
手にて物を度る、はかる。

搪 タウ、ダウ。徒郎切 唐
㊀ほる〔張〕。
㊁つく〔突〕。○〔王安石〕〔千里相―〕〔抄〕。

搫 ハン、バン。蒲官切 寒
㊀―獲は、正しからず。㊁のぞく、はらふ〔除〕。

搫 ハ、バ。蒲波切 歌
㊀はらふ〔除〕。○〔潘岳〕〔―レ場拄〕〔―〕。
㊁披き散ず、ひらく、ちらす。
㊂斂め聚む、あつむ、ゐさむ。

搬 搫に同じ。

搬 ハン、バン。北潘切 寒
うつす、〔移〕、ひろぐ、〔演〕。○〔夢溪筆談〕〔―運之勞〕。

搭 タフ、トフ。德合切 合
㊀うつ、たゝく〔撃〕。
㊁つく、〔附〕、かく、〔挂〕。○〔韓偓〕〔夜深鈎―秋千索〕。
㊂搭撮に同じ、する、うつす、○〔梅堯臣〕〔韓幹馬本摸―時〕。

搫 タウ、他刀切 豪
㊀指き抒だす、とりだす、とる、ぬく、かゝぐ。○〔韓愈〕〔鉤章棘句―擢胃腎〕。
㊁たゝく、〔叩〕。○〔馬融〕〔―レ膺辭擽〕。

搦 リツ、リチ。力質切 質
手にて物を理む、ゐさむ、わかつ。

搦 タウ、他刀切 豪
招と別なり。

搦 コツ、ゼチ。胡骨切 コツ、
俗に搦に作るは非なり。
㊀ほる〔掘〕、あばく〔發〕。○〔國〕〔狐埋之而狐―レ之〕。
㊁みだる〔亂〕、又にごす〔濁〕。○〔呂氏春秋〕〔水之性清土者―レ之〕。
㊂力を用ふる貌にいふ字、はたらく。○〔莊〕〔―〕―〔然用レ力甚多而見レ功寡〕。

搦 ヨク、ヨツ。烏括切 月
㊀指き抒だす、とりだす、とる、ぬく、かゝぐ。○〔韓愈〕〔鉤章棘句―擢胃腎〕。
㊁たゝく、〔叩〕。○〔馬融〕〔―レ膺辭擽〕。

搦 コツ、ゼチ。胡骨切 コツ、
俗に搦に作るは非なり。

搫 ヨク、ヨツ。烏括切 月
㊀ほる〔掘〕、あばく〔發〕。○〔國〕〔狐埋之而狐―レ之〕。
㊁みだる〔亂〕、又にごす〔濁〕。○〔呂氏春秋〕〔水之性清土者―レ之〕。
㊂力を用ふる貌にいふ字、はたらく。○〔莊〕〔―〕―〔然用レ力甚多而見レ功寡〕。

搦 ヨク、ヨツ。烏括切 月
㊀ほる〔掘〕、あばく〔發〕。○〔國〕〔狐埋之而狐―レ之〕。
㊁みだる〔亂〕、又にごす〔濁〕。○〔呂氏春秋〕〔水之性清土者―レ之〕。
㊂力を用ふる貌にいふ字、はたらく。○〔莊〕〔―〕―〔然用レ力甚多而見レ功寡〕。

搦 コツ、ゼチ。胡骨切 コツ、
俗に搦に作るは非なり

㊁擇に通ト用ふ、さいぐ。○〔史〕一レ策定レ戰灼レ龜視レ兆。

搴 ホウ、フ。符中切 東 ぬふ（縫）。

摔 シュツ、シュチ。山律切 質 地に寒つずつ。

摔 古文の拜の字。

擺 テイ、丁計切 霽 タイ。當蓋切 泰 操み取る、つまむ、とる。

擺 テツ、デチ。徒結切 屑 捎め取る、かすむ、とる。○〔張衡〕「超二殊榛一」飛一庭」。

擺 トツ、ドチ。陀沒切 月 うつ（擊）。

擦 セイ、サイ。七計切 霽 挑げ取る、とる。

擦 サツ、セチ。初鎋切 黠 おす（推）。

揪 ソウ、速侯切 尤 ス。切 ―或は揉に作る。 とる、取。

揪 ソウ、損動切 董 ス。 ―或は騶に作る。 馬に捶（ムチ）ち衝（ツク）を搖かして走る、ばしる、かく。

揍 アウ、エウ。於敎切 效 もとる（很戾）。

摘 タク、チヤク。竹尼切 錫 指先にて取る、つまむ、つむ。○〔唐〕「一一使二瓜好一、再一一令二瓜稀一」。

〔狙〕爪もてかきとる。○〔孝經〕「一一恍芳餌」。

〔探〕取りつまむ。○〔孝經〕「一一手足」。

〔採〕手もて取りつまむ。○〔元稹〕「一一芳曾蘂」。

摘 テキ、チヤク。他歷切 錫

㊀ひろふ（拓）。○〔陶弘景〕「三一一羣桃」。

㊁指さし示す、さす。○〔傳殺〕「一一齊行列」。

㊂挑發す、あばく、かゝぐ。○〔漢〕「發レ姦一レ伏」。

㊃うごかす（動）。○〔元稹〕「錄去一レ船行」。

〔持〕もちてかす。○〔釋名〕「手執手所一一之類也」。

〔搭〕集めひろふ。○〔文心雕龍〕「一一千里、北征一夜」。

〔列〕取不に上せかゝぐ。○〔蔡邕〕「包一洞典籍、一一沈秘」。

〔挾〕ものゝ。○〔隋書〕「一一數旨」。

〔計〕由手師。

〔摸〕探がしひろふ。○〔錄〕「神劍能一一」。

〔錄〕非行を訴り發く。○〔曾鞏〕「呼嘶探一一」。

摘 テキ、チヤク。他歷切 錫 たすく（扶）。○〔班固〕「握一轄一一」。

摘 タウ、ダウ。徒郎切 圖 なさむ（理）。○〔後漢〕「漢興稱二其顏一却一レ之、施レ巾連レ題、却覆レ之」。

摘 チ。抽知切 支 のぶ、舒、ふく、布、ひらく（發）。○〔班固〕「一レ藻如二脊華一」。

摘 リ。鄰知切 支 攤に同ト、はる、張。

摘 ロ、ル。耶古切 麌 ひく。

（い）曳き聚む、あつむ。○〔孟〕「五・伯者一一諸侯一以伐二諸侯一者也」。

（ろ）寄き寄す、よす。○〔孟〕「一一臨一東家牆一而一一北處子」。

〔殺〕ひく。○〔結〕「妥綏費一一一」。

摟 ル。力朱切 虞 挽き申ばすのぶひく。

摠 ソウ、ス。作孔切 董 總に同ト、すぶ、すべて。○〔禮〕「晃而一一于」。

摡 カイ。居代切 隊 あらふ（濯）、そゝぐ（滌）、のごふ（拭）。○〔周〕「師二女官一而濯一一爲二齊盛一」。

摡 キ、ケ。許既切 未 ㊀とる（取）。㊁のごふ（拭）。

摡 ロウ、ル。耶俠切 治 ひく。

（い）曳き聚む、あつむ。○〔孟〕「五・伯者一一諸侯一以伐二諸侯一者也」。

（ろ）寄き寄す、よす。○〔孟〕「一一臨一東家牆一而一一北處子」。

〔殺〕ひく。○〔結〕「妥綏費一一一」。

摠 攤に同じ。

摠 ロウ、ル。耶俠切 治 ひく。

（い）曳き聚む、あつむ。○〔孟〕「五・伯者一一諸侯一以伐二諸侯一者也」。

（ろ）寄き寄す、よす。○〔孟〕「一一臨一東家牆一而一一北處子」。

〔殺〕ひく。○〔結〕「妥綏費一一一」。

摠 サク、シャク。測革切 陌 たすく（扶）。○〔班固〕「握一轄一一」。

摠 タウ、ダウ。徒郎切 圖 なさむ（理）。○〔後漢〕「漢興稱二其顏一却一レ之、施レ巾連レ題、却覆レ之」。

摠 チ。抽知切 支 のぶ、舒、ふく、布、ひらく（發）。○〔班固〕「一レ藻如二脊華一」。

摠 リ。鄰知切 支 攤に同ト、はる、張。

摠 ロ、ル。耶古切 麌 ひく。

（い）曳き聚む、あつむ。○〔孟〕「五・伯者一一諸侯一以伐二諸侯一者也」。

（ろ）寄き寄す、よす。○〔孟〕「一一臨一東家牆一而一一北處子」。

〔殺〕ひく。○〔結〕「妥綏費一一一」。

摠 ロウ、ル。耶俠切 治 ひく。

摠 攤に同じ。

摠 ロウ、ル。耶俠切 治 なさむ（理）。○〔後漢〕「漢興稱二其顏一却一レ之、施レ巾連レ題、却覆レ之」。

摠 ソウ、ス。作孔切 董 總に同ト、すぶ、すべて。○〔禮〕「晃而一一于」。

摠 ロウ、ル。耶俠切 治 ひく。

（い）曳き聚む、あつむ。○〔孟〕「五・伯者一一諸侯一以伐二諸侯一者也」。

（ろ）寄き寄す、よす。○〔孟〕「一一臨一東家牆一而一一北處子」。

〔殺〕ひく。○〔結〕「妥綏費一一一」。

摠 ロウ、ル。耶俠切 治 ひく。

摠 攤に同じ。

摠 ロウ、ル。耶俠切 治 なさむ（理）。○〔後漢〕「漢興稱二其顏一却一レ之、施レ巾連レ題、却覆レ之」。

摠 ソウ、ス。作孔切 董 總に同ト、すぶ、すべて。○〔禮〕「晃而一一于」。

摠 カイ。居代切 隊 あらふ（濯）、そゝぐ（滌）、のごふ（拭）。○〔周〕「師二女官一而濯一一爲二齊盛一」。

摠 キ、ケ。許既切 未 ㊀とる（取）。㊁のごふ（拭）。

摠 攤に同ト。

摠 ケン、コン。紀偃切 阮 こぼす（覆）。

摠 コ。胡故切 遇 搖き障ぶさいぶ。

摠 攤に同ト。

摠 ケン、コン。紀偃切 阮 こぼす（覆）。

摠 コ。胡故切 遇 搖き障ぶさいぶ。

旋 セン、ゼン。隨戀切 霰
一手にて物を挑ぐ、かゝぐ、あぐ。
二長がくし引く、ひく

旋 セン、ゼン。旬宣切 先
ひく、引。

掯 キ。均窺切 支
帛を裂きて衣を爲る、さく、たつ。○〔左思〕「鉶—兼呈」。

擯 エイ、ヤウ。於慶切 敬 於境切 梗
ヤウ、倚兩切 ヤウ、巨兩切 養
うつ、擊。

摭 セキ、シヤク。之石切 陌
シヤク、サク。職略切 藥
拓に同じ、ひろふ、とる。○〔漢〕「宋經—傳」。
〔拾遺〕拾ひ取る。○〔文心雕龍〕「—…—英華」。
〔拾遺〕前に同じ。○〔玄奘〕「—…—遺餘」。
〔收遺〕取り為ひ拾ふ。○〔後漢〕「—…—歌謠」。
〔掘遺〕前に同じ。○〔權德輿〕「—…—韓愈」。
〔拾遺〕ひき拾ふ。○〔詩品〕「解………原過」「—…—其華」。
〔掘遺〕何處までもとつきつめて取る。○〔漢〕「—…—「—所…」」。

拏 カウ、ゴウ。切 豪 カウ、牛刀切 豪 カウ、牛交切 肴 ゲウ。切 肴
うつ、擊。○〔公羊〕「勝—密熊、曙不熟公怒以斗—殺之」。

拏 カウ、ケウ。丘交切 肴
横に搦つ、うつ。

撥 カウ、ゴウ。魚到切 號

掾 セン、ゼン。隨戀切 霰
一手にて物を挑ぐ、かゝぐ、あぐ。
二長がくし引く、ひく

旋 セン、ゼン。旬宣切 先
ひく、引。

掯 キ。均窺切 支
帛を裂きて衣を爲る、さく、たつ。○〔左思〕「鉶—兼呈」。

擯 エイ、ヤウ。於慶切 敬 於境切 梗
ヤウ、倚兩切 ヤウ、巨兩切 養
うつ、擊。

摭 セキ、シヤク。之石切 陌
シヤク、サク。職略切 藥
拓に同じ、ひろふ、とる。○〔漢〕「宋經—傳」。
〔拾遺〕拾ひ取る。○〔文心雕龍〕「—…—英華」。
〔拾遺〕前に同じ。○〔玄奘〕「—…—遺餘」。
〔掘遺〕前に同じ。○〔權德輿〕「—…—韓愈」。
〔拾遺〕ひき拾ふ。○〔詩品〕「解………原過」「—…—其華」。
〔掘遺〕何處までもとつきつめて取る。○〔漢〕「—…—「—所…」」。

拏 カウ、ゴウ。切 豪 カウ、牛刀切 豪 カウ、牛交切 肴 ゲウ。切 肴
うつ、擊。○〔公羊〕「勝—密熊、曙不熟公怒以斗—殺之」。

拏 カウ、ケウ。丘交切 肴
横に搦つ、うつ。

撥 カウ、ゴウ。魚到切 號

摭 サク、ソク。仕角切 覺
摘に同じ、さす、刺。

摩 ソク。昨木切 屋
なさむ、敏。

摠 ベン、メン。彌殄切 銑
拘に同じ。

摠 ベン、メン。彌殄切 銑
かざる、飾。

摯 シ。脂利切 寘
一いたる、又、いたす。
〔い〕及ぶ、又、及ぼす。○〔書〕「大命不—」。
〔ゐ〕きはまる、きはむ（極）。○〔周〕「甲鎧不—則不堅」。
〔は〕すゝむ、進。○〔戰〕「近習之人其—」詔也固矣」。
一相見る時にすゝめいたす禮物、にへ。○〔周〕「以禽作三六—」。
二爲折すゝやぶる、なゝくだく。○〔禮〕「水流爲敗雪霜大—」。
三提り持つ、とる、又、うつ（擊）。○〔史〕「鷹擊毛—」。
四勇猛なるさま、あら〳〵しきさま。○〔禮〕「前有—獸、則載三狙旆」。「—」。
〔擬擊〕ものはまりの場所。○〔漢〕「驚顧鬪之—」。

摯 チ、陟利切 寘
一とく、解。
二蛭に通ト用ふ、ひくし（低）。○〔周〕「大車之輾—」。

執 ゲツ、ゲチ。倪結切 屑

摯 セン、ゼン。隨戀切 霰
一手にて物を挑ぐ、かゝぐ、あぐ。
二長がくし引く、ひく

旋 セン、ゼン。旬宣切 先
ひく、引。

掯 キ。均窺切 支
帛を裂きて衣を爲る、さく、たつ。○〔左思〕「鉶—兼呈」。

擯 エイ、ヤウ。於慶切 敬 於境切 梗
ヤウ、倚兩切 ヤウ、巨兩切 養
うつ、擊。

摭 セキ、シヤク。之石切 陌
シヤク、サク。職略切 藥
拓に同じ、ひろふ、とる。○〔漢〕「宋經—傳」。
〔拾遺〕拾ひ取る。○〔文心雕龍〕「—…—英華」。
〔拾遺〕前に同じ。○〔玄奘〕「—…—遺餘」。
〔掘遺〕前に同じ。○〔權德輿〕「—…—韓愈」。
〔拾遺〕ひき拾ふ。○〔詩品〕「解………原過」「—…—其華」。
〔掘遺〕何處までもとつきつめて取る。○〔漢〕「—…—「—所…」」。

拏 カウ、ゴウ。切 豪 カウ、牛刀切 豪 カウ、牛交切 肴 ゲウ。切 肴
うつ、擊。○〔公羊〕「勝—密熊、曙不熟公怒以斗—殺之」。

拏 カウ、ケウ。丘交切 肴
横に搦つ、うつ。

撥 カウ、ゴウ。魚到切 號

〔篇海〕目さめて胸を撫でゝ哀しむ。○〔廣韻〕「—」嗟哀。

摽 ヘウ。紕招切 蕭

㊀獸に同ト、うつ。○〔左〕「長木之毓無レ不レ—」。㊁さしまねく、麾。○〔孟〕「—」使者出二諸大門之外一。㊂おく、すつ、捐。○〔公羊〕「曹子—レ劒而去レ之。」㊃高く舉ある貌にいふ字。○〔管〕「—然若二秋雲之遊一」。㊄刀末、きッさき。○〔漢〕「—末之功」。

摽 ヘウ。匹妙切 嘯

㊀うつ（擊）。㊁おつ（落）。

摽 ヘキ、ヒヤク。匹歷切 錫

うつ（擊）。

摽 ヘウ、ヘウ。匹交切 肴

抛に同ト、なげうつ。

擺 セン。親然切 先 俗に扞に作る。

さしはさむ（插）。

撟 キヤウ、ガウ。其兇切 溪

弦に同ト、弩を道に施す、あみはる、一說に、弓をもて鳥獸を取る、いぐるみとる。

掩 掩の本字。

掘 ヒヨク、ヒキ。拍逼切 職

副麗に通ト用ふ、さく（割）。○〔韓〕「不レ—レ窪則寡益」。

撙 イン、オン。於金切 侵

惜に同ト、やすくやはらぐ、ふかくまづかなり。○〔淮〕「推二其—一、撙二其揚々一、此謂レ因レ勢」。

撙 ケン、ゴン。居言切 元 一に、樽に作る。

—子は樽蒲（ばくえきの采の名）。

摸 ラウ。郎宮切 溪

うつ、たゝく（擊）。

援 テイ、タイ。通帝切 霽

手にて取る。

十二畫

撅 ケイ。姑衡切 霽

衣を揭ぐ、かゝぐ。○〔禮〕「不レ涉不レ—」。

撅 ケツ、ケチ。紀劣切 屑

たゆ（疲）。○〔韓詩外傳〕「草木根荄淺未レ必—一、飄風興暴雨墜則—必先矣」。

撅 ケツ、クワチ。居月切 月

㊀手にて把る、つかむ、にぎる、一說に、うつ（擊）、なぐ（投）。○〔唐〕「—高昌」。㊁突厥。㊂うがつ、ほる（掘）。○〔孫子、虛〕「—其城郭」。

擊 ヘツ、ヘチ。芳滅切 屑

ヘイ。必勝切 蒸

㊀わかつ（別）、又、うつ（擊）、又、一說に、とる（略）。○〔韓〕「韓小國也、而以應二天下四—一、主辱臣苦」。㊁ひく（引）、又、はらふ（拂）、又、のごふ、（拭）、又、かする（掠）。○〔王褒〕「聯綿漂—生二微風一兮」。㊂書法の一、其の運筆のひきはらふを要するもの。○〔梁武帝〕「復當ヲ以二點畫波—一論中、極諸家之致」。

〔篇海〕文字の點をうち、筆を引くも。○〔梁武帝〕「—長閣法帖序」。

撇 ヘツ、ヘチ。匹蔑切 屑

㊀擊に同ト。○〔揚雄〕「浮蔑蟑而—レ天」。㊁衣を揭ぐ、かゝぐ。

撇 ヘイ。必弊切 霽

㊀前條に同ト。㊁うつ（擊）。

撈 ラウ、郎刀切 豪 耶到切 號

㊀水中に沒入して物を取る、とる。○〔舒元輿〕「山禿逾高採水竭益深—」。

撈 レウ。力弔切 嘯 憐蕭切 蕭

撩に同ト、鉤にかけて取る、とる。○〔郭璞〕「謂二鉤—一」。

擊 トン、ドン。都昆切 元

うつ（擊）。

撤 チ、ヂ。直利切 霽

物を持ちて相當たらしむ、あつ。

撊 カン、賈限切 潸 ケン。切

怒れる貌にいふ字、いかる。○〔左〕「今執事—然授レ兵登レ陣」。

撊 サン、ソン。子感切 感 或は、撙に作る。

手動く、うごく。

撊 サン、ソン。作紺切 勘

㊀前條に同ト。㊁ひろふ（撥）。

撊 サン、ソン。作含切 覃

つく、つくす（盡）。

撊 シン、ソン。側吟切 侵

すみやかなり、はやし、さし（疾）。○〔京房〕「明盡—」。

撊 セン、チン。而宣切 先

㊀つよし、たけし（猛）。○〔揚雄〕「猛也晉魏之間曰レ—」。

撊 セン、チン。而宣切 先

擺り揺く、くだく、もむ。○〔阮孝緒〕「煩—撊二搓抄一」。

撊 ジユン、ニユン。濡純切 眞

のごふ（拭）。

撊 ス井、ズ井。儒垂切 支

㊀そむ（擺染）。㊁もむ（揉）。

撊 ダ、ナ。奴禾切 歌

前條の㊁に同ト。

擇 古文の擇の字、又俗の擇の字。

擇 キ。丘愧切 寘

とる（擇）。○〔淮〕「萬燒不レ暇レ—」。

擇 フン、ボン。符分切 文

のごふ（拭）。

擇 サン、ソン。子感切 感 或は、撙に作る。

手動く、うごく。

擇 サン、ソン。作紺切 勘

㊀前條に同ト。㊁ひろふ（撥）。

擇 サン、ソン。作含切 覃

つく、つくす（盡）。

擇 シン、ソン。側吟切 侵

すみやかなり、はやし、さし（疾）。○〔京房〕「明盡—」。

撰 セン、ゼン。慈戀切 霽

つむ（摘）。

撰 ケン。九件切 銑

抜き取る、ぬく。○〔楚辭〕「朝—阰之木蘭」。

撰 エイ、於計切 霽 イ。於賜切 寘

拱きたる手を上げ下げしてなす敬禮、ゑしやく。○〔周註〕「俱俯下レ手、今時—是也」。

撰 シン、ヅン。徐心切 侵 サン、ソン。徂含切 覃 セン。視占切 豔

さる（取）。○〔揚雄〕「取也、衛賢揚從荊衡之郊曰レ—」。

撰 セン、ゼン。徐廉切 豔

つむ（摘）。

撰 撰に同ト。

撰 タウ、チヤウ。丑庚切 庚

㊀裝にさゝふる物、つゞばり、つゞかひばしら、支柱。○〔晁補之〕「操—草倚孤—」。㊁さゝふ。

（いなゝめにつゞばる。○〔范成大〕「鳧物相枝—」。〔足—鷗鷺—」。

（ろ）堪へ保つ。○〔僧李譚〕「蝦煮不レ—」。㊂あばく（發）。○〔唐〕「敎—不レ擒」。㊃舟をひらき行る、さをさす、さす。○〔朱熹〕「破月衝—煙取次—」。

撰 俗の撰の字。

撮 サツ、サチ。桑葛切 曷

放ち散らす、ちらす、まく。○〔吳〕「孫權歎射雉、溶諫レ之、出見二雉驚一、手自—壞」。

撓 ダウ、チウ。奴巧切 巧

㊀うごく、うごかす（動）。○〔莊〕「復之—一以遊二無端一」。㊁みだる。

（い）煩雜ならしむ、かきみだす。○〔左〕「二亂我同盟一」。

（ろ）煩はしく雜る、かきみだる。○〔五〕「爲レ政不二苛—一」。

〔篇海〕樗をみだる、又、おそろかしみだす。○〔史〕「人物—一」。

〔篇海〕みいりてみだる。○〔韓非子〕「—其人」。

〔雜記〕入りまじりみだる、入れまぜみだる。○〔樗名〕「特雲則相—一也」。

〔張衡〕うるさくしみだる、うるさくみだす。○〔晉〕「數女—一」。

〔陳琳〕かきみだす。○〔元結〕「軍曲皆—一」。

〔陳琳〕うるさくたゞくすもの。○〔李密〕「徵聲去—一」。

撓 ダウ、女教切 效 尼交切 肴

㊀擾雜すみだる、又、揺抓す、かく。○〔淮〕「水濁者魚レ—之」。㊁屈曲すまぐ、まがる、かゞむ、かゞまる、たわむ。○〔孟〕「不二膚一、不二目逃一」。

撓 カン、キヤウ。戶猛切 梗

〔詩〕たわむ。○〔荀〕「—而移敬」。

〔曲禮〕前に同ト。○〔禮〕「擊折終不—一」。

〔所禮〕前に同ト。○〔韓〕「必與我—一之」。

〔播禮〕折りまく。○〔韓〕「—一檢染」。

〔紀禮〕正理を曲げみだす。○〔禮〕「必當從諫—一」。

〔同禮〕まく。○〔管〕「百姓正離散、所—一」。

〔版禮〕負けて勢かゝむ。○〔韓〕「戰猛戰—一」。

〔侯禮〕屈しかゝむ。○〔禮〕「不敢—力—一」。

撓 カウ、コウ。呼毛切 豪

みだる。○〔漢〕「何、奴之衆易二—一亂一」。

〔然禮〕うるさくみだる。○〔西〕「詩、文者爲—一」以爲無。

〔危禮〕かきみだる。○〔禮〕「—一政備」。

〔侵禮〕あやふくなりみだる。○〔禮〕「樂北—一」。

〔羽禮〕樹もまじして正しきを失ふこと。○〔呂氏春秋〕「軍師—一之人思矣」。

〔振禮〕上をひみだる。○〔韓〕「—其傳節」。

〔怒禮〕恐れ惑る。○〔陸龜蒙〕「—一難決」。

〔雜禮〕入りまじりてみだる、又、入れまぜみだる。○〔張衡〕「物繁則相—一也」。

撓 セウ、子ウ。爾紹切 篠

たわむ（揉）。

撓 セウ、子ウ。人要切 嘯

鏡に同ト、めぐる。○〔史〕「苛察繳—」。

撓 ゲウ。聲幺切 蕭

—挑、めぐる、めぐらす。

撮 抽の本字。

撮 リウ、ル。力救切 宥

手をもて物を平かになす、ならす。○〔詩、箋〕「掠謂レ—土也」。

撮 カウ、キヤウ。戶猛切 梗

よこたふ、よこたはる、（橫）。

頓 カウ、コウ。切 豪 或は、扛に作る。

になふ、かたぐ、擔荷。

撽 シウ、シユ。卽就切 宥

とる（擇）。

撽 シユク、ソク。就六切 屋

極めて擊つ、うつ。

撻 クワク。忽麥切 陌

つんざく、（裂）。

撻 サク、シヤク。雪擢切 陌

裂く聲にいふ字。

撻 キン、クン。牛尹切 軫

つかぬ、束。

撻 セイ、サイ。先齊切 齊

ひッさぐ、（提）。○〔韓愈〕「所レ職事無レ多、又不二自提一」。

撻 シ。相支切 支

斯に同ト、さく。

撻 チ、直利切 霽 ヂ。切 ジ、而至切 寘

あたる、（當）。

撻 チ。陟利切 霽

すつ（棄）。

撻 拋に同ト。

撻 擿に同ト。

撣 ヒツ、ヒチ。逼密切 質 さす。〔刺〕。

撳 カン、ゲン。苦減切 豏 かゝる。〔挂〕。一說に、あやふし。〔危〕。

撳 カン、コン。口含切 覃 かゝる、かく。〔挂〕。

橫 クワウ、ワウ。古曠切 藥 みつ。〔充〕。

橫 クワウ、ワウ。胡光切 唐 ―自は、草の名、又、結縷さいひ、俗に、鼓拳草と呼ぶ。かうらいしば。

撘 搭に同ト。

撙 ソン。祖本切 阮 ㊀くゝと、〔挂〕又、おさふ。〔抑〕。○〔戰〕〔伏レ軾レ銜横〕「歷天下」。㊁おもむく。〔趨〕。○〔禮〕「君子恭敬―節」。㊂案まる。親にいふ字、又、おほし。〔衆〕。○〔揚雄〕「齊總々以―」。〔韓愈〕「制限をなしかさる。○〔管〕「一歌食」。〔正作次撙〕。〔集韻〕「鄙みしりくにく。○〔詩〕「以相―」以相

撚 デン、チン。乃殄切 銑 ㊀指にて截す、とる、ひねる、よる。○〔百居易〕「輕羅慢―撥復挑」。㊁にトる、ふむ。〔踩〕。○〔淮〕「前後不二相―左右不二相干」。㊂またがふ。〔從〕。○〔汲冢周書〕「後動―レ之」。

撣 リン。里忍切 軫 ㊀たすく。〔扶〕。㊁ぬく。〔拔〕。

撞 ショウ。常證切 徑 書蒸切 蒸 拚に同ト。たすく、すくふ。○〔淮〕「子路―レ溺而受二牛謝一」。

撞 タウ、チャウ。除庚切 庚 撥に同ト。ふる。〔觸〕。○〔韓愈〕「豈此頭豆古不レ爲二手所ヒ―」。

撝 キ。吁爲切 支 ㊀さく。〔裂〕。○〔馬融〕「―二介鮮一」。㊁さす。〔指麾〕。一說に、ふるふ。〔揮〕。○〔易〕「―レ謙」。〔指〕さす。○〔詩〕「秩秩――」。〔書〕よる。○〔禮〕「――之容」。

撝 井。于嬌切 支 たすく。〔佐〕。○〔揚雄〕「事說用レ恭―レ廉」。

撝 井。羽委切 紙 さく。〔裂〕。

撞 タウ、傳江切 江 丈降切 絳 ㊀うつ。〔擊〕、つく。〔突〕。○〔禮〕「善待レ問者如レ―レ鐘」。〔撞〕「鐘の丈をもてつき鳴つ。○〔韓愈〕「有レ動――巨鐘」。○〔周禮〕「―――之容」。○〔周禮〕「撞鐘」。〔撞〕「鐘の丈をもてつき鳴つ。○〔韓愈〕「有レ動―――巨鐘」。○〔周禮〕「―――之容」。

撞 ケウ。擧喬切 蕭 ㊀手足を伸べ引く、せのびす。○〔博雅〕「偃蹇天―」。㊁あゞ、あがる。〔擧〕。○〔揚雄〕「仰レ首以高視」。㊂たむ。〔い詐り稱ふ。○〔周〕「―レ邦令―」。〔ろ妄に託す、かこつく。○〔漢〕「―レ制以令二天下一」。〔は曲がれるを正す。○〔周〕「―レ幹欲レ熟二于火一而無二蕭」。〔に風撓す、まゞ、かゞむ。○〔荀〕「强レ君―レ君」。㊃強き貌。いふ字、又、ほしいまゝ、擅。○〔荀〕「―然剛折」。〔狂言〕あゞ、あがる。○〔禮〕「雷聲聲以―――」。

撞 ケウ、ゲウ。嬌廟切 嘯 ㊀あゞ、あがる。〔擧〕。○〔史〕「舌―然而不レ下」。㊁消の條を見よ、かすむ、とる。

撤 クワン。苦緩切 旱 とらふ。〔捉〕。

撟 ケウ。擧天切 蕭 ㊀手足を伸べ引く、せのびす。○〔博雅〕「偃蹇天―」。㊁あゞ、あがる。〔擧〕。○〔揚雄〕「仰レ首以高視」。㊂たむ。〔い詐り稱ふ。○〔周〕「―レ邦令―」。〔ろ妄に託す、かこつく。○〔漢〕「―レ制以令二天下一」。〔は曲がれるを正す。○〔周〕「―レ幹欲レ熟二于火一而無二蕭」。〔に風撓す、まゞ、かゞむ。○〔荀〕「强レ君―レ君」。㊃強き貌。いふ字、又、ほしいまゝ、擅。○〔荀〕「―然剛折」。〔狂言〕あゞ、あがる。○〔禮〕「雷聲聲以―――」。

撰 ケキ、キヤク。乾遏切 月 ㊀うつ。〔擊〕。○〔史〕「救鬪者不二撰―」。㊁もつ。〔持〕。○〔揚雄〕「―二膠葛一騰二九閡一」。

撰 ハン、ベン。博幻切 諫 ㊀つなぐ、ほだす。〔絆〕。㊁引き擊つ。うつ。

搜 俗の搜の字。とる。○〔戰〕「劍長―其室」。

擅 タン、徒紺切 ドン。他紺切 勘 ㊀ふる。〔振〕。㊁弾に通ず、ひく。㊂持つこと堅からず、ゆるし。

擅 タン、ダン。徒干切 寒 提げ持つ、さゞ、ひッさゞ、一說に、自から敞む、つゝしむ。○〔揚雄〕「何レ論―肩提―」。

擅 タン、ダン。徒旱切 旱 おほふ。覆。

擅 タン、ドン。徒感切 感 ㊀なさむ。〔修〕。㊁くむ。〔掬〕。

擅 ジン。徐心切 侵 さぐる。〔探〕。○〔周、疏〕「誦二王志者若レ―取王之志一」。

擅 タン、他含切 覃 イン。夷針切 侵 ㊀つなぐ、ほだす。〔絆〕。㊁引き擊つ。うつ。

擅 ハン、ベン。博幻切 諫 ㊀もつ。〔持〕。○〔揚雄〕「―二膠葛一騰二九閡一」。

擄 ケウ、ゲウ。蟯廟切 嘯 ㊀手足を伸べ引く、せのびす。○〔博雅〕「偃蹇天―」。㊁あゞ、あがる。〔擧〕。○〔揚雄〕「仰レ首以高視」。㊂たむ。〔い詐り稱ふ。○〔周〕「―レ邦令―」。〔ろ妄に託す、かこつく。○〔漢〕「―レ制以令二天下一」。〔は曲がれるを正す。○〔周〕「―レ幹欲レ熟二于火一而無二蕭」。〔に風撓す、まゞ、かゞむ。○〔荀〕「强レ君―レ君」。㊃強き貌。いふ字、又、ほしいまゝ、擅。○〔荀〕「―然剛折」。〔狂言〕あゞ、あがる。○〔禮〕「雷聲聲以―――」。

撣 セン、セン。市連切 先 ひく。〔引〕。

撣 デン。澄延切 先 相纏ひて去らず、まつはる。

撣 セン。旨善切 銑 急に排す、おしひらく。

撤 テツ、デチ。直列切 屑 ㊀除き去る、すつ、のぞく。○〔論〕「―不レ―レ賣食」。㊁ひらく。〔發〕、又、はぐ。〔剝〕、又、ぬく。〔抽〕。○〔晏〕「上二津橋一板―丈餘」。㊂廢す、すたる。○〔沈炯〕「悲二城邑之毀―」。

〔疑撰〕すつ、すたる。○〔詩〕「―不匱」。〔殯撰〕周の時代にては天子宗廟の祭祀の時供物を取り除くまでは孫となづくる時筵を設ける。○〔禮〕「三家者以―」。〔撰〕もすと。○〔後漢〕「躬自―以教授」。〔分撰〕既なる中より分けて除く。○〔禮〕「兵止軍千、無有―者」。〔撰〕こはれ磨る、こはしまつ。○〔揚雄〕「―雨雷」。〔除撰〕除き去る。○〔南都賦〕「―――撰雄」。〔除撰〕すつ。○〔陳鳴志〕「―――撰財」。

撥 ハツ、バチ。比末切 曷 ㊀ふさむ。〔塞〕。○〔公羊〕「―――亂世反二諸正一」。㊁はらふ、のぞく。〔除〕。○〔漢〕「―――去古文」。㊂たゆ。〔絕〕。○〔詩〕「木實先―」。㊃あぐ。〔揚〕。○〔禮〕「衣無レ―」。㊄はなつ、ひらく。〔發〕。○〔史〕「一―見二病之應」。㊅そる。〔反〕。○〔戰〕「弓―矢鈎」。㊆めぐらす。〔轉〕。○〔禮註〕「可三―引輔車」。㊇ばちにて彈す、ひく、かきならす。○〔李藁玉〕「檀槽一曲黃鐘羽、絃―雲金鳳語」。㊈絃をかきならすに用ふる具、ばち。○〔白居易〕「曲終收―當心畫」。㊉棺を載せたる車を引くに設けある繩、ひつぎなは。○〔禮〕「廢輔而設―」。

〔板撥〕武を以て治む。○〔陸機〕「―――之士」。〔扶撥〕鼓をかきならす器具、ばち。○〔晉〕「瓜木爲而象牙爲―――」。〔擺撥〕ひらく、はらふ。○〔世說〕「―――」。〔弦撥〕琵琶をかきならす。○〔半士詩〕「―――酸鼓己恨」。〔巡撥〕ばちを動かし使ふ。○〔司馬光〕「按絃―――聲而止」。〔指撥〕ゆびもて琵琶をかきならすつめびき。○〔後漢〕「―絃―――奉鳳前」。〔挑撥〕かゝげかゞる。○〔後村詩話〕「主人若也動―――」。〔弦撥〕ひらく。○〔論語翔〕「――――奇說如前法」。〔振撥〕そる。○〔晉嵇康〕「――――無勝筋」。〔鑑撥〕さはり聞く。○〔花成大〕「酒杯――――時」。〔弊撥〕武れば反びかき塩らす。○〔晉嵇康〕「弊撥飛鎖初――――」。

撥 ヘツ、ハチ。房越切 月 ㊀敵に作る。大いなる幟たて。○〔史〕「斧鉞羽祓予戟鈸―鼓譟而至」。

撦 シヤ。齒者切 馬 裂け開く、裂き開く、ひらく、さく。○〔劉克莊〕「溫李諸人困二于撦――」。

繹 絕に同ト。

擦 ケツ ゲチ。胡結切 屑 つかぬ。〔束〕、まげる。〔縛〕。

擦 ヒ。芳米切 薺 フン、方問切 問 ホン。切 問 ㊀ふる。〔振〕。○〔詩〕「―――二馮翼一」。

擦 フツ、ホチ。父沸切 物 擊ち執ふ、とらふ。

撩 レウ。洛蕭切 蕭 ㊀なさむ。〔理〕。○〔段玉裁〕「―理亂謂二之―理一」。㊁掠め取る、かすむ、すくふ、とる。○〔揚雄〕「下―レ之如レ油」。㊂挑弄す、いどむ。○〔魏〕「但持長矛―戰」。㊃みだる。〔縱〕。○〔郭璞〕「上―之水鳥所レ棄」。

撩 レウ。力弔切 嘯 前條の㊂に同ト。○〔詩〕「―――者今之―――也」。

撩 レウ。朗鳥切 篠 ㊀前條に同ト。㊁たすく。〔扶〕。

撩 ラウ、郎到切 號 魯皓切 皓 撈に同ト。とる。

撫 フ、ブ。芳武切 麌 撫に同ト。

撫 シユク、息六切 屋 セウ。先彫切 蕭 ソク。先弔切 嘯 先鳥切 篠 うつ。〔擊〕。○〔張衡〕「飛―――箭」。

撫 シユク、息六切 屋 セウ。先彫切 蕭 ソク。先弔切 嘯 先鳥切 篠 のこふ。試。

撫 ソウ、ス。先候切 尤 ㊀前條に同ト。㊁おす。〔推〕。

撫 ソウ、ス。先候切 尤 えらぶ。〔擇〕。㊁さる。〔取〕。㊂のこふ。試。

撫 セウ。蘇彫切 蕭 扱取す、かさむ、とる。

撫 キ、ケ。丘衣切 微 ひく。〔引〕。

撫 セン。旨善切 銑 ㊀時戰切 霰 ケン。九件切 銑 展び極まる、のぶ。

撫 セン、時戰切 霰 ケン。九件切 銑 うつ。〔擊〕。

撫 キヨ、ゴ。去魚切 魚 肱をあらはす、うでまくり。

撫 ケウ。擧喬切 蕭 ㊀手足を伸べ引く、せのびす。○〔博雅〕「偃蹇天―」。㊁あゞ、あがる。〔擧〕。○〔揚雄〕「仰レ首以高視」。㊂たむ。〔い詐り稱ふ。○〔周〕「―レ邦令―」。〔ろ妄に託す、かこつく。○〔漢〕「―レ制以令二天下一」。〔は曲がれるを正す。○〔周〕「―レ幹欲レ熟二于火一而無二蕭」。〔に風撓す、まゞ、かゞむ。○〔荀〕「强レ君―レ君」。㊃強き貌。いふ字、又、ほしいまゝ、擅。○〔荀〕「―然剛折」。〔狂言〕あゞ、あがる。○〔禮〕「雷聲聲以―――」。

（ろ）慰め安んずなぐさむ、いたはる。やすんず。○（左）「鎮」—此禮」。
㊀したがふ（從）。○（書）「—予五長」。
㊁おさふ（接）。○（禮）「君—僕之手」。
㊂おさへて（擁）る。まる。○（禮）「國君—レ式」。
㊃たもつ（有）。もつ（持）。○（禮）「其終—諧」。
㊄うつ（拍）。○（儀）「左右—矢乘レ之」。
㊅さし（挿）。○（左）「鍔雄」「拊—疾也」。
（孝經）なでさする。○（錦繡）「撫—」。
（孝經）慰め安んずる。○（後漢）「長史—之」。
（孝經）いつくしみなでる。○（後漢）「—士卒」。
（孝經）なづ（撫）おさる。○（後漢）「—加—」。
（孝經）奇はりなづ。○（北）「—加—」。
（孝經）安はりおさたがよ。○（後漢）「—之」。
（孝經）なづけなづ。○（後漢）「—心—」。
（孝經）なづけなづ。○（後漢）「—心—」。
（孝經）本おり出はしむ。○（後漢）「屯—伊吾以—」。
（孝經）去んとなづ。○（後漢）「—心—」。
（孝經）去んとなづ。○（後漢）「—心—」。
（孝經）敬ひたはる。○（左）「主周食—」。
（孝經）敬ひたはる。○（後漢）「—」。
（孝經）前に同じ。○（後漢）「—」。
（孝經）めぐみ安んず。○（後漢）「—」。
（孝經）前に同じ。○（後漢）「—」。
（孝經）てあつくいたはる。○（後漢）「—」。
（孝經）てあつくいたはる。○（後漢）「—」。
（孝經）前に同じ。○（後漢）「—」。
（孝經）はげまし助ける。○（北）「—」。
（孝經）はげまし助ける。○（北）「—」。
（孝經）抑よ、又、おさよ。○（後漢）「方貴—之」。
（孝經）。

撫 撫の本字。○（唐）「隨帝紫宮」。

撫 墓に同じ。

撮 サツ、サチ。麤括切 圓
❶さる、つまむつかむ。
（い）指先にて取る、感め聚めて持つ。
○（莊）「鳴鳴夜—食蔡三巷末」。
（ろ）摘べ取る。○（史）「—二名法之要」。
❷つまみ。
（い）つまむと、つまむ程の量。○（中）「撮一—土之多」。
（ろ）量の名、圭の四倍（即ち、粟二百五十六粒）。○（漢）「量二多少」者不レ失圭—」。
❸あつむ（聚）。○（家語）「—徒成レ黨」。
❹髻をつまみ持つ、小さきかみづゝみ。○（詩）「蓋—綿—」。
❺ひく（挽）。
（孝經）つかむ。○（子路）「蔡論—」、日不勝手」。
（前）勝みとる。○（後漢）「今—」其書、者、
（孝經）者論者論之。
（妙）つまみとる、又、僅かばかりのことにいふ語。
（前）（前）（前）

擯也所出必同」。

㊁みる（察）さぐす（探）、かんがふ（較）、又、あぐ（舉）。○〔晉〕王導料二中書故事一見「諷表教己」。

撿 レン。 瓦冉切 蹴

なさむ、こまぬく（拱）。

擀 カン。 古旱切 旱

手にて物を伸ぶのばすのぶ。

擁 ヨウ、ユ。於隴切 腫

㊀いだく。

（い）かゝふ、だく、抱。○〔禮〕肆東及帶、勤者有レ事則敢レ之走則一レ之。

（ろ）もつ、とる（持）。○〔漢〕太公一レ彗。

（は）まもる、衛。○〔後漢〕延常嬰二甲冑一二衛親族一扞二禦鈔盜一。

（に）輩がり從ふ、あつめ從ふ、ふたがふ。○〔唐〕自一二數百騎一。

㊁曲隈、鎚圍、くま、ほこひ。○司馬相如〔批嚴衝〕レ。

〔宋書〕はさみをもる。○〔晉〕瑯琊王伷以二一書一風也。

〔金壺〕るながちにかゝへもつ。○〔晉〕一一大。

〔說苑〕かまびすしく從ふ。○〔宋〕一一廟下。

〔摩詰〕まもる。○〔杜甫〕一一從西來。○〔銀鄉〕「三山一一仙舍小。

〔劉禹〕前に同じ。○〔劉克莊〕「浴鄉大皆國一一」。

〔狄梁〕たすけいたく。○〔鍾離〕「若相相一一」。

〔樂雜〕こまやかにかゝふ。○〔王逸〕「風賦」一一蘭。

擁 ヨウ、ユ。於容切 冬

さへぎる（遮）、さゝふ、障。○〔禮〕「女子出レ門必一二蔽其面一」。

擂 ライ。力堆切 灰

物を研す、みがくする。

擂 礮に同ト、石を高きより推し下す、おとす。

撚 捻に同ト。

撰 サイ、セ。祟懼切 佳

倒し損す、そこなふ。

撰 サイ、セ。切懷 佳 切粗賄 賄

擃 ダツ、ノウ。匿講切 講

くつく（拉）。

擄 ロ。郎古切 麌 一通ト下、鹵一に作る。

擄 つく、撞。㊁さす（刺）。

〔雜摠〕前に同じ。○〔後〕「孟鉄柱」一一之家不レ獨「善隙之第」。

〔收摠〕をさめ去る。○〔後〕「一一其利」。

擅 セン、セン。時戰切 霰

㊀己が心のまゝに處置すると、己れ獨り占有すると、ほしいまゝ。○〔禮〕「不三敢一二重事一」。

㊁據る有つよる、たむ。○〔戰〕「五年以一二呼沱一」。

〔鹽鐵〕おのれのみにて思ひのまゝにするも。○〔後〕「超一一之」。

〔後漢〕「ひとりはしいまゝなるも。○〔後〕「蔡伯喈一一獨斷」。

〔雜摠〕前に同じ。○〔後〕「孟鉄柱」一一之家不レ獨「善隙之第」。

〔收摠〕をさめ去る。○〔後〕「一一其利」。

擅 ヨウ、ユ。於容切 冬

擊 キ。虎委切 紙 一に擬に作る。

傷け擊つ、やぶる、きづつく、うつ。

擊 キ。虎委切 紙 一に擬に作る。

擊 ケキ、キヤク。古歷切 錫

㊀うつ。

（い）觸れ當つ、たゝく。○〔晉〕「以二戟一如意一一レ之」。

（ろ）觸る當たる。○〔莊〕「目一而道存矣」。

（は）斬る、刺す、殺す。○〔國〕「封羊一レ豕」。

（に）攻む、伐つ、襲ふ。○〔史〕「急一レ之勿レ失」。

（ほ）排す除く。○〔莊〕「掊二而知一」。

（へ）抑ふ、挫く。○〔漢〕「擊二一拳强一」。

（と）投ぐ。○〔林希伝〕「擲一而歌」。

（ち）放射す。○〔隨手雜錄〕「以一砲一レ之中一佛乳」。

（り）蹴ふ。○〔莊〕「日夜相二于前一」。

㊁鐵刃、やいば。○〔淮〕「槍柔無一一」。

㊂覘に同ト、なのこのかんなぎ、男巫。○〔荀〕「鳳巫跛一一」。

〔冥報〕骨をさせうつ。○〔晉〕「一一鳴鏑」。

〔祖逖〕ねらひうつ。○〔史〕「其弩客一一飛鳥市傳聚沙中」。

〔紀傳〕車と車の輪のうちあたるも。○〔史〕「車一一轢」。

〔轢〕車おしひきうつ。○〔鹽鐵〕「口物一一合二風俗」。

〔宋書〕さゝぎり伐つ。○〔漢〕「又時々一一之」。

〔晉書〕いかづちの如く犯すべからざる勢をもてうつ。○〔漢〕「宣紀」「先帝者今臣等陳入一一」。

擊 ケキ、キヤク。古歷切 錫

之以三二鏃一」。

擢 サク、ソク。測角切 覺

ショク、ソク。殊玉切 沃

㊀魚鼈などを刺して取る、さす。○〔莊〕「冬則一二鼈於江一」。

㊁刺し取るに用ふる具、やす。○〔韓愈〕「閃一一刃」。

〔冥報〕はしいきなるも。○〔後漢〕「前に同じ。○〔李大亮志〕「大將宜鎮邊之一一」。

〔舒傳〕「ことはしてはしいきなるも。○〔後漢〕「劉陵傳官」「劉北一一」、「魯忠王宮」。

擷 （ケン、ハン。特賓切 元

煩鞭す、もむ。

擊 キ。虎委切 紙 一に擬に作る。

擊 チヤク。陟略切 藥

擢 ヨウ、ユ。於隴切 腫

擢 ヨウ、ユ。於容切 冬

擢 ヨウ、ユ。於容切 冬

擢 ヨウ、ユ。於容切 冬

挾 サク、シヤク。色責切 陌

擐 クワン、ゲン。胡慣切 諫 古還切 刪

貫き著く、貫き帶ぶ、つらぬく。○〔左〕「躬」二甲冑」。

擐 ケン。古弦切 霰

つなぐ、繫。

擐 セン、ゼン。荷緣切 先

擅に同じ、かゝぐ。○〔禮・註〕「」衣出二其臂一」。

搊 サ、セ。師加切 麻

拘引す、とらふ、ひく、とゞむ。

擒 キン、ゴン。巨今切 侵 巨禁切 沁

一急しく捉持す、とる、とらふ。○〔戰〕「擒者并而」レ之」。二とらへらる、とらはる。○〔鹽鐵論〕「」二于趙」。三いけどり、とりこ、とらはれ、捕虜、俘囚。○〔晉〕生二于襄陽一成」レ耳」。〔就擒〕とらはれにつく、とらはる。○〔孟軻〕「羅々〔擒擒〕いせしめとらふ。○〔呂氏春秋〕「生」而」之」。〔擒捕〕とらふ。○〔潛夫論〕「」之」。

擒 サフ、ソフ。疾盍切 合

一撮一は、和維す、まじる、まじふ。二物の破るゝ聲。三もつ（持）。四擒一は、色を汚す、けがす。

擳 クワイ、ケ。枯懷切 佳

擳に同じ、おつ。

擐 タン、トン。都濫切 勵

一になふと、又、になふもの、卽ち、荷物など。○〔寇〕「寒」レ號泣」。二荷物の數にいふ字か。○〔湘山也錄〕「置二宮廟十一」爲レ餘」。

擔 セン、ゼン。時豔切 豔 以贍切 琰

かす（假）。○〔儀〕「」レ主也」。

擔 タン、トン。都甘切 覃

になふ。（い）肩に擧げ持つ、かたぐ。○〔戰〕「負レ書」レ囊」。（ろ）己が身に引き受く。○〔白居易〕「荷」二」大事」。

擔 サイ、セ。取猥切 賄

扶け持つ貌にいふ字。たもつ。

擔 キヤウ、ガウ。渠良切 陽

さゞる（摸、一說に、擇に同じ）。

擅 クワイ、ケ。古外切 泰

なさむ、收。○〔路史〕「」敕結」以爲レ驂」。

擅 タフ、デフ。直甲切 洽

重なり接づく貌にいふ字、つゞく。

擅 エフ。弋涉切 葉

其の物を掃き入るゝ處、箕舌。○〔禮〕「拂レ席不以鬼執」箕膏レ」。

擅 カツ、カチ。居曷切 曷

楷一は、木を打つ聲にいふ語。

擅 レフ。力涉切 葉

理ち持つ。

擅 ケイ。去例切 霽

こそげる、けづる（刮）。

擗 ヘキ、ビヤク。毗亦切 陌

一心（むね）を打つ、うつ。○〔孝〕「」踊哭泣」。二手足を展す、かゞむ。○〔莊〕「摘」爲レ禮」。

擗 ヘキ、ビヤク。匹歷切 錫

ひらく、さく（拆）。○〔楚辭〕「」軒檻分既張」。

擗 ヘク、ヒヤク。博厄切 陌

一分け裂く、さく、つんざく。○〔禮〕「塗皆乾」レ之」。二おほゆび、おやゆび、大指。○〔孟〕「以二仲子一爲二巨」レ屨」。三挽き張る、ひく。○〔廉頗〕「弓奪手張曰レ」。

擗 ヘキ、ヒヤク。蒲歷切 錫

おほゆび（大指）。

擞 アウ、オウ。於到切 號

みがく（磨）。

據 キヨ、コ。居御切 御

一よる。（い）依り持つ。○〔論〕「」於藝」。（ろ）依託す、たよる。○〔詩〕「有二兄弟一不レ可」以一」。（は）安んじ處、なる。○〔國〕「」水則不レ若二魚鼈」。（に）援引す、ひきあはす、ひく。○〔爾序〕「援」レ徵之」。（ほ）拒ぎ守る、たてこもる、まもる。○〔史〕「先」レ山上」者勝」。二よる所、よりどころ。○〔莊〕「天有二曆數」地有二人」」。三おさふ（抑）。○〔禮〕「稽音」レ掌」。四おさへ、拏る、つかむ。○〔老〕「猛獸不レ」。五蓮に同じ、形ある貌にいふ字。

〔非〕〔別〕〔上〕〔發〕〔惡〕〔推〕〔敬〕〔識〕〔伐〕〔共〕〔除〕〔拔〕〔拔〕〔拔

擽 拜の本字。○〔周〕「辨二九一之儀」。

擤 カウ、キヤウ。呼梗切 梗 鼻の膿血を手にて捻る、はなかむ

擥 ラン、魯敢切 感 ロン。 ―擺又攬に作る。 とる。 (い)指を聚めて取る、撮み持つ、もつ、つまむ。○〔管〕「飯必捧―」。 (ろ)總べ持つ、引き取る、聚め、采る。 ○〔楚辭〕「切」―洲之宿・莽―」。 〔楚辭〕つまむ。○〔韓〕「―二仲舒」。

搖 墜に同ト。○〔漢〕「―二仲舒」別二南歆―」。

撲 撲に同ト、うつ。○〔揚雄〕「不」庠其體―」。

撲 ホク。普木切 屋 ㊀つく、ことんく、く、盡。○〔揚雄〕「南楚凡物盡生者曰――生」。 ㊁あつまる、聚。○〔揚雄〕「楚曰二之―」或曰二之翕―」。

擦 サツ、セチ。初憂切 黠 急しく摩る、なづ、さする。

擧 舉の本字。

擧 ヨ。以諸切 魚 舁に同ト、ともにてあぐ、かく。

擱 カク。古洛切 藥 是船重得聚、所以只管一レ漫。

擲 ヤ 以遮切 麻 擲に同ト。

擲 イ。余支切 支 歟に同ト。

擲 ジュ、ズ。醫主切 麌 そむ、染。○〔唐〕「―嚬道眞」。

擲 ズヰ。儒誰切 支 前條に同ト、又、ひたす、溫。○〔儀〕取二韮菹一以辨―二于醯―」。

擲 セン、チン。而宣切 元 セツ、チチ。如劣切 屑 ㊀前條に同ト。㊁潤に同ト、もむ。

擲 ジュ、ニュ。而遇切 遇 手にて物を進むすゝむ。

擲 ヂュ、ニュ。尼主切 麌 さゝふ、拄。

擲 ドウ、ヌ。乃豆切 宥 擲―は、事を解せずくらし。

擽 エフ。益涉切 テフ。試協切 葉 一指にて按ふ、おさふ。○〔元稹〕「李蕃―レ當傍二宮牆―」。 〔蕃〕をさめおさふ。○〔元稹〕「卑々艦―」。 〔蕃〕手にて打ち捕もておさふ。○〔白居易〕「―彈吹聲遲」。 〔現〕かくしおさふ。○〔沈約〕「唱鼓聲―」。 〔蕃〕不たくおさへつく。○〔沈約〕「相思機―」。

擽 アフ、エフ。乙甲切 洽 おさふ、接。

擽 エン。於琰切 琰 もつ、持。

擽 擽に同ト。○〔白居易〕「擊―彈吹聲遲」。

擬 ギ。偶起切 紙 ㊀擬度すはかる。○〔易〕「―之而後言」。 ㊁なぞらふ。 (い)かたどる、像、くらぶ、比。○〔漢〕「修―」於君」。 (ろ)ならぶ、比、にる、似。○〔後漢〕「乃與二五經一相―」。 〔注〕測ではかる。○〔論〕「論四時―」。 〔孫〕なぞらふ。○〔儀光義〕「衣裳無―」。 〔擬〕かたどりなぞらふ。○〔蘇軾〕「時々―」。 〔擬〕敵にたな、防ぐ。○〔儀〕「多屯士卒、嚴―」。 〔擬〕ならべひとしくす。○〔儀〕「等級等級勢不―」。 〔擬〕位階を擬なぞらふ。○〔儀〕「夫―」者、必孤其才行」。 〔儀〕身分を超えて上なる人の真似をなす。○〔儀〕「復自尊大、擬―之樂」。 〔賓〕なぞらふ。○〔水經〕「十年之間、―王公」。 〔配〕割りあて配る。○〔儀〕「一據貴帝―」。 〔錄〕善惡を區別あきらむ。○〔金〕「擬人不即」。 〔度〕はかりなぞらふ。○〔長笛賦〕「制炎―」。 〔面〕他に知れざるやうかくれてなぞらふ。○〔財〕「―」。 〔地〕「―」。 〔嬌〕たぐひしたらふ。○〔呉越〕「無後倫以―」。

擬 タン。觀緩切 旱 まはす、轉、一說に、雙（いとわく）なまはす。

擽 シウ、ズ。鉏救切 宥 うつ、擊。

擽 コ、ゴ。胡誤切 遇 分け解くわくとく。

擽 クヲ、ゲ。胡化切 禡 クヲク、ケヲク。

擽 コク、ゴク。胡谷切 屋 胡郭切 藥 おとし穴の中に設くる獸を捕ふる機、わな。○〔中庸〕「驅而納二諸罟一陷阱之中一」。

擽 ヨウ。胡刀切 豪 多少を較ぶくらぶ。

擽 排に同ト。

擽 イ。隱綺切 紙 ―匜は、正しからずなしめ。

擽 バク、モク。曼角切 覺 うつ、打。

擽 ヨク。屋號切 沃 手に取る、とる、又、にぎる、握。○張衡「抄二木末一―蘇胡―」。

擽 ヨク。屋號切 沃 うつ、擊。

擽 擽に同ト、つむ、摘。

擽 擽に同ト、になふ。

擽 カウ、ゴウ。胡刀切 豪 多少を較ぶくらぶ。

擽 排に同ト。

擽 イ。隱綺切 紙 ―匜は、正しからずなしめ。

擽 バク、モク。曼角切 覺 うつ、打。

擽 ヨク。屋號切 沃 手に取る、とる、又、にぎる、握。○張衡「抄二木末一―蘇胡―」。

擽 コ、ゴ。胡誤切 遇 分け解くわくとく。

擽 クヲ、ゲ。胡化切 禡 クヲク、ケヲク。

擽 コク、ゴク。胡谷切 屋 胡郭切 藥 おとし穴の中に設くる獸を捕ふる機、わな。○〔中庸〕「驅而納二諸罟一陷阱之中一」。

擽 タン。觀緩切 旱 まはす、轉、一說に、雙（いとわく）なまはす。

擽 シウ、ズ。鉏救切 宥 うつ、擊。

擽 抄に同ト、つむ、摘。

擽 擽に同ト。

擯 ヒン 必仞切 震 卑民切 眞 ㊀ふりぞく、斥、又、すつ、棄。○〔推寇〕「寡不レ勝衆遂見二―棄」。 ㊁儐に同ト、客を導く、みちびく。○〔周〕「凡四・方之使者大・客則―」。 〔儀禮〕かくし斥く。○〔後漢〕「祿儀以爲宜見―」。 〔孫〕おとし斥く。○〔孝經〕「―二宗室」。 〔論語〕僧りて斥く。○〔論語〕「雖能因―」。

擯 俗の摈の字。

擠 ダウ、ニヤウ。泥耕切 庚 亂る。

十五畫

擲 テキ、ヂヤク。直隻切 陌 ㊀ふるふ、振。○〔西陽雜俎〕「吼―而前」。 ㊁なぐ、なげうつ、投。○〔南〕「―レ之百・發百・中」。 〔就〕ためしなげうつ。○〔賈〕「鄭――地」。 作金石録。○〔社牧〕「――地」。 〔弄〕なげすつ。○〔社牧〕「――地」。 〔擲〕あやまるふ。○〔舊唐〕「開元初擲使―」。 而殺其摩賓」。 〔投〕やりすつ。○〔宣和書譜〕「――陳國」。 〔曾〕ふるふ。○〔仇璦傳史〕「跳擲―」。 〔拭〕なげうつ。○〔左思〕「弃實蹶―」。 〔投〕前に同ト。○〔錦象〕「――飼諸鼠」。 〔擲〕前に同ト。○〔白居易〕「答下田園久―」。 〔雜〕かゝやふるふ。○〔梅堯臣〕「―車必―」。 〔投〕ちらしなげうつ。○〔蘇軾〕「石崩――如風雨」。

擲 ヂウ、ヂウ。直隻切 陌 ㊀ふるふ、振。○〔西陽雜俎〕「吼―而前」。 ㊁なぐ、なげうつ、投。○〔南〕「―レ之百・發百・中」。 〔就〕ためしなげうつ。○〔賈〕「鄭――地」。 〔弄〕なげすつ。○〔社牧〕「――地」。 〔擲〕あやまるふ。○〔舊唐〕「開元初擲使―」。 而殺其摩賓」。 〔投〕やりすつ。○〔宣和書譜〕「――陳國」。 〔曾〕ふるふ。○〔仇璦傳史〕「跳擲―」。 〔拭〕なげうつ。○〔左思〕「弃實蹶―」。 〔投〕前に同ト。○〔錦象〕「――飼諸鼠」。 〔擲〕前に同ト。○〔白居易〕「答下田園久―」。 〔雜〕かゝやふるふ。○〔梅堯臣〕「―車必―」。 〔投〕ちらしなげうつ。○〔蘇軾〕「石崩――如風雨」。

擲 擲に同ト、盡く人を殺す、みなごろす。

擲 古文の捋の字。

擲 ヘウ、ベウ。被表切 蕭 折りて縛す、まばる、たばぬ。

擲 レフ。 良沛切 葉 理ち持つ、もつ。○〔儀〕「尙―坐哮レ體」。

擲 ラフ、ロフ。盧盍切 合 なる、折、又、物の破壞する聲にいふ字。○〔左思〕「拉―雷・碌」。

擲 ラ。則可切 哿 擲―は、動く、ゆるぐ。

擲 チ。展里切 紙 さす、刺。

擲 ベツ、メチ。莫結切 屑 ㊀うつ、擊。 ㊁方正ならず、ゆがむ。

擲 ベイ、マイ。莫計切 霽 ㊀のごふ、拭、滅。 ㊁たつ、裁。

擲 バツ、マチ。莫八切 黠 のごふ、拭。

擲 テン、デン。直善切 銑 手にて轉す、まろばす。

擲 擲に同ト。

擲 擲に同ト、ふるふ。○〔揚雄〕「―而牧レ之者人也」。

擲 アウ、オウ。於刀切 豪 拾―は、稻を刈る聲にいふ語。

擲 幡に同ト、のごふ、拭。

擲 クヲク。苦郭切 藥 ㊀古獲切 藥 張りて大ならしむ、ひろむ、ひろぐ。○〔孟〕「知二者―而充ヒ之矣」。

擴 クヲウ。古曠切 漾 擴に同ト、みつ、充。

擴 擴に同ト、うつ。

擲 リウ、ル。力求切 尤 ㊀きる、斬。 ㊁さす、刺。 ㊂つかぬ、束。 ㊃さる、捋。

擽 俗の摩の字。

擤 セン。子賤切 霰 射の弦きたるを正しくす、なほす、ただす。

擷 クツ、ケチ。奚結切 屑 ㊀襭に同ト、衣の衽をかゞげ折りて帶にはさむ、其のはさめる中に物を置く、つまばさむ、はさむ。○〔蘇軾〕「是時青・霜女、採―何匆・々」。 ㊁捋取す、とる。○〔蘇軾〕「雨・中―園・蔬」。 〔孫〕取る。○〔宋之問〕「―――都邑」。 〔孫〕前に同ト。○〔呉質〕「―――紐項部」。 〔孫〕もてあそび取る。○〔徐遺記〕「―――寒蟬」。 〔孫〕さがし取る。○〔維德興〕「―――當五月」。 〔孫〕ぬきとる。○〔韓無可〕「宿始曾―――」。

擷 擷に同ト、盡く人を殺す、みなごろす。

擷 古文の捋の字。

擷 ヘウ、ベウ。被表切 蕭 折りて縛す、まばる、たばぬ。

擷 レフ。 良沛切 葉 理ち持つ、もつ。○〔儀〕「尙―坐哮レ體」。

擷 ラフ、ロフ。盧盍切 合 なる、折、又、物の破壞する聲にいふ字。○〔左思〕「拉―雷・碌」。

擷 ラ。則可切 哿 擷―は、動く、ゆるぐ。

擷 チ。展里切 紙 さす、刺。

擷 ベツ、メチ。莫結切 屑 ㊀うつ、擊。 ㊁方正ならず、ゆがむ。

擷 ベイ、マイ。莫計切 霽 ㊀のごふ、拭、滅。 ㊁たつ、裁。

擷 バツ、マチ。莫八切 黠 のごふ、拭。

擷 テン、デン。直善切 銑 手にて轉す、まろばす。

擷 擷に同ト。

擷 擷に同ト、ふるふ。○〔揚雄〕「―而牧レ之者人也」。

擷 アウ、オウ。於刀切 豪 拾に同ト、うつ。

擾 ゼウ、ヂウ。而沼切 [illegible]

一 みだる。
（い）わづらはしく亂る。○〔漢〕「天下雲—」。
（ろ）わづらはしく亂れしむ、みだす。○〔書〕「叙—王紀」。
二 わづらはし、〔煩〕。○〔莊〕「雜則多々則—」。
三 順良なると、すなほ。○〔書〕「—而毅」。
四 やすんず〔安〕。○〔周〕「安—邦國」。
五 なる、ならす〔馴〕。○〔左〕「—畜龍」。
六 やしなひならす〔馴〕、即ち、家畜。○〔周〕「宜三六—」。

〔鑑抄〕かまびすしくみたれさわぐ。○〔他〕「即中—」。
〔祖抄〕はゞみくにけてみたる。○〔管〕「人情—」。
〔鑑抄〕かけみたる。○〔管〕「於私—」。
〔抜抄〕あれみたる。○〔荀〕「晉宋—」之後。
〔竹抄〕いらつきみたる、をびしくわづらはし。○〔繼論〕「上不—」。
〔淮抄〕ちりみたる。○〔易林〕「上下—」。

擾 ダウ、ノウ。乃老切 [illegible]

前條の一に同じ、みだる。

撼 撼に同じ。

撼 蔌に同じ、うつ、擊。

擿 テキ、ヂヤク。直隻切 [illegible]

一 かく〔擿〕。○〔列〕「指—無—痛擾」。
二 なげうつ、擲。○〔史〕「引二匕首一以—」秦王」。
三 籤殷、かんざしのあし、かみかき。○〔漢〕「以二瑇瑁一爲レ—」。

擿 テキ、チヤク。他歷切 [illegible]

一 挑發す、あぐ、あばく、かゝぐ。○〔漢〕「發蘇—レ伏」。
二 石を投ぐるとゝいしなげ。
〔發抄〕あばきいたす。○〔國〕「北—蓋—伏如」詩。
〔指抄〕さしもとめてあばきいたす。○〔他〕「凡—識中北斗」。
〔後抄〕さらみると。○〔他〕「—ニ難歌」。

擿 タク、チヤク。陟革切 [illegible]

擿に同じ、とる、つむ。○〔釋名〕「蟲—猶二謫摘一」。

擕 攜の字の省文。

攀 ハン、ヘン。切 [illegible] 一に拔、撥に作る。

（い）引く。○〔國〕「—レ靈卽レ利而舍」。
（ろ）下より上へ拔き持つ、とりつく、すがるゝ。○〔權輿〕「—台階」。
〔抄〕たすけあふ。○〔往〕「親友相—」。
〔鑑抄〕高き場所にのぼりゆくこと。○〔社〕「緩步有—」。
〔鑑抄〕前に同じ。○〔學〕「自ノ外—」。
〔鑑抄〕ひく。○〔韓〕「長—相—」。
〔抄〕あふぎよ。○〔鑑抄〕「—桂樹柯」。
〔抄〕ひきつゞきてよゞ。○〔元〕「—蔓相—」。
〔抄〕登り攀ぢること。○〔後〕「五侯門館—」。

攀 ヤウ。以兩切 [illegible]

發動す、うごく、うごかす。

攝 ライ、レ。盧對切 [illegible]

一 急しく鼓を擊つ、うつ、つゞみうつ。
二 石を轉ずゝころばす。○〔唐〕「徹兵屋—爲二車一」。

攝 ライ、レ。盧回切 [illegible]

物を研ぐ、とぐ、みがく、する。

攝 ハク、ホク。弼角切 [illegible] ハク、ヒヤク。

博陌切 [illegible] ハウ、ヒヤウ。普講切 [illegible]

うつ、擊、又、其の聲にいふ字。

擦 サツ、サチ。桑葛切 [illegible]

一 撒に同じ、ちる、ちらす、まく。○〔韓〕「星如レ雨沙出」。
二 足にて草を動かす聲にいふ字。

攜 チ。陟切 [illegible]

寇に同じ、つまづく、たふる。

攀 攀に同じ。

攀 俗の攀の字。

攀 攀に同じ。

攀 俗の攀の字。

攀 攀に同じ。

攀 攀に同じ。

攀 攀に同じ

一せまる、（迫）ちかづく、（近）ふる、（觸）。○（孟）「莫之敢—」。二繫かり著く、かゝる。○（莊）「—而後成者也」。三みだる、（亂）、又、ひれる、拂。○（莊）「汝慎無—」二人心」。

攘 ヒ、ミ。髮悲切 支

ひし（芰）。

攘 ジャウ、ナウ。如陽切 陽

一おす（推）。○（楚辭）「離騷而見—」。二ぬすむ、竊。○（書）「奪—矯虔」。三特に、物の自から來れるをぬすむにいふ字。○（論）「其父—羊」。四ふりそく（卻）。○（禮）「左右—辭」。五はらふ（除）。○（詩）「—之剔之」。六かゝぐ（揚）。○（漢）「—秩而正職」。（說文）似雞而有毛物能觸人。○（卷）「無數—」。（說文）似雞而有毛物能觸人。○（卷）「無數—」。（說文）ひらはらふ。○（楚辭）「—」。（廣韻）手をつかみ拂をかゝげうごかすようにすること。○（卷）「—其衣裳」。（卷）「—其衣裳」。（卷）「—其衣裳」。